

インテリジェント モニタリング ソフトウェア

ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン 4.3

RealShot Manager

目次

著作権について	7
商標について	7
本書の構成	7

第1章 はじめに

RealShot Manager の特長	8
システム構成例	10
構成例 1	10
構成例 2	11
動作環境	12
ソフトウェア使用許諾条件 (マシン固定ライセンス)	12

第2章 ソフトウェアのインストールから基本的な使いかたまで

使えるようになるまでの流れ	14
ソフトウェアをインストールする	14
起動する／終了する	17
起動する	17
終了する	18
カメラの画像を見るための準備をする	18
カメラを登録する	18
モニターウィンドウを作成する	19
カメラ画像をモニターする	20
カメラ画像を記録する	21
記録を検索・再生する	22
記録を検索する	22
記録を再生する	23

第3章 RealShot Manager の機能

概要	24
デバイス登録	25
デバイス登録の基本操作	25
カメラの登録	27
I/O ボックスの登録	29
音声装置の登録	33
リモート PC の登録	34
デバイスグループの登録	35

記録先	37
記録先を登録する	37
カメラごとに記録先を設定する	38
レイアウト	39
新規にレイアウトを作成する	40
レイアウトを保存する	42
モニターウィンドウを編集する	42
モニターウィンドウにカメラを割り当てる	42
モニターウィンドウを詳細に設定する	44
アクションを割り当てる	45
別のレイアウトに切り替える	45
レイアウトをエクスポート／インポートする	46
モニター	47
画像をモニターする	47
音声をモニターする	51
アラームをモニターする	51
カメラのコントロール	52
パン、チルト、ズームの操作をする	52
カメラのプリセットを使う	53
カメラツアーを実行する	54
出力制御を使う	55
アラーム機能	56
動体検知機能	57
記録	60
マニュアル記録	61
スケジュール記録	61
アラーム記録	65
カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録機能	66
記録データの検索と再生	68
記録データを検索する	68
記録データを再生する	69
複数カメラの記録を同時刻から再生する	70
VMF 検索機能	71
記録データのエクスポート	72
アクション	73
ルールを作成する	73
トリガーに使用する入力端子を設定する	75
メール通知機能	76
メール通知機能を設定する	77
システムアラート通知の設定をする	78
ユーザー管理	80
ユーザーを登録する	80
ユーザーグループを設定する	82
RealShot Manager にログインする	83
記録データの削除	84
手動で削除する	85
削除条件を登録して常に自動的に削除する (クリーンアップ、データ上書き)	86
スケジュールを設定して指定した時間に削除する (クリーンアップ)	86

サーバー・クライアント	87
Generic Camera	88
Generic Camera を登録／設定する	89
Generic Camera の注意・制限事項	90

第4章 画面の詳細

メイン画面	91
メニューバー	92
メインツールバー	93
カスタムツールバー	94
レイアウトツールバー	95
機能別ツールバー	96
ステータスバー	101
モニターウィンドウの右クリックメニュー	101
「ログイン」ダイアログ	104
「パスワードの変更」ダイアログ	104
レイアウトのダイアログ	105
「新規」ダイアログ	105
「レイアウトの作成」ダイアログ	105
「モニター設定」ダイアログ	105
「モニターウィンドウの設定」ダイアログ	110
「レイアウトの選択」ダイアログ	111
「色の設定」ダイアログ	111
「画像の挿入」ダイアログ	111
「画像を編集」ダイアログ	112
「アクションの追加」ダイアログ	113
「アクションの編集」ダイアログ	113
「背景」ダイアログ	113
「グリッドの設定」ダイアログ	114
「レイアウトのエクスポート」ダイアログ	114
「レイアウトのインポート」ダイアログ	114
「スケジュールの編集」ウィンドウ	115
記録スケジュールツールバー	115
週間表示	116
リスト表示	116
スケジュール設定部	117
「記録データの検索」ウィンドウ	120
検索ツールバー	121
リスト表示	122
タイムライン表示	123
「日付と日時」ダイアログ	123
「記録データのエクスポート」ダイアログ	124
「記録データの消去」ダイアログ	125
VMF アラームリスト	125
「設定管理」ウィンドウ	126
設定管理ツールバー	127
装置の一覧	128

カメラの一覧	128
I/O ボックスの一覧	128
音声装置の一覧	129
リモートサーバーの一覧	129
「装置の追加」ダイアログ	129
「装置の設定」ダイアログ	130
「カメラを選択してください。」ダイアログ	146
「I/O 端子の設定」ダイアログ	146
「記録先」ダイアログ	151
「グループ設定」ダイアログ	152
「ポートのプロパティ」ダイアログ	154
「アクションの編集」ダイアログ	155
「新しいルール」ダイアログ	155
「トリガー設定」ダイアログ	156
「アクション設定」ダイアログ	157
「ルールの設定」ダイアログ	160
「ユーザー管理」ダイアログ	161
[全般] タブ	161
[ユーザー] タブ	162
[グループ] タブ	163
「ユーザーの情報」ダイアログ	163
「詳細」ダイアログ	164
「設定」ダイアログ	165
[一般設定] タブ	165
[レイアウト] タブ	165
[ディレクトリ設定] タブ	166
[ログ情報] タブ	167
[アラーム] タブ	167
[ユーザーログ] タブ	168
[コンピュータの共有] タブ	169
[ジョイスティック] タブ	169
[カスタムツールバー] タブ	170
[モジュール] タブ	171
[外部制御] タブ	171
「外部制御の追加」ダイアログ	172
「外部制御設定」ダイアログ	172
「ポートのプロパティ」ダイアログ	173
「パン・チルト プリセット」ダイアログ	173
「ツアー」ダイアログ	174
「記録停止」ダイアログ	175
「記録先の選択」ダイアログ	176
アラームウィンドウ	176
ユーザーウィンドウ	177
「ログ」ウィンドウ	177
「ログの設定」ダイアログ	178

第5章 その他

注意・制限事項	179
カメラの画像サイズとフレームレート	179
SNT-V704 を使用して動体検知を行うときのご注意	185
Video Motion Detection (カメラ) における画像の向きに関するご注意	185
ソフトウェアをアンインストールするには	186
PostgreSQL をアンインストールする	186
RealShot Manager をアンインストールする	186
データを削除する	186
トラブルシューティング	187
ログについて	187
エラーメッセージ	188
FAQ	191
用語解説	193
索引	194

著作権について

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよびユーザーガイドの内容の全部または一部を複製すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されています。

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いません。このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

その他、各種 Copyright については、RealShot Manager のインストールフォルダーの下の「copyright」フォルダーにある「Copyright.pdf」をご覧ください。

商標について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel および Pentium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションの登録商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中で®、TM マークは明記していません。

本書の構成

本書は、以下の章で構成されています。

第 1 章 はじめに

RealShot Manager の概要やシステム構成例、ライセンスについてなど、あらかじめ知っておいていただきたいことを記載しています。

第 2 章 ソフトウェアのインストールから基本的な使いかたまで

ソフトウェアをインストールし、RealShot Manager を使うために最小限必要なことや、基本的な使いかたについて説明しています。

本章に記載されている項目を順に行うと、RealShot Manager が一通りお使いになれます。

第 3 章 RealShot Manager の機能

RealShot Manager の各種機能と設定方法について説明しています。

第 4 章 画面の詳細

RealShot Manager の各画面の見かたと使いかた、設定画面の各項目について詳細に説明しています。

第 5 章 その他

以下の項目を記載しています。

- 注意・制限事項
- RealShot Manager をアンインストールするには
- トラブルシューティング
- FAQ
- 用語解説

はじめに

第1章

RealShot Manager の特長

RealShot Manager は、ネットワークカメラ（IP カメラ）用の多地点モニタリングシステムソフトウェアです。RealShot Manager をコンピューターにインストールして簡単な設定をするだけで、ネットワークを介して複数台のカメラを管理し、画像のモニターや記録の検索・再生、カメラの操作などが行えます。RealShot Manager には、以下の特長があります。

複数台のネットワークカメラの画像を同時に表示

RealShot Manager の画面には、複数台のネットワークカメラの画像を同時に表示できます。使用環境や目的に応じて、RealShot Manager の画面に表示するモニターウィンドウの数や大きさ、配置などのレイアウトを自由に設定でき、画面の背景には、地図やフロアの間取り図などの既存のデータを取り込んで利用することもできます。パン、チルト、ズームなどのカメラの操作は、モニターウィンドウからカメラに個別にアクセスして行います。



詳細な記録スケジュール機能と多彩な記録モード

カメラ1台ごと、またはグループ単位で記録スケジュールを設定し、画像を記録できます。動体検知や外部センサーなどのアラーム発生により記録を開始させることもできます。また、モニターウィンドウから手動でカメラの画像を記録することも可能です。記録した画像は、ビデオやDVDプレーヤーなど同様の操作で再生でき、記録中の画像を追いかけ再生することができます。

詳細なカメラ設定やカメラの管理、コントロールが可能

カメラを設置している地域やフロアごとにカメラグループを設定し、効率良く管理できます。カメラ1台ごとに、画質や解像度などが設定でき、アラーム発生時やイベント時には、パン、チルト、ズームなどのカメラの操作を直接行うことができます。また、カメラポジションをプリセットしておき、必要なときに呼び出すこともできます。

ソフトウェアによる動体検知機能を搭載

RealShot Manager による動体検知が可能です。動体検知の設定を時間ごとに切り替えるようにスケジュールを設定できるので、夜間と昼間とで自動的に設定を切り替えるなど、様々な運用が可能です。また、カメラの動体、または不動体検知機能にも対応しています。

カメラからのメタデータを用いたフィルタリング機能

カメラから配信される画像処理結果である物体情報のメタデータを用いた各種フィルタリングを行うことによって、高度なアラーム処理が可能となりました。記録済みのメタデータに対してもフィルタリングが可能のため、記録後に、気になる部分について検索できます。

その他の機能

- JPEG と MPEG4 に対応しています（ただし、カメラが対応しているビデオコーデックに依存します）。
- カメラのマイクや音声入力用デバイスからの音声のモニターや記録、再生ができます。
- カメラごとに、記録の保存場所を指定できます。
- 再生開始時刻を指定して、複数の記録データを同時に再生できます。

- カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録ができます。これにより、ネットワークの状況に影響されずに、高画質、安定した画像の入手が可能になります。
- 運用を止めることなく、自動的にデータベースの最適化が行われるため、長期にわたる連続運用が可能です（本バージョンの RealShot Manager では、データベースに PostgreSQL を使用しています）。
- Generic Camera を接続して使用できます。
- 1,280 × 960 ピクセルの画像のモニタリング、記録、再生ができます。

ご注意

- RealShot Manager では、ライセンスによりカメラを 32 台まで接続できますが、ハードウェアの性能や使用環境によってパフォーマンスに影響がありますので、必ず試用してから運用するようにしてください。
- ライセンスは、RealShot Manager をインストールするコンピューターの固定ライセンスとなっています。必ずインストールするコンピューターを決めてから、ライセンスを購入してください。なお、ライセンスの取得後にハードウェア構成を変更した場合、ライセンスファイルが無効になることがあります。その場合は、ライセンスをご購入いただいた「ソニー業務用製品」の特約店にご相談ください。

システム構成例

RealShot Manager では、規模や用途に合わせて、次のようにシステムを構成します。

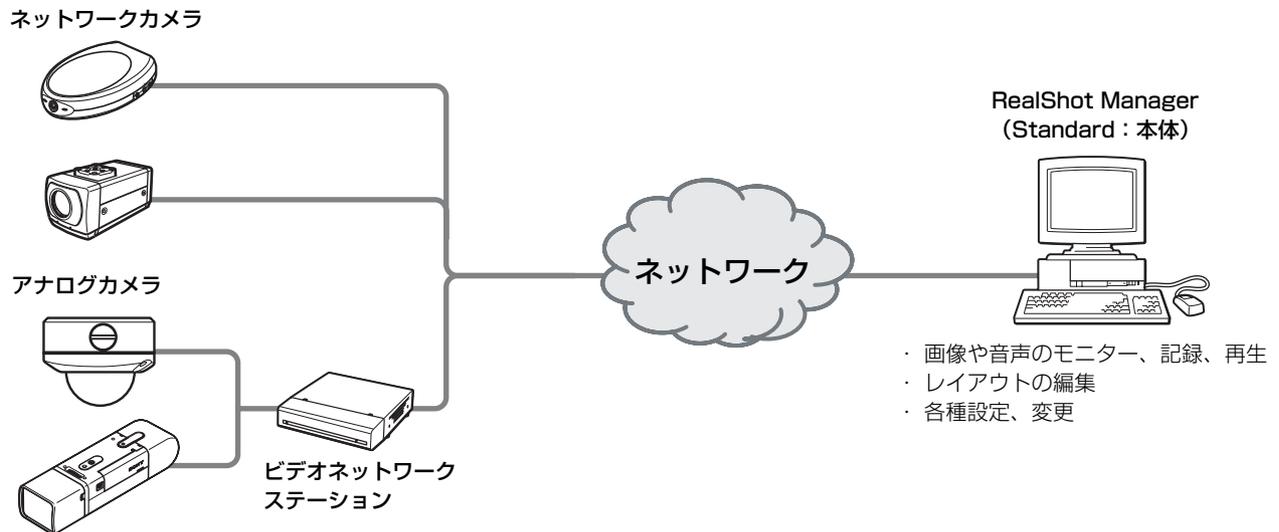
ご注意

RealShot Manager に登録して運用しているカメラに対して、ほかの RealShot Manager から登録したり、ほかの Web ブラウザから接続したりしないでください。

構成例 1

以下は、最も基本的な構成例です。

RealShot Manager (Standard) がインストールされたコンピューターですべての設定や操作を行います。

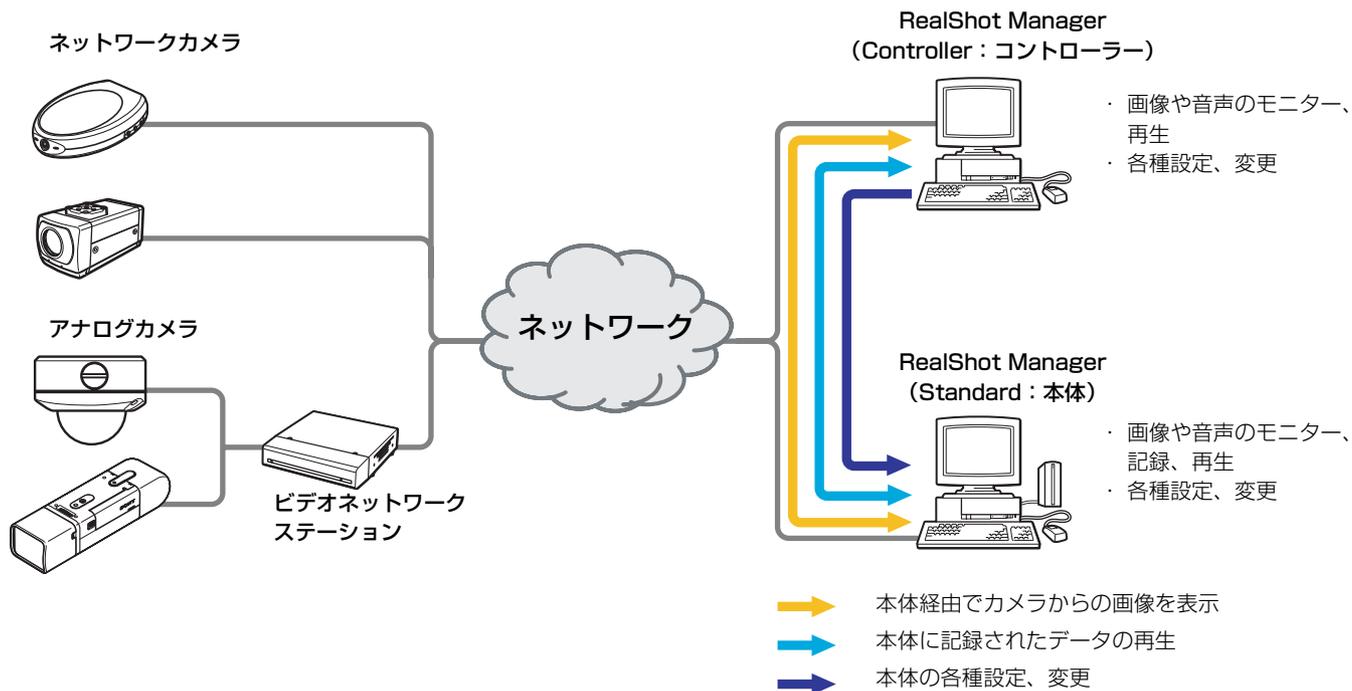


メモ

1台のカメラに接続できる RealShot Manager の数は1つです。複数のコンピューターから同じカメラの画像をモニター／記録したいときは、カメラに接続している RealShot Manager をリモートサーバーとして設定し、ほかのコンピューターはリモートサーバーを介してモニター／記録を行ってください。なお、コンピューターにインストールした RealShot Manager (Standard) には、接続するカメラの台数に応じたライセンスが必要です。

構成例 2

複数のコンピューターに、用途に応じた RealShot Manager をインストールし、複数のコンピューターでモニターするカメラや記録データを共有します。



メモ

- 同一ネットワーク上に RealShot Manager (Standard) がインストールされているコンピューターが必要です。
- コンピューターにインストールした RealShot Manager (Standard) には、接続するカメラの台数に応じたライセンスが必要です。

動作環境

RealShot Manager の動作環境や対応機器については、ソフトウェアのリリースノートをご覧ください。

ソフトウェア使用許諾条件 (マシン固定ライセンス)

許諾ソフトウェアは、業務使用のために提供されています。

許諾ソフトウェア使用許諾契約書

以下の使用許諾契約書（以下「本契約」とします）は、お客様（以下「使用者」とします）とソニーとの間での許諾ソフトウェアの使用に関して合意するものです。許諾ソフトウェアをダウンロードしてご使用になる前に、あらかじめ本契約および付属の添付書類（以下「添付書類」とします）をよくお読みください。許諾ソフトウェアのダウンロード、インストール、あるいは許諾ソフトウェアまたは添付書類の使用をもって、本契約にご同意いただいたものとしします。

本契約の条項にご同意いただけない場合は、許諾ソフトウェアのダウンロード、インストール、あるいは許諾ソフトウェアまたは添付書類を使用してはならないものとしします。

第1条（総則）

ソニーおよびソニーが許諾ソフトウェアの使用、再許諾を許諾された原権利者（以下「原権利者」とします）は、許諾ソフトウェアおよび添付書類の使用権を、本契約に従って使用者に許諾するものとしします。

第2条（使用権）

1. 契約に基づいて、ソニーおよび原権利者は、添付書類に記された目的に従って許諾ソフトウェアおよび添付書類を使う権利を使用者に許諾するものとしします。なお、かかる権利は譲渡不能であり、添付書類に記されていない目的のために許諾ソフトウェアおよび添付書類を使用してはならないものとしします。
2. 使用者は、ソニーから事前の書面による許可を得ない限り、許諾ソフトウェアおよび添付書類の全部または一部の複製、複写、および修正、追加、逆アセンブル等の改変を行ってはならないものとしします。さらに使用者は、本契約に基づいて使用者に許諾された権利の第三者への譲渡・転売や、許諾ソフトウェアおよび添付書類の第三者への貸与を行ってはならないものとしします。

3. 許諾ソフトウェアに付されている機能制限を外すために必要な認証コードをソニーから取得した使用者は、かかる機能無制限が外された許諾ソフトウェア（以下「完全機能版許諾ソフトウェア」）の使用に際し、本契約上のその他の規定に加えて以下の条件を遵守するものとします。
 - (i) ソニーおよび原権利者は、ソニーによって定められた実施許諾料を支払うことに同意することによって使用者に提供される「ソフトウェア使用権許諾書」の「ソフトウェア情報」欄に明記された完全機能版許諾ソフトウェアの非独占的かつ譲渡不能な使用権を以下に定義する使用者に与えるものとします。
 - (ii) 前号記載の使用権は「ソフトウェア使用権許諾書」の「ハードウェア情報」欄に明記された1台のコンピューターのみにおける使用に限られるものとします。
 - (iii) 本項における使用者とは、「ソフトウェア使用権許諾書」のカスタマー情報に関する欄に明記された方を指すものとします。使用者は、完全機能版許諾ソフトウェアの使用権をいかなる第三者にも譲渡、転売、担保として設定、再配布してはならないものとします。
 - (iv) 使用者は、完全機能版ソフトウェアのバックアップを保有する目的に限り、かかる完全機能版ソフトウェアの全部または一部の複製を作成することができるものとします。
 - (v) 使用者は、上記の(iv)に記した複製に対してもソニーが完全機能版ソフトウェアに付した著作権表示と同様の著作権表示をしなければならないものとし、また、当該複製の保管場所、複製部数について正確な記録を保管しなければならないものとします。
 - (vi) 使用者は、完全機能版ソフトウェアをいかなる第三者にも使用させてはならないものとします。
4. 使用者は、本契約を終了させる旨の事前の通知をソニーに行うことにより直ちに本契約を終了させることができるものとします。また、ソニーまたは原権利者も、使用者が本契約の条項に違反した場合、同様に書面で契約の終了を通知することにより、直ちに本契約を終了させることができるものとし、併せてそれによって蒙った損害の賠償を使用者に対して請求することができるものとします。なお、如何なる理由であれ契約終了の際には、使用者は許諾ソフトウェアおよび添付書類およびそれらの複製すべてを破棄しなくてはならないものとします。さらに、契約の終了によって許諾ソフトウェアおよび添付書類の使用できなくなったことに起因する使用者の損害について、ソニーおよび原権利者は一切の責を負わないものとします。

第3条（保証）

許諾ソフトウェアおよび添付書類は、使用者に無保証で提供されるものであり、ソニーおよび原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、または許諾ソフトウェアが完全に動作することに対する保証を含め、一切の保証を行わないものとします。さらに、ソニーおよび原権利者は、許諾ソフトウェアについて何等の保証（商品性および特定の用途への適合性並びに第三者の工業所有権、その他の米国統一商法典 2-312(3) 条および類似の法律および規制にて規定される条項を含み、かつこれらに限られないものとする）も行わないものとします。

第4条（ソニーの免責）

許諾ソフトウェアおよび添付書類は、使用者の自己責任において使用されるものとし、ソニーおよび原権利者は、使用者が本契約に基づき許諾された使用権を行使することにより生じた一切の損害についていかなる責任も負わないものとします。また、ソニーおよび原権利者は、許諾ソフトウェアおよび添付書類に起因する特別、間接的、付随的または派生的損害（得べかりし利益の喪失、データの喪失等含む）に対する一切の責任を負わないものとします。

第5条（その他）

1. 本契約の条項の一部が法令上無効であるとされた場合であっても、かかる無効とされた条項以外の本契約の各規定は引き続き有効なものとして適用されるものとします。
2. 許諾ソフトウェアと添付書類に関するあらゆる知的財産権を含む一切の権利は、ソニーまたは原権利者に帰属するものとします。さらに使用者は、原権利者は本契約における直接の第三者的受益者であり、使用者に直接本契約を適用し得ることを認めるものとします。
3. 使用者は、許諾ソフトウェアおよび添付書類を、関係諸国における輸出規制法に反して輸出してはならないものとします。
4. 本契約は日本法によって解釈されるものとします。

許諾ソフトウェアの使用に際し、本契約を読み、理解し、同意することを使用者の義務とします。さらに、本契約がソニーおよび原権利者と使用者の間で交わされる許諾ソフトウェアと添付書類に関する完全で排他的な契約書であることに使用者は同意することとし、口頭および書面あるいはその他のいかなるいかなる伝達手段によってソニーと使用者の間、あるいは第三者と使用者の間で交わされた合意は無効とすることとします。

ソフトウェアのインストールから 基本的な使いかたまで

使えるようになるまでの 流れ

ソフトウェアをインストールし、以下の順に行くと、RealShot Manager が使えるようになります。

ソフトウェアをインストールする (14 ページ)

ダウンロードした RealShot Manager をコンピューターにインストールします。



カメラの画像を見るための準備をする (18 ページ)

カメラを登録し、モニターウィンドウを作成して、カメラからの画像を見るための準備をします。

登録済みのレイアウトを使用する場合は、モニターウィンドウの作成は必要ありません。



使ってみる

さっそく使ってみましょう。

- カメラ画像をモニターする (20 ページ)
- カメラ画像を記録する (21 ページ)
- 記録を検索する (22 ページ)
- 記録を再生する (23 ページ)

より詳細に RealShot Manager を設定するには

「RealShot Manager の機能」(24 ページ) をご覧になり、お使いの環境や目的にあわせて各種設定を行ってください。

メモ

RealShot Manager (Standard) を継続して使用するためには、ライセンスを購入していただく必要があります。ご購入については、お近くの「ソニー業務用製品」を取り扱っている特約店へご相談ください。

RealShot Manager (Controller) は、ライセンスの購入は必要ありません。

ソフトウェアをインストールする

インストーラーを起動して、コンピューターにソフトウェアをインストールします。インストーラーは、以下のことを順に行います。

- RealShot Manager のインストール
- PostgreSQL のインストール
- データベースの変換

ソフトウェアをインストールする前に

- PostgreSQL の言語設定は、インストール時の OS の言語に合わせて設定されるため、OS を使用したい言語に切り替えてからインストールを実行してください。OS の言語を切り替えずにインストールを行った場合は、いったんアンインストールし、再度インストールしてください。アンインストールについては、「ソフトウェアをアンインストールするには」(186 ページ) をご覧ください。
- 管理者権限のあるユーザーアカウントで Windows にログインしてください。
- 他のプログラムが起動している場合は、すべて終了させてください。
- RealShot Manager ソフトウェアバージョン 4.2.1 をアップデートする場合は、RealShot Manager をアンインストールせずに、以下と同じ手順で本バージョンをインストールしてください。その際、RealShot Manager が起動していないことを確認してから、本バージョンのインストールを行ってください。なお、ソフトウェアバージョン 4.2.1 以外の RealShot Manager をお使いの場合は、まず、ソフトウェアバージョン 4.2.1 にアップデートし、必ず 1 回は RealShot Manager を起動してから、本バージョンのインストールを行ってください。

ご注意

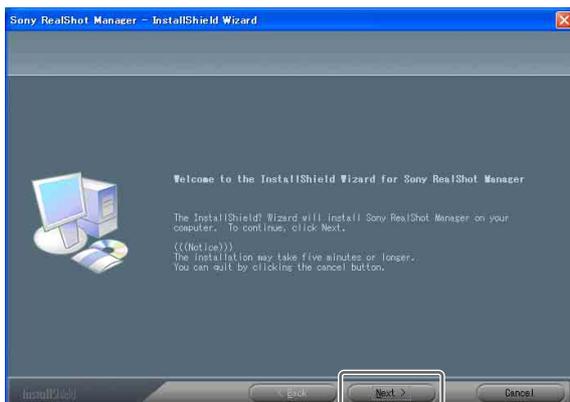
- 新規に本バージョンの RealShot Manager をインストールする場合や、ソフトウェアバージョン 4.2.1 からアップデートする場合は、PostgreSQL がインストールされていないことが必要です。すでに PostgreSQL がインストールされている場合は、その PostgreSQL のドキュメントを参照し、完全にアンインストールしてから、RealShot Manager をインストールしてください。また、PostgreSQL のサービス起動用 Windows アカウントも忘れずに削除してください。PostgreSQL を削除しないで RealShot Manager をインストールした場合は、アンインストールしてから、やり直してください。
- データベースは、RealShot Manager のインストールフォルダの下に作成されます。RealShot Manager では、データベースの作成場所を変更できません。また、記録データの増加にともなって、データベースのファイルサイズが大きくなりますので、ディスクの空き容量に注意してください。
- Windows のリモートデスクトップ機能などを使用している場合は、ソフトウェアのインストールができないことがあります。ソフトウェアをインストールするコンピューター上で、直接インストール作業を行ってください。

1 RealShot Manager のフォルダにある「setup.exe」をダブルクリックする。

インストールウィザードが起動します。

2 [Next] をクリックする。

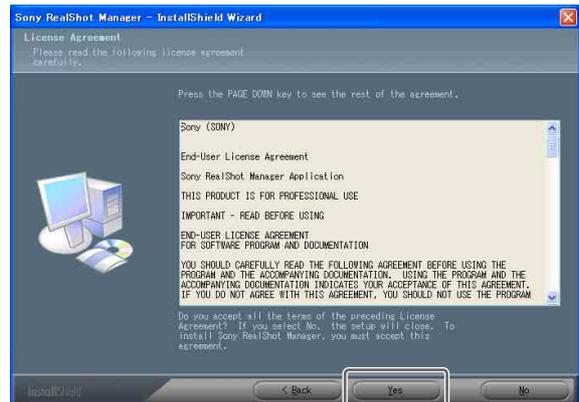
インストールに5分以上かかる場合があります。時間ががかることに問題がある場合は、この時点で [Cancel] をクリックし、インストールを中止してください。



ソフトウェア使用許諾条件が表示されます。ソフトウェア使用許諾条件は、本書の「ソフトウェア使用許諾条件 (マシン固定ライセンス)」(12 ページ) に同じ内容が日本語で記載されています。

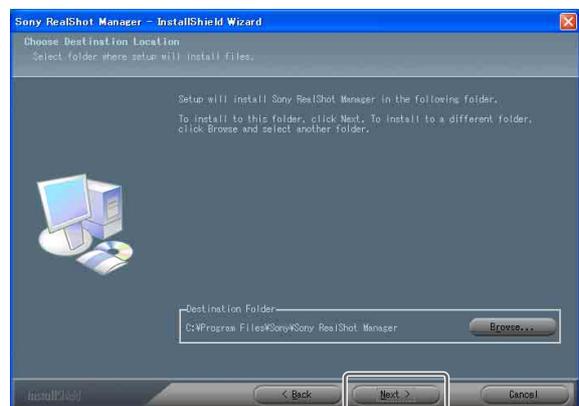
3 本書に記載されている「ソフトウェア使用許諾条件 (マシン固定ライセンス)」(12 ページ) を読み、[Yes] をクリックする。

[No] をクリックした場合は、ソフトウェアのインストールは行われずに、ウィザードが終了します。

**4** インストール先のフォルダを選択し、[Next] をクリックする。

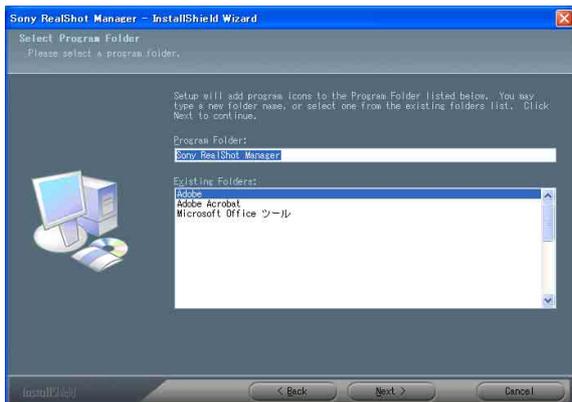
初期設定では、「C:\Program Files\Sony\RealShot Manager」が選択されています。

インストール先を変更する場合は、[Browse] をクリックし、インストールするフォルダを指定します。

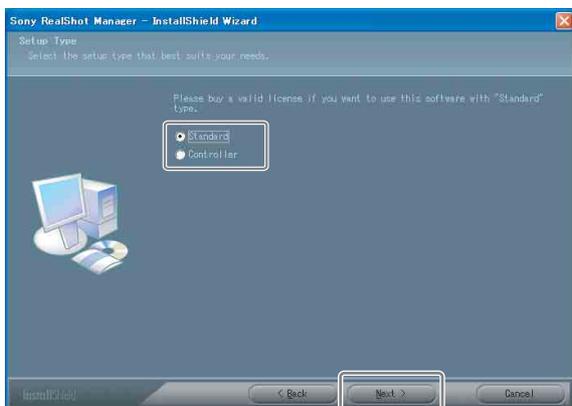


- 5 ソフトウェアを起動するときに [スタート] メニューに表示されるフォルダー名を入力し、[Next] をクリックする。

初期設定では「Sony RealShot Manager」が指定されています。



- 6 インストールしたいRealShot Managerの種類を選択し、[Next] をクリックする。



メモ

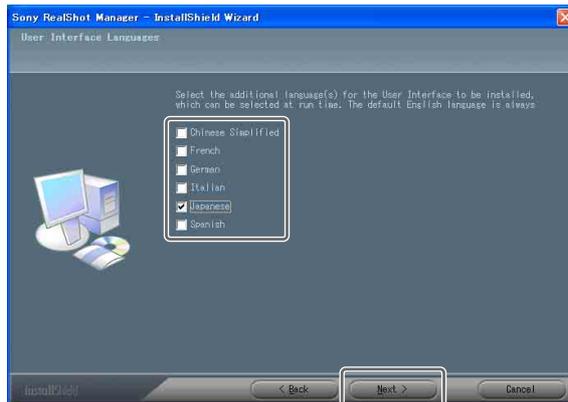
[Controller] をインストールしてお使いになるには、同一ネットワーク上に [Standard] が動作しているコンピュータが必要です。詳しくは、「RealShot Manager の機能」の「サーバー・クライアント」（87ページ）をご覧ください。

- 7 インストールしたい言語を選択し、[Next] をクリックする。

複数の言語を選択できます。

ご注意

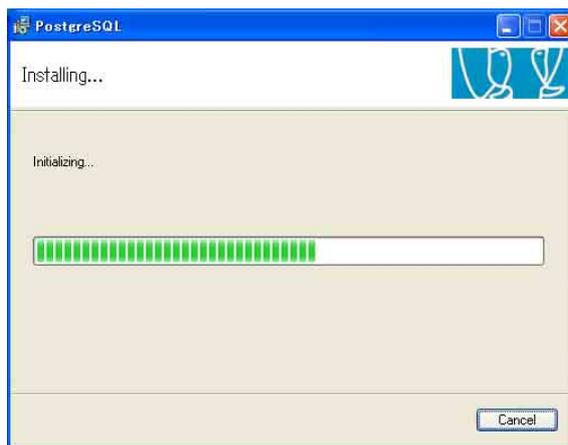
ここで指定するのは、インストールする言語のモジュールです。RealShot Manager 起動時の言語の指定ではありません。



RealShot Manager のインストールが開始されます。



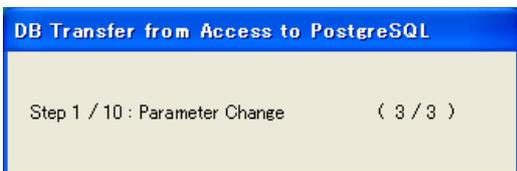
RealShot Manager のインストールが完了すると、続いて次のような画面が表示され、PostgreSQL のインストールが開始されます。



- 8 次の画面が表示されたら、[OK] をクリックする。

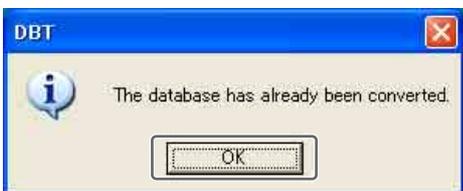


PostgreSQL のインストールが完了すると、続いて次のような画面が表示され、データベースの変換が行われます。



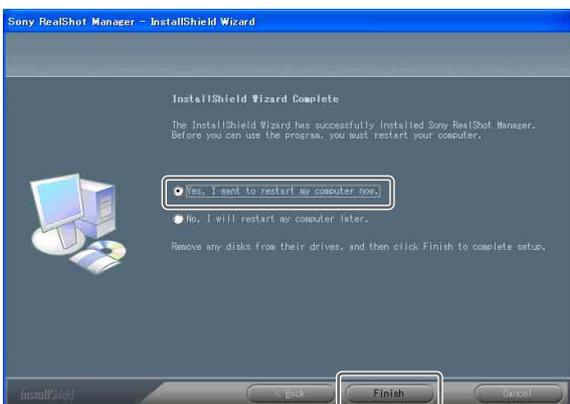
メモ

すでにデータベースの変換が行われている場合は、次の画面が表示されます。[OK] をクリックしてください。



以上でソフトウェアのインストールは完了です。

9 次の画面が表示されたら、[Yes, I want to restart my computer now.] を選択し、[Finish] をクリックする。



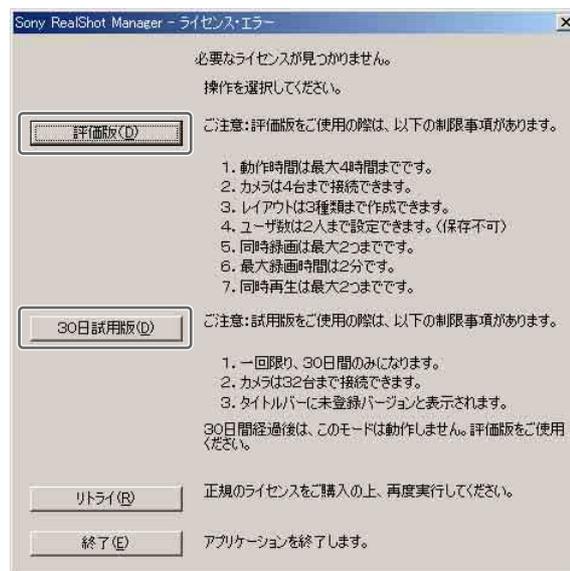
コンピューターが再起動します。

起動する / 終了する

起動する

[スタート] メニューをクリックし、[すべてのプログラム] (Windows 2000 の場合は [プログラム]) - [Sony RealShot Manager] - [RealShot Manager] をクリックする。

ライセンスがない状態で RealShot Manager (Standard) を起動しようとしたときは、次の画面が表示されます。[評価版] または [30 日試用版] をクリックすると、RealShot Manager が起動します。



メモ

「評価版」と「30 日試用版」はライセンスをご購入いただく前でも使用でき、操作性や記録、再生の性能は「製品版」と同じです。RealShot Manager の操作性や性能の確認、使用するコンピューターでの動作確認などにお使いいただけます。

RealShot Manager (Standard) を継続して使用するには、ライセンスを購入していただく必要があります。ご購入については、お近くの「ソニー業務用製品」を取り扱っている特約店へご相談ください。

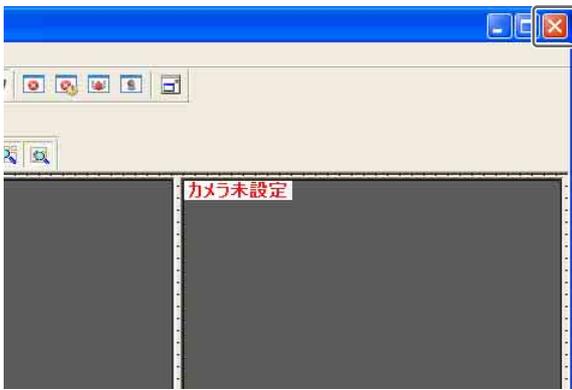
RealShot Manager (Controller) は、ライセンスの購入は必要ありません。

ご注意

- 「30日試用版」を使用するときは、管理者権限のあるアカウントで Windows にログオンする必要があります。「30日試用版」は、使用を開始したユーザーのみお使いいただけます。また、「評価版」は、「30日試用版」の使用を開始したユーザー以外の方でもお使いいただけます。
- 「30日試用版」は、30日を経過していなくても以下のいずれかの条件で使用できなくなります。
 - 新たに RealShot Manager をインストールした場合
 - RealShot Manager をアンインストールした場合

終了する

画面右上の  (終了) ボタンをクリックする。

**ご注意**

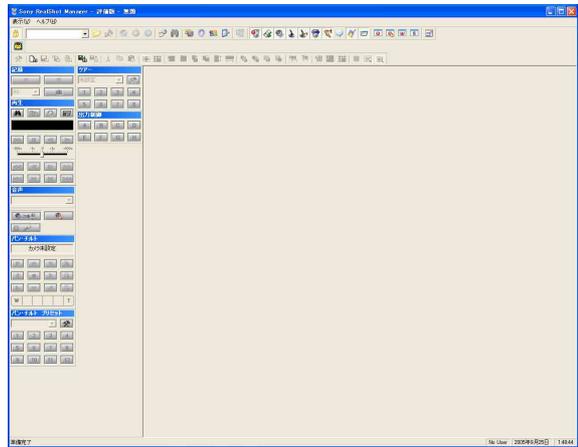
ユーザー管理 (80 ページ) を行っている場合、RealShot Manager を終了できるのは、「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーだけになります。ユーザー管理を行っている場合は、「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーでログインしてから終了してください。「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーがいない場合は、RealShot Manager を終了できませんので注意してください。

カメラの画像を見るための準備をする

はじめて RealShot Manager を起動したときは、次のような画面が表示されます。

カメラを登録し、モニターウィンドウを設定すると、RealShot Manager でカメラの画像を見ることができるようになります。

RealShot Manager の詳細な設定や設定項目については、「第3章 RealShot Manager の機能」(24 ページ)、「第4章 画面の詳細」(91 ページ) をご覧ください。

**メモ**

はじめて RealShot Manager を起動したときは、ソフトウェアのすべての機能が利用できるようになっています。ユーザーにより使用できる機能を制限したい場合は、ユーザーアカウントを設定する必要があります。詳しくは、「ユーザー管理」(80 ページ) をご覧ください。

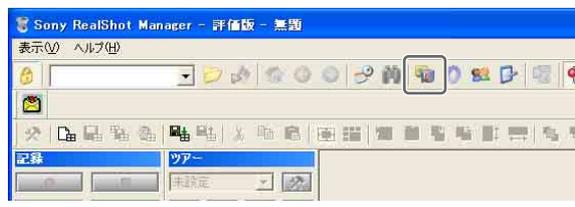
カメラを登録する

RealShot Manager でモニターしたり、画像を記録するカメラを登録します。

カメラを登録する前に

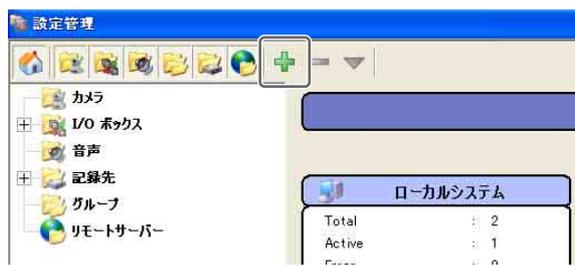
ブラウザを起動して直接カメラに接続し、カメラからの画像が見えることを確認してください。ブラウザに入力した IP アドレスは、カメラを登録する際に使用します。

1 画面上部中央にある  (設定管理) をクリックする。



「設定管理」ウィンドウが表示されます。

2  (装置の追加) をクリックする。



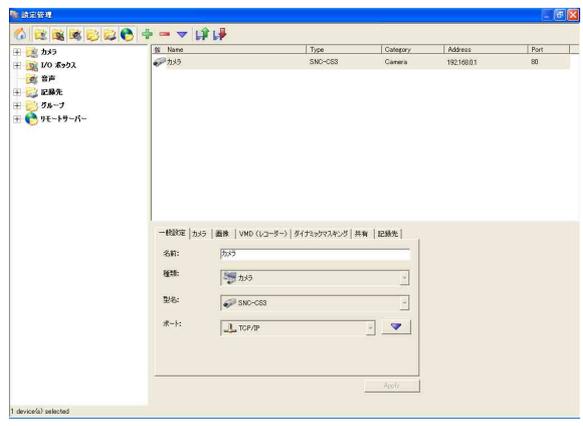
「装置の追加」ダイアログが表示されます。

3 [装置の種類] で [カメラ] を選択して、各項目を設定し、[OK] をクリックする。

[IP アドレス] には、ブラウザでカメラの接続を確認したときと同じ IP アドレスを入力します。
各設定項目については、「装置の追加」ダイアログ (129 ページ) をご覧ください。



カメラが登録されます。



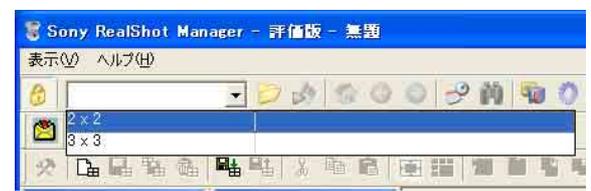
4 複数のカメラを登録する場合は、手順2～3を繰り返す。

メモ

- カメラを詳細に設定したいときや、設定内容を変更したいときは、「第3章 RealShot Manager の機能」の「デバイス登録」(25 ページ) をご覧ください。
- カメラグループを設定し、効率よく管理することもできます。詳しくは、「第3章 RealShot Manager の機能」の「デバイスグループの登録」(35 ページ) をご覧ください。

モニターウィンドウを作成する

RealShot Manager の新規インストール時には、あらかじめ 2 × 2、3 × 3 のレイアウトが用意されています。画面左上の  をクリックし、レイアウトを選びます。



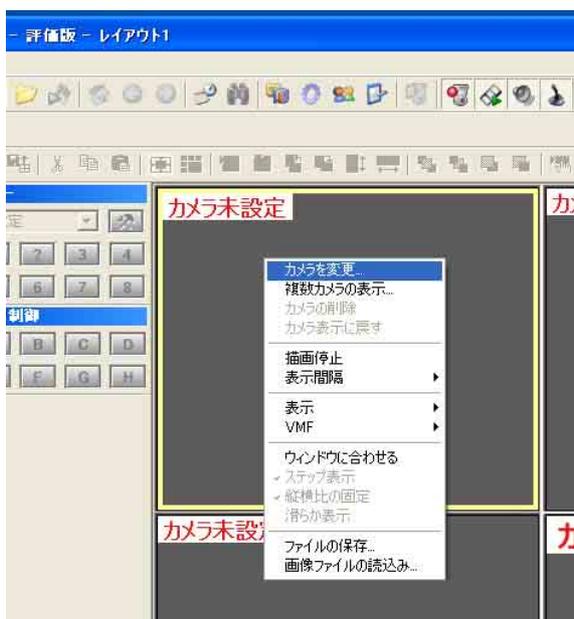
レイアウトは、用途に応じて自由に作成することもできます。詳しくは「レイアウト」(39 ページ) をご覧ください。

カメラ画像をモニターする

ここでは、カメラからの画像をモニターする手順をおおまかに説明します。

詳しい操作のしかたやその他の機能については、「第3章 RealShot Manager の機能」(24 ページ)、「第4章 画面の詳細」(91 ページ)をご覧ください。

- 1 カメラの画像を表示したいカメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから「カメラを変更」をクリックする。



メモ

「カメラを変更」がグレー表示になっているときは、画面左上の  (編集モード) をクリックすると表示されるようになります。

「カメラを選択してください。」ダイアログが表示されます。

- 2 画像を表示したいカメラを選択し、[OK] をクリックする。



設定したカメラに自動的に接続され、カメラの画像がカメラモニターウィンドウに表示されます。



メモ

- カメラモニターウィンドウに表示する画像のフレームレートを変更できます。詳しくは、「画像の表示間隔を変更する」(49 ページ)をご覧ください。
- 1つのカメラモニターウィンドウに複数のカメラを割り当てて、順に画像を表示させることもできます。詳しくは、「複数のカメラを1つのカメラモニターウィンドウに割り当てる」(43 ページ)をご覧ください。

カメラをコントロールするには

パン・チルト機能を備えたカメラの場合は、画面左側にある「パン・チルト」ツールバーを使って、パン、チルト、ズームの操作をしながらカメラからの画像をモニターできます。

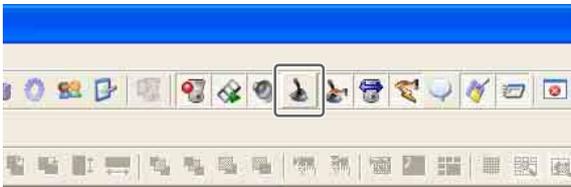


- ① カメラを向きを上下左右、斜めに動かします。
- ② ズームイン、ズームアウトします。
- ③ 広角側、望遠側にズームします。

各ボタンの詳しい使いかたについては、「画面の詳細」の「[パン・チルト] ツールバー」(98 ページ) をご覧ください。

メモ

- [パン・チルト] ツールが表示されていないときは、画面上部の  (パン・チルト ツールバーの表示) をクリックすると、表示されるようになります。



- マウスを使ってカメラをコントロールすることもできます。詳しくは、「マウスを使ってカメラをコントロールする」(52 ページ) をご覧ください。
- Windows 用のジョイスティックをコントロール機器として使用している場合は、ジョイスティックを使ってパン、チルト、ズームを行うこともできます。詳しくは、「第4章 画面の詳細」の「[設定] ダイアログ」の「[一般設定] タブ」(157 ページ) をご覧ください。

カメラ画像を記録する

現在カメラが撮影している画像を記録できます。

で注意

記録用に RealShot Manager を使用しているコンピューターでは、原則として他のアプリケーションを使用しないでください。

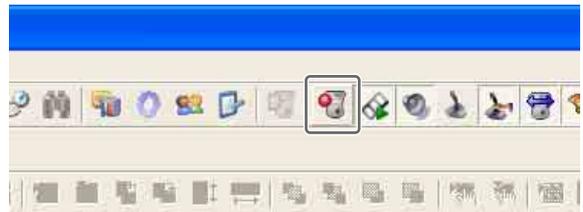
メモ

スケジュールを設定して、カメラの画像を記録することもできます。詳しくは、「第3章 RealShot Manager の機能」の「記録」(60 ページ) をご覧ください。

- 1 記録したいカメラの画像が表示されているカメラモニターウィンドウを選択する。

メモ

[記録] ツールが表示されていないときは、画面上部の  (記録ツールバーの表示) をクリックすると、表示されるようになります。



- 2  (記録) をクリックする。



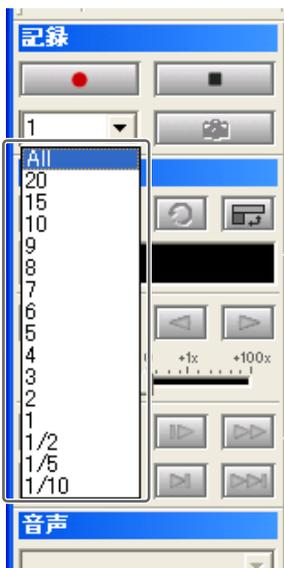
記録が開始されます。

- 3 記録を終了するときは、 (停止) をクリックする。

 (停止) については、「[記録] ツールバー」(96 ページ) のご注意をよくお読みください。

メモ

- 「記録」 ツールバーの をクリックすると、1秒間に記録するフレームレートを選択できます。



- (キャプチャ) をクリックすると、表示されている画像を1フレームの静止画 (スナップショット) としてキャプチャーできます。

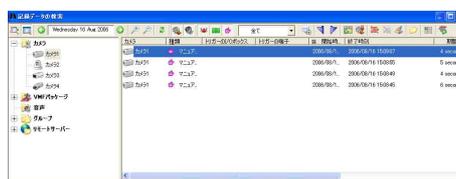
記録を検索・再生する

以前に記録した画像や音声は、記録したカメラや日時で検索して再生できます。

ここでは、記録の検索、再生についておおまかに説明します。詳しい操作やその他の機能については、「第3章 RealShot Manager の機能」の「記録データの検索と再生」(68 ページ) をご覧ください。

記録を検索する

記録を検索するときは、画面上部にある (記録データの検索) または「再生」 ツールバーの (検索) をクリックし、「記録データの検索」 ウィンドウを表示して行います。



メモ

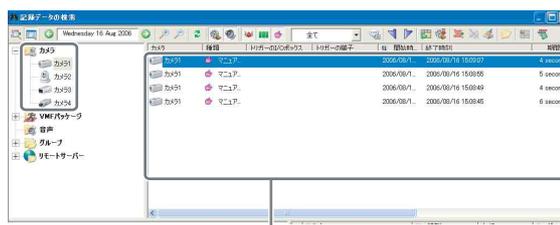
- 現在記録中の画像や音声は、検索結果の一覧には自動的に表示されません。一覧を更新するには、画面上部の (検索データのリフレッシュ) をクリックします。
- 「記録データの検索」 ウィンドウの各ボタンの使いかたや機能の詳細については、「第4章 画面の詳細」の「「記録データの検索」 ウィンドウ」(120 ページ) をご覧ください。

カメラを選んで検索する

画面左のツリーからカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

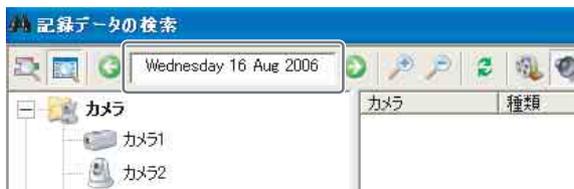
カメラを選ぶと、右側に検索結果が一覧表示されます。



ここに検索結果が表示されます。

日時を指定して検索する

- 1 画面左上の「日時指定」欄をクリックする。



「日付と時刻」ダイアログが表示されます。

- 2 記録を検索したい日時を指定し、[OK] をクリックする。

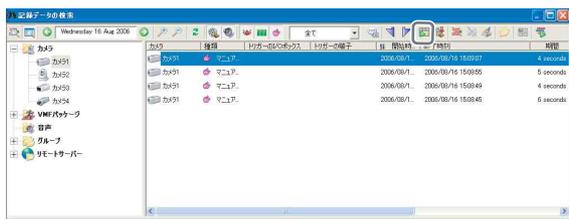


検索結果が一覧表示されます。

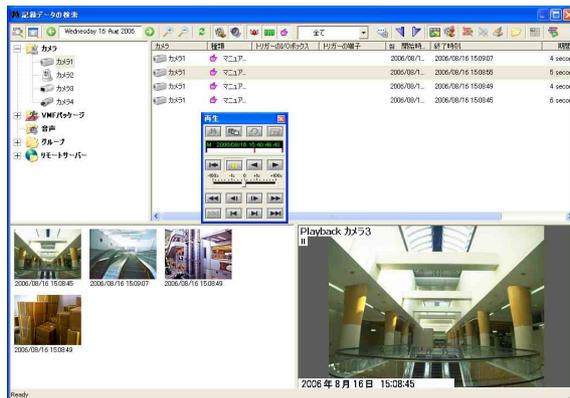
記録を再生する

検索結果から記録を選んで再生します。

- 1 検索結果の一覧から再生したい記録を選び、画面上部のサムネイル（記録データのプレビュー）をクリックする。



「再生」ツールバーが表示され、画面右下のサムネイル表示部に選択した記録の最初のフレームが表示されます。



- 2 「再生」ツールバーを使って、画像を再生する。

各ボタンの詳しい使いかたについては、「第4章 画面の詳細」の「「再生」ツールバー」（96 ページ）をご覧ください。



- ① 再生・逆再生します。
▶ をクリックすると再生し、◀ をクリックすると逆再生します。
- ② バーをドラッグして、再生する速度を調整します。
- ③ スロー再生、早送り、コマ再生などをします。
- ④ 逆スロー再生、巻き戻し、逆コマ再生などをします。
- ⑤ ファイルの頭出しをします。
「記録データの検索」ウィンドウでサムネイルをクリックしても、ファイルの頭出しができます。
- ⑥ 一時停止します。

概要

RealShot Manager では、お使いの環境や用途に応じた使いかたや設定ができるように、さまざまな機能を備えています。

本章では、RealShot Manager の各機能や設定のしかたについて、詳細に説明します。

デバイス登録 (25 ページ)

RealShot Manager で管理するカメラや I/O ボックスなどのデバイスの登録と必要な設定、デバイスグループの設定などについて説明します。

記録先 (37 ページ)

画像データや音声データの記録先の設定について説明します。

レイアウト (39 ページ)

メイン画面のレイアウトの作成について説明します。用途や使用環境に応じて複数のレイアウトを作成できます。

モニター (47 ページ)

画像や音声のモニターについて説明します。

カメラのコントロール (52 ページ)

カメラのプリセットやツアーなどの設定のしかたと使いかたについて説明します。

アラーム機能 (56 ページ)

アラーム機能の概念について説明します。

動体検知機能 (57 ページ)

カメラ画像またはカメラ画像のメタデータから動体、不動態を検知する動体検知機能について説明します。

記録 (60 ページ)

画像や音声のマニュアル記録のしかたや、スケジュール記録の設定、アラーム時のスケジュール記録の設定について説明します。

カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録機能 (66 ページ)

カメラ内のローカルストレージに一時的に記録できるカメラの機能を利用して、アラーム記録を行う機能について説明します。

記録データの検索と再生 (68 ページ)

記録データの検索や再生のしかたについて説明します。

記録データのエクスポート (72 ページ)

記録データを AVI 形式のファイルに変換する機能について説明します。

アクション (73 ページ)

アラームの発生をトリガーとして自動的に実行させる動作を、ルールとして設定する方法を説明します。

メール通知機能 (76 ページ)

RealShot Manager が検出したアラームやアラートを電子メールで通知する機能について説明します。

ユーザー管理 (80 ページ)

ユーザー/ユーザーグループの登録、ユーザー/ユーザーグループが使用できる機能の制限について説明します。

記録データの削除 (84 ページ)

記録データの削除のしかたについて説明します。

サーバー・クライアント (87 ページ)

RealShot Manager (Standard) と RealShot Manager (Controller) によるシステム構成について説明します。

Generic Camera (88 ページ)

カメラの登録時にカメラから各種情報を取得し、その情報を元に接続される「Generic Camera」について説明します。

デバイス登録

RealShot Manager では、カメラや I/O ボックス、音声装置、リモート PC を登録して、管理できます。詳しくは、以下の項をご覧ください。

• カメラの登録 (27 ページ)

画像のモニターや記録に使用するカメラを登録します。使用環境や用途に合わせて、カメラから取り込む画像に関する設定やそのカメラに対する Video Motion Detection (レコーダー) の設定、画像の記録先の設定などが行えます。

• I/O ボックスの登録 (29 ページ)

カメラや外部機器の入力 (センサー) と出力 (アラーム) を管理するための I/O ボックスを登録し、I/O ボックスの種類や用途に応じて端子の設定を行います。

• 音声装置の登録 (33 ページ)

音声を記録するための音声装置を登録します。記録に使用するカメラと連携させると、画像と同時に音声の記録を開始できます。

• リモート PC の登録 (34 ページ)

RealShot Manager を使用しているネットワーク上のコンピュータ (リモート PC) が管理しているカメラを使用するときに、そのコンピュータをリモート PC として登録します。

また、デバイスを設置しているフロアや地域ごとにデバイスグループを設定し、効率よく管理することもできます。詳しくは、以下の項をご覧ください。

• デバイスグループの登録 (35 ページ)

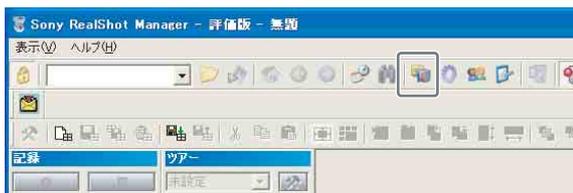
デバイス登録の基本操作

デバイスの登録や設定内容の変更、削除のしかたは、カメラや I/O ボックス、音声装置、リモート PC とも同じ流れで操作します。ここでは、デバイスを登録するときの共通手順を説明します。各デバイス固有の設定については、それぞれの項をご覧ください。

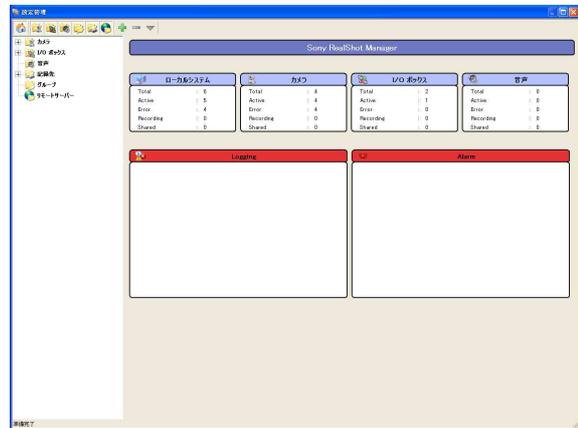
「設定管理」ウィンドウを表示する

デバイスの登録/変更や、デバイスグループの設定は、「設定管理」ウィンドウで行います。

画面上部中央にある  (設定管理) をクリックする。



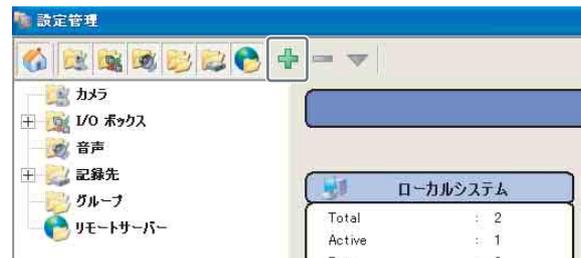
「設定管理」ウィンドウが表示されます。



「設定管理」ウィンドウの各項目や使いかたについて詳しくは、「第4章 画面の詳細」の「「設定管理」ウィンドウ」(126 ページ) をご覧ください。

デバイスを追加する

- 1 「設定管理」ウィンドウ上部の (装置の追加)  をクリックする。



「装置の追加」ダイアログが表示されます。

- 2 以下の項目を設定する。



装置の種類

▼をクリックし、表示される一覧から、装置の種類を選択します。

メモ

Generic Camera の I/O ボックスや音声入力機能（音声装置）は、単独では登録できません。カメラを登録してから、ドラッグ&ドロップで登録してください。また、I/O ボックスや音声装置は、カメラと同じ名称にしてください。

型名

▼をクリックし、表示される一覧から、デバイスの型名を選択します。

Generic Camera を登録する場合は、「Generic Camera」を選択してください。なお、カメラとの通信が可能な状態である必要があります。

装置設定

名前

デバイスの名前を入力します。
 デバイスの設置場所など、わかりやすい名前にするをおすすめします。
 例) 3階ロビー

入力

この項目は、SNT-V704 などのビデオネットワークステーション（アナログカメラコンバーターボックス）や SNT-VL10 を選択したときに有効になります。

- SNT-V704 などのアナログカメラコンバーターボックスを選択したときは、「ビデオネットワークステーションにアナログカメラを追加するには」（28 ページ）をご覧ください。
- SNT-VL10 を選択したときは、▼をクリックし、表示される一覧から、[Internal] または [External1] ~ [External6] を選択します。[Internal] および [External] については、カメラのユーザーガイドをご覧ください。

IP アドレス

デバイスの IP アドレスを入力します。

ポート番号

デバイスと接続するときのデバイス側のポート番号を入力します。

プロキシサーバー

プロキシサーバーを介してデバイスにアクセスする場合は、以下の項目を入力します。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

プロキシサーバーを使用する

プロキシサーバーを介してデバイスにアクセスする場合にチェックマークを付けます。

IP アドレス

プロキシサーバーの IP アドレスを入力します。

ポート番号

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

3 各項目を設定したら、[OK] をクリックする。

デバイスが登録されます。

デバイスの設定内容を変更する

1 「設定管理」ウィンドウの左側のツリーで、設定内容を変更したいデバイスをダブルクリックするか、デバイスを選択して、画面上部の▼（装置の編集）をクリックする。

「装置の設定」ダイアログが表示されます。

2 各タブで必要な項目を変更し、[OK] または [適用] をクリックする。

「設定管理」ウィンドウ下部に表示される各タブでも変更できます。

装置によって、表示されるタブや設定項目が異なります。

設定項目の詳細は、「装置の設定」ダイアログ（130 ページ）をご覧ください。



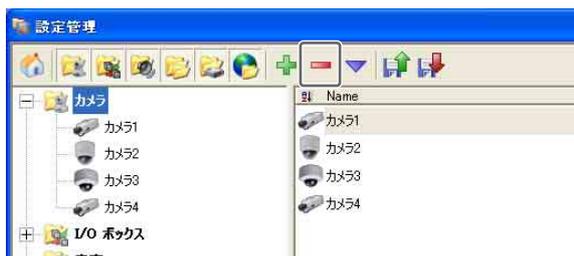
設定が変更されます。

ご注意

カメラをドラッグ&ドロップして I/O ボックスなどを作成した場合でも、カメラで IP アドレスやポートで行った変更が、I/O ボックスにも連動して行われることはありません。IP アドレスやポートは個別に変更する必要があります。

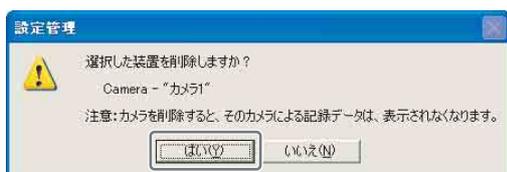
デバイスを削除する

- 1 「設定管理」ウィンドウで、削除したいデバイスを選択し、画面上部の  (装置の削除) をクリックする。



確認のメッセージが表示されます。

- 2 [はい] をクリックする。



デバイスが削除されます。

ご注意

カメラを削除すると、そのカメラ名で記録されたデータは検索できなくなります。

カメラの登録

RealShot Manager で管理するカメラを登録し、使用環境や目的に合わせた設定を行います。

カメラを登録する

RealShot Manager で管理するカメラを登録します。登録のしかたについては、第2章の「カメラを登録する」(18 ページ)、本章の「デバイスを追加する」(25 ページ)をご覧ください。

メモ

- カメラを登録する前に、ブラウザを起動して直接カメラに接続し、カメラからの画像が見えることを確認してください。ブラウザに入力した IP アドレスは、カメラを登録する際に使用します。
- SNC-RZ30/2 カメラを登録するときは、「SNC-RZ30」として登録してください。
- Generic Camera を登録するときは、「Generic Camera」を選択してください。なお、カメラとの通信が可能な状態である必要があります。

カメラの詳細設定を行う

使用環境や目的に応じて、そのカメラ用の Video Motion Detection (レコーダー) やダイナミックマスキングなど、カメラを詳細に設定できます。設定内容を変更するときも、同様の手順で行えます。

なお、Video Motion Detection (レコーダー) は以下のように「装置の設定」ダイアログで設定しますが、Video Motion Detection (カメラ) は I/O ボックスで設定します。詳しくは、「動体検知機能」(57 ページ) をご覧ください。

- 1 「設定管理」ウィンドウの左側のツリーで、詳細に設定したいカメラをダブルクリックするか、カメラを選択し、画面上部の  (装置の編集) をクリックする。

「装置の設定」ダイアログが表示されます。

- 2 各タブで必要な項目を設定し、[OK] または [適用] をクリックする。

ここでは、各タブで設定できることをおおまかに説明します。設定項目の詳細については、「装置の設定」ダイアログ」(130 ページ) をご覧ください。「設定管理」ウィンドウの下部に表示される各タブでも設定できます。



【一般設定】タブ

カメラの名前やカメラの IP アドレス、ポート番号などを変更できます。

ご注意

既存のカメラを削除して、別カメラとして登録し直すと、以前のカメラ名で記録されたデータは検索・再生できなくなりますので、注意してください。

【カメラ】タブ

カメラに接続するためのユーザー名やパスワード、カメラの機種に応じた設定などが行えます。

【画像】タブ

カメラから取り込む画像に関する設定が行えます。

[VMD (レコーダー)] タブ

RealShot Manager の動体検知を使用する場合に設定します。詳しくは「動体検知機能」(57 ページ)をご覧ください。

[ダイナミックマスキング] タブ

モニターしているカメラ画像の中で特定の領域を覆い隠したいときに、ダイナミックマスキングを設定します。ダイナミックマスキングは、カメラのパン、チルト、ズームの動作に連動して、設定した場所を常に覆い隠すように動作する機能です。

設定については、「[ダイナミックマスキング] タブ」(135 ページ)をご覧ください。

[共有] タブ

カメラの共有設定が行えます。

[記録先] タブ

カメラの記録データの記録先フォルダーを設定できます。

ビデオネットワークステーションにアナログカメラを追加するには

SNT-V704 などのビデオネットワークステーションをお使いの場合は、接続している各アナログカメラを RealShot Manager に登録できます。

- SNT-V704 や SNT-V504、SNT-V304 の場合は、4 台までのアナログカメラを登録できます。
- SNT-V501 の場合は、1 台のアナログカメラを登録できません。

メモ

SNT-V704 を使って動体検知を行う場合は、「SNT-V704 を使用して動体検知を行うときのご注意」(185 ページ)もあわせてご覧ください。

アナログカメラの登録は、接続しているカメラごとに、以下のように設定します。



- ① ▼ をクリックし、表示される一覧から、アナログカメラを接続しているビデオネットワークステーションを選択します。
- ② アナログカメラの名前を入力します。
カメラごとに別の名前を設定する必要があります。

- ③ 入力先を指定します。
複数の入力を持つビデオネットワークステーションに接続して画像を受け取るときは、▼ をクリックし、表示される一覧から、入力先を選択します。

メモ

SNT-V704 や SNT-V504、SNT-V304 など複数のカメラを登録している場合に、別の「入力」(上図の③)に変更すると、変更前の「入力」先の設定が変更後の「入力」に引き継がれます(例えば、「入力」を1から2に変更すると、1に設定されていた内容が2にも引き継がれます)。「入力」を変更した場合は設定を確認し、必要に応じて再設定してください。

- ④ ネットワークステーションのIPアドレスとポート番号を入力し、必要に応じて、プロキシサーバーの項目を設定します。
ビデオネットワークステーションのネットワーク接続は1つなので、IPアドレスとポート番号、プロキシサーバーの設定は、ビデオネットワークステーションに接続しているすべてのカメラで同じにする必要があります。

I/O ボックスの登録

RealShot Manager では、ソニーのネットワークカメラおよび Barix の I/O ボックスである Barionet で使用できる入力（センサー）と出力（アラーム）を管理できます。

センサー入力とアラーム出力について

センサー入力は、通常 RealShot Manager のコンピューターでアラーム記録などのアラーム動作の開始トリガーとして使われます。出力は、パトライトやドアの開放など、入力アラーム機能を持つデバイスへのアラーム送込に使われます。また、出力は、RealShot Manager の画面から手動で行うこともできます。手動で出力する方法については、「[[出力制御] ツールバー]」（100 ページ）をご覧ください。

メモ

- カメラの種類（I/O ボックス）により、入力と出力の数は異なります。
- Generic Camera の I/O ボックスは、単独では登録できません。カメラを登録してから、ドラッグ&ドロップで登録してください。また、I/O ボックスは、カメラと同じ名称にしてください。
- センサー入力とアラーム出力の接続については、デバイスの設置説明書をご覧ください。

ご注意

- カメラに Video Motion Detection（レコーダー）の検知領域を設定すると、装置リストに専用の「VMD（レコーダー）I/O ボックス」が追加されます。この I/O ボックスは、他の I/O ボックスと異なり、Video Motion Detection（レコーダー）が設定されたカメラの数に応じて、自動的に端子が追加されたり削除されたりします。
- Barionet は、プロキシ経由では使用できません。

I/O ボックスを設定するときの流れ

1 RealShot Manager に I/O ボックスを登録する
(29 ページ)



2 端子の設定をする (29 ページ)
入力端子と出力端子を設定します。



3 I/O ボックスの端子をカメラに割り当てる
(30 ページ)

また、I/O ボックスの種類や用途に応じて、以下の設定を行います。

- Video Motion Detection（カメラ）機能を設定する（30 ページ）
- VMD（レコーダー）I/O ボックスの端子にカメラを割り当てる（31 ページ）
- 音声端子を設定する（31 ページ）

I/O ボックスを登録する

RealShot Manager で管理する I/O ボックスを登録します。登録のしかたについては、「デバイスを追加する」（25 ページ）をご覧ください。

端子の設定をする

I/O ボックスには、RealShot Manager でモニターできる入力と、他のアラーム入力デバイスへのアラームトリガーとなる出力を設定します。入出力は、個別に有効/無効にしたり、信号を詳細に指定できます。

- 「設定管理」ウィンドウの左側のツリーで、端子を詳細に設定したい I/O ボックスをダブルクリックするか、I/O ボックスを選択し、画面上部の （装置の編集）をクリックする。

メモ

リモートサーバーの端子を選択したい場合は、最初にリモートサーバーをクリックしてください。

「装置の設定」ダイアログが表示されます。

- [I/O ボックス] タブをクリックし、[端子のリスト] から入力端子、または出力端子を選び、 をクリックする。

「設定管理」ウィンドウの下部に表示される [I/O ボックス] タブでも設定できます。

[端子のリスト] には、I/O ボックスで使用できる入出力の端子が表示されます。グレー表示になって選択できない項目は、端子を使用する設定にしていないことを示します。



「I/O 端子の設定」ダイアログが表示されます。

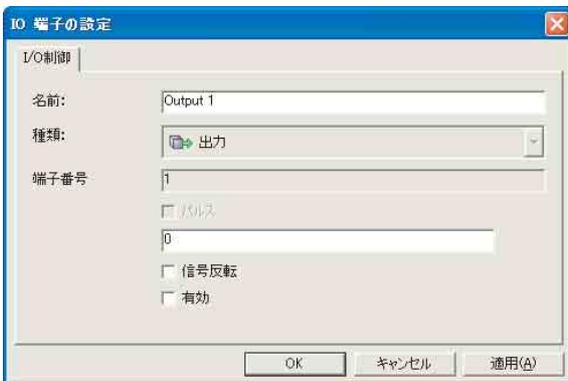
- 3 各項目を設定し、[OK] または [適用] をクリックする。

入力端子と出力端子の場合で設定項目が異なります。設定項目については、「[I/O 端子の設定] ダイアログ」(146 ページ) をご覧ください。

入力端子の場合



出力端子の場合



続いて、I/O ボックスの端子をカメラに割り当てます。

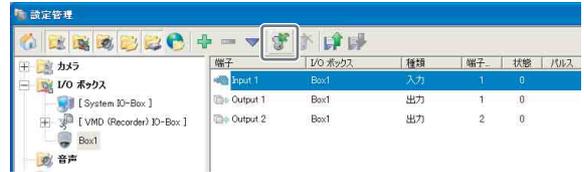
I/O ボックスの端子をカメラに割り当てる

I/O ボックスの端子への信号の入出力動作にカメラを関連付けるには、カメラに端子を割り当てる必要があります。また、手動で出力したり、接続されているセンサーをトリガーとしてアラーム記録やその他のアクションのスケジュールを設定するときも、カメラに端子が割り当てられている必要があります。

「設定管理」ウィンドウのツリー上で、カメラを端子にドラッグすると、カメラとその端子を連携させることができます。ただし、I/O ボックスのすべての端子をカメラに割り当てるには、以下の操作が必要です。

操作のしかたは、カメラ内蔵の I/O ボックス、外部 I/O ボックスとも同じです。

- 1 「設定管理」ウィンドウで端子を選択し、画面上部の  (カメラを割り当てる) をクリックする。



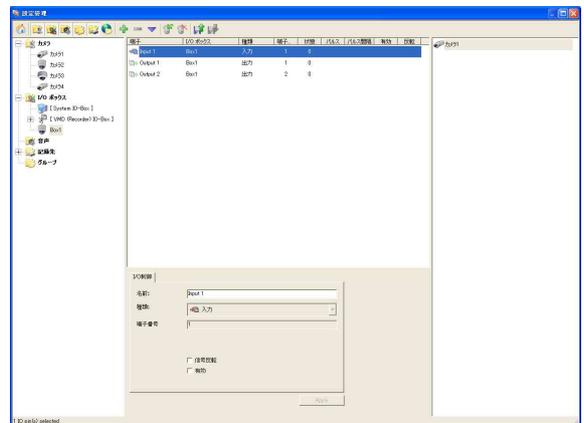
「カメラを選択してください。」ダイアログが表示されます。

- 2 端子を割り当てるカメラを選択し、[OK] をクリックする。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。



カメラに端子が割り当てられます。



Video Motion Detection (カメラ) を設定する

カメラによっては I/O ボックスを追加すると、Video Motion Detection 端子が表示されます。この端子は、通常の入力端子 (アクティビティなしで 0、アクティビティありで 1) として使用されます。

以下の手順で、Video Motion Detection のしきい値や感度、動作エリアなどを設定します。

- 1 「設定管理」ウィンドウで、Video Motion Detection 端子をダブルクリックする。

「設定管理」ウィンドウ下部の [I/O 制御] タブ、[VMD (カメラ)] タブでも設定できます。



「端子の設定」ダイアログが表示されます。

- 2 [I/O 制御] タブをクリックし、各項目を設定する。

このタブでは、この入力をトリガーとする信号について設定します。設定項目については、「[I/O 端子の設定] ダイアログ」の「VMD (カメラ) 端子の場合」(147 ページ) をご覧ください。



- 3 [VMD (カメラ)] タブをクリックし、各項目を設定し、[OK] または [適用] をクリックする。

このタブでは、動体を検知するしきい値や感度、領域について設定します。設定項目については、「[I/O 端子の設定] ダイアログ」の「VMD (カメラ) 端子の場合」(147 ページ) をご覧ください。

VMD (レコーダー) I/O ボックスの端子にカメラを割り当てる

VMD (レコーダー) I/O ボックスには、Video Motion Detection (レコーダー) の設定によって、仮想の VMD (レコーダー) 端子が作られます。カメラ設定については、「[I/O ボックスの登録]」(29 ページ) をご覧ください。

また、VMD (レコーダー) 端子には、自動的に設定時のカメラ (領域設定されているカメラ) が割り当てられています。VMD (レコーダー) 端子を、他のカメラで記録するためのアラーム検知のトリガーとして使用するときは、その

カメラを VMD (レコーダー) 端子に割り当てる必要があります。操作手順は、I/O ボックスの端子をカメラに割り当てるときと同様です。「[I/O ボックスの端子をカメラに割り当てる]」(30 ページ) をご覧ください。

Video Motion Detection (レコーダー) には、以下の特徴があります。

- VMD (レコーダー) 端子は、VMD (レコーダー) 設定の追加や削除に応じて、自動的に Video Motion Detection の I/O ボックスに追加されたり削除されたりします。手動で端子を追加、または削除することはできません。
- VMD (レコーダー) I/O ボックスは、カメラに領域設定が1つ以上作られているときに表示されます。
- VMD (レコーダー) 端子は、他の端子と同様に、設定操作を行ったり使用したりすることができます。例えば、アクションの入力トリガーとして使用できます。詳しくは、「アクション」(73 ページ) をご覧ください。
- Video Motion Detection (レコーダー) では、プリセット情報やパン、チルト、ズームによる位置情報を基準にして検知位置を保持しているのではなく、単にカメラモニターウィンドウ上の座標として検知位置を保持しています。そのため、パン、チルト、ズーム操作を行うと、検知位置がずれてしまいます。Video Motion Detection (レコーダー) 機能の使用中にカメラのパン、チルト、ズーム操作を行った場合は、再度動体検知領域を設定してください。

音声端子を設定する

音声出力をサポートしているデバイス (ソニーのカメラなど) では、外部出力端子として音声端子を設定できます。音声出力は I/O ボックスの音声端子ですが、音声入力音声デバイスを登録して行います。詳しくは「音声装置の登録」(33 ページ) をご覧ください。

音声端子に音声ファイルに関連付けると、アクションの出力端子として使用できます。例えば、アラームが設定されているドアが開いたときに、あらかじめ用意しておいた音声ファイルをデバイスの音声出力に出力することができます。

ここでは、音声端子を追加して、音声端子に音声ファイルに関連付ける手順について説明します。アクションの設定については、「アクション」(73 ページ) をご覧ください。

ご注意

アラームのトリガーや外部制御機能により、用意した音声ファイルをデバイスの音声出力に送る場合、ネットワーク回線やネットワーク負荷などによっては、音声途切れることがあります。

メモ

RealShot Manager では、音声出力のレベルを調節することはできません。音声出力のレベルを調節したいときは、Web ブラウザなどから直接カメラに接続して行ってください。

音声ファイルについて

音声ファイル自体は、お客様に用意していただく必要があります。

サポートしている音声ファイルのフォーマットは、G.711 および G.726 の raw data です。WAVE ファイルや MP3 ファイルなど、raw data 以外のファイルはサポートしていません。

また、拡張子は以下のように指定してください（*には任意のファイル名が入ります）。

g.711 64 kbit/s Encoded Files (*.g64)

g.726 40 kbit/s Encoded Files (*.g40)

g.726 32 kbit/s Encoded Files (*.g32)

g.726 24 kbit/s Encoded Files (*.g24)

g.726 16 kbit/s Encoded Files (*.g16)

*.g64(G.711) の場合はモノラル、8bits/sample、サンプリング周波数 8 KHz

*.g40(G.726) の場合は 5 bits/sample、サンプリング周波数 8 KHz

*.g32(G.726) の場合は 4 bits/sample、サンプリング周波数 8 KHz

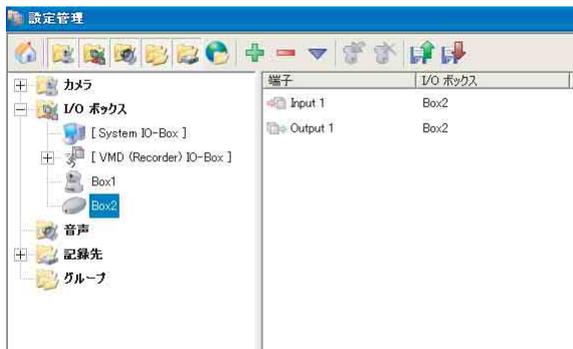
*.g24(G.726) の場合は 3 bits/sample、サンプリング周波数 8 KHz

*.g16(G.726) の場合は 2 bits/sample、サンプリング周波数 8 KHz

ご注意

ファイル名に使用できる文字は、半角英数字、一部の記号（. * () _）です。

- 1 「設定管理」ウィンドウの左側のツリーで、I/O ボックスに登録されている音声をサポートしているカメラをダブルクリックする。



「装置の設定」ダイアログが表示されます。

- 2  をクリックする。



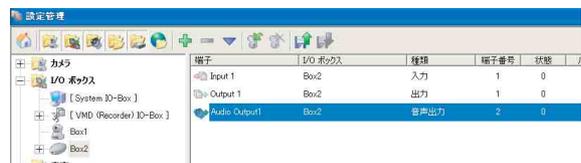
「IO 端子の設定」ダイアログが表示されます。

- 3 端子の名前を入力し、[音声出力] を選択して、[OK] をクリックする。



端子リストに音声端子が追加されます。

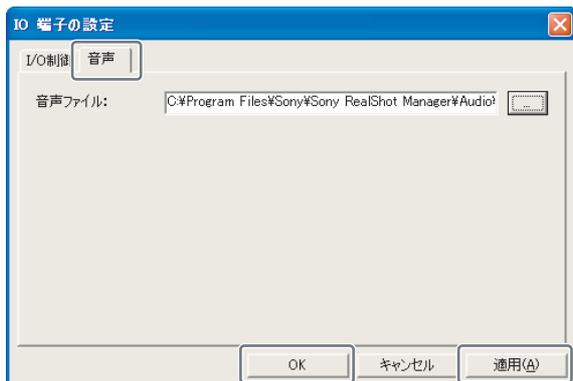
- 4 音声端子をダブルクリックする。



「IO 端子の設定」ダイアログが表示されます。

- 5 [音声] タブをクリックし、関連付ける音声ファイルのパスを入力し、[OK] または [適用] をクリックする。

 をクリックして、音声ファイルを指定することもできます。



音声端子に音声ファイルが関連付けられます。

音声装置の登録

RealShot Manager では、ネットワーク上の音声入力機能を持ったデバイス（ソニーのカメラなど）を管理できます。音声装置を登録してカメラと連携させると、アラームトリガーによる画像記録の開始と同時に音声データを記録できます。

で注意

- 音声をサポートするカメラを音声装置として追加する場合、同じカメラを音声装置に登録する必要があります。
- カメラの音声入力からの音声をリアルタイムにモニターする場合は、画像の表示に対して音声は最大1秒程度遅れることがあります。
- RealShot Manager では、音声入力のレベルを調節することはできません。音声入力のレベルを調節したいときは、Web ブラウザなどから直接カメラに接続して行ってください。

メモ

- 音声のモニターには、Windows Media Player などによりインストールされるデコーダーが必要です。
- Generic Camera の音声装置は、単独では登録できません。カメラを登録してから、ドラッグ&ドロップで登録してください。また、音声装置は、カメラと同じ名称にしてください。

音声装置を設定するときの流れ

1 RealShot Manager 音声装置を追加する
(33 ページ)



2 音声装置とカメラを連携させる (33 ページ)



音声をモニターする／再生する

- ライブ音声をモニターする (51 ページ)
- 音声記録を再生する (51 ページ)
- 再生する音声装置を変更する (51 ページ)

音声装置を登録する

RealShot Manager で管理する音声装置を登録します。登録のしかたについては、「デバイスを追加する」(25 ページ)をご覧ください。

音声装置とカメラを連携させる

- 1 「設定管理」ウィンドウで、[音声] を選択し、 (カメラを割当て) をクリックする。



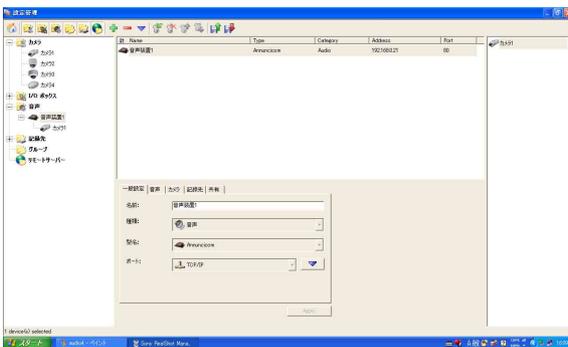
「カメラを選択してください。」ダイアログが表示されます。

- 2 音声装置と連携させるカメラを選択し、[OK] をクリックする。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

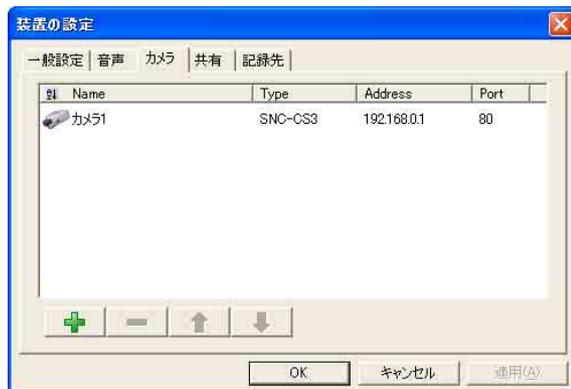


音声装置とカメラの連携が完了します。



メモ

カメラとの連携は、リストにある音声装置をダブルクリックして表示される「装置の設定」ダイアログの [カメラ] タブや「設定管理」ウィンドウ下部に表示される [カメラ] タブでも行えます。また、ツリー内で、カメラを音声装置にドラッグ&ドロップしても、同様にカメラとの連携が行えます。



ご注意

音声をサポートしているカメラを音声装置として追加する場合でも、上記と同じように、音声装置とそのカメラを連携させる必要があります。

リモート PC の登録

ほかのコンピューター上の RealShot Manager で管理されているカメラを使用するには、そのコンピューター (リモート PC) をリモートサーバーに登録し、リモートカメラとして使用できるようにする必要があります。

リモートサーバーを設定するときの流れ

- 1 リモートサーバーにリモート PC を登録する (34 ページ)



- 2 リモートサーバーに接続するためのアカウントを設定する (34 ページ)

RealShot Manager からリモート PC に接続するときのユーザー名とパスワードを設定します。

リモート PC を登録する

リモートサーバーにカメラを管理しているコンピューターをリモート PC として登録します。登録のしかたについては、「デバイスを追加する」(25 ページ) をご覧ください。

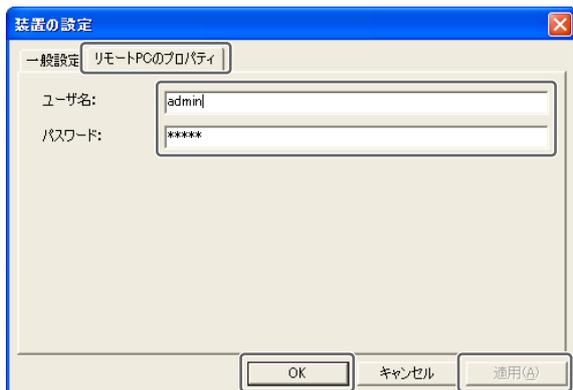
リモート PC に接続するためのアカウントを設定する

- 1 「設定管理」ウィンドウの左側のツリーで、リモート PC をダブルクリックするか、リモート PC を選択し、画面上部の ▼ (装置の編集) をクリックする。

「装置の設定」ダイアログが表示されます。

- 2 [リモート PC のプロパティ] タブで、リモート PC に接続するためのユーザー名とパスワードを入力し、[OK] または [適用] をクリックする。

「設定管理」ウィンドウの下部に表示される [リモート PC のプロパティ] タブでも設定できます。



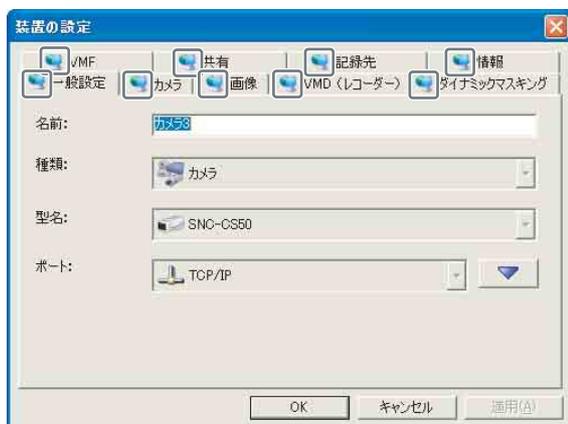
で注意

ユーザー名とパスワードは、「設定」ダイアログの「コンピュータの共有」タブで設定されているユーザー名とパスワードと一致している必要があります。詳しくは、「[設定] ダイアログ」の「[[コンピュータの共有] タブ」(169 ページ)をご覧ください。

リモート PC に接続するためのアカウントが設定されます。

メモ

リモートサーバーに登録されているカメラの「装置の設定」ダイアログのタブには、リモートサーバーの管理であることを示すアイコンが表示されます。



デバイスグループの登録

デバイスを設置しているフロアや地域ごとにデバイスグループを設定し、効率よく管理できます。また、デバイスグループごとに、ユーザーやユーザーグループが操作できる権限を設定することもできます。

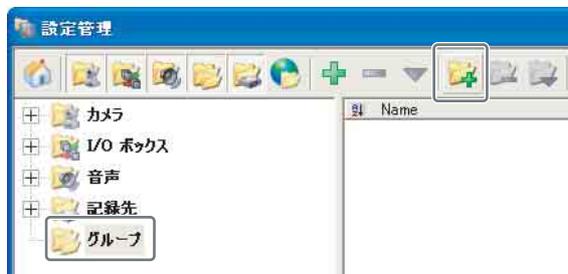
メモ

デバイスグループに権限を設定するときは、あらかじめ RealShot Manager にユーザーを登録しておく必要があります。

す。ユーザーの登録については、「ユーザー管理」(80 ページ)をご覧ください。

デバイスグループを登録する

- 1 「設定管理」ウィンドウの左側のツリーで [グループ] を選択し、 (グループの追加) をクリックする。



メモ

-  がグレー表示で選択できないときは、 (グループの表示) をクリックし、左側のツリーに「グループ」を表示させると、選択できるようになります。
- グループの下にサブグループを作りたいときは、上位のグループを選択し、 をクリックします。

「グループ設定」ダイアログが表示されます。

- 2 [一般] タブで、グループ名や表示に使うアイコンを設定します。

詳しくは、「[グループ設定] ダイアログ」の「[一般] タブ」(153 ページ)をご覧ください。



- 3 デバイスグループに権限を設定するときは、[承認] タブで、権限を与えたいユーザーまたはユーザーグループを設定する。



- ① [ユーザ] または [ユーザグループ] の [追加] をクリックする。
「ユーザーの選択」または「グループの選択」ダイアログが表示されます。
- ② 権限を与えたいユーザーまたはユーザーグループを選択し、[OK] をクリックする。



- 4 各項目を設定したら、[OK] または [適用] をクリックする。

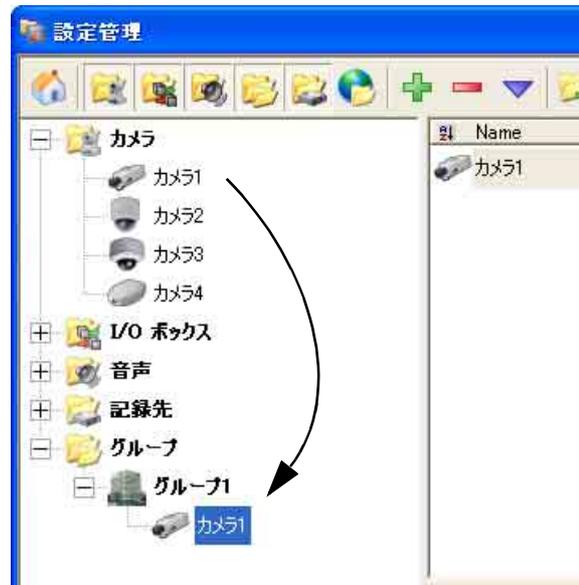
グループが追加されます。



続いて、デバイスグループにデバイスを追加します。

グループにデバイスを追加する

ツリー内で、グループに所属させたいデバイスをグループのアイコンにドラッグ&ドロップすると、グループにデバイスが追加されます。

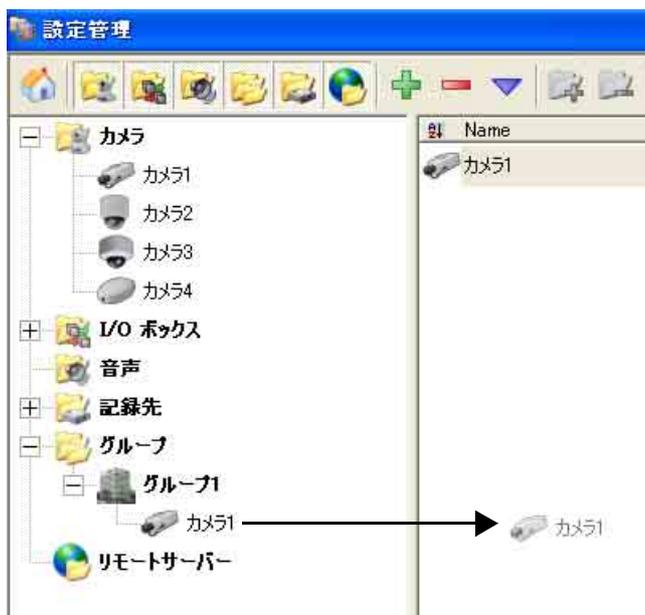


グループを移動するには

あるグループを別のグループのサブグループにしたり、サブグループを上位のグループに階層を上げたいときは、ツリー内で移動したいグループを移動先のグループにドラッグ&ドロップします。

グループからデバイスをはずすには

グループからはずしたいデバイスのアイコンをツリーの外にドラッグします。



で注意

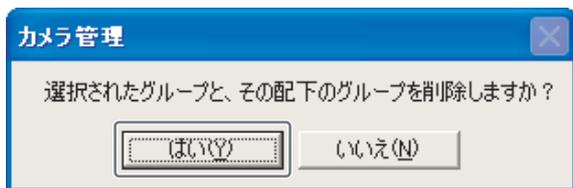
グループのツリーからデバイスを選択し、画面上部にある  をクリックすると、デバイス自体が削除されてしまいますので注意してください。

グループを削除するには

- 1 ツリーで、削除したいグループを選択し、 (グループ削除) をクリックする。

確認のメッセージが表示されます。

- 2 [はい] をクリックする。



グループが削除されます。

記録先

カメラの画像データや音声データの記録先を設定できます。記録先は複数を設定でき、記録先ごとに記録するファイルの最大サイズなどを設定できます。また、カメラごとに、設定された記録先を選択することができます。詳しくは、以下の項をご覧ください。

- 記録先を登録する (37 ページ)
- カメラごとに記録先を設定する (38 ページ)

記録先を設定するときの流れ

- 1 RealShot Manager に記録先を登録する (37 ページ)

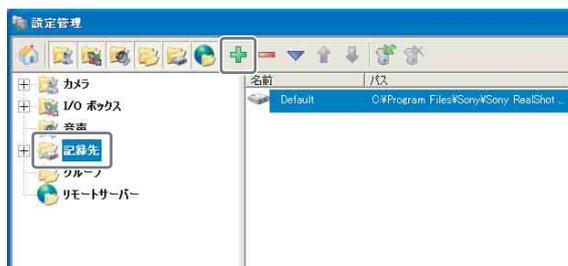


- 2 カメラに記録先を設定する (38 ページ)

カメラごとに、記録先や保存する記録の種類を設定します。

記録先を登録する

- 1 「設定管理」ウィンドウの左側のツリーで、「記録先」を選択し、画面上部の  (新しい記録先の追加) をクリックする。

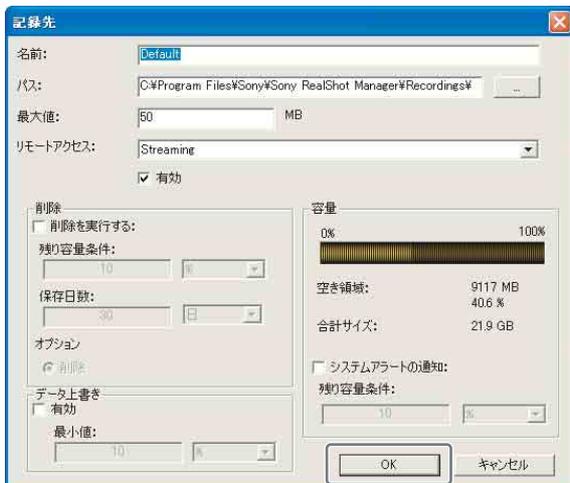


「記録先」ダイアログが表示されます。

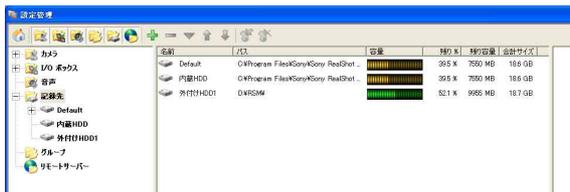
2 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

各項目の詳細については、「[記録先] ダイアログ」(151 ページ) をご覧ください。

記録データの削除については、「削除条件を登録して常に自動的に削除する (クリーンアップ、データ上書き)」(86 ページ) をご覧ください。



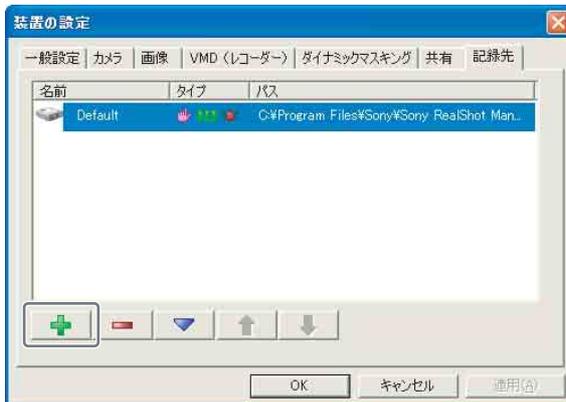
記録先が追加されます。



メモ

メイン画面左側のツリーの「記録先」フォルダーに、すでに記録先が設定されている場合は、その記録先をカメラの記録先として選択できます。

2 [記録先] タブで、 をクリックする。

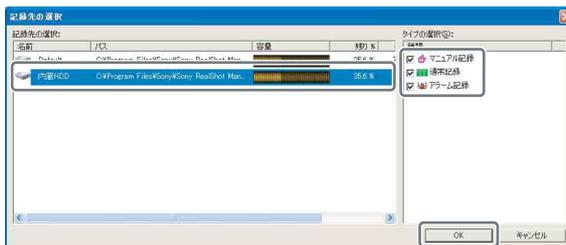


メモ

デフォルトで、RealShot Manager がインストールされているフォルダにある「Recordings」フォルダが設定されています。

「記録先の選択」ダイアログが表示されます。

3 記録先を選択し、[タイプの選択] で保存する記録の種類を選択して、[OK] をクリックする。



[記録先] タブに、選択した記録先が追加されます。

カメラごとに記録先を設定する

カメラごとに、記録先と保存する記録の種類を設定します。1台のカメラに複数の記録先を設定できます。

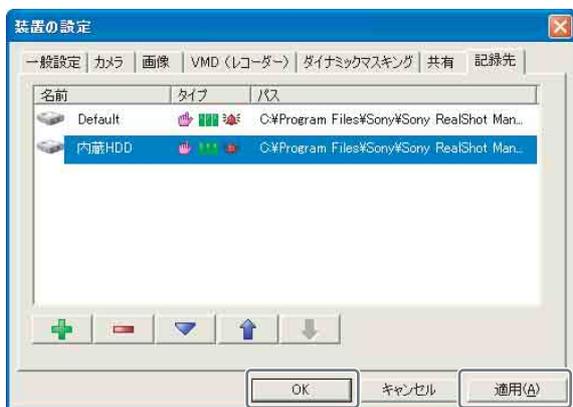
ご注意

1つのドライブに対してフォルダが異なる記録先を複数設定できますが、クリーンアップやデータ上書き機能を使用する場合は、必ず1つのドライブに設定する記録先は1つだけにしてください。

1 「設定管理」ウィンドウの左側のツリーで、記録先を設定したいカメラをダブルクリックするか、カメラを選択して画面上部の  (装置の編集) をクリックし、「装置の設定」ダイアログを表示する。

または、メイン画面で、記録先を設定したいカメラモニターウィンドウ内をダブルクリックし、「カメラ設定」ダイアログを表示する。

4 [OK] または [適用] をクリックする。



カメラに記録先が設定されます。

レイアウト

使用環境や目的に応じた複数のレイアウトを作成して、切り替えて使用したり、モニターウィンドウに複数のカメラを割り当てて、割り当てたカメラからの画像を順に表示させたりすることができます。

なお、RealShot Manager の新規インストール時には、あらかじめ 2×2 、 3×3 のレイアウトが用意されており、選択して使うことができます。

RealShot Manager では、モニターウィンドウのレイアウトについて、以下のようなことができます。

- **新規にレイアウトを作成する (40 ページ)**
カメラモニターウィンドウの数や大きさを設定して、使用環境や目的に応じたレイアウトを作成できます。
- **レイアウトを保存する (42 ページ)**
- **モニターウィンドウを編集する (42 ページ)**
モニターウィンドウの背景に地図や間取り図などを取り込んだり、ボタンやアイコンを追加するなど、レイアウトツールバー (95 ページ) を使って、さまざまな編集ができます。
- **モニターウィンドウにカメラを割り当てる (42 ページ)**
1つのカメラモニターウィンドウに、1台のカメラを割り当てて画像を表示させることも、複数のカメラからの画像を順番に表示させることもできます。
- **モニターウィンドウを詳細に設定する (44 ページ)**
表示するカメラ画像の大きさや外観、表示する情報などを設定できます。
- **アクションを割り当てる (45 ページ)**
マウスのクリックにより、指定したカメラの画像を表示したり、指定したレイアウトに切り替えたりすることができます。
- **別のレイアウトに切り替える (45 ページ)**
別のレイアウトを切り替えるほか、よく使うレイアウトをデフォルトレイアウトとして設定することもできます。
- **レイアウトをエクスポート／インポートする (46 ページ)**
同じレイアウトを別のコンピューターでも使いたいときなどに、レイアウトをエクスポート／インポートできます。

レイアウトを作成／編集するときは

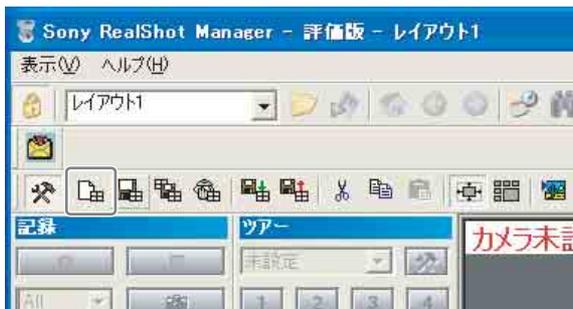
レイアウトを作成したり、編集したりするときは、レイアウト編集モードにします。

メイン画面の左上にある  (編集モード) をクリックすると、レイアウト編集モードになり、レイアウトツールバー (95 ページ) が使用できる状態になります。



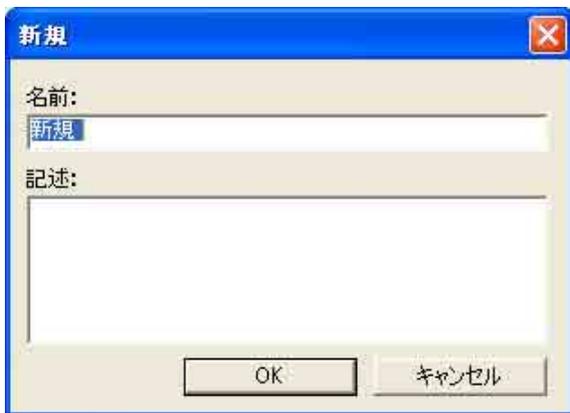
新規にレイアウトを作成する

- 1 画面左上にある (編集モード) をクリックし、編集モードにする。
- 2 画面左上にある (新規レイアウトの作成) をクリックする。



「新規」ダイアログが表示されます。

- 3 レイアウトの名前と説明を入力し、[OK] をクリックする。



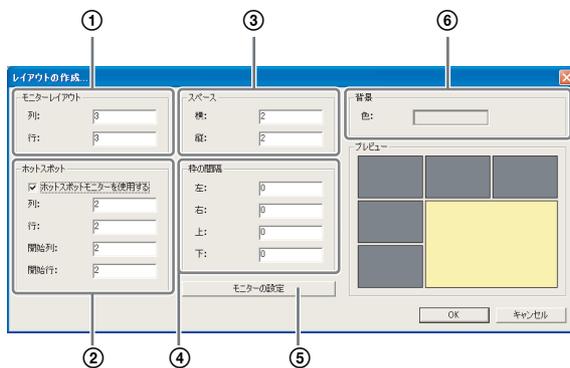
画面にグリッドラインが表示されます。

- 4 画面上部にある (レイアウトの作成) をクリックする。



「レイアウトの作成」ダイアログが表示されます。

- 5 [プレビュー] に表示されるモニターウィンドウのレイアウトを見ながら、各項目を設定する。



① モニターレイアウト

画面に表示したいカメラモニターウィンドウの数を列数と行数で設定します。

列

横にいくつカメラモニターウィンドウを並べるかを列数で入力します。

行

縦にいくつカメラモニターウィンドウの並べるかを行数で入力します。

② ホットスポット

ホットスポットモニターとして使用するカメラモニターウィンドウを1つ指定します。

ホットスポットモニターには、メイン画面で選択したカメラモニターウィンドウに表示される画像と同じものが表示されます。ホットスポットモニターは、カメラモニターウィンドウの画像を見やすくするため、通常のカメラモニターウィンドウよりも大きい画面に設定します。

ホットスポットモニターは、[プレビュー] にクリーム色で表示されます。

ホットスポットモニターを使用する

ここにチェックマークを付けます。

列、行

ホットスポットモニターとして使用するカメラモニターウィンドウの大きさを列と行で指定します。

開始列、開始行

ホットスポットモニターの位置を開始列と開始行で指定します。

例) 左上に表示したい場合：[開始列] に「1」、[開始行] に「1」と入力します。

③ スペース

カメラモニターウィンドウ間の間隔をピクセル数で入力します。

④ 枠の間隔

カメラモニターウィンドウの周囲の間隔をピクセル数で入力します。

⑤ モニターの設定

モニターウィンドウを詳細に設定したいときは、このボタンをクリックし、表示される「モニター設定」ダイアログで各項目を設定します。

詳しくは、「[モニター設定] ダイアログ」(105ページ)をご覧ください。

⑥ 背景色

[色] ボックスをクリックし、表示される「色の設定」ダイアログで色を指定します。

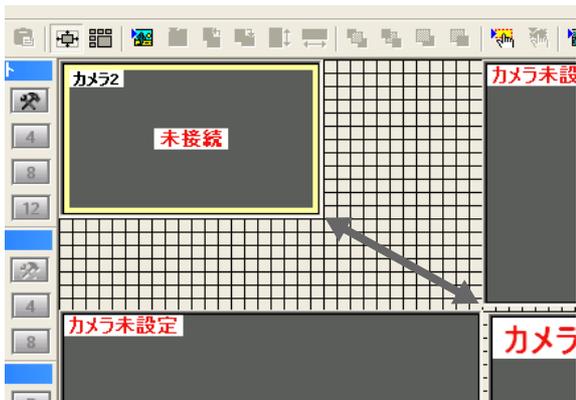
詳しくは、「[色の設定] ダイアログ」(111ページ)をご覧ください。

6 各項目を設定したら、[OK] をクリックする。

レイアウトが作成され、メイン画面に表示されます。

カメラモニターウィンドウの大きさを変えるには

カメラモニターウィンドウの四隅や境界線をマウスでドラッグすると、カメラモニターウィンドウを任意の大きさに変更できます。



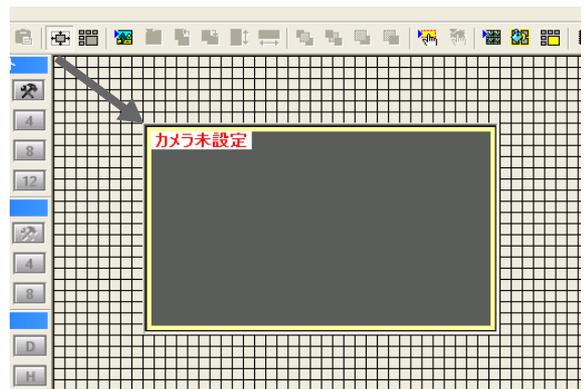
カメラモニターウィンドウを追加するには

グリッド上の任意の位置をマウスでドラッグすると、新しいカメラモニターウィンドウを作成できます。



カメラモニターウィンドウを移動するには

カメラモニターウィンドウをマウスでドラッグします。



ご注意

カメラモニターウィンドウは、お互いに重ならないように配置してください。カメラモニターウィンドウが重なっている場合、重なった部分は正しく画像が表示されません。

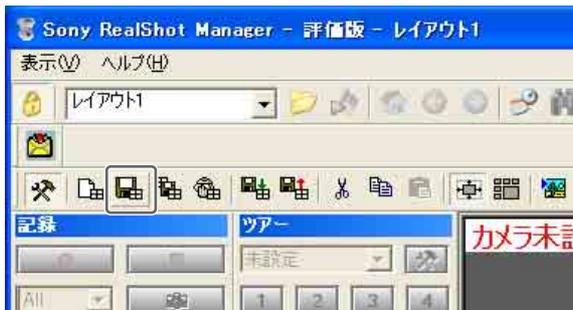
カメラモニターウィンドウを削除するには

カメラモニターウィンドウを選択し、キーボードの Delete キーを押します。

レイアウトを保存する

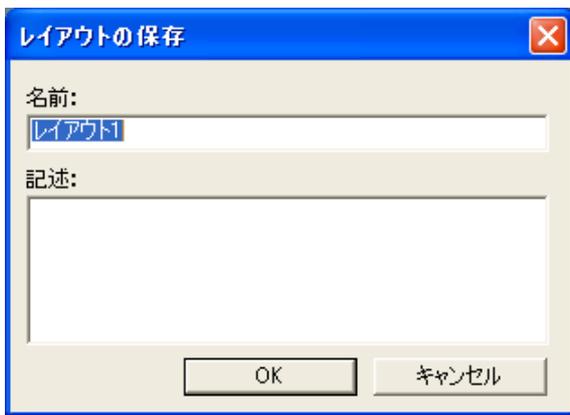
作成したレイアウトを保存します。

- 1 画面右上の  (レイアウトの保存) をクリックする。



「レイアウトの保存」ダイアログが表示されます。

- 2 各項目を設定し、[OK] をクリックする。



レイアウトが保存されます。

モニターウィンドウを編集する

メイン画面上部にあるレイアウトツールバーを使って、以下のような編集ができます。

- モニターウィンドウの背景色を変えたり、地図や間取り図などの画像を取り込む。
- グリッドの間隔を変更する。
- モニターウィンドウにボタンやアイコンなどの画像を追加する。

レイアウトエディターの使いかたについては、「レイアウトツールバー」(95 ページ) をご覧ください。

モニターウィンドウにカメラを割り当てる

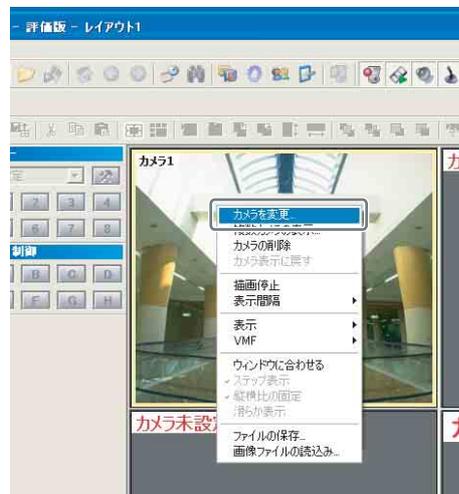
レイアウトを作成したら、各カメラモニターウィンドウにカメラを割り当てます。1つのカメラモニターウィンドウには、1台のカメラを割り当てても、複数のカメラを割り当ててもできます。

1 台のカメラを 1 つのカメラモニターウィンドウに割り当てる

メモ

カメラモニターウィンドウに割り当てられているカメラを変更するときも、以下と同じ手順で行います。

- 1 カメラを割り当てるカメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから [カメラを変更] を選択する。



メモ

[カメラを変更] がグレー表示になっているときは、画面左上の  (編集モード) をクリックすると表示されるようになります。

「カメラを選択してください。」ダイアログが表示されます。

- 2 カメラモニターウィンドウに割り当てるカメラを選択し、[OK] をクリックする。



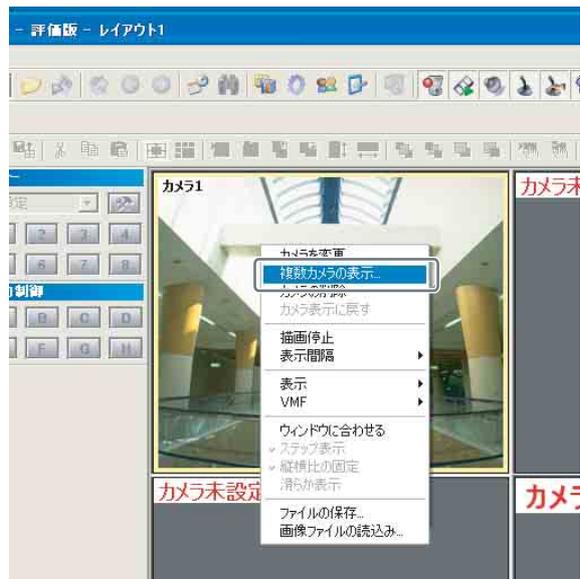
設定したカメラに自動的に接続され、選択したカメラの画像がカメラモニターウィンドウに表示されます。



複数のカメラを1つのカメラモニターウィンドウに割り当てる

複数のカメラを1つのカメラモニターウィンドウに割り当て、各カメラの画像を表示させる時間を指定できます。例えば、カメラ1を4秒間、カメラ2を6秒間、カメラ3を8秒間、カメラ4を10秒間というような設定ができます。

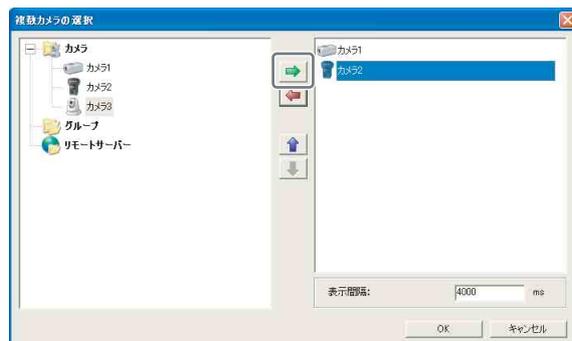
- 1 カメラを割り当てるカメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから「複数カメラの表示」を選択する。



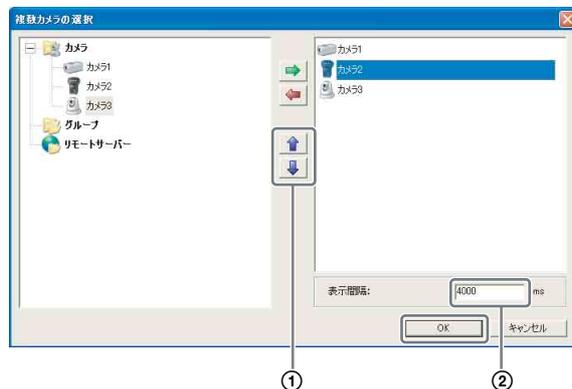
「複数カメラの選択」ダイアログが表示されます。

- 2 左側のエリアから割り当てるカメラを選択し、 をクリックして、右側のエリアに追加する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。



- 3 画像を表示するカメラの順番と画像を表示する時間を設定する。



- ① 右側のエリアでカメラを選択し、 または  をクリックして表示順を変更します。

- ② 右側のエリアでカメラを選択し、[表示間隔] にカメラの画像を表示する時間をミリ秒単位で入力します。

4 設定が終わったら、[OK] をクリックする。

設定したカメラに自動的に接続され、選択したカメラの画像が順にカメラモニターウィンドウに表示されます。

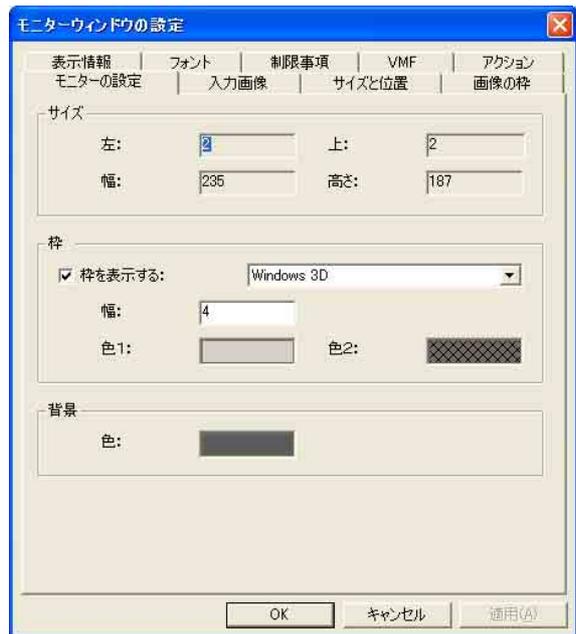


モニターウィンドウを詳細に設定する

カメラモニターウィンドウごとに、表示するカメラ画像の大きさや外観、カメラモニターウィンドウに割り当てるアクション、表示する情報などを詳細に設定できます。

- 1 画面左上にある  (編集モード) をクリックし、編集モードにする。
- 2 設定したいカメラモニターウィンドウ上でダブルクリックする。
「モニターウィンドウの設定」ダイアログが表示されます。
- 3 各タブをクリックして必要な項目を設定し、[OK] をクリックする。

ここでは、各タブで設定できることをおおまかに説明します。各設定項目の詳細については、「[モニターウィンドウの設定] ダイアログ」(110ページ)をご覧ください。



「モニターの設定」タブ

カメラモニターウィンドウ自体の大きさや枠の種類などの外観を設定できます。

この設定は、カメラ画像の大きさや外観の設定とは別に行えます。

「入力画像」タブ

カメラモニターウィンドウ内の画像をトリミングできます。例えば、カメラ画像の黒い境界線をトリミングするときなどに使います。

「サイズと位置」タブ

カメラモニターウィンドウに表示する画像の大きさや位置を設定できます。

「画像の枠」タブ

カメラ画像に枠(境界線)を付けることができます。枠を付けると、カメラ画像がカメラモニターウィンドウよりも小さいときに、カメラモニターウィンドウの背景と区別しやすくなります。

「表示情報」タブ

カメラモニターウィンドウに表示する情報を設定できます。

「フォント」タブ

カメラモニターウィンドウに表示される情報のフォントサイズなどを設定できます。

「制限事項」タブ

カメラモニターウィンドウ上で実行できる機能を制限できます。

ここで機能を制限すると、カメラモニターウィンドウ内を右クリックして表示されるメニューからも、関連する機能が削除されます。

[アクション] タブ

カメラモニターウィンドウにアクション（動作）を割り当てることができます。

アクションを割り当てると、カメラモニターウィンドウをクリックすることにより、アクションが実行されます。詳しくは、「アクションを割り当てる」（45ページ）をご覧ください。

アクションを割り当てる

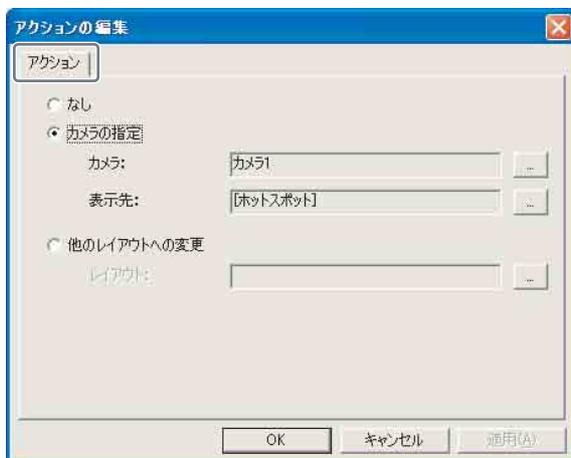
レイアウトに貼り込まれた画像やモニターウィンドウにアクションを設定すると、マウスのクリックにより、次の動作を実行するように設定できます。

- 指定したカメラの画像を表示する。
- 指定したレイアウトに切り替える。

メモ

（アクションの追加）を使って、レイアウト内の任意の場所にアクションを割り当てることもできます。

- 必要に応じて、アクションを割り当てる画像やモニターウィンドウなどのオブジェクトを用意する。
- 画像やモニターウィンドウにアクションを割り当てる時は、オブジェクトをダブルクリックする。任意の場所にアクションを割り当てる時は、（アクションの追加）をクリックする。指定したオブジェクトや場所に合ったダイアログが表示されます。
- [アクション] タブをクリックし、アクションを設定する。



カメラの指定

指定したカメラの画像を表示するときに選択します。

 をクリックし、カメラと表示先のカメラモニターウィンドウを指定します。

他のレイアウトへの変更

 をクリックし、レイアウトを指定します。

- [OK] または [適用] をクリックする。
アクションが設定されます。
- （編集モード）をクリックして、編集モードを終了する。
指定したオブジェクトの位置にマウスをかざすと、設定したアクションによって、ポインターが次のように変わります。
：指定したカメラの画像に切り替わります。
：指定したレイアウトに切り替わります。
- ポインターが変わったところでマウスをクリックし、アクションが実行できることを確認する。

別のレイアウトに切り替える

複数のレイアウトを作成している場合は、メイン画面右上の  をクリックし、表示される一覧から、使用するレイアウトを選択して切り替えます。



レイアウトをすばやく切り替えるには

メイン画面の上部にある以下のボタンを使って、レイアウトをすばやく切り替えられます。



- ：デフォルトレイアウトに切り替えます。
- ：前のレイアウトに切り替えます。
- ：次のレイアウトに切り替えます。

メモ

 は、「設定」ダイアログの「レイアウト」タブでデフォルトレイアウトを設定すると、使用できるようになります。

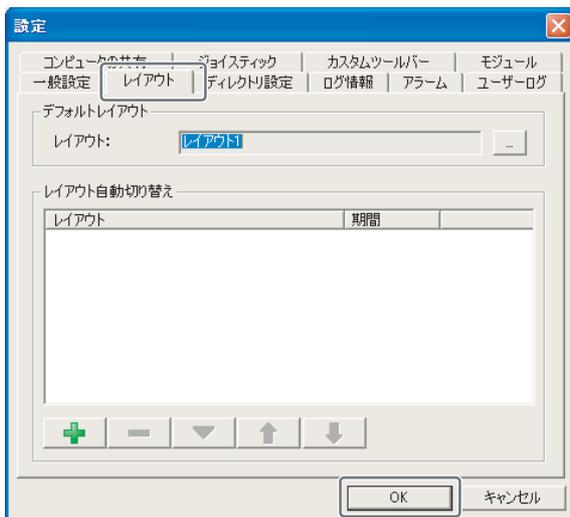
デフォルトレイアウトを設定するには

よく使うレイアウトをデフォルトレイアウトとして設定しておく、 をクリックするだけで、そのレイアウトに切り替えられます。

- 1 メイン画面の上部にある  (設定) をクリックする。

「設定」ダイアログが表示されます。

- 2 「レイアウト」タブで、デフォルトレイアウトに設定するレイアウトを指定し、[OK] をクリックする。



デフォルトレイアウトが設定されます。

レイアウトをエクスポート／インポートする

同じレイアウトを別のコンピューターでも使用したいときなどに、レイアウトをエクスポート／インポートできます。エクスポート／インポートできるレイアウトは、1回の操作につき1つだけです。

レイアウトをエクスポートする

- 1 エクスポートしたいレイアウトを表示して、レイアウトツールバーの  (レイアウトのエクスポート) をクリックする。

「レイアウトのエクスポート」ダイアログが表示されます。

- 2 エクスポート先のフォルダを指定し、[OK] をクリックする。



レイアウトがエクスポートされます。

レイアウトをインポートする

- 1 レイアウトツールバーの  (レイアウトのインポート) をクリックする。

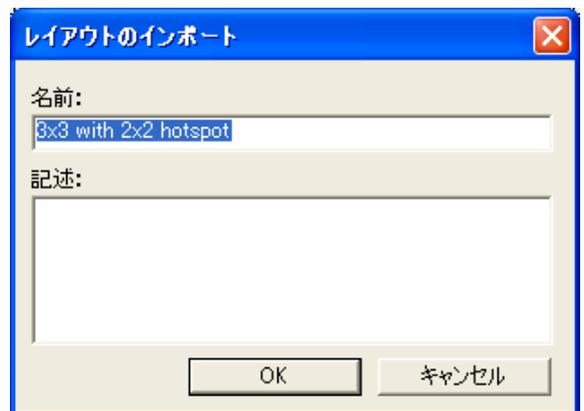
「レイアウトのインポート」ダイアログが表示されます。

- 2 インポートするレイアウトを指定し、[OK] をクリックする。



「レイアウトのインポート」ダイアログが表示されます。

- 3 必要に応じて各項目を設定し、[OK] をクリックする。



レイアウトがインポートされます。

ご注意

エクスポートされたレイアウトファイルには、そのレイアウトで使用されている背景画像やアイコンなどの画像ファイルは含まれていません。画像やアイコンなどが使用されているレイアウトをインポートしたときは、インポート元と同じパスのフォルダーを作ってそこにコピーするか、任意の場所にコピーして画像を貼り直す必要があります。

モニター

RealShot Manager では、画像や音声、アラームのモニターができます。

詳しくは、以下の項をご覧ください。

- **画像をモニターする (47 ページ)**

カメラをコントロールしながら画像をモニターしたり、画像の表示間隔の変更や静止などが行えます。また、表示されている画像を静止画として保存することもできます。

- **音声をモニターする (51 ページ)**

音声装置が割り当てられているカメラからのライブ音声をモニターできます。

- **アラームをモニターする (51 ページ)**

アラームの入力をモニターできます。

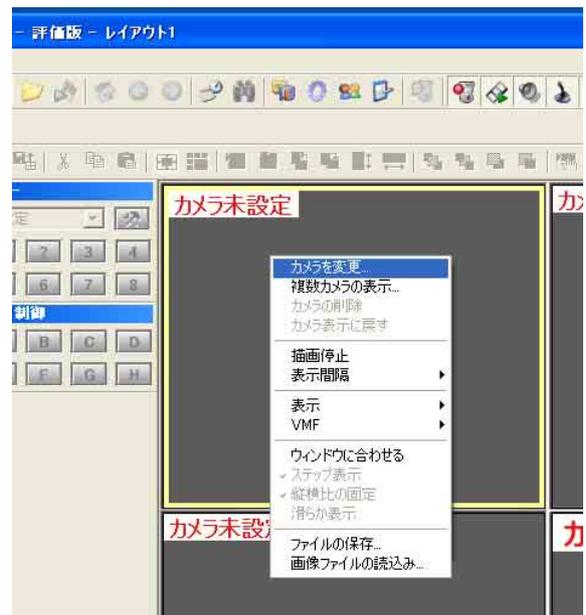
画像をモニターする

現在カメラが撮影している画像をモニターできます。

パン、チルト、ズームなど、カメラをコントロールしながら画像をモニターしたり、表示される画像を拡大／縮小したり、画像の表示間隔を変更したりすることもできます。また、表示されている画像をキャプチャーし、1フレームの静止画として保存することもできます。

画像を表示するカメラを選択する

- 1 カメラの画像を表示したいカメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから [カメラの変更] をクリックする。



「カメラを選択してください。」ダイアログが表示されます。

- 2 画像を表示したいカメラを選択し、[OK] をクリックする。



設定したカメラに自動的に接続され、カメラの画像がカメラモニターウィンドウに表示されます。



メモ

- カメラモニターウィンドウに表示する画像の表示間隔を変更できます。詳しくは、「画像の表示間隔を変更する」(49 ページ)をご覧ください。
- 1つのカメラモニターウィンドウに複数のカメラを割り当て、順に画像を表示させることもできます。詳しくは、「複数のカメラを1つのカメラモニターウィンドウに割り当てる」(43 ページ)をご覧ください。

カメラをコントロールしながらモニターする

パン・チルト機能を備えたカメラの場合は、画面左側にある [パン・チルト] ツールバーやコンピューターのマウスを使って、パン、チルト、ズームの操作をしながらカメラからの画像をモニターできます。

操作のしかたについては、「パン、チルト、ズームの操作をする」(52 ページ)をご覧ください。

モニターウィンドウに表示させる情報を設定する

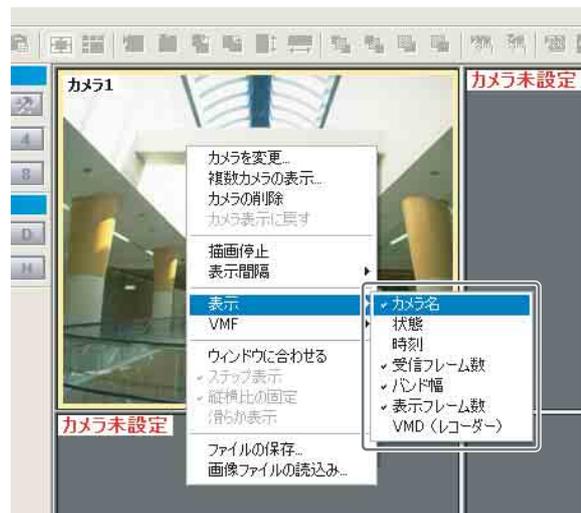
モニターウィンドウに、以下の情報を表示できます。

- カメラ名
- 状態
- 時刻
- 受信フレーム数
- バンド幅
- 表示フレーム数
- Video Motion Detection (レコーダー)
- Video Motion Filter

メモ

- [状態] をオンにすると、記録方法や再生方法についての情報が表示されます。
- Video Motion Detection (レコーダー) は、Video Motion Detection (レコーダー) のスケジュールが設定されている場合にのみ表示できます。

カメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから [表示] を選択し、表示させたい項目を選ぶ。



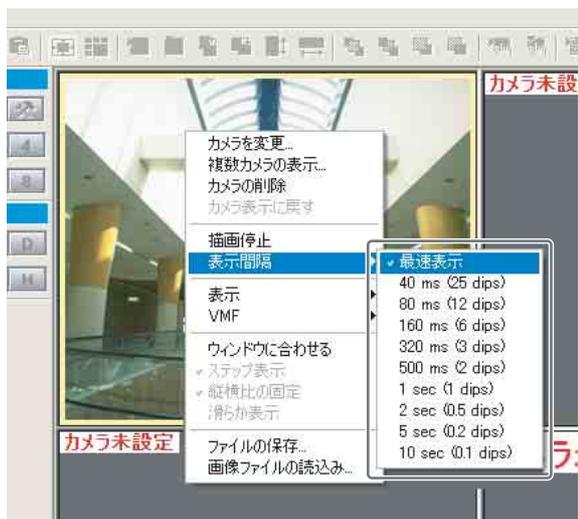
選択した情報が表示されます。

**メモ**

表示される受信フレーム数は、ある期間の平均値で、その瞬間の値ではありません。

画像の表示間隔を変更する

カメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから「表示間隔」を選択し、画像の表示間隔を選ぶ。

**で注意**

実際にカメラモニターウィンドウに表示される画像の表示間隔は、RealShot Manager がインストールされているコンピュータの性能や、モニターしているカメラの台数、カメラに設定されているフレームレートなどによって異なります。また、表示間隔は、受信フレームレートで設定されている値を超えることはできません。詳しくは、「[設定] ダイアログ」の「[一般設定] タブ」(165 ページ)をご覧ください。

モニターの画像を静止する

カメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから「描画停止」を選択する。



画像の静止中は、カメラモニターウィンドウに「描画停止」と表示されます。

もう一度「描画停止」を選択すると、通常の画像に戻ります。

メモ

静止した画像を保存することもできます。操作方法は、次の「モニターウィンドウに表示されている画像を保存する」をご覧ください。

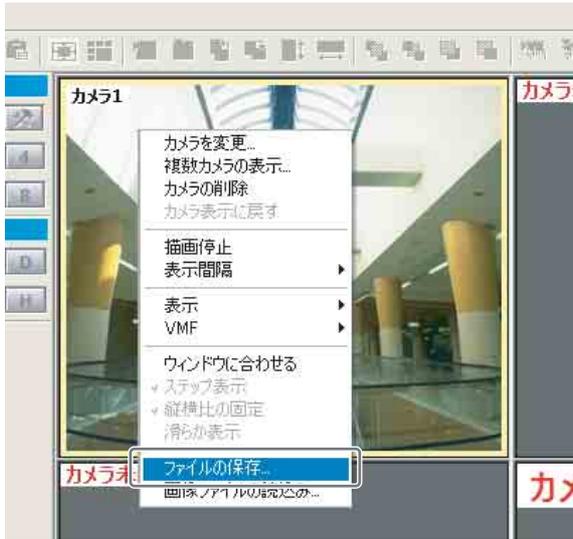
モニターウィンドウに表示されている画像を保存する

モニターウィンドウに現在表示されている画像をキャプチャーし、1フレームの静止画（スナップショット）として保存できます。

で注意

静止画のキャプチャー時には、カメラの設置角度が反映されないため、「設定管理」ウィンドウの「カメラ」タブや「カメラ設定」ダイアログの「カメラ」タブ (158 ページ) でカメラの設置角度を正しく設定していても、キャプチャーした画像が回転した状態で表示されることがあります。

- 1 カメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから「ファイルの保存」を選択する。



「Save Frame As File」ダイアログが表示されます。

- 2** ファイル名を入力し、[ファイルの種類] で保存する画像の圧縮形式を指定して、[保存] をクリックする。



メモ

- MPEG 4 形式を選択した場合は、I フレームのみ保存されます。
- RealShot Manager で変更した設置角度による画像の回転、ダイナミックマスキングの設定はスナップショットには反映されません。

保存されている画像をモニターウィンドウに表示するには

カメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから [画像ファイルの読み込み] を選択し、表示される「Open Image File」ダイアログ (103 ページ) で、表示したい画像を選択します。

モニターウィンドウの画像を拡大・縮小する

カメラモニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューから用途に合わせて次のモードを選択する。



ウィンドウに合わせる

モニターウィンドウのサイズに合わせて、画像が拡大・縮小されます。

ステップ表示

画像の縦横比が維持された状態でモニターウィンドウに合うように、段階的に拡大／縮小されます。

ただし、「モニターウィンドウの設定」ダイアログの [サイズと位置] タブで、[サイズ] がすべて「0」に設定されていないと、正しく表示されない場合があります。

縦横比の固定

モニターウィンドウのサイズに関わらず、画像の縦横比が維持されます。

滑らか表示

画像が滑らかに拡大／縮小されます。

画像が拡大・縮小される際の画質を向上できます。

音声をモニターする

音声ツールバーを使って、音声をモニターできます。

ライブ音声をモニターする

音声装置が割り当てられているカメラのカメラモニターウィンドウを選択し、音声ツールバーの  (カメラ/音声リンク) と  (オーディオトグル) をオンにします。



- 複数のカメラがカメラモニターウィンドウに指定してある場合は、音声装置が割り当てられているカメラの音声のみモニターできます。
- 1台のカメラに複数の音声装置が割り当てられているときは、 をクリックし、表示される一覧から、任意に指定した音声装置からの音声をモニターできます。

メモ

- 音声ツールバーが表示されていないときは、画面上部の  (音声ツールバーの表示) をクリックすると、表示されるようになります。
-  が無効になっているときは、 をクリックし、表示される一覧から、モニターしたい音声ソースを選択します。
-  (オーディオトグル) をクリックすると、音声と消音が切り替わります。
- 音声装置をカメラに割り当てる操作については、「音声装置とカメラを連携させる」(33 ページ) をご覧ください。

音声記録を再生する

音声記録されると、自動的に音声ファイル (.aud) が作成されます。

音声記録を再生するときは、音声ツールバーの  (カメラ/音声リンク) をオフにし、 (オーディオトグル) をオンにします。

再生する音声装置を変更する

- いったん  (カメラ/音声リンク) をオフにし、 をクリックして表示される一覧から、別の音声装置を選択する。
- 再度  (カメラ/音声リンク) をオンにする。

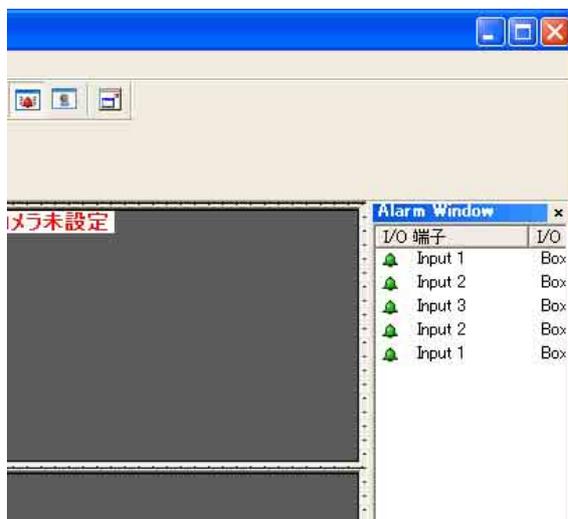
アラームをモニターする

アラームの入力をモニターできます。

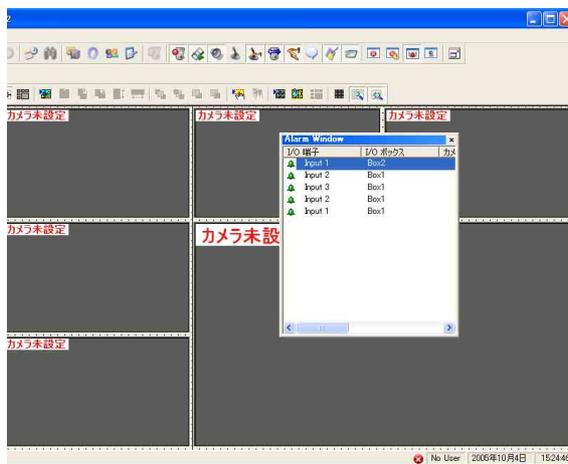
- メイン画面上部にある  (アラームウィンドウ) をクリックする。



アラームウィンドウが表示されます。



- アラームウィンドウをメインウィンドウから切り離したいときは、アラームウィンドウのタイトル部分をドラッグして、境界線から切り離す。



再度タイトル部分を境界線にドラッグすると、元の位置に戻ります。

メモ

アラームの設定については、「アラーム機能」(56 ページ) をご覧ください。

カメラのコントロール

RealShot Manager では、カメラについて、以下の操作や制御ができます。

- **パン、チルト、ズームの操作をする (52 ページ)**
カメラからの画像をモニターしながら、パン、チルト、ズームの操作ができます。
- **カメラのプリセットを使う (53 ページ)**
カメラに記録されているプリセット位置にカメラを移動したり、新規にプリセットを作成できます。
- **カメラツアーを実行する (54 ページ)**
プリセットに指定されているパン、チルト、ズーム位置にカメラを順に移動させるカメラツアーを実行したり、新規にカメラツアーを作成できます。
- **出力制御を使う (55 ページ)**
カメラの出力制御をドアのロックやライトのスイッチなど、アラーム入力を持つデバイスと接続して、出力のトリガーを手動で実行できます。

パン、チルト、ズームの操作をする

パン・チルト機能を備えたカメラの場合は、画面左側にある [パン・チルト] ツールバーやコンピューターのマウスを使って、パン、チルト、ズームの操作をしながらカメラからの画像をモニターできます。

メモ

SNC-RZ25 でパン、チルト、ズームを行う場合は、次のように操作してください。

- 大まかに移動するときは、[パン・チルト] ツールバーを使う。
- 微調整を行うときは、Ctrl キーを押しながら、カメラモニターウィンドウのセンターに移動させたい画像をクリックする。
クリックした位置がカメラモニターウィンドウのセンターに移動します。

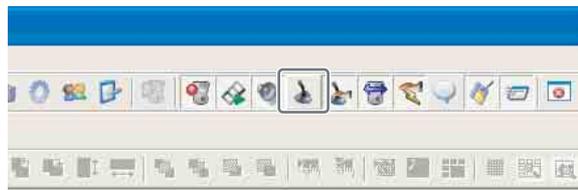
[パン・チルト] ツールバーを使ってコントロールするには
[パン・チルト] ツールバーを使って、パン、チルト、ズームの操作ができます。

[パン・チルト] ツールバーの使いかたについては、「[パン・チルト] ツールバー」(98 ページ) をご覧ください。



メモ

[パン・チルト] ツールバーが表示されていないときは、画面上部の  (パン・チルト ツールバーの表示) をクリックすると、表示されるようになります。



マウスを使ってカメラをコントロールする

カメラモニターウィンドウに表示されている画像上でマウスを操作することにより、センタリングや、パン、チルト、ズームなどの操作ができます。

メモ

この操作は、SNC-RZ30 などで Web ブラウザを使ってできる機能と同じです。

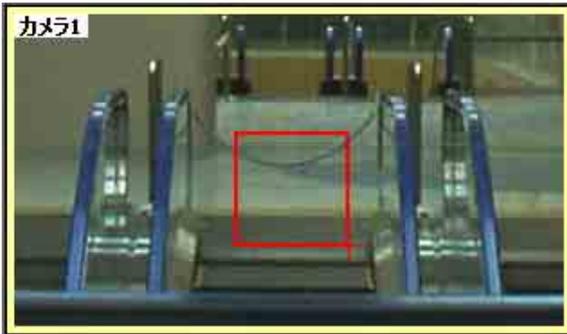
■ 画像をセンタリングする

Ctrl キーを押しながら画像上でマウスをクリックすると、クリックした位置が中心になるようにカメラが移動します。



■ パン、チルト、ズームの操作を行う

Ctrl キーを押しながら画像上でマウスをドラッグすると、赤い枠が表示されます。
マウスから指を離すと、赤い枠内の画像が画面いっぱいに表示されるようにカメラが移動します。



■ズームイン、ズームアウトの操作を行う

スクロール機能付きのマウスをお使いの場合は、Ctrl キーを押しながらホイールを動かすと、ズームイン、ズームアウトができます。

カメラのプリセットを使う

カメラに記憶されているプリセット位置にカメラを移動できます。また、新しいプリセットを定義したり、プリセットを削除したりすることもできます。

メモ

- カメラが SNC-Z20 の場合は、既存のプリセットの修正だけが行えます。新しいプリセットを作成したり、既存のプリセットを削除することはできません。
- 「パン・チルト プリセット」ツールバーが表示されていないときは、画面上部の  (プリセットツールバーの表示) をクリックすると、表示されるようになります。

設定されているプリセットを使う

「パン・チルト プリセット」ツールバーを使って、カメラに記憶されているプリセット位置にカメラを移動できます。

- 1 画像を表示させるカメラモニターウィンドウを選択する。
- 2 「パン・チルト プリセット」ツールバーで、使用したいプリセット番号をクリックする。
または、 をクリックし、表示される一覧から、プリセット名を選ぶ。

設定されたプリセットポジションが割り当てられている番号だけが選択できるようになっています。



カメラがプリセットの位置に移動します。

新規にプリセットを作成するには

「パン・チルト プリセット」ツールバーを使って、新規にプリセットを作成したり、プリセットの設定内容を変更できます。

- 1  (プリセットの設定) をクリックする。



「パン・チルト プリセット」ダイアログが表示されます。

- 2 以下の項目を設定する。



パン・チルトコントロールツール

- ①  をクリックし、表示される一覧から、プリセットを設定したいカメラを選択する。
[プレビュー] にカメラの画像が表示されます。
- ② プリセットを作成する位置 (ポジション番号) の欄を選択し、プリセット名を入力する。

- ③ パン・チルトコントロールツールまたはマウスを使って、カメラの位置を調整し、 をクリックする。
現在の位置がプリセットとして記憶されます。
- ④ 複数のプリセットを作成するときは、手順②～③を繰り返す。

メモ

プリセットの数は、カメラの種類に依存します。詳しくは、ご使用になるカメラのユーザーガイドをご覧ください。

- 3 [閉じる] をクリックする。

プリセットが作成されます。

プリセットの設定内容を変更するには

- 1 「パン・チルト プリセット」ダイアログを表示し、リストから修正したいプリセットを選択して、カメラをプリセット位置に移動する。
- 2 位置を変更する場合には、パン・チルトコントロールツールまたはマウスを使ってカメラの位置を調整し、 をクリックする。
- 3 必要に応じて、プリセット名を変更する。
- 4 [閉じる] をクリックする。

プリセットを削除するには

「パン・チルト プリセット」ダイアログを表示し、リストから削除したいプリセットを選択し、 をクリックする。

カメラツアーを実行する

プリセットに指定されているパン、チルト、ズーム位置にカメラを順に移動させる「ツアー」を実行できます。カメラは、あらかじめ設定されている時間だけ、各プリセット位置に留まります。

カメラツアーを実行するときは、[ツアー] ツールバーを使います。

メモ

- 「ツアー」ツールバーが表示されていないときは、画面上部の (ツアーツールバーの表示) をクリックすると、表示されるようになります。
- このツアーは、カメラのツアー機能を利用しているのではなく、RealShot Manager 独自の機能です。そのため、

RealShot Manager で設定したツアーの情報は、RealShot Manager に保存されます。

- ツアー機能では、SNC-P5 カメラをサポートしていません。

カメラツアーを実行する

- 1 画像を表示させるカメラモニターウィンドウを選択する。
- 2 [ツアー] ツールバーで、実行したいツアー番号をクリックする。
または、 をクリックし、表示される一覧から、ツアー名を選ぶ。

ツアーが設定されている番号だけが選択できるようになっています。



カメラツアーが実行されます。

新規にツアーを作成するには

[ツアー] ツールバーを使って、新規にツアーを作成したり、ツアーの設定内容を変更できます。

- 1  (ツアーの設定) をクリックする。



「ツアー」ダイアログが表示されます。

2 以下の項目を設定する。



パン・チルトコントロールツール

- ① をクリックし、表示される一覧から、ツアーを設定したいカメラを選択する。
[プレビュー] にカメラの画像が表示されます。
- ② [ツアー名] ボックスの右側にある をクリックし、ツアー名を入力する。
- ③ パン・チルトコントロールツールまたはマウスを使って、カメラの位置を調整し、[位置の名前] の右側にある をクリックする。
[プリセットの選択] にある をクリックし、表示される一覧から、プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。
- ④ PTZ 位置名、カメラがその位置に留まる時間、カメラが移動する時間 (Generic Camera の場合は移動速度) を入力する。
Generic Camera の速度 (レベル) については、お使いになるカメラの取扱説明書をご覧ください。
- ⑤ 複数のツアーを作成するときは、手順②～④を繰り返す。
- ⑥ [ツアーの名前] ボックスの右側にある をクリックし、設定したツアーを表示して確認する。

3 [OK] をクリックする。

ツアーが保存されます。

カメラツアーの動作について

RealShot Manager では、カメラのアンゲルで指定された各ポジションに対して「停止時間」と「移動時間」(Generic Camera の場合は移動速度) を設定することにより、カメラツアー機能を実現しています。

実際のカメラのパン・チルト速度は、レベル1の速度、レベル2の速度というように、段階で指定するようになっていますので、移動時間を設定した場合は、以下のように調整されます。

- 「ツアー」ダイアログで指定した時間がカメラの速度設定に換算されます。

- 換算された速度が2つのレベルの間になる場合は、速いほうのレベルが選択されます。例えば、「ツアー」ダイアログでポジション A から B に移動する時間を 25,000 ミリ秒に設定した場合、換算された値がカメラのパン・チルト速度ではレベル1とレベル2の間になるときは、レベル2が選択されます。その場合、設定した時間よりも速くポジション B に到達しますが、RealShot Manager では、停止時間と移動時間をトータルで保つように、速く到達した分長く停止するように調整されます。

ご注意

「ツアー」ダイアログの [移動時間] で、カメラの物理的な速度を超えた値を設定した場合は、そのポジションへの移動をスキップして、次のポジションへの移動を行います。ポジション A から B への移動が指定した時間内に完了しないと判断される場合は、ポジション B への移動がスキップされます。

出力制御を使う

カメラの出力制御は、ドアのロックやライトのスイッチなど、アラーム入力機能を持ったデバイスと接続することができます。これらの出力のトリガーを手動で動作させるときは、[出力制御] ツールバーを使います。

メモ

- 「出力制御」ツールバーが表示されていないときは、画面上部の (出力制御ツールバーの表示) をクリックすると、表示されるようになります。
- 接続と信号レベルについては、カメラに付属の説明書をご覧ください。

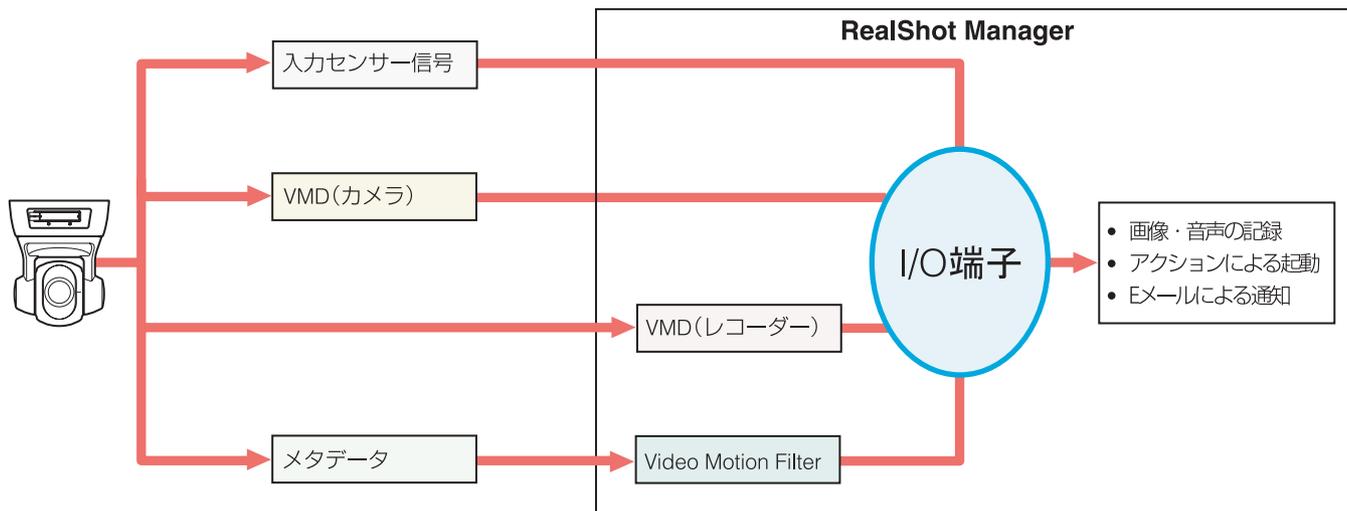
- 1 カメラモニターウィンドウでカメラを選択する。
- 2 [出力制御] ツールバーで、動作が割り当てられているボタンをクリックする。



アラーム機能

RealShot Manager では、アラーム機能を使用して、さまざまな動作を自動的に行えます。

下図のように、すべて、I/O 端子がアラームのトリガーとなります。I/O 端子には、物理的な入力センサー信号によるものだけでなく、動体検知などによる仮想的な I/O 端子もあります。



アラーム機能を使用するために必要な設定

アラーム機能を使用する場合は、以下の項目を参照し、必要な設定を行ってください。

- アラーム記録のスケジュールを作成するには、あらかじめカメラに端子を関連付けておく必要があります。詳しくは、「I/O ボックスの登録」(29 ページ) をご覧ください。
- アラームを検出するには、I/O 端子の設定で行います。I/O 端子の設定については、「I/O 端子の設定」ダイアログ (146 ページ) をご覧ください。
- 画像や音声の記録については、「アラーム記録」(65 ページ) をご覧ください。
- アクションの起動については、「アクション」(73 ページ) をご覧ください。
- 動体検知については、「動体検知機能」(57 ページ) をご覧ください。

動体検知機能

動体検知は、カメラ画像またはカメラ画像のメタデータから動体、不動体を検知する機能です。RealShot Manager では、カメラによる動体、不動体検知機能（Video Motion Detection（カメラ））、RealShot Manager 自身が持つ動体検知機能（Video Motion Detection（レコーダー））に対応しています。

• 動体検知

動いている物体（例：人や車など）を検知する機能です。

• 不動体検知

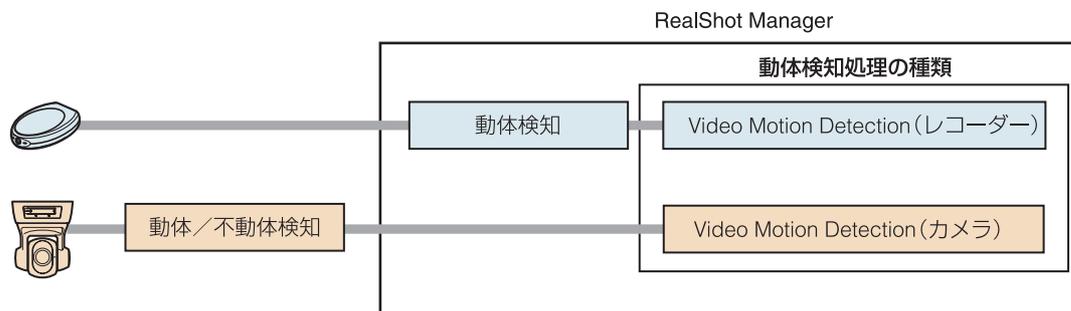
動いていた物体が静止したこと（置き去り）や、元々あったものが移動したこと（持ち去り）を検知する機能です。

• カメラ画像のメタデータによる動体検知

カメラ内で生成された動体に関するメタデータに対して、動体の検出条件であるフィルター（VMF：Video Motion Filter）をかけ、特定の現象を検出する機能です（画像は用いず、メタデータだけで検出します）。メタデータによる動体検知では、カメラからリアルタイムに配信されるメタデータからだけでなく、記録済みのメタデータからも動体を検出できます。

VMF は、3つまでを1つにまとめてVMF パッケージとして管理されます。組み合わせには、順番に現象が発生することをとらえる順序型と、どれか1つのフィルターでも成立すればアラームとなる独立型があります。

また、VMF パッケージの1つを標準パッケージとして登録することもできます。この標準パッケージは、VMF によるアラーム記録スケジュールの時間外において、モニターやマニュアル記録などで使用されます。

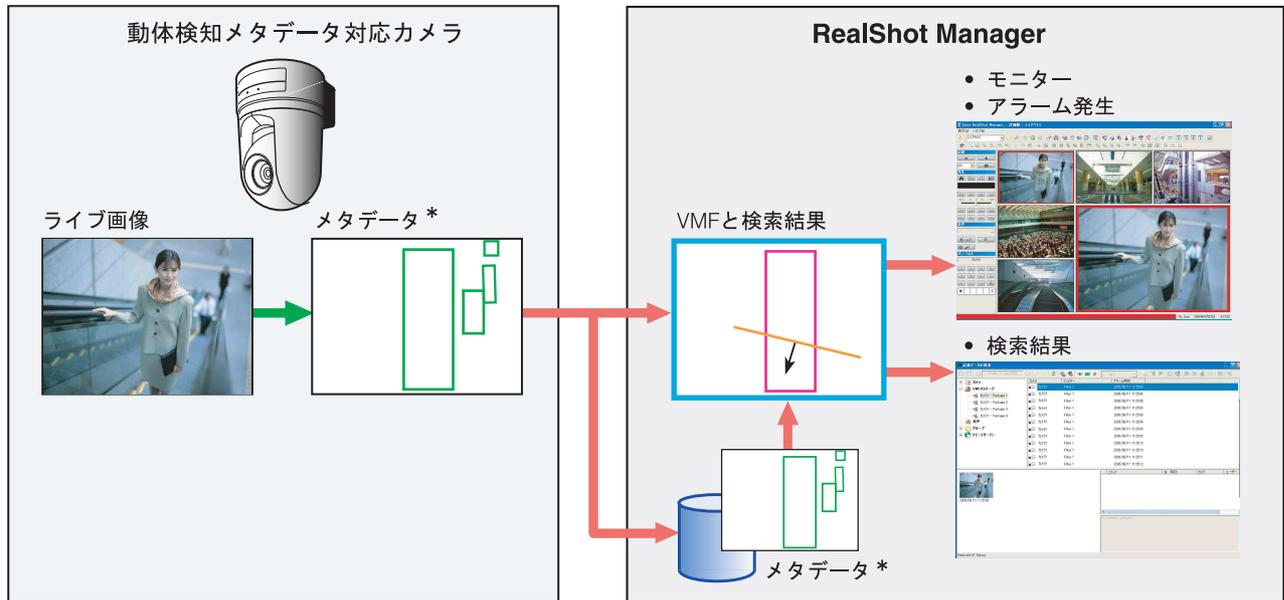


メモ

- Video Motion Detection を使用する際には、必ずテストを行ってから運用してください。
- Video Motion Detection（レコーダー）は、動体検知処理を行いたいカメラの「装置の設定」ダイアログまたはプロパティで設定します。Video Motion Detection（カメラ）は、そのカメラの I/O ボックスで設定します。
- Video Motion Detection（レコーダー）は、動体検知のみに対応しています。
- Video Motion Detection（レコーダー）には、高性能モードと標準モードがあります。モードによって性能に違いがあるため、利用環境を確認してから設定してください。
 - 高性能モードに比べて標準モードの方が、より多くのカメラの動体検知を同時に行えます。
 - 高性能モードの方が検知精度が優れています。
 - VMD モードを変更した場合、[比較画像枚数]と[検知判定回数]は、各モードのデフォルト値に設定されます。

- コーデックが MPEG4 の場合は、高性能モードのみがサポートされています。
- 標準モードに設定されているカメラのコーデックを JPEG から MPEG に変更した場合、VMD モードは高性能モードに変更されます。また、比較画像枚数と検知判定回数は、高性能モードの初期値に設定されます。
- Video Motion Detection (レコーダー) は、処理の負荷が重いため、パフォーマンスを確認しながら使用してください。カメラの接続数が多い場合には、Video Motion Detection (カメラ) の使用を検討してください。
- Video Motion Detection (カメラ) の場合は、動体検知か、動体/不動体検知の両方に対応しているかは、カメラによって異なります。
- SNT-V704 以外のビデオネットワークステーションと SNC-VL10 では、Video Motion Detection (カメラ) は使用できません。
- メタデータを使用して動体、不動体検知を行う場合は、動体検知メタデータに対応しているカメラが必要です。
- 動体検知用 VMF の [存在] タイプでは、オブジェクトを検知した後、オブジェクトが存続する限りアラーム状態が保持されるため、この状態で2つ目のアラームが発生しても、アラーム記録の開始は行われません。2つ目のアラームを記録したい場合は、スケジュールの設定で [アラーム解除点から] (118 ページ) を選択してください。これにより、アラーム中のすべてが記録されるため、2つ目のアラームも記録されるようになります。
- 不動体のメタデータの処理では、不動体として認識された状態は約3時間保持されますが、VMF によって検出された状態は約10秒で解除されます。
- 1つのカメラのライブ映像に対する処理に関して、VMF パッケージは、同時には、1つのみ適用されます。ただし、検索や再生に別のパッケージを同時に使用することは可能です。
- メタデータの記録では、その時点で適用されている VMF を元に、動体検知用メタデータか不動体検知用メタデータかが選択されます。判断の優先順位は、次のようになります。
 - ① アラーム記録スケジュールに指定されているものがある場合は、その VMF パッケージが動体用か不動体用かによって判断されます。
 - ② VMF パッケージが指定されていない場合は、標準パッケージを元に判断されます。
 - ③ 標準パッケージも指定されていない場合は、動体検知用メタデータとして記録されます。
- 不動体検知では、開始時に約40秒の初期化時間が必要です。また、動きを止めてから約40秒経過した検知物が不動体とみなされます。これらの時間は、状況によって延長されます。

カメラ画像のメタデータによる動体検知の概念



* メタデータには、時間やカメラ情報、動体の位置、種類、状態などが書かれています。

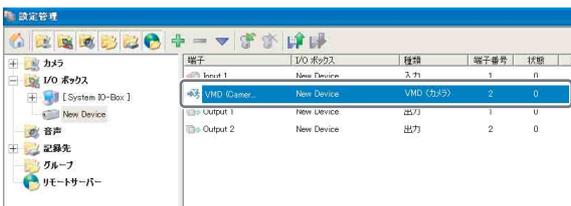
動体検知、不動体検知機能を使用するために必要な設定

Video Motion Detection (カメラ) の設定手順

1 使用するカメラの I/O ボックスを作成する。

「設定管理」ウィンドウ左側のツリーで、カメラを I/O ボックスにドラッグ&ドロップすると、I/O ボックスにカメラが追加され、カメラごとに設定可能な I/O 端子が自動的に作成されます。

2 一覧で アイコンが表示されている端子をクリックする。



3 画面下部に表示される [I/O 制御] タブ、[VMD (カメラ)] タブの各項目を設定し、[Apply] をクリックする。

設定項目の詳細は、「[I/O 端子の設定] ダイアログ」(146 ページ) の各タブの説明をご覧ください。

で注意

- 使用するカメラによって、設定内容が異なります。

- Video Motion Detection (カメラ) をクライアントから設定する場合は、カメラ名と I/O ボックス名が一致している必要があります。
- SNT-V704 をお使いの場合は、「SNT-V704 を使用して動体検知を行うときのご注意」(185 ページ) もあわせてご覧ください。

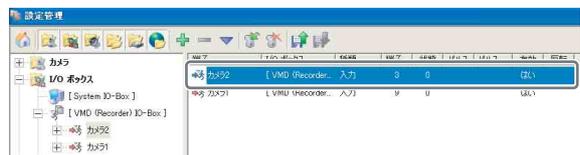
Video Motion Detection (レコーダー) の設定手順

1 処理の対象となるカメラの「カメラの設定」ダイアログまたは「装置の設定」ダイアログの [VMD (レコーダー)] タブ (133 ページ) で、、 を使って Video Motion Detection の一覧を作成する。

2 をクリックし、動体検知領域などを設定する。

設定の詳細は、「[Video Motion Detection (レコーダー)] ダイアログ」(134 ページ) をご覧ください。

3 「設定管理」ウィンドウ左側のツリーで [VMD (Recorder) IO-Box] を選択し、一覧で使用する VMD (レコーダー) 端子をクリックする。



- 4 画面下部に表示される [I/O 制御] タブ、[VMD (レコーダー)] タブの各項目を設定し、[Apply] をクリックする。

設定項目の詳細は、「[I/O 端子の設定] ダイアログ」(146 ページ) の各タブの説明をご覧ください。

カメラ画像のメタデータによる動体検知の設定手順

- 1 処理の対象となるカメラの「カメラの設定」ダイアログまたは「装置の設定」ダイアログの [VMF] タブ (138 ページ) で、[VMF を使用する] にチェックマークを付け、、、 を使って VMF パッケージの一覧を編集する。

- 2  をクリックし、VMF パッケージを設定する。

設定の詳細は、「[Video Motion Filter パッケージ設定] ダイアログ」(139 ページ) をご覧ください。

- 3 「設定管理」ウィンドウ左側のツリーで [VMF IO-Box] を選択し、一覧で使用するカメラの VMF パッケージの端子を選択する。



- 4 画面下部に表示される [I/O 制御] タブの各項目を設定し、[Apply] をクリックする。

設定項目の詳細は、「[I/O 端子の設定] ダイアログ」(146 ページ) の各タブの説明をご覧ください。

ご注意

- VMF を使用する場合は、カメラ名と I/O ボックス名が一致している必要があります。
- 不動態用の VMF パッケージを用いたアラーム記録スケジュールを実行する場合、スケジュールの開始時に初期化を行うため、約 40 秒の初期化時間が必要になります。初期化している間は検出できませんので、ご注意ください。
- RealShot Manager では、VMF とそのカメラの Video Motion Detection (カメラ) を併用することはできません。

記録

RealShot Manager では、カメラからの画像を以下の方法で記録できます。

• マニュアル記録

[記録] ツールバーを使って、現在カメラが撮影している画像を手動で記録します。

• スケジュール記録

カメラごと、またはグループごとに記録のスケジュールを設定し、定期的に記録を行います。スケジュール記録には、通常記録とアラーム記録があります。

• 通常記録

設定したスケジュールに従って、定期的にカメラからの画像を記録します。

• アラーム記録

外部デバイスから I/O デバイスへの入力信号 (アラーム) によって記録を開始します。

詳しくは、「マニュアル記録」(61 ページ)、「スケジュール記録」(61 ページ) をご覧ください。また、アラーム記録については、「アラーム記録」(65 ページ) もあわせてご覧ください。

長期間継続記録におけるレコード分割処理について

長期間継続して記録を行っている場合 (毎日 0:00 ~ 24:00 の連続記録を長期間行っているような場合)、記録レコードの構成ファイル数が 10,000 * を超えることがあります。構成ファイル数が 10,000 を超えた場合は、記録レコードが分割され、以降のデータは新しいレコードとして記録されます。

* ファイル数「10,000」とは、記録開始からのすべてファイル数です。クリーンアップやデータ上書き機能によって削除されたファイルも含まれます。

分割される期間は、フレームレートや解像度によって異なります。

例)

条件	コーデック : JPEG
	解像度 : VGA
	フレームレート : 10 fps
	画像品質 : 50%
	1 ファイルのサイズ : 50 MB
分割までの期間	約 19 日

長期間連続して記録する場合は、1 日につき 1 秒の空白時間を入れるスケジュールを設定し、記録レコードを分割することをおすすめします。詳しくは、「記録のスケジュールを設定する」(62 ページ) をご覧ください。

マニュアル記録

[記録] ツールバー (96 ページ) を使って、モニターウィンドウに表示されているカメラの画像を記録できます。記録のしかたについては、「カメラ画像を記録する」(21 ページ) をご覧ください。

スケジュール記録

カメラごと、またはグループごとに記録のスケジュールを設定し、定期的に記録が行えます。スケジュールの設定方法には、1 週間単位でアクションを繰り返す「繰り返しのスケジュール」と、アクションを実行する日時を指定する「日時指定のスケジュール」があります。

スケジュールには、以下のアクションやイベントを設定できます。

「スケジュールの編集」ウィンドウで設定できる項目

- モニター
- 通常記録
- アラーム記録
- プリ・ポストアラーム記録

メモ

- 記録とモニターで、異なるフレームレートを設定することもできます。例えば、モニターは 20 fps、記録は 5 fps というような設定ができます。
- カメラから取り込まれる画像は、実行中のすべての動作に関するフレームレートや解像度の最大値が使用されます。例えば、通常記録時の解像度を 360×288 dpi に設定し、モニター時の解像度を 720×576 dpi に設定した場合、カメラから取り込まれる画像の解像度は 720×576 dpi になります。

スケジュールに設定できるイベント

スケジュールには、以下のイベントを設定できます。

- 記録データの削除
- Video Motion Detection (レコーダー) スケジュール

メモ

- 設定できるイベントは、RealShot Manager の設定によって異なります。
- 記録データの削除については、「スケジュールを設定して指定した時間に削除する (クリーンアップ)」(86 ページ) をご覧ください。

スケジュール記録時のカメラの解像度設定について

「スケジュールの編集」ウィンドウで、1 つのカメラに対して時間帯の重なる複数のスケジュールが設定されている場合は、一番解像度の高い設定が使われます。

例えば、同じ時間帯にアラーム記録と通常記録、モニターが重なって設定されていて、通常記録が一番高い解像度に設定されている場合は、アラーム記録も通常記録と同じ解像度で記録されます。

スケジュールの見かた

メイン画面上部の  (スケジュール作成) をクリックし、スケジュールを表示したいカメラまたはグループを選択すると、そのカメラまたはグループに設定されているスケジュールが表示されます。

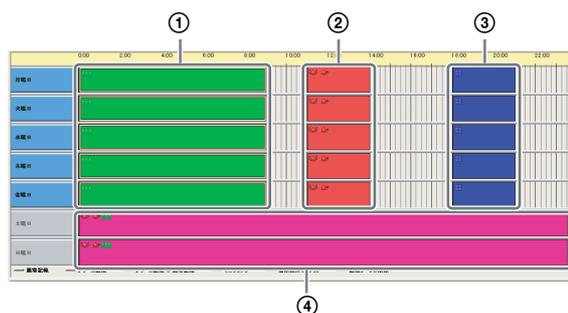
スケジュールの表示には、週間表示とリスト表示があります。

各表示画面の詳細は、「[スケジュールの編集] ウィンドウ」(115 ページ) をご覧ください。

週間表示

画面左上の  (週単位の表示) をクリックすると、選択したカメラの週ごとに繰り返されるスケジュールが表示されます。

スケジュールは、アクションごとに色で区別されます。



上記の画面例は、以下のスケジュールで構成されています。

	曜日	時間	動作
①	月曜日から金曜日	00:00 ~ 09:00	通常記録
②	月曜日から金曜日	11:00 ~ 14:00	アラーム記録
③	月曜日から金曜日	18:00 ~ 21:00	モニター
④	土曜日から日曜日	00:00 ~ 23:30	通常記録、アラーム記録

リスト表示

 (リスト表示) をクリックすると、選択したカメラのスケジュールに設定されているすべてのアクションが表示されます。

スケジュールに設定されているイベントとアクションは、アイコンで表示されます。

①	②	名前	アクション	開始時刻	終了時刻	期間	週単位
				00:00	9:00	9 hours	MTWTF_
				00:00	23:00	23:00:00	_SS
				11:00	14:00	3 hours	MTWTF_
				18:00	21:00	3 hours	MTWTF_
		土日		7 Oct 2006 16:00:00	8 Oct 2006 16:00:00	1 day	

① イベント

：繰り返しのスケジュールを示します。

：日時指定のスケジュールを示します。

② アクション

：モニター

：通常記録

：アラーム記録

：プリアラーム記録

：記録データの削除

記録のスケジュールを設定する

スケジュールの設定方法には、1週間単位でアクションを繰り返す「繰り返しのスケジュール」と、アクションを実行する日時を指定する「日時指定のスケジュール」があります。

スケジュールを設定する前に

端子の設定を行ってください。詳しくは、「I/O ボックスの登録」(29 ページ)をご覧ください。

メモ

記録データの保存期間を1か月以上に設定し、24時間連続記録のスケジュールを実行するなどの長時間連続記録を行っている場合、「記録データの検索」ウィンドウでサムネイルの表示が遅くなることがあります。

24時間連続記録のスケジュールを設定する際は、1日につき1秒の空白時間を入れることをおすすめします。

例) 毎日0:00:00から翌日の0:00:00まで記録するスケジュールを設定する場合

記録時間を0:00:00からその日の23:59:59までに設定する。

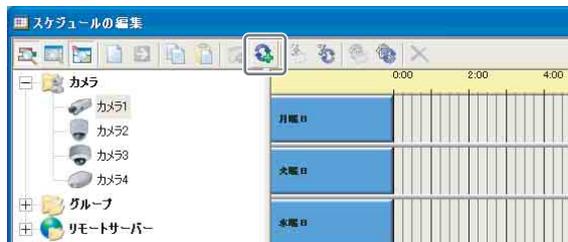
※ 23:59:59から0:00:00までの1秒間は記録されません。

繰り返しのスケジュールを設定する

1 画面左側のツリーで、スケジュールを設定したいカメラまたはグループを選択する。

2 画面左上の (週単位の表示) をクリックし、週間表示にする。

3 画面上部の (定期的なスケジュール) をクリックする。



画面下部にスケジュールを設定する画面が表示されます。

4 各項目を設定する。



① スケジュールを実行する曜日にチェックマークを付けます。

② 必要に応じて、スケジュールの名前を入力します。

③ スケジュールの開始時刻と終了時刻を設定します。まず、曜日の欄に表示されるバーをドラッグして設定します。目盛りは15分きざみです。詳細に時刻を設定したい場合は、[開始時刻]と[終了時刻]で調整します。

④ 実行するアクションにチェックマークを付けます。複数のアクションを選択できます。

⑤ 必要に応じて各項目を設定します。ここに表示される項目は、選択したアクションによって異なります。各項目の詳細は、「スケジュール設定部」(117ページ)をご覧ください。

ご注意

カメラによって配信可能なフレームレートが異なるため、[フレーム/sec]のをクリックし、表示される一覧から、そのカメラで配信可能なフレームレートを選択し、必ず動作確認をしてから運用してください。

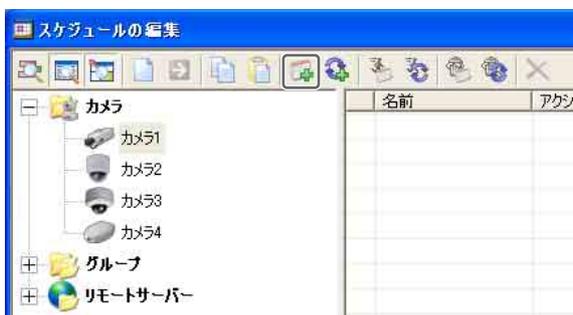
5 スケジュールを設定したら、画面上部の (スケジュールの反映) をクリックする。

- 6 複数のスケジュールを設定するときは、手順3～5を繰り返す。

スケジュールが設定されます。

日時指定のスケジュールを設定する

- 1 画面左側のツリーで、スケジュールを設定したいカメラまたはグループを選択する。
- 2 画面左上の  (リスト表示) をクリックし、リスト表示にする。
- 3 画面上部の  (日付指定のスケジュール) をクリックする。



画面下部にスケジュールを設定する画面が表示されます。

- 4 各項目を設定する。



- ① スケジュールの名前を入力します。
 - ② スケジュールの開始日と終了日の時刻をそれぞれ入力します。
 - ③ 実行するアクションにチェックマークを付けます。複数のアクションを選択できます。
 - ④ 必要に応じて各項目を設定します。ここに表示される項目は、選択したアクションによって異なります。各項目の詳細は、「スケジュール設定部」(117ページ)をご覧ください。
- 5 すべてのスケジュールを設定したら、画面上部の  (スケジュールの反映) をクリックする。

- 6 複数のスケジュールを設定するときは、手順3～5を繰り返す。

スケジュールが設定されます。

Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールを設定する

Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールでは、スケジュールごとにカメラと検知領域を設定できます。Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールとして、モニターと通常記録および、アラーム記録のスケジュールを設定することが可能です。

Video Motion Detection (レコーダー) はソフトウェア処理なので、コンピューターのCPUに負荷がかかりますが、Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールをスケジュールに設定して、モニターを低フレームレートで行うように設定すると、CPUの負荷を軽減できます。通常記録も同様に、低フレームレートで行うように設定すると、動体検知のように、画像に加えて検知したエリアに関する情報を記録するために大量のデータを必要とする記録データも、低フレームレートで記録されファイルとして保存されます。

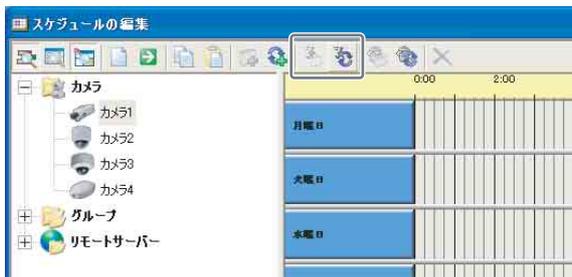
Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールを設定する前に

Video Motion Detection (レコーダー) の端子の作成を行ってください。詳しくは、「動体検知、不動体検知機能を使用するために必要な設定」(59ページ)をご覧ください。

- 1 画面左側のツリーで、スケジュールを設定したいカメラまたはグループを選択する。
- 2 画面左上の  (週単位の表示) または  (リスト表示) をクリックする。

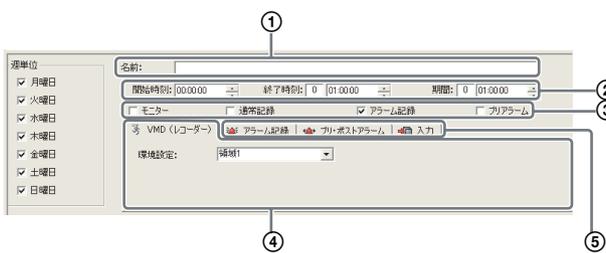
繰り返しのVideo Motion Detection (レコーダー) スケジュールを設定するときは  (週単位の表示) を、日時指定のVideo Motion Detection (レコーダー) スケジュールを設定するときは  (リスト表示) をクリックします。

- 3 画面上部の  (日時による VMD (レコーダー) スケジュールの追加) または  (定期的な VMD (レコーダー) スケジュールの追加) をクリックする。



画面下部にスケジュールを設定する画面が表示されます。

- 4 各項目を設定する。



- ① Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールの名前を入力します。
- ② Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールの開始時刻と終了時刻を設定します。
- ③ 実行するアクションにチェックマークを付けます。複数のアクションを選択できます。
- ④ [VMD (レコーダー)] タブで  をクリックし、表示される一覧から、あらかじめ用意した Video Motion Detection の設定を選択します。

- ⑤ 実行するアクションに応じて、必要な項目を設定します。

モニターの場合

必要に応じて [モニター] タブの各項目を設定します。

通常記録の場合

必要に応じて [通常記録] タブの各項目を設定します。

アラーム記録の場合

- [入力] タブで、設定した領域で動体が検知されたときに、アラーム記録を開始させるトリガーとなる VMD (レコーダー) 端子を選択します。

- 必要に応じて、[アラーム] タブの各項目を設定します。

各項目の詳細は、「スケジュール設定部」(117 ページ) をご覧ください。

メモ

アラーム記録のときに、Video Motion Detection (レコーダー) によりアラームを発生して記録を開始できます。

- 5 複数のスケジュールを設定するときは、手順 3 ~ 4 を繰り返す。

- 6 すべてのスケジュールを設定したら、画面上部の  (スケジュールの反映) をクリックする。

スケジュールが設定されます。

スケジュールを削除する

設定されているスケジュールを個別に削除したいときは、以下の手順で行います。

メモ

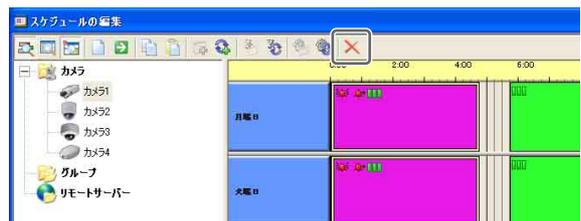
カメラやカメラグループに設定されているスケジュールを初期状態に戻したいときは、画面左側のツリーでカメラやカメラグループを選択し、画面左上の  (スケジュールの初期化) をクリックします。

- 1 画面左側のツリーで、スケジュールを削除したいカメラまたはグループを選択する。

- 2 画面上部の  (週単位の表示) または  (リスト表示) をクリックする。

繰り返しのスケジュールを削除するときは  (週単位の表示) を、日時指定のスケジュールを削除するときは  (リスト表示) をクリックします。

- 3 削除したいスケジュールを選択し、画面上部の  (削除) をクリックする。



スケジュールが削除されます。

アラーム記録

記録スケジュールに、外部入力をアラームとして記録を開始するアラーム記録を設定できます。また、アラーム発生の前後も記録するプリ・ポストアラーム記録も設定できます。

プリアラーム、アラーム、ポストアラームの関係については、「[[プリ・ポストアラーム] タブ] (118 ページ) をご覧ください。

アラーム記録では、通常記録中にアラームが発生した場合に、通常記録よりも高品質の画像を記録できます。例えば、モニター時と通常記録時のフレームレートを 10 fps に、アラーム発生時のフレームレートを 25 fps に設定した場合、通常 (アラームが発生していないとき) は 10 fps で画像が取り込まれますが、アラームが発生すると 25 fps で取り込まれます。

注意

アラーム記録やスケジュール記録のカメラ設定がモニター時のカメラ設定と異なる場合は、記録開始時と記録終了時に画像の更新が数秒間停止します。必ず設定を確認してから運用してください。

メモ

プリアラームの記録時間の最大値は、以下の両方の制限を受けます。

- 総フレーム数：1,500 フレーム
- データサイズ：10 MB *

* Generic Camera の場合は、以下の条件でデータサイズの制限が 20 MB になります。ただし、実際にデータサイズが拡張されるかどうかはコンピューターの性能に依存しますので、必ず確認してから運用してください。

- 画像サイズの横方向：1,280 ピクセル
- プリアラーム時間：3 秒以上
- フレームレート：5 fps 以上

アラーム記録／プリ・ポストアラーム記録を設定する

1 画面左側のツリーで、スケジュールを設定したいカメラまたはグループを選択する。

2 画面左上の  (週単位の表示) または  (リスト表示) をクリックする。

繰り返しのスケジュールを設定するときは  (週単位の表示) を、日時指定のスケジュールを設定するときは  (リスト表示) をクリックします。

3 画面上部の  (定期的なスケジュール) または  (日付指定のスケジュール) をクリックする。

画面下部にスケジュールを設定する画面が表示されます。

4 [アラーム記録] にチェックマークを付け、[アラーム記録] タブでアラーム記録時の画質を設定する。

そのほかの設定は、通常記録のスケジュールと同じです。

[アラーム記録] タブの設定項目の詳細は、「[[アラーム記録] タブ] (118 ページ) をご覧ください。



5 [入力] タブで、アラーム記録を開始させるトリガーとなる端子にチェックマークを付けます。



メモ

- [入力] タブには、手順 1 で選択したカメラに関連付けられている端子が表示されます。
- 別のカメラの端子を選択し、それをトリガーとして記録を開始させることもできます。例えば、1 台目のカメラが玄関を監視し、2 台目のカメラが室内の絵などの貴重品を監視するというような使いかたもできます。

- 6 プリ・ポストアラーム記録を設定するときは、[プリアラーム] にチェックマークを付け、[プリ・ポストアラーム] タブでアラームによって実行される記録の動作時間を設定する。

[プリ・ポストアラーム] タブの設定項目の詳細は、「[プリ・ポストアラーム] タブ」(118 ページ) をご覧ください。



- 7 複数のスケジュールを設定するときは、手順3～4を繰り返す。

- 8 すべてのスケジュールを設定したら、画面上部の  (スケジュールの反映) をクリックする。

スケジュールが設定されます。

カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録機能

RealShot Manager では、カメラ内のローカルストレージへの記録機能を使って、アラーム記録 (65 ページ) を行うことができます。カメラのローカルストレージに記録されたアラーム記録データは、カメラのFTP機能を使ってカメラのローカルストレージから取り出されます。

この機能を使うと、以下のようなメリットがあります。

- カメラ側でアラーム画像を保持できるため、アラーム発生前後の画像の配信が不要になり、ネットワークの負荷を軽減できます。
- カメラ内部で画像が処理されるため、ネットワーク帯域の制限を受けず、高画質なデータを得ることができます。

カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録の設定手順

メモ

RealShot Manager の設定を行う前にあらかじめ Web ブラウザからカメラに接続し、カメラ側のイメージメモリーおよびFTPの設定をしておく必要があります。設定方法については、カメラの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- Generic Camera では、本機能は対応していません。
- カメラのローカルストレージには、画像以外にも音声も記録可能ですが、RealShot Manager では画像の記録のみサポートしています。音声は記録されませんので注意してください。
- アラームのトリガーとしては、そのカメラのものだけが使用可能です。他のカメラからの入力や、RealShot Manager の Video Motion Detection は使用できません。
- 本機能をクライアントから設定する場合は、カメラ名と I/O ボックス名を同じにしておく必要があります。
- SNC-P1、SNC-P5、SNC-DF40、SNC-DF70、SNC-RZ25、SNC-CS10、SNC-CS11 の内部メモリーをカメラのローカルストレージとして使い、RealShot Manager でアラーム記録を行っている場合、1日のアラーム記録のデータ容量が90 MB 以上になると、RealShot Manager で記録できなくなることがあります。その場合は、ローカルストレージを利用しない通常のアラーム記録機能 (65 ページ) をお使いください。

- カメラの外部記録メディアのデータを手動で削除しないでください。カメラの外部記録メディアのデータは、カメラ自身の上書き機能により自動的に削除されます。手動で削除してしまったり、何らかの理由により外部記録メディアをフォーマットまたは交換した場合は、以下の手順を行ってください。

① RealShot Manager を終了する。

② 以下のファイルを削除する。

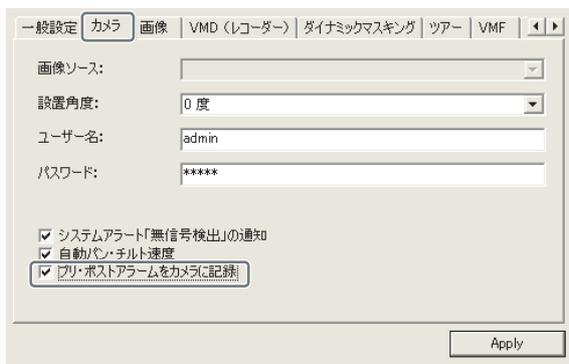
<インストールフォルダー>¥SNCRecordings¥
<カメラ-ID名>¥Restore.dat

③ RealShot Manager を起動する。

- すでにカメラ単体でイメージメモリー機能によるアラーム記録を行っている場合に、その記録済みデータを残したままの状態でも機能の使用を開始すると、最初のアラーム記録時に、カメラ側に保存されているすべての記録データを取り込もうとするため、負荷が増大します。これを避けるには、以下の方法などで、あらかじめ記録フォルダーごとカメラ側の記録済みデータを削除してから使用してください。

- 内部ストレージの場合は、カメラの電源をいったんオフにする。
電源をオフにすると初期化されます。
- 外部ストレージの場合は、フォーマットする。

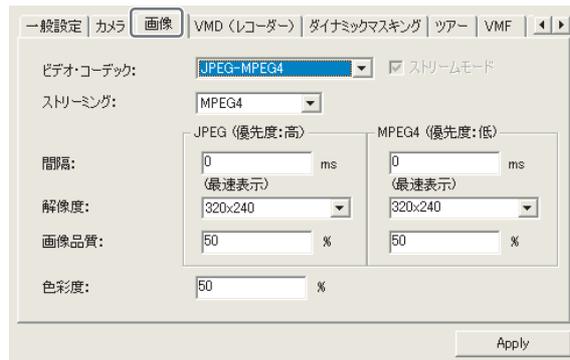
- 1 「設定管理」ウィンドウでカメラを選択し、画面下部の [カメラ] タブで [プリ・ポストアラームをカメラに記録] にチェックマークを付ける。



- 2 必要に応じて、[画像] タブで、ビデオコーデックの設定をする。

カメラによっては、ローカルストレージに記録する画像と RealShot Manager に配信する画像で異なるコーデックを指定できますので、必要に応じて、[ビデオコーデック] でローカルストレージ記録用のコーデックを、[ストリーミング] で配信用のコーデックを選択してください。

設定項目の詳細は、「[装置の設定] ダイアログ」の [画像] タブ (132 ページ) の説明をご覧ください。



- 3 アラーム記録のスケジュールを設定する。

[プリ・ポストアラーム] タブで、コーデックやプリアラーム期間、ポストアラーム期間などを設定します。設定項目の詳細は、「[プリ・ポストアラーム] タブ」(118 ページ) をご覧ください。

ご注意

- 本機能の設定に関しては、以下の点に注意してください。
 - そのカメラの I/O 端子、またはそのカメラの Video Motion Detection (カメラ) の端子のみを関連付けしてください。
 - バージョン 3.1 以前の RealShot Manager でアラーム記録スケジュールを設定していた場合は、設定内容が矛盾する可能性があります。必ず、スケジュールの設定内容を確認してから運用してください。
- カメラの電源をオフにするとカメラの内部ストレージが初期化されるので、内部ストレージを使用している場合は、注意してください。

記録データの検索と再生

記録済みの画像または音声データは、記録したデバイスや日時で検索して再生できます。

記録データを検索する (68 ページ)

検索する時間の範囲を絞り込む／広げる、検索結果やサムネイルの表示方法を切り替えるなど、検索に便利な機能を備えています。検索の基本操作については第2章の「記録を検索する」(22 ページ)をご覧ください。

記録データを再生する (69 ページ)

画像を確認しやすくするために、モードを切り替えながら再生できます。再生の基本操作については第2章の「記録を再生する」(23 ページ)をご覧ください。

複数カメラの記録を同時刻から再生する (70 ページ)

複数のカメラの記録データを検索し、検索されたデータを同時に同時刻から再生できます。

VMF 検索機能 (71 ページ)

記録済みのメタデータに対して、動体／不動態の検出条件であるフィルター (VMF: Video Motion Filter) をかけて、該当する記録を検索できます。

記録データを検索する

検索の基本操作については、第2章の「記録を検索する」(22 ページ)をご覧ください。

ここでは、検索するとき便利な機能について説明します。

メモ

記録データを検索するときは、「記録データの検索」ウィンドウで行います。「記録データの検索」ウィンドウは、メイン画面上部にある  (記録データの検索) または [再生] ツールバーの  (検索) をクリックすると表示されます。「記録データの検索」ウィンドウの使いかたについては「「記録データの検索」ウィンドウ」(120 ページ)をご覧ください。

ご注意

検索条件に合致する記録データが多くなるほど、検索に要する時間が長くなります。また、検索処理を途中でキャンセルしても、すべての記録データを抽出するまで処理が続けられるため、CPU 負荷が高くなり、カメラからの画像が欠落してしまうこともあります。条件に合致する記録データが 1,000 件を超えないように絞り込んでから、検索を行ってください。

時間を絞り込む／広げる

時間の範囲を絞り込んだり、広げたりして検索できます。また、指定した日時の範囲を順に送りながら検索できます。この機能を使うと、1 週間単位など、指定した単位で記録をリストアップできます。

時間の範囲を絞り込む／広げるには

画面左上のボックスに日時を入力し、時間の範囲を絞り込むときは  を、範囲を広げるときは  をクリックする。



 をクリックするたびに、次の順に範囲が絞り込まれます。例えば、次のように範囲が絞り込まれます。



 をクリックしたときは、逆順に時間の範囲が広がります。

日時の範囲を順に送るには

検索したい日時の範囲を表示させ、 または  をクリックする。

表示されている間隔で記録がリストアップされます。

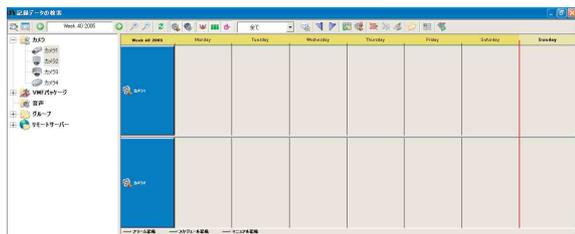


タイムライン表示に切り替える

検索結果の一覧をタイムライン表示に切り替えられます。タイムライン表示では、記録の種類ごとに色分けされて表示されます。

画面左側のツリーでカメラを選択し、 をクリックする。Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

タイムライン表示に切り替わります。

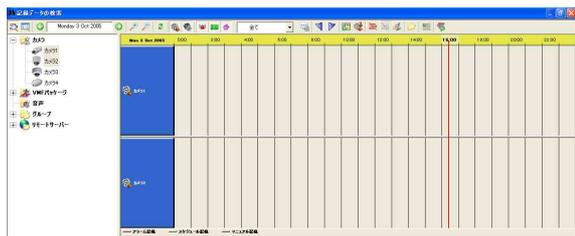


メモ

選択したカメラの台数が増えるほど、タイムライン表示が細くなります。表示を見やすくするため、選択するカメラの台数を少なくすることをおすすめします。

赤い線（ウォーカー）について

タイムライン表示の赤い線は、現在タイムラインのどの位置（時刻）にいるのかを示しています。例えば、ある週を表示しているときに赤い線を月曜日にドラッグし、 をクリックすると、月曜日の詳細が表示されます。



メモ

タイムラインの目盛（黄色いタイトル部分）をクリックしても、赤い線を移動できます（クリックした位置に赤い線が移動します）。

サムネイルの表示方法を切り替える

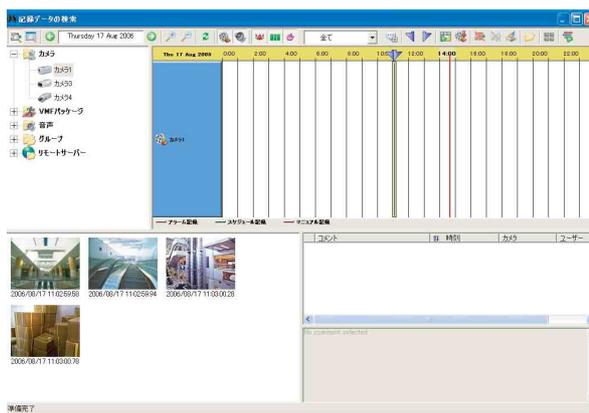
RealShot Manager では、記録ファイルの概要がわかるように、記録ファイルごとに1枚または数枚のサムネイルが作成されます。

記録ファイルのサムネイルは、「記録データの検索」ウィンドウの左下に表示されます。画面上部のボタンを使って、サムネイルの表示方法を切り替えられます。

ご注意

リモートサーバーの記録ファイルのサムネイルを表示させる場合は、リモートサーバーの記録先のフォルダーが共有設定されている必要があります。また、リモートサーバーに新しく記録先を追加した場合は、忘れずに Windows の [ネットワークドライブの割り当て] で、その記録先のフォルダーを共有できるように設定してください。

画面上部の  または  または  をクリックするたびに、サムネイルの表示方法が切り替わります。



 : 選択した記録ファイルから順に、画面に入るだけの数のサムネイルが表示されます。

 : 選択した記録ファイルに関する最初のサムネイルが1枚だけ表示されます。

メモ

サムネイルを表示したくないときは、 を表示させます。

カメラを指定して「記録データの検索」ウィンドウを開く

カメラが割り当てられているカメラモニターウィンドウを選択して  または  をクリックすると、そのカメラの記録が検索された状態で「記録データの検索」ウィンドウを開くことができます。

通常の状態では「記録データの検索」ウィンドウを開きたいときは、カメラモニターウィンドウの隙間をクリックするなどして、カメラモニターウィンドウが選択されていない状態で  または  をクリックしてください。

記録データを再生する

再生の基本操作については、第2章の「記録を再生する」(23 ページ) をご覧ください。

また、記録データの再生時に、必要に応じてタイムラプスモードに切り換えることができます。

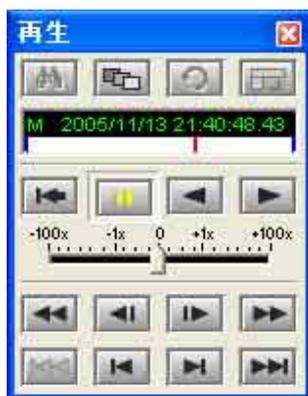
タイムラプスモード

タイムラプスモードでは、再生のフレームレートが10フレーム/秒に固定されます。

例えばタイムラプスモードは、低いフレームレート（例えば、3秒に1フレームなど）で記録された画像を再生するときに有効です。

タイムラプスモードに切り替えるには

[再生] ツールバーの  をクリックする。クリックするたびに、タイムラプスモードがオン/オフします。



メモ

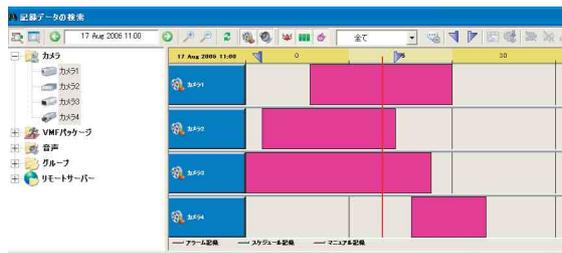
3秒に1フレームで記録された画像をタイムラプスモードで再生すると、通常の30倍の速度で画像を見ることになります。

複数カメラの記録を同時刻から再生する

複数のカメラの記録データを検索し、検索されたデータを同時に同時刻から再生できます。この機能を「同時刻スタート再生機能」と呼びます。

- 1 「記録データの検索」 ウィンドウ上部の  をクリックしてオンにする。
- 2 複数のカメラの記録データを検索し、検索結果の一覧をタイムライン表示に切り替える。
- 3 タイムライン表示上で1点をダブルクリックして時刻を指定する。

なお、複数のカメラが選択されていて、 がオンになっているときは、リスト表示上で記録をダブルクリックしても、複数のカメラの記録を同時に同時刻から再生できます。



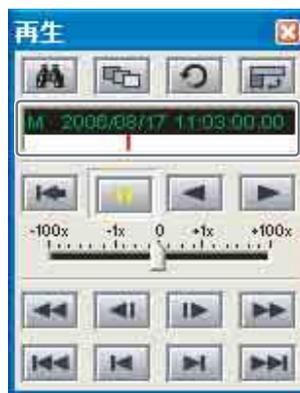
その時刻を含む記録データがメイン画面のカメラモニターウィンドウに割り当てられます。

メモ

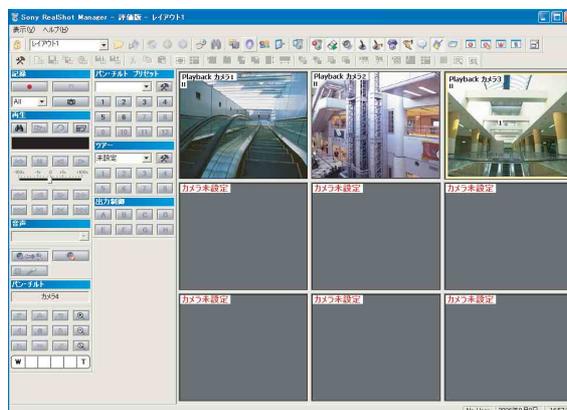
ホットスポットモニターには割り当てられません。

- 4 必要に応じて、再生時刻を指定する。

[再生] ツールバーの日時表示部をダブルクリックし、表示される「日付と時刻」ダイアログで再生時刻を指定します。



- 5 [再生] ツールバーの  をクリックする。



指定した時刻から同時に再生が開始します。

ご注意

- 再生画像は、カメラを選択した順番で、左上のカメラモニターウィンドウから順に割り付けられます。レイアウトで設定されているカメラモニターウィンドウの数よりも記録データが多い場合は、モニターウィンドウの数を越えた記録データは再生されません。
- 再生が終了しても、自動的に通常のカメラの画像に戻りません。通常のカメラの画像に戻すときは、手動で各カメラモニターウィンドウの画像をカメラの画像に切り替えてください。
- タイムライン表示の場合、カメラを選択していてもタイムラインに表示されていない記録データは、複数カメラの同時刻スタート再生の対象外となります。

VMF 検索機能

記録済みのメタデータに対して、動体／不動体の検出条件であるフィルター（VMF：Video Motion Filter）をかけて、該当する記録を検索できます。

VMF 検索には、あらかじめ設定されている VMF パッケージを使う方法と、一時的に使用する VMF パッケージを設定して行う方法があります。

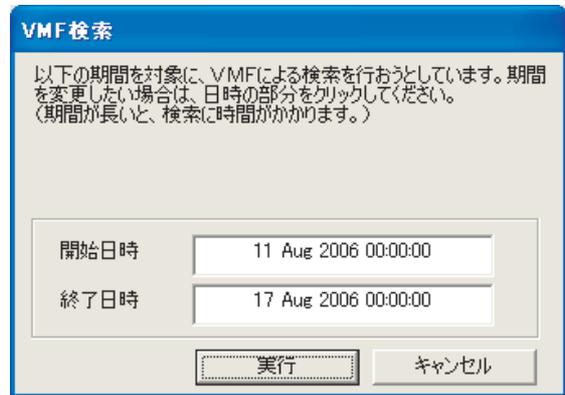
あらかじめ設定されている VMF パッケージを使って VMF 検索する

- 「記録データの検索」ウィンドウ左側のツリーで、検索に使用する VMF パッケージを選択する。



「VMF 検索」ダイアログが表示されます。

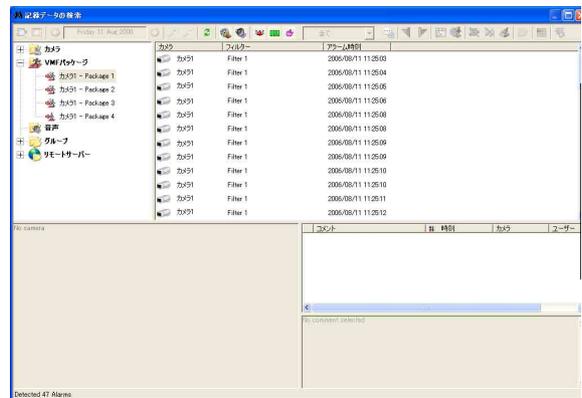
- 検索する期間を設定し、[実行] をクリックする。



検索中は、以下の画面が表示されます。



検索が終了すると、検索結果が一覧表示されます。



検索結果から記録を選択して再生してください。

メモ

- VMF 検索から記録データの再生を行う場合は、その時刻から 10 秒後までの範囲の記録データが検索され、最初に見つかったものが再生されます。
- 同一オブジェクトに対して、1 秒の間にオブジェクト ID が変化している場合、VMF 検索結果の一覧に同じ時刻のものが並ぶことがあります。

一時的に使用する VMF パッケージを使って VMF 検索する

一時的に使用する VMF パッケージを設定し、VMF 検索できます。

この一時的なパッケージは、通常の VMF パッケージとは別に1つだけ設定できます。

- 1 検索結果の一覧または VMF アラームリスト上で、記録データを右クリックし、表示されるメニューから「動体検索」または「不動体検索」を選択する。



「Video Motion Filter パッケージ設定（一時的パッケージ）」ダイアログが表示されます。

- 2 各項目を設定し、「閉じる」をクリックする。

設定項目については、「Video Motion Filter パッケージ設定」ダイアログ（139 ページ）をご覧ください。

メモ

検索結果の一覧または VMF アラームリストから「Video Motion Filter パッケージ設定」ダイアログを開いたときは、画像としては、その記録データのみが使用できます。

「VMF 検索」ダイアログが表示されます。

- 3 検索する期間を設定し、実行をクリックする。

以降は、「あらかじめ設定されている VMF パッケージを使って VMF 検索する」（71 ページ）の場合と同じです。

記録データのエクスポート

RealShot Manager では、記録データを AVI 形式のファイルに変換することができます。

メモ

- 記録データのエクスポート機能は、お使いのコンピューターにインストールされているコーデックを使用して処理されます。エクスポートした記録データが正常に再生されない場合は、別のコンピューターで再生するか、別のコーデックを選択してみてください。
- 記録データをエクスポートすると、「設定」ダイアログの「ディレクトリ設定」タブの設定に従って、ログが以下のファイル名で出力されます*。なお、デフォルトでは、RealShot Manager のインストールフォルダーの下の「Logging」フォルダーに出力されます。出力先のディレクトリは、「設定」ダイアログの「ディレクトリ設定」タブ（166 ページ）で変更できます。

最新のログファイル： Operation Log.txt

1 世代前のバックアップ： Operation Log1.txt

*最新のログファイルが1 MB に達すると、自動的にバックアップファイルにコンバートされます。なお、手動で記録データを削除したときに出力されるログ（85 ページ）も同じファイルに出力されます。

記録データを AVI ファイルとしてエクスポートする

記録データを AVI 形式のファイルに変換してエクスポートできます。ただし、音声データを AVI ファイルとしてエクスポートすることはできません。

- 1 メイン画面上部にある （記録データの検索）または「再生」ツールバーの （検索）をクリックし、「記録データの検索」ウィンドウを表示する。
- 2 エクスポートしたい記録を選択し、画面上部の （記録データのエクスポート）をクリックする。



「記録データのエクスポート」ダイアログが表示されます。

メモ

マーク・イン、マーク・アウト（122 ページ）を設定してエクスポートする記録データの開始点や終了点を変更することができます。

3 以下の項目を設定する。



エクスポート設定

作成する AVI ファイルの画像に関する設定を行います。

詳しくは、「[記録データのエクスポート] ダイアログ」（124 ページ）をご覧ください。

ビデオコーデック

[設定] をクリックし、表示されるダイアログでコーデックの設定を選択します。

[利用可能な全てのコーデックをリストする] にチェックマークを付けると、コーデックを幅広く選択できます。

出力ファイル

[参照] をクリックし、出力先とファイル名を指定します。

4 各項目を設定したら、[エクスポート] をクリックする。

ファイルが変換されます。

アクション

RealShot Manager では、アラームを検知した場合に自動的に実行できる動作が用意されています。この動作をルールとして設定します。

ルールを設定する前に、「アラーム機能」（56 ページ）をご覧ください。

RealShot Manager のアクションには、以下の特徴があります。

- I/O ボックスの1つまたは複数の入力端子の状態の変化がトリガーとなります。
- 複数の入力端子をアクションのトリガーとして選択したときは、そのいずれかの入力端子の状態が変化すると、トリガーがアクティブになります。
- トリガーがアクティブになったときにアクションが実行されます。

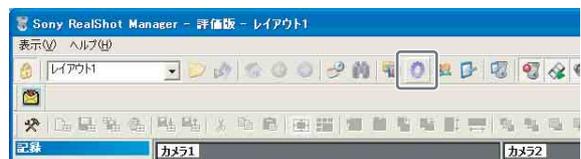
ルールの設定のしかたは、以下の項をご覧ください。

- **ルールを作成する（73 ページ）**
ルールを作成し、アクションを定義します。
- **トリガーに使用する入力端子を設定する（75 ページ）**

ルールを作成する

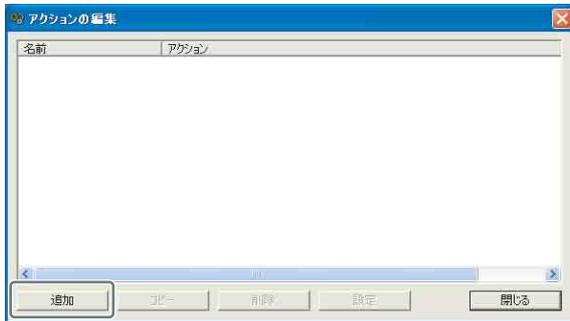
新たにルールを作成し、アクションを定義します。

- 1 メイン画面上部の （アクションの編集）をクリックする。



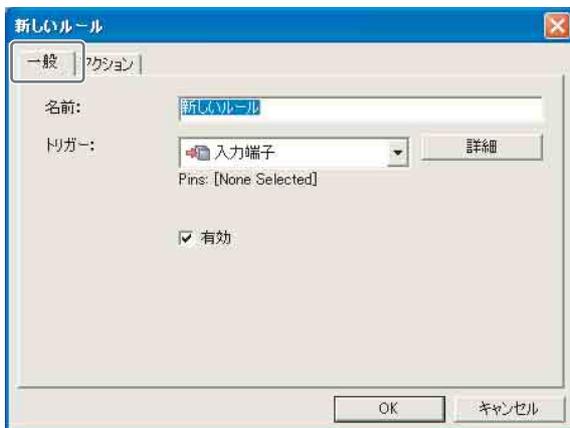
「アクションの編集」ダイアログが表示されます。

2 [追加] をクリックする。



「新しいルール」ダイアログが表示されます。

3 [一般] タブで、以下の項目を設定する。



名前

ルールの名前を入力します。

トリガー

▼をクリックし、表示される一覧から、トリガーに使う入力端子を選択します。ただし、現在は「入力端子」に限定されます。

トリガーに使う入力端子を設定するときは、[詳細] をクリックします。詳しくは、「トリガーに使用する入力端子を設定する」(75 ページ) をご覧ください。

有効

ここにチェックマークを付けます。

4 [アクション] タブをクリックし、[追加] をクリックする。



「アクション設定」ダイアログが表示されます。

5 ▼をクリックし、表示される一覧から、ルールに定義するアクションを選択し、[OK] をクリックする。



以下のアクションを選択できます。

出力端子

1つまたは複数の出力端子の状態を変更します。

カメラの切り替え

モニターウィンドウに表示するカメラを選択します (現在はホットスポットモニターのみ)。

プリセットの切り替え

カメラのプリセットを切り替えます。

カメラ設定の切り替え

カメラ設定の初期値 (間隔、画像サイズ、画質、色彩度) を変更します。

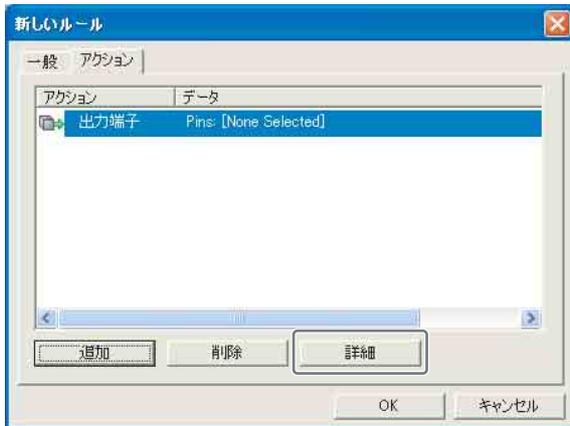
レイアウト切り替え

指定したレイアウトに切り替えます。

選択したアクションが追加されます。

6 複数のアクションを登録するときは、手順4～5を繰り返す。

- 7 アクションを詳細に設定したいときは、アクションを選択して「詳細」をクリックし、表示される「アクション設定」ダイアログで各項目を設定する。



表示されるダイアログは、アクションによって異なります。設定項目の詳細は、「「アクション設定」ダイアログ」（157 ページ）をご覧ください。

- 8 各項目を設定したら、[OK] をクリックする。
ルールが追加されます。
- 9 複数のルールを設定するときは、手順4～8を繰り返す。
ルールの設定内容を変更したいときは、[設定] をクリックします。
- 10 [閉じる] をクリックする。



ルールが作成されます。

トリガーに使用する入力端子を設定する

- 1 「新しいルール」ダイアログを表示し、[一般] タブの「詳細」をクリックする。



「トリガー設定」ダイアログが表示されます。

- 2 [入力端子] タブの [追加] をクリックする。



「入力端子を選択してください。」ダイアログが表示されます。

- 3 このルールのトリガーとして使用したい入力端子を選択し、[OK] をクリックする。



メモ

リモートサーバーの端子を選択したい場合は、最初にリモートサーバーをクリックしてください。

入力端子が追加されます。

- 4 複数の入力端子を追加するときは、手順2～3を繰り返す。
- 5 すべての入力端子を設定し、[状態]に0または1を指定して、[OK] をクリックする。



トリガーに使用する入力端子が設定されます。
入力端子の状態が [状態] で設定した値になったときにトリガーが発生します。

メール通知機能

RealShot Manager でシステムアラートやアラームが検知されると、あらかじめ指定されているメールアドレス宛に以下のような情報を電子メールで通知できます。

- ディスク残量不足（システムアラート）*
- 無信号検出（システムアラート）*
- 検出されたアラームの種類
- カメラおよび I/O ボックスの名前
- アラームのトリガーとなった端子の名前
- アラーム発生時のカメラ画像**

* システムアラートを通知するには「System IO-Box」の設定が必要です。設定方法は「システムアラート通知の設定をする」（78 ページ）をご覧ください。

** モジュール開始後約 10 秒間は、生成された電子メールに画像が添付されません。また、画像が添付されるのは、カメラからの画像の配信が JPEG のときだけです。

メール通知機能利用するには、以下の設定が必要です。

- **メール通知機能を設定する（77 ページ）**
通知先のメールアドレスなどを設定する。この設定は必ず必要です。
- **システムアラート通知の設定をする（78 ページ）**
「ディスク残量不足」や「無信号検出」の通知をするときに設定します。

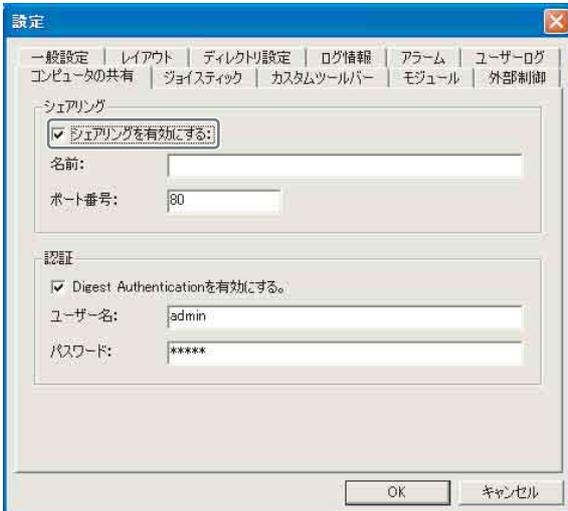
ご注意

E-mail module の設定時には、設定したメールアドレスにメールが送信されることを確認してください。また、他の設定項目が正しく設定されていることも確認してください。

メール通知機能を設定する

通知を受け取るメールアドレスを設定します。

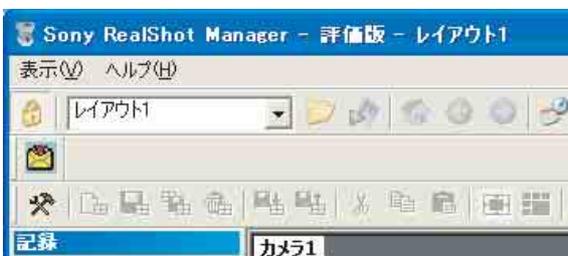
- 1 「設定」ダイアログ（165 ページ）で、[コンピュータの共有] タブの [シェアリングを有効にする] にチェックマークを付け、[OK] をクリックする。



- 2 アラームの発行をするときは該当する I/O ボックスの共有設定を、システムアラートの発行をするときはシステム I/O ボックスの共有設定を行う。

設定については、「[共有] タブ」（142 ページ）をご覧ください。

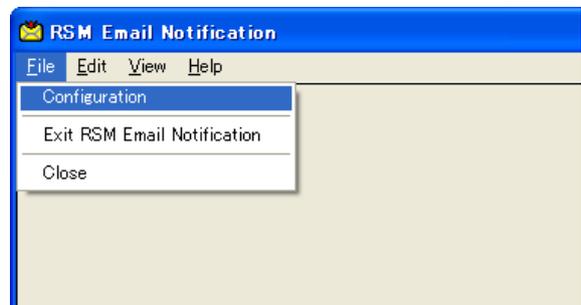
- 3 メイン画面左上の  をクリックする。



Windows のタスクトレイに  が表示されます。

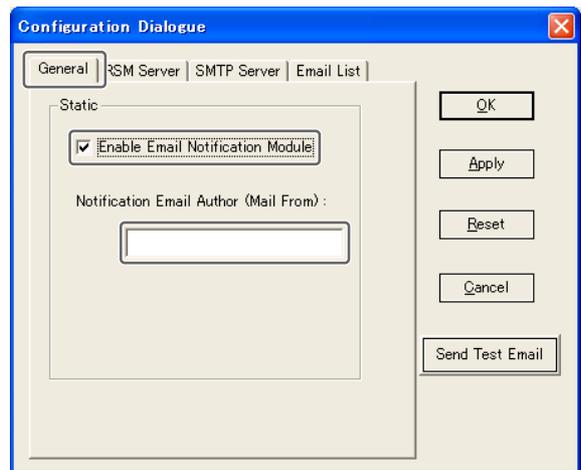
- 4 タスクトレイにある  をクリックする。
「RSM Email Notification」ウィンドウが表示されます。

- 5 [File] メニューの [Configuration] を選択する。

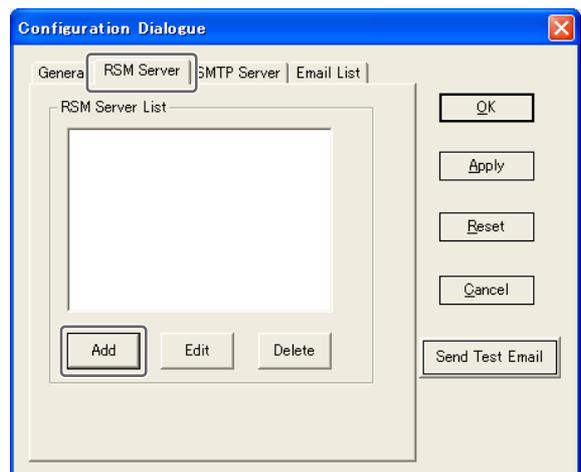


「Configuration Dialogue」が表示されます。

- 6 [General] タブで、[Enable Email Notification Module] にチェックマークを付け、[Notification Email Author (Mail From)] にメールの差出人を入力する。

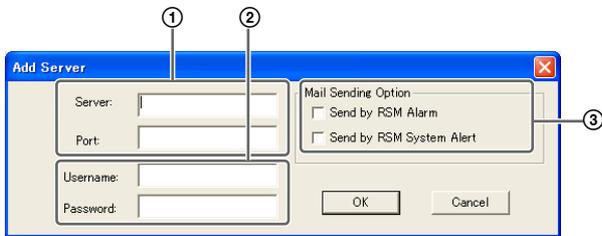


- 7 [RSM Server] タブで、[Add] をクリックする。



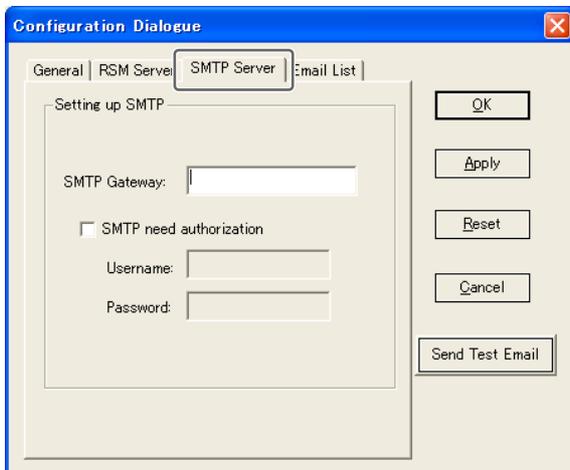
「Add Server」ダイアログが表示されます。

8 各項目を入力し、[OK] をクリックする。

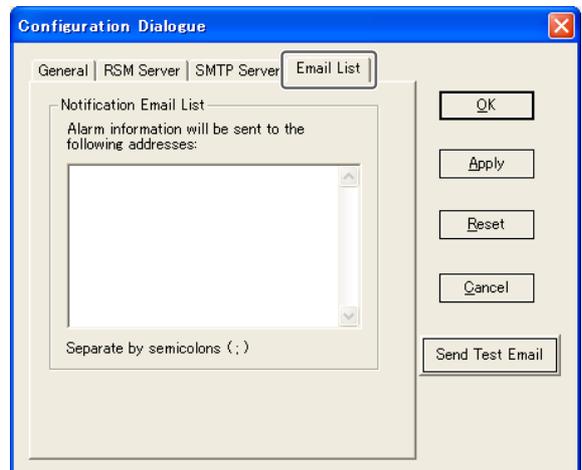


- ① サーバー（RealShot Manager が動作しているコンピュータ）のアドレスとポート番号を入力します。
- ② サーバー（RealShot Manager が動作しているコンピュータ）のログイン名とパスワードを入力します。
- ③ アラームの発行をするときは上段の「Send by RSM Alarm」に、システムアラートの発行をするときは「Send by RSM System Alert」にチェックマークを付けます。両方を選択することもできます。

9 [SMTP Server] タブで、SMTP サーバーのアドレスを入力し、必要に応じてユーザー名とパスワードを入力する。



10 [Email List] タブで、メール通知を送信するメールアドレスを入力する。



11 すべての設定が終わったら、[Send Test Email] をクリックし、設定したメールアドレス宛にメールが送信されるかテストする。

12 正しくメールが送信されることを確認したら、[OK] をクリックする。

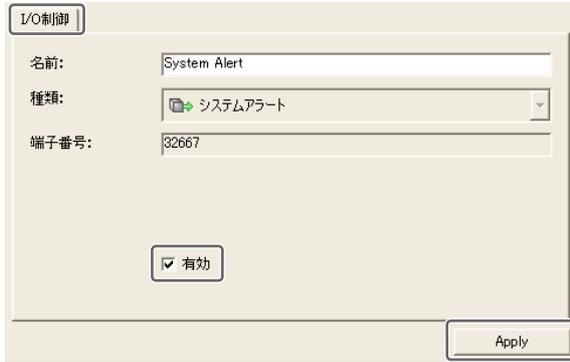
システムアラート通知の設定をする

「ディスク残量不足」や「無信号検出」を通知するには、以下の手順でシステムアラート通知の設定をする必要があります。

1 「設定管理」ウィンドウで、左側のツリーから [I/O ボックス] の [System IO-Box] を選択し、[System Alert] 端子を選択する。

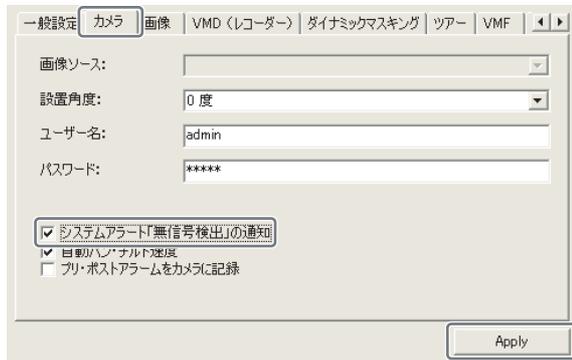


- 画面下部の [I/O 制御] タブで、[有効] にチェックマークを付け、[Apply] をクリックする。



「無信号検出」通知の設定

「設定管理」ウィンドウで、左側のツリーからカメラを選択し、画面下部の [カメラ] タブで、[システムアラート「無信号検出」の通知] にチェックマークを付け、[Apply] をクリックする。

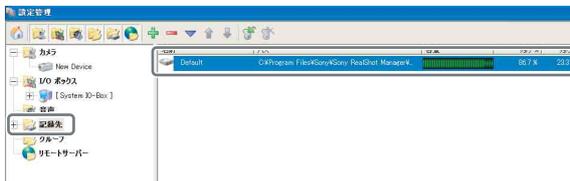


ご注意

システムアラートの「無信号検出」は、画像信号が切断されたときに発行されます。音声信号の切断は検知対象としておりません。

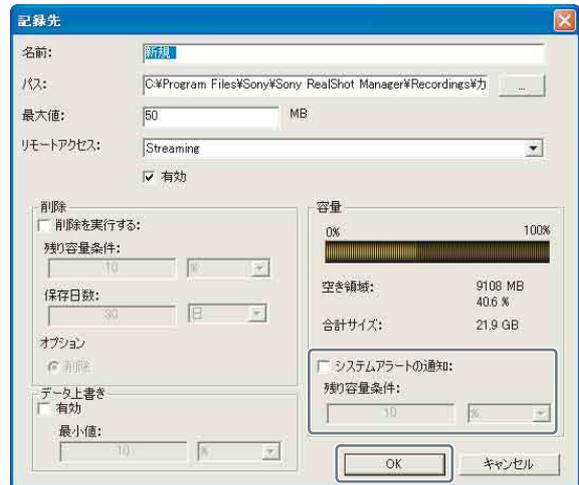
「ディスク残量不足」通知の設定

- 「設定管理」ウィンドウで、左側のツリーから記録先を選択し、一覧で通知の対象となる記録先をダブルクリックする。



「記録先」ダイアログが表示されます。

- [システムアラートの通知] にチェックマークを付け、残容量がどのくらいになったら通知するかを%またはMBで入力し、[OK] をクリックする。



ユーザー管理

RealShot Manager にユーザーを登録して、ログインや各機能を使用する権限を設定し、RealShot Manager を使用するユーザーを管理できます。

詳しくは、以下の項をご覧ください。

• ユーザーを登録する (80 ページ)

RealShot Manager にユーザーを登録し、ログインするときのパスワードや各機能を使用する権限を設定します。RealShot Manager にユーザーを登録すると、ユーザーは RealShot Manager を使用する際にユーザー名とパスワードの入力が必要になります。

• ユーザーグループを設定する (82 ページ)

ユーザーグループを設定し、ユーザーグループごとに使用できる権限を設定できます。ユーザーグループに権限を設定しておく、ユーザーをユーザーグループに追加するだけで権限を取得できます。

• 各権限の詳細について (「ユーザー管理」ダイアログ (161 ページ))

ユーザーやユーザーグループに設定できる権限の詳細を説明しています。

• RealShot Manager にログインする (83 ページ)

RealShot Manager にログインするときは、ユーザー名とパスワードの入力が必要です。

• パスワードを変更する (84 ページ)

ユーザーがログインするときのパスワードは、ユーザー自身が変更できます。

で注意

- RealShot Manager 起動時は、ユーザーが誰もログインしていない「No User」の状態です。
- 新規に RealShot Manager をインストールした直後は、No User にすべての操作権限が与えられています。ユーザー管理を行わない場合はそのまま使用します。
- 新規にユーザーを作成した場合は、No User の権限は「標準の権限」(「ユーザー管理」 - 「全般」タブ) で設定します。
- 作成したユーザーのパスワードを忘れてしまった場合、そのユーザーしか持たない権限については一切実行できなくなりますので、注意してください。
- すべてのユーザー (No User を含む) にユーザー管理権限 (User Manager) が与えられていないときは、すべてのユーザーにユーザー管理権限があるものとして動作します。
- 画面のレイアウトは、ユーザーごとに保存されていませんので、ログインしたときに画面レイアウトは変化しません。また起動後は、直前に終了したときの画面レイアウトになります。

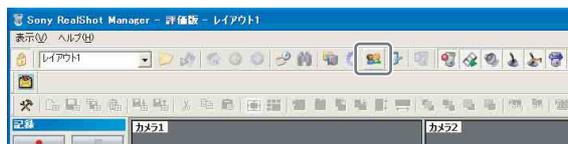
メモ

- RealShot Manager にユーザーアカウントが1つも登録されていない場合は、ログインなしですべての機能を使用できるようになっています。ユーザーアカウントを1つでも登録すると、未登録のユーザーは最小限の機能しか使えなくなります。
- カメラグループごとに、カメラを使用できるユーザーやユーザーグループを設定できます。詳しくは、「ユーザーグループを設定する」(82 ページ) をご覧ください。

ユーザーを登録する

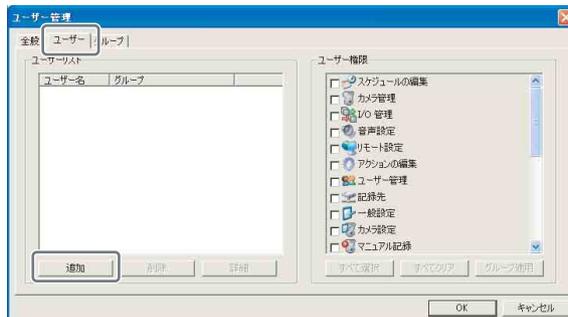
RealShot Manager を使用するユーザーを登録し、アクセス権限を設定します。

- 1 メイン画面上部の  (ユーザー管理) をクリックする。



「ユーザー管理」ダイアログが表示されます。

- 2 「ユーザー」タブをクリックし、「追加」をクリックする。



「ユーザーの情報」ダイアログが表示されます。

3 以下の項目を入力する。

ユーザー名

RealShot Manager にログインするときのユーザー名を半角英数字で入力します。

ユーザー名は、大文字、小文字は区別されません。

フルネーム名

ユーザーのフルネームを入力します。

ここに入力した名前は、情報としてのみ使用されます。

パスワード

RealShot Manager にログインするときのパスワードを半角英数字で入力します。

パスワードは、大文字、小文字が区別されます。

パスワードの確認

確認のため、同じパスワードをもう一度入力します。

有効

このユーザーを有効にするときは、ここにチェックマークを付けます。

所属するグループ

このユーザーをユーザーグループに所属させる場合は、[追加] をクリックし、表示される「グループの選択」ダイアログでユーザーグループを選択します。

メモ

ユーザーグループの設定については、「ユーザーグループを設定する」(82 ページ) をご覧ください。

4 各項目を設定したら、[OK] をクリックする。

ユーザーが追加されます。

5 [ユーザー権限] で、ユーザーに与える権限にチェックマークを付ける。

グループに追加されたユーザーは、最初はユーザーグループの権限が取得されますが、チェックマークを付ける、またははずすことにより、個別に権限を設定できます。

チェックボックスの表示は、以下の意味を示しています。

- : 権限なし
- : 権限あり
- : グループとしての権限を適用

メモ

- ユーザーグループの権限よりも、ユーザー個別に設定された権限が優先されます。そのため、所属するユーザーグループの権限とは異なる権限を持つこともあります。
- 各権限の詳細については、「[ユーザー管理] ダイアログ」(161 ページ)をご覧ください。

6 複数のユーザーを登録するときは、手順2～5を繰り返す。

7 設定が終了したら、[OK] をクリックする。

RealShot Manager にユーザーが登録されます。

ユーザーの登録内容を変更するには

[ユーザー管理] ダイアログの [ユーザー] タブで、登録内容を変更したいユーザーを選択し、[詳細] をクリックする。

ユーザーを削除するには

[ユーザー管理] ダイアログの [ユーザー] タブで、削除したいユーザーを選択し、[削除] をクリックする。

ユーザーグループを設定する

ユーザーグループを設定し、ユーザーグループごとに使用できる権限を許可したり、ユーザーグループにユーザーを所属させたりすることができます。

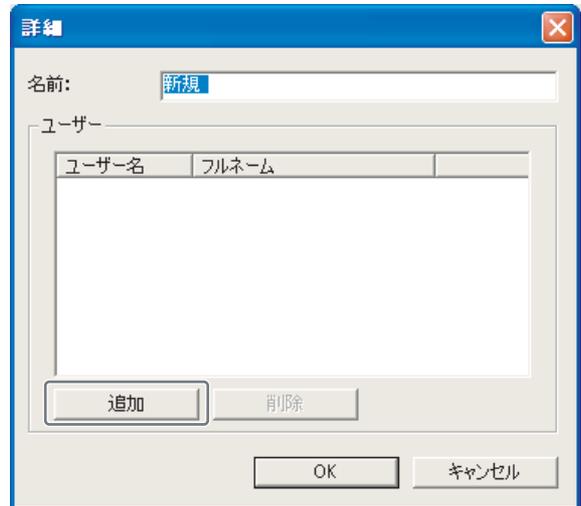
ユーザーグループに権限を設定しておくことで、ユーザーをユーザーグループに追加するだけで権限を取得できます。

1 「ユーザー管理」ダイアログを表示し、[グループ] タブの [追加] をクリックする。



「詳細」ダイアログが表示されます。

2 ユーザーグループ名を入力し、[追加] をクリックする。



「ユーザーの選択」ダイアログが表示されます。

3 ユーザーグループに所属させるユーザーを選択し、[OK] をクリックする。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のユーザーを選択することもできます。

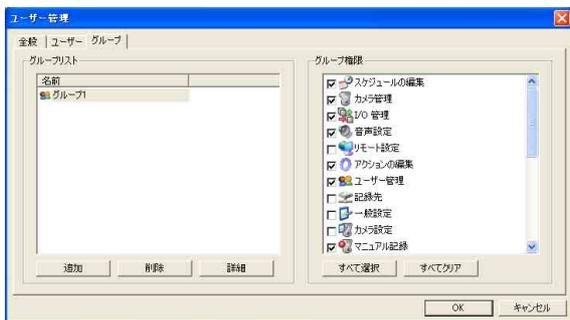


4 [OK] をクリックする。



ユーザーグループが追加されます。

5 [グループ権限] で、ユーザーグループに与える権限にチェックマークを付ける。



チェックボックスの表示は、以下の意味を示しています。

- : 権限なし
- : 権限あり

メモ

各権限の詳細については、「[ユーザー管理] ダイアログ」(161 ページ) をご覧ください。

6 複数のユーザーグループを設定するときは、手順 1～5 を繰り返す。

7 設定が終了したら、[OK] をクリックする。

ユーザーグループが設定されます。

ユーザーグループの設定内容を変更するには

[ユーザー管理] ダイアログの [グループ] タブで、設定内容を変更したいユーザーグループを選択し、[詳細] をクリックする。

ユーザーグループを削除するには

[ユーザー管理] ダイアログの [グループ] タブで、削除したいグループを選択し、[削除] をクリックする。

RealShot Manager にログインする

RealShot Manager にユーザーを登録すると、ユーザーが RealShot Manager を使用する際にログインが必要になります。また、ユーザーがログインするときのパスワードは、ユーザー自身で変更できます。

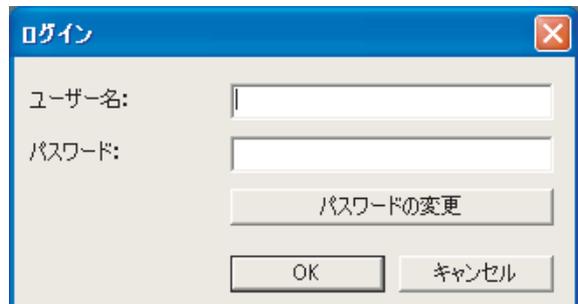
RealShot Manager にログインする

1 メイン画面左上の (ログイン) をクリックする。



「ログイン」ダイアログが表示されます。

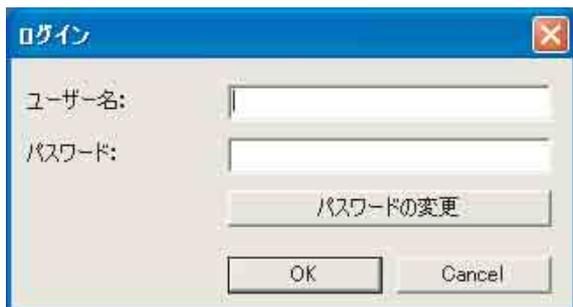
2 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。



RealShot Manager にログインします。

パスワードを変更する

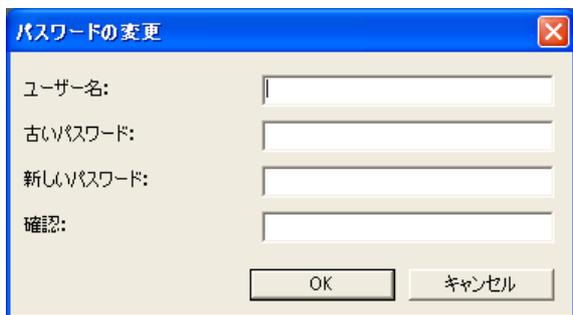
- 1 「ログイン」ダイアログで、「パスワードの変更」をクリックする。



「パスワードの変更」ダイアログが表示されます。

- 2 ユーザー名と古いパスワード、新しいパスワードを入力し、「OK」をクリックする。

「確認」には、新しいパスワードをもう一度入力します。



パスワードが変更されます。

記録データの削除

カメラや音声装置、記録先に保存されている記録データを削除するには、以下の方法があります。

- **手動で削除する (85 ページ)**
カメラや音声装置に保存されている記録データを手動で削除できます。
- **削除条件を登録して常に自動的に削除する (クリーンアップ、データ上書き) (86 ページ)**
記録先ごとにディスクの残り容量や記録データの保存日数を設定し、自動的に削除できます。
 - **クリーンアップ**
経過日数を超えたデータを削除する機能です。
 - **データ上書き**
ディスクの空き容量を確保しておくために、経過日数に関係なく、古いデータから削除する機能です。
- **スケジュールを設定して指定した時間に削除する (クリーンアップ) (86 ページ)**
保存されている記録データをデバイスごとに自動的に削除するスケジュールを設定できます。

メモ

リモートサーバーの記録データもクリーンアップ機能を使って削除できます。なお、リモートサーバーの記録データは、「記録データの検索」ウィンドウから手動で削除することはできません。

ご注意

- クリーンアップでは、記録データは削除されますが、コメントは削除されません。コメントを削除したいときは、「記録データの検索」ウィンドウの  (コメントの消去) を使って削除してください。
- クリーンアップ機能を使って記録データを削除する場合、削除条件で指定できる最低単位が1日であるため、少なくとも1日分以上の記録を保存できるディスク容量が必要です。ディスク容量が1日分に満たない場合は、クリーンアップが実行されないうちに、空き容量がなくなり、記録できなくなります。
また、最低1日分の記録データを残しておきたい場合は、2日分以上のディスク容量が必要です。
なお、記録データの容量は、以下の計算式で算出できます。

$$\text{画像1枚の容量} \times \text{fps (フレーム/秒)} \times \text{時間 (秒)} \\ \times \text{カメラの台数}$$

例) 2台のカメラで圧縮レベル5のVGAサイズの画像(30 K バイト)を30 fpsで24時間記録する場合の1日の記録データ容量

$$30 \text{ (K バイト)} \times 30 \text{ (fps)} \times (60 \times 60 \times 24) \times 2 = 15.5 \text{ GB}$$

※ 上記の数値は概算であり、撮影場所や状況により画像サイズは異なります。

- データ上書き機能が設定されているとき、再生中のファイルが削除対象になった場合は、再生が停止し、ファイルが削除されます。

手動で削除する

手動で記録データを削除するときは、「記録データの検索」ウィンドウで行います。手動で記録データを削除するには、以下の方法があります。

- 記録データを指定して削除する
- 条件を指定して削除する

メモ

手動で記録データを削除したときは、「設定」ダイアログの「ディレクトリ設定」タブの設定に従って、ログが以下のファイル名で出力されます。なお、デフォルトでは、「Logging」フォルダーに出力されます。出力先のディレクトリは、「設定」ダイアログの「ディレクトリ設定」タブ(166 ページ)で変更できます。

- 記録データを指定して手動で削除した場合**
 - 最新のログファイル: Operation Log.txt *
 - 1世代前のバックアップ: Operation Log1.txt *
 - 条件を指定して指定して手動で削除した場合**
 - 最新のログファイル: Operation Log.txt *
 - DeletedFiles Log.txt **
 - 1世代前のバックアップ: Operation Log1.txt *
 - DeletedFiles Log1.txt **
- * 最新のログファイルが1 MBに達すると、自動的にバックアップファイルにコンバートされます。なお、記録データをエクスポートしたときに出力されるログ(72ページ)も同じファイルに出力されます。
- ** 削除されたファイルに関するログです。最新のログファイルが1 MBに達すると、自動的にバックアップファイルにコンバートされます。バックアップは、最大9世代前まで保存されます。

記録データを指定して手動で削除する

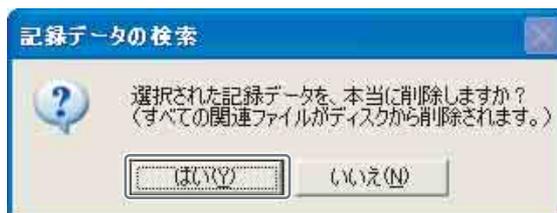
- メイン画面上部にある  (記録データの検索) または [再生] ツールバーの  (検索) をクリックし、「記録データの検索」ウィンドウを表示する。

- 削除したい記録データを選択し、画面上部の  (記録データの削除) をクリックする。



確認のメッセージが表示されます。

- [はい] をクリックする。



記録データが削除されます。

条件を指定して手動で削除する

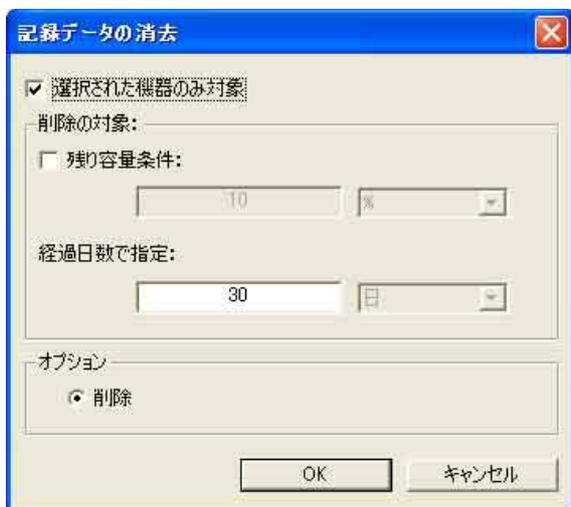
- メイン画面上部にある  (記録データの検索) または [再生] ツールバーの  (検索) をクリックし、「記録データの検索」ウィンドウを表示する。
- 左側のツリーで記録を削除したいカメラや音声装置を選択し、画面上部の  (記録データの消去) をクリックする。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラや音声装置を選択することもできます。



「記録データの消去」ダイアログが表示されます。

3 以下の項目を設定し、[OK] をクリックする。



各項目について詳しくは、「記録データの消去」ダイアログ（125 ページ）をご覧ください。

削除条件を登録して常に自動的に削除する（クリーンアップ、データ上書き）

ディスクの空き容量を確保しておくために、記録先ごとにディスクの残り容量や記録データの保存日数を設定し、削除条件を満たした時点で自動的に削除できます。

- 1 メイン画面上部の （設定管理）をクリックし、「設定管理」ウィンドウを表示する。
- 2 記録データの自動削除を設定したい記録先をダブルクリックし、「記録先」ダイアログを表示する。
- 3 削除条件を設定し、[OK] をクリックする。

① クリーンアップの場合

[削除を実行する] にチェックマークを付け、削除を実行する条件を設定します。

② データ上書きの場合

[有効] にチェックマークを付け、ディスクの残容量を%またはMB単位で入力します。



各設定項目について詳しくは、「記録先」ダイアログ（151 ページ）をご覧ください。

ご注意

クリーンアップは、ディスクの残り容量が指定された容量より少なくなっても、指定された保存日数以上経過したデータがなければ実行されません。

スケジュールを設定して指定した時間に削除する（クリーンアップ）

保存されている記録データを自動的に削除するスケジュールを設定できます。

ご注意

- 自動削除スケジュールでは、「開始時刻」に1回だけクリーンアップが実行されます。また、複数の自動削除スケジュールを設定している場合で、1つ目の自動削除の「終了時刻」が次の自動削除の「開始時刻」と同時刻の場合は、1つの自動削除スケジュールとみなされ、2つ目の「開始時刻」になっても自動削除は実行されません。
- クリーンアップの実行中に終了時刻が来ても、クリーンアップが中断されることはありません。
- 毎日クリーンアップを行いたい場合は、各曜日に1つ自動削除スケジュールを設定してください。ただし、次のスケジュールとの間は必ず1秒以上空けるようにしてください。
- クリーンアップは、設定した開始時刻に始まります。そのため、現在時刻をまたぐようにして開始時刻と終了時刻を設定しても、今すぐには実行されません。次の開始時刻がきたときに実行されます。
- 記録とクリーンアップを並行して実行している場合、ディスクのI/Oの負荷状況によっては、フレームが記録されずに落ちてしまうことがあります。クリーンアップは記録の負荷が軽いときに行ってください。

- 1 メイン画面上部の (スケジュール作成) をクリックし、「スケジュールの編集」ウィンドウを表示する。
- 2 画面左側のツリーで、記録を自動削除を設定したいカメラまたはグループを選択する。
- 3 画面左上の (週単位の表示) または (リスト表示) をクリックする。

繰り返しの自動削除スケジュールを設定するときは (週単位の表示) を、日時指定の自動削除スケジュールを設定するときは (リスト表示) をクリックします。

- 4 画面上部の (定期的な自動消去) をクリックする。



画面下部にスケジュールを設定する画面が表示されます。

- 5 [記録データの削除] タブで、記録を削除する条件を設定する。

開始時間や終了時間など、そのほかの設定は、通常記録のスケジュールと同じです。

[記録データの削除] タブの設定項目の詳細は、「[記録データの削除] タブ」(119 ページ) をご覧ください。

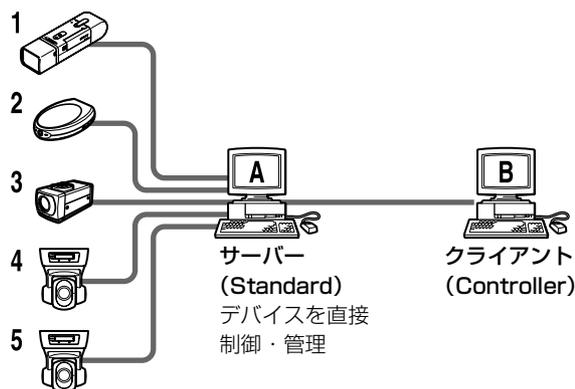


- 6 複数の自動削除スケジュールを設定するときは、手順3～5を繰り返す。
- 7 すべての自動削除スケジュールを設定したら、 (スケジュールの反映) をクリックする。

自動削除スケジュールが設定されます。

サーバー・クライアント

ネットワーク接続されているコンピューターに RealShot Manager をインストールして、次のようなサーバーとクライアントのシステムを構成し、それぞれのコンピューターでモニターするカメラや記録データを共有することができます。また、1台のサーバーを複数のクライアントで共有したり、複数のサーバーを1台のクライアントで制御することも可能です。



- 画像や音声などの記録データは、サーバーに保存されます。

サーバーとクライアントのシステムにおける各 RealShot Manager の役割と必要な設定は、以下のようになります。

- **Standard (本体)**
サーバーとして動作します。
クライアントからの操作を許可するために、コンピューターの共有設定 (169 ページ) およびカメラの共有設定 (142 ページ) を行ってください。
- **Controller (コントローラー)**
クライアントとして動作します。
リモートサーバーに共有するサーバーを登録 (34 ページ) して使用してください。

ご注意

クライアント (Controller) からサーバー (Standard) への接続、または RealShot Manager の API を使用したサードパーティ製のアプリケーションからサーバー (Standard) への接続にプロキシを経由する場合は、Microsoft Windows 標準のプロキシを使用してください。ほかのプロキシサーバーの使用はサポートしていません。

クライアントでサムネイルを表示させるには

サーバーに保存されている記録データのサムネイルをクライアントで表示させるには、以下の設定が必要です。

- 1 サーバーとして動作するコンピューターの記録先フォルダーを、クライアントとして動作するコンピューターから共有できるように共有設定する。

その際、Windowsの共有設定で指定する共有名は、RealShot Managerの「設定管理」ウィンドウの「記録先」で設定した名前と同じ名前を設定してください。例えば、RealShot Managerの記録先の名前をデフォルトの「Default」のままにしている場合は、Windowsの共有設定で指定する共有名も「Default」にしてください。

- 2 クライアントとして動作するコンピューターで、記録先フォルダーをネットワークドライブに割り当てる。

クライアント (Controller) のローカルにマップした「マップカメラ」について

クライアントからカメラを見た場合、リモートサーバー側のカメラは実際の物理的なカメラ（リモートカメラ）になりますが、クライアントのローカルにマップしたカメラは「論理的なカメラ」となります。RealShot Managerでは、クライアントのローカルにマップした論理的なカメラを「マップカメラ」と呼びます。

- マップカメラは、リモートカメラとは異なるカメラとして扱われるため、マップカメラの設置角度には、リモートカメラの設置角度が適用されません。サーバー側から送られてくる画像の状態が、マップカメラの設置角度の0度の向きに相当します。そのため、マップカメラの設置角度を変更しても、リモートカメラの画像にはまったく影響ありませんが、リモートカメラ設置角度を変更した場合は、マップカメラの画像の向きが変わります。
- マップカメラを用いてクライアントコンピューターのストレージに記録したい場合は、記録先の設定を行う必要があります。記録先の設定をしていない場合は、サーバー側に記録されます。
- マニュアル記録時の「MAN REC」と「SRV MAN REC」の表示は、操作手順によって異なります。この場合、実際にマップカメラで記録が行われていることを確認するには、「記録データの検索」ウィンドウから該当するマップカメラの記録データを参照してください。

で注意

マップカメラでは、VMFに関する機能をサポートしていません。また、マップカメラが登録されていると、リモートカメラの表示においてもVMFに関する表示が行われない場合があります。VMFを使用したい場合は、マップカメラは登録しないでください。

Generic Camera

本バージョンのRealShot Managerでは、カメラの登録時にカメラから各種情報を取得し、その情報を元に接続される「Generic Camera」を使用できます。Generic Cameraでは情報の取得方法や制御方法が統一されていますので、Generic Cameraに対応しているカメラであれば今後発売されるカメラでもお使いいただけます。

メモ

本バージョンのRealShot Managerでは、Generic Cameraバージョン1に対応しています。

Generic Cameraを使用するときの流れ

Generic Cameraの登録/設定は、Generic Camera以外のカメラの手順と少し異なり、まず使用する機能の組み合わせを選択し、その後各種設定を行います。機能の組み合わせを選択した時点で、自動的に各項目で設定できる値の範囲が決まります。そのため、運用に合わせた機能の組み合わせを選択することが重要になります。

1 Generic Cameraを登録する



2 使用する機能の組み合わせを選択する



3 各設定画面で、必要な設定を行う



4 運用を開始する

で注意

- 機能の組み合わせによっては、設定可能な値の範囲や項目が変わります。必ず運用に合わせた設定を行ってください。
 - 例1) あるコーデックを使用すると動体検知ができない場合、そのコーデックを使用する組み合わせを選択すると、動体検知の設定ができなくなります。
 - 例2) 設定可能な値の範囲が1～50の機能を使用する組み合わせを選択した場合、カメラで設定可能な値の範囲が1～100であっても、各設定画面で選択できる範囲は1～50になります。
- 必ず使用する機能の組み合わせを選択してから、各種設定を行ってください。設定を始めてから機能の組み合わせを選択したり変更すると、設定可能な値の範囲が変わ

り、先に設定した内容が別の値に変更されてしまう可能性があります。

例) 設定可能な値の範囲が1～100で70に設定し、その後組み合わせを変更したところ、設定可能な値の範囲が1～50に変わってしまい、設定値が25に変更されてしまった。

- 設定を変更した後は、必ず運用前に全設定を確認してください。変更した値が設定可能範囲内であれば問題ありませんが、範囲外の場合は自動的に範囲内の値に変更されます。
- カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録には対応していません。

Generic Cameraを登録／設定する

Step 1

Generic Cameraを登録する

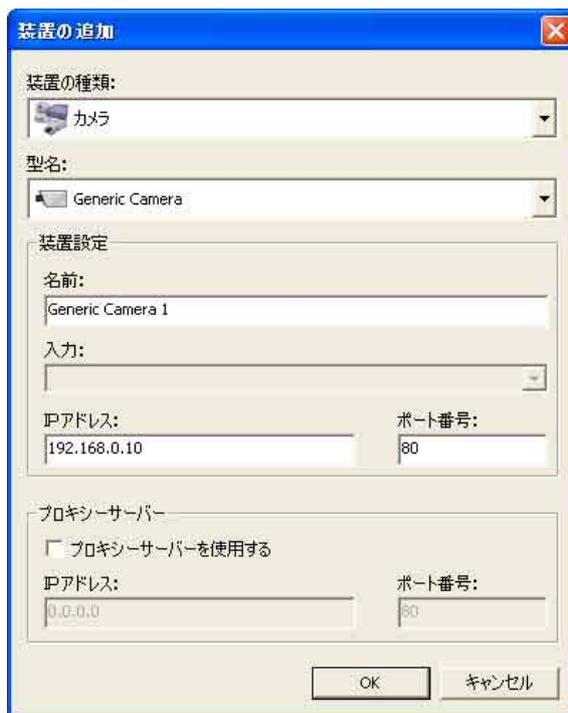
Generic Cameraを登録するときは、カメラとの通信が可能な状態である必要があります。

- 1 「設定管理」ウィンドウ上部の  (装置の追加) をクリックする。

「装置の追加」ダイアログが表示されます。

- 2 「装置の種類」で [カメラ] を、[型名] で [Generic Camera] を選択して、各項目を設定し、[OK] をクリックする。

[IPアドレス] など、その他の項目はほかのカメラと同様に設定します。各設定項目については、「[装置の追加] ダイアログ」(129ページ)をご覧ください。



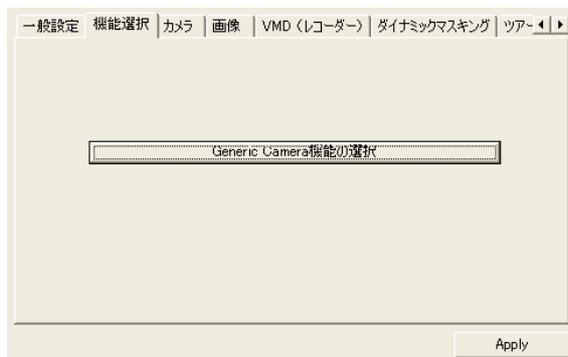
指定したIPアドレスのカメラに接続され、各種情報が取得されると、カメラの一覧に追加されます。

Step 2

使用する機能の組み合わせを選択する

選択した順番に残りの選択肢が絞り込まれていきますので、使用したい機能の優先順に上の行から選択してください。優先順位を考えずに選択していくと、目的の機能や値が設定できなくなる可能性があります。

- 1 画面左側のツリーで、Generic Cameraを選択する。
- 2 「設定管理」ウィンドウ下部にある [機能選択] タブをクリックし、[Generic Camera 機能の選択] をクリックする。

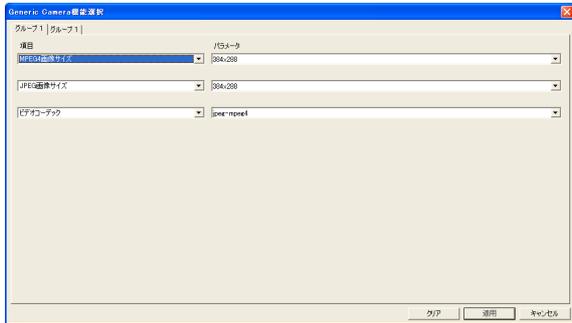


「Generic Camera 機能の選択」ダイアログが表示されます。

- 3 上から順に1行ずつ機能の組み合わせを選択し、[適用]をクリックする。

選択済みの行を変更すると、それより下の行が未選択の状態に戻ります。

ここで選択した組み合わせによって、各設定画面で設定できる値の範囲が決まりますので注意してください。



項目

▼をクリックし、表示される一覧から、設定したい機能を選択します。

パラメータ

▼をクリックし、表示される一覧から、設定値を選択します。

ご注意

組み合わせを考慮する必要がある機能群ごとに、グループ（タブ）に分けられています。カメラの登録時は、すべてのグループを設定してください。

メモ

項目を選択した順番やパラメータによって、残りの選択肢が絞り込まれ、次の行で選択できる項目や値が変動します。

Step 3

各設定画面で、必要な設定を行う

設定方法は Generic Camera 以外のカメラと同様です。

Step 4

運用を開始する

メモ

カメラのファームウェアが更新されたときなど、カメラ側の情報に変更があったときは、[一般設定] タブで [Generic Camera 情報の再取得] をクリックし、カメラの情報を再取得してください。更新により設定できる値の範囲が変更されることがあります。その場合は設定が変更されたことを通知するメッセージが表示されますので、必ず全設定をチェックし、適切な値が設定されているか確認してください。

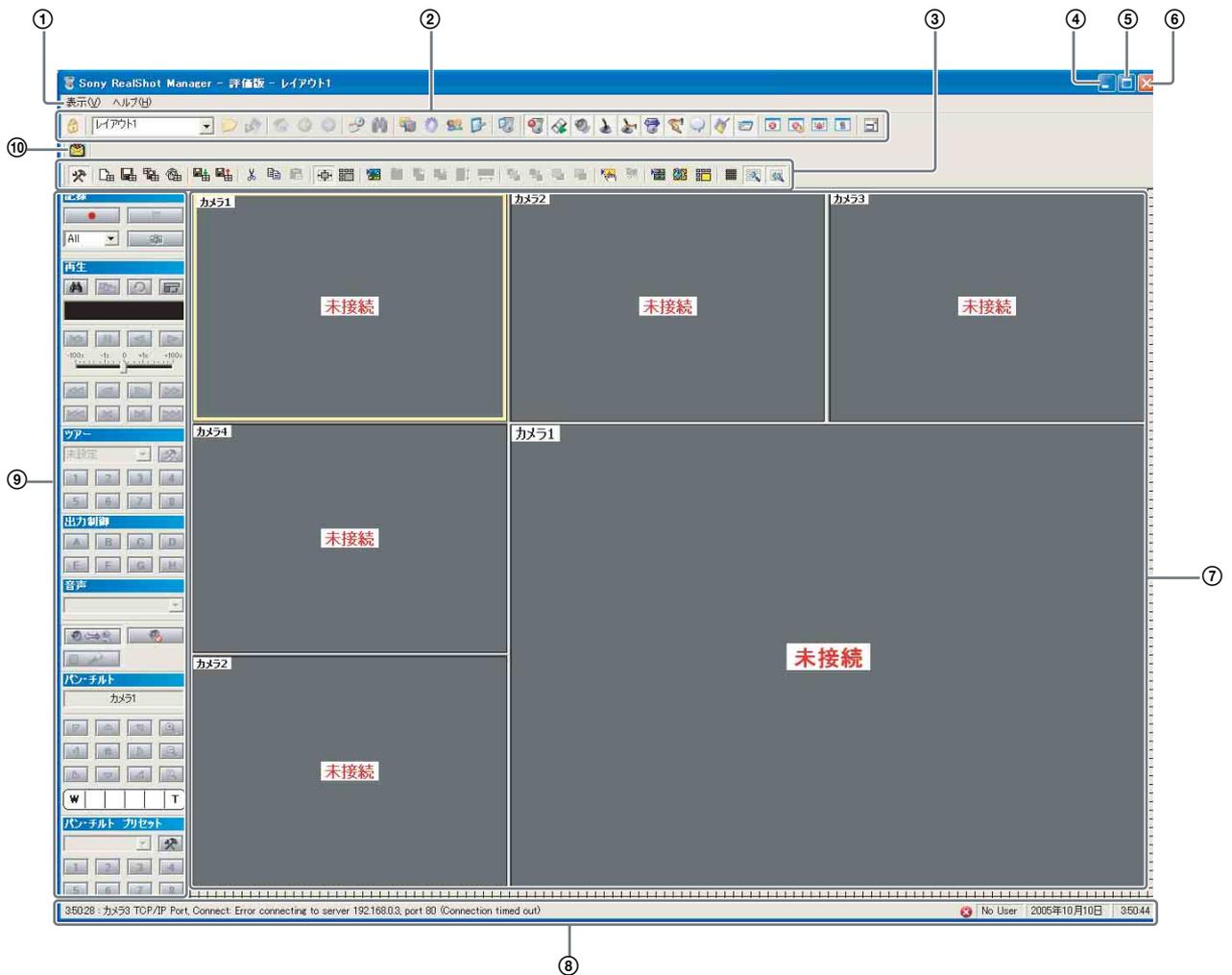


Generic Camera の注意・制限事項

- Generic Camera の I/O ボックスや音声装置を登録するときは、Generic Camera を登録した後に、ドラッグ&ドロップで登録してください。また、I/O ボックスや音声装置は、カメラと同じ名称にしてください。
- Generic Camera に対して、以下の範囲で対応しています。
 - コーデック
 - JPEG と MPEG4 のみに対応しています。
 - 画像サイズ
 - 以下の制限があります。
 - 横方向：1,280 ピクセル以下
 - 縦方向：960 ピクセル以下
 - (縦長は不可)
 - フレームレート
 - 30 fps まで対応しています。
 - 画質
 - JPEG の場合：カメラの画質が n レベルで構成されている場合、0～100%に1～n レベルが割り当てられます。
 - MPEG4 の場合：本ソフトウェアの許容範囲は 2,048 kbps までです。カメラの設定可能範囲と 2,048 kbps までの値のうち、小さいほうが 0～100%に割り当てられます。
 - カラーレベル
 - Video Motion Detection (カメラ)
 - 検知枠数は最大4つまでになります。
 - 動体/不動体検知メタデータ
 - I/O ボックス
 - 入力端子、出力端子とも最大16端子まで割り当てできます。
 - 音声装置
 - プリセット位置
 - 最大64個まで設定できます。

メイン画面

RealShot Manager を起動したときに表示される画面です。



① メニューバー

メイン画面に表示させる項目やバージョン情報などを選択できます。
メニューについては、「メニューバー」(92 ページ)をご覧ください。

② メインツールバー

各種ウィンドウや機能別ツールバーを表示したり、レイアウトを選択したりするときに使います。
アクセス権限により、使用できるボタンが異なります。各ボタンの使いかたについては、「メインツールバー」(93 ページ)をご覧ください。

③ レイアウトツールバー

モニターウィンドウのレイアウトを作成したり、変更したりするときに使います。左端の (編集モード) をクリックすると、レイアウト編集モードになり、各ボタンが使えるようになります。各ボタンの使いかたについては、「メインツールバー」(93 ページ) をご覧ください。

④ 最小化ボタン

画面を最小化し、タスクトレイに格納します。

⑤ 最大化ボタン

画面を最大化します。もう一度クリックすると、元の大きさに戻ります。

⑥ 閉じるボタン

RealShot Manager を終了します。

⑦ モニターウィンドウ

カメラの画像を表示したり、記録を再生するときに使います。

カメラモニターウィンドウごとに、画像を表示するカメラを指定できます。

ホットスポットモニターとして大きいカメラモニターウィンドウを設定すると、選択したカメラモニターウィンドウと同じ画像を大きく表示することができます。

⑧ ステータスバー

アプリケーションの現在の状況やエラーについてのメッセージが表示されます。「ステータスバー」(101 ページ) をご覧ください。

⑨ 機能別ツールバー

各種操作をしたり、設定をしたりするときに使います。各ツールバーの使いかたについては、「機能別ツールバー」(96 ページ) の各項目をご覧ください。

⑩ カスタムツールバー

外部アプリケーションを利用するときに使います。各ツールバーの使いかたについては、「カスタムツールバー」(94 ページ) をご覧ください。

ご注意

外部アプリケーションが登録されていないときは無効となります。

メニューバー

【表示】メニュー

メイン画面に表示させる項目やツールバーの表示／非表示を選択できます。

表示(U)	ヘルプ(H)
フルスクリーン	Shift+Enter
▼メニューバー	Shift+F11
▼ツールバーのタイトル	
▼メインツールバー(M)	
▼記録ツールバー(R)	
▼再生ツールバー	
▼音声ツールバー	
▼パン・チルトツールバー(P)	
▼プリセットツールバー	
▼ツアーツールバー	
▼出力制御のツールバー表示(O)	
コメントツールバー	
▼レイアウトツールバー(L)	
▼カスタムツールバー	
再生ツールバー	▶
コメントツールバー	▶
▼ステータスバー(S)	

【ヘルプ】メニュー

RealShot Manager のバージョン情報および動作状況を表示します。

ヘルプ(H)
バージョン情報(A)

メインツールバー



(ログイン)

RealShot Manager にログインするための「ログイン」ダイアログ（104 ページ）を表示します。

ご注意

ユーザーが登録されていないときは無効となります。



 をクリックし、表示される一覧から、モニターウィンドウのレイアウトを選択できます。

(レイアウトを開く)

レイアウトを選択するための「レイアウトの選択」ダイアログ（111 ページ）を表示します。

(レイアウト自動切り替え)

レイアウトの自動切り替えを有効にします。

(デフォルトレイアウト)

デフォルトレイアウトに切り替えます。
デフォルトレイアウトは、「設定」ダイアログの [レイアウト] タブ（165 ページ）で設定できます。

(前のレイアウト)

前のレイアウトに切り替えます。

(次のレイアウト)

次のレイアウトに切り替えます。

(スケジュール作成)

スケジュールを作成したり、編集したりするための「スケジュールの編集」ウィンドウ（115 ページ）を表示します。

(記録データの検索)

記録を検索するための「記録データの検索」ウィンドウ（120 ページ）を表示します。

メモ

カメラが割り当てられているカメラモニターウィンドウを選択して、このボタンをクリックすると、そのカメラの記録が検索された状態で「記録データの検索」ウィンドウが

開きます。通常の状態ですべての「記録データの検索」ウィンドウを開きたいときは、カメラモニターウィンドウの隙間をクリックするなどして、カメラモニターウィンドウが選択されていない状態でボタンをクリックしてください。

(設定管理)

カメラやその他の装置の登録や設定を行うための「設定管理」ウィンドウ（126 ページ）を表示します。

(アクションの編集)

各機器の状態変化を検知したときの RealShot Manager の行動（アクション）ルールを作成／変更するための「アクションの編集」ダイアログ（155 ページ）を表示します。

(ユーザー管理)

RealShot Manager を利用するユーザーの登録やアクセス権限の設定、ユーザーグループの設定を行うための「ユーザー管理」ダイアログ（161 ページ）を表示します。

ご注意

ユーザー管理（80 ページ）を行っている場合、RealShot Manager を終了できるのは、「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーだけになります。ユーザー管理を行っている場合は、「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーでログインしてから終了してください。「アプリケーションの終了」権限が与えられているユーザーがいない場合は、RealShot Manager を終了できませんので注意してください。

(設定)

RealShot Manager の設定を行うための「設定」ダイアログ（165 ページ）を表示します。

(カメラの設定)

選択したカメラモニターウィンドウに割り当てられているカメラの設定を変更するための「カメラ設定」ダイアログ（130 ページ）を表示します。

(記録ツールバーの表示)

[記録] ツールバー（96 ページ）の表示／非表示を切り替えます。

 (再生ツールバーの表示)

[再生] ツールバー (96 ページ) の表示／非表示を切り替えます。

 (音声ツールバーの表示)

[音声] ツールバー (98 ページ) の表示／非表示を切り替えます。

 (パン・チルト ツールバーの表示)

[パン・チルト] ツールバー (98 ページ) の表示／非表示を切り替えます。

 (プリセットツールバーの表示)

[パン・チルト プリセット] ツールバー (99 ページ) の表示／非表示を切り替えます。

 (ツアーツールバーの表示)

[ツアー] ツールバー (99 ページ) の表示／非表示を切り替えます。

 (出力制御ツールバーの表示)

[出力制御] ツールバー (100 ページ) の表示／非表示を切り替えます。

 (コメントツールバーの表示)

[コメント] ツールバー (100 ページ) の表示／非表示を切り替えます。

 (レイアウトツールバーの表示)

レイアウトツールバー (95 ページ) の表示／非表示を切り替えます。

 (カスタムツールバーの表示)

外部アプリケーションを起動するためのカスタムツールバー (94 ページ) の表示／非表示を切り替えます。

で注意

外部アプリケーションが登録されていないときは無効となります。

 (ログ情報)

最近のログメッセージが表示される「ログ」ウィンドウ (177 ページ) を表示します。

 (ログの設定)

記録されたログを修正するための「ログの設定」ダイアログ (178 ページ) を表示します。

 (アラームウィンドウ)

最近のアラーム情報が表示されるアラームウィンドウ (176 ページ) を表示します。

 (ユーザーウィンドウ)

ユーザーのログイン行動が表示されるユーザーウィンドウ (177 ページ) を表示します。

 (フルスクリーン)

RealShot Manager の画面をコンピュータのディスプレイいっぱいに表示します。もう一度クリックすると、通常表示に戻ります。

カスタムツールバー

外部アプリケーションを起動するために使います。外部アプリケーションは、「設定」ダイアログの [カスタムツールバー] タブ (170 ページ) で追加できます。

 (Email Notification)

アラームが発生したときにメールで通知する「E-mail module」を起動します。

「E-mail module」については、「メール通知機能」 (76 ページ) をご覧ください。

レイアウトツールバー

モニターウィンドウのレイアウトを作成したり、変更したりするときに使います。



(編集モード)

レイアウト編集モードになり、各ボタンが使えるようになります。

(新規レイアウトの作成)

新規レイアウトに名前を付けるための「新規」ダイアログ (105 ページ) を表示します。

(レイアウトの保存)

作成／編集したレイアウトを保存します。

(名前をつけて保存)

作成／編集したレイアウトを別名で保存します。

(レイアウトの削除)

表示されているレイアウトを削除します。

(レイアウトのインポート)

レイアウトをインポートするための「レイアウトのインポート」ダイアログ (114 ページ) を表示します。

(レイアウトのエクスポート)

レイアウトをファイルとしてエクスポートするための「レイアウトのエクスポート」ダイアログ (114 ページ) を表示します。

(切り抜き)

選択したオブジェクトを切り抜きます。

(コピー)

選択したオブジェクトをコピーします。

(貼り付け)

コピーしたオブジェクトを貼り付けます。

(自動でサイズを調整)

モニターウィンドウのオブジェクトの大きさを自動的に調整します。

(レイアウトの作成)

モニターウィンドウを設定するための「レイアウトの作成」ダイアログ (105 ページ) を表示します。

(画像の挿入)

画像を挿入するための「画像の挿入」ダイアログ (111 ページ) を表示します。

(画像を編集)

選択した画像を編集するための「画像を編集」ダイアログ (112 ページ) を表示します。

(右へ 90 度回転)

画像を時計回りに 90 度回転します。

(左へ 90 度回転)

画像を反時計回りに 90 度回転します。

(画像の上下反転)

画像を上下対象に反転します。

(画像の左右反転)

画像を左右対称に反転します。

(最前面へ移動)

選択した画像を最前面に移動します。

(最背面へ移動)

選択した画像を最背面に移動します。

(背面へ移動)

選択した画像を背面に移動します。

(前面へ移動)

選択した画像を前面に移動します。

(アクションの追加)

アクションを挿入するための「アクションの追加」ダイアログ (113 ページ) を表示します。

(アクションの編集)

アクションを編集するための「アクションの編集」ダイアログ (113 ページ) を表示します。

背景画像の編集

背景に画像を挿入したり、編集したりするため「背景」ダイアログ（113 ページ）を表示します。

背景色

背景の色を設定するための「色の設定」ダイアログ（111 ページ）を表示します。

ホットスポットに設定

選択したカメラモニターウィンドウをホットスポットモニターに設定します。

グリッド表示

背景のグリッド線を設定するための「グリッドの設定」ダイアログ（114 ページ）を表示します。

モニタ表示

カメラモニターウィンドウを表示します。

画像表示

画像を表示します。

機能別ツールバー**【記録】 ツールバー**

カメラの画像を手動で記録する（マニュアル録画を行う）ときに使います。

**メモ**

【記録】 ツールバーが表示されていないときは、メインツールバーの （記録ツールバーの表示）をクリックすると表示されます。

記録

カメラモニターウィンドウで選択したカメラの画像の記録を開始します。

停止

記録を停止します。

- 現在複数の記録が行われている場合は、このボタンをクリックすると、「記録停止」ダイアログ（175 ページ）が表示されます。ダイアログに表示される現在記録中（スケジュール記録などを含む）の一覧から、停止したい記録を選択し、【停止】をクリックします。

- 現在1つしか記録されていない場合は、このボタンをクリックすると、ただちに記録が停止します（「記録停止」ダイアログは表示されません）。

で注意

- 「記録停止」ダイアログで、【すべて停止】をクリックすると、現在行われている記録がすべて停止しますので、注意してください。
- 選択したモニターウィンドウのカメラに対して記録を行っている場合は、その記録が選択された状態で「記録停止」ダイアログが表示されます（2つ以上の記録が行われている場合も同様です）。そのまま【停止】ボタンをクリックすると、一覧で選択されている記録が停止しますので、注意してください。



 をクリックし、表示される一覧から、1秒間に記録するフレーム数を選択します。カメラの種類や設定によって、適用できる値が異なります。詳しくは、「カメラのフレームレートについて」（181 ページ）をご覧ください。

キャプチャー

カメラモニターウィンドウに表示されている画像を1フレームの静止画（スナップショット）としてキャプチャーします。

【再生】 ツールバー

記録を再生するときに使います。記録データに付随する音声があるときは、音声も再生できます。

縦長表示のとき**横長表示のとき**

メモ

- [再生] ツールバーが表示されていないときは、メインツールバーの  (再生ツールバーの表示) をクリックすると表示されます。
- ライブ映像のモニター中に、カメラと連携している音声装置からの音声を聞くときは、[音声] ツールバー (98ページ) を使います。

 **(検索)**

記録を検索するための「記録データの検索」ウィンドウ (120ページ) を表示します。

メモ

カメラが割り当てられているカメラモニターウィンドウを選択して、このボタンをクリックすると、そのカメラの記録が検索された状態で「記録データの検索」ウィンドウが開きます。通常の状態では「記録データの検索」ウィンドウを開きたいときは、カメラモニターウィンドウの隙間をクリックするなどして、カメラモニターウィンドウが選択されていない状態でボタンをクリックしてください。

 **(タイムラプスモード)**

タイムラプスモードに切り替えます。タイムラプスモードについては、「タイムラプスモードに切り替えるには」 (70ページ) をご覧ください。

 **(カメラ表示に戻す)**

カメラモニターウィンドウの表示をカメラのライブ映像に戻します。

 **(ツールバーの表示切替)**

ツールバーの形状を縦長／横長に切り替えます。

日時表示部

画像がキャプチャーされたときの日時が表示されます。左端のアルファベットは、このファイルが記録されたときの種類を示しています。

A : アラームによる記録

M : 通常記録

S : スケジュールによる記録

ご注意

- 赤い線をドラッグして画像を早送りできますが、スクロールによるスロー再生など、特殊な再生はできません。
- フレームレートが 25 fps 未満で画像が取り込まれた場合は、時刻表示の最後の数字は正しく表示されません。

 **(頭出し)**

ファイルの頭出しをします。

 **(一時停止)**

再生を一時停止します。

メモ

「記録データの検索」ウィンドウに表示されているサムネイルをクリックしても、ファイルの頭出しができません。

 **(逆再生)**

逆再生します。(1倍速)

 **(再生)**

再生します。(1倍速)

メタデータが記録されていて、Video Motion Filter が設定されている場合は、同時に再生されます。(1倍速再生時のみ)

速度制御部

バーをドラッグすることで、再生速度を制御できます。速度の範囲は、早送り、巻き戻しとも 0～100倍 (1,000倍) です。

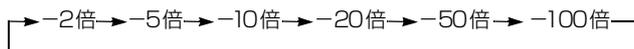
マウスを +100x の外側までドラッグすると、1,000倍になります。

開いたファイル内をすばやく移動したいときに便利です。

 **(巻き戻し)**

巻き戻しをします。

また、ボタンをクリックするたびに、巻き戻し速度が次のように変わります。

 **(逆スロー再生)**

逆スロー再生します。(1/5倍速)

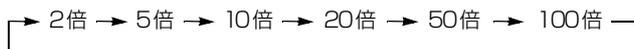
 **(スロー再生)**

スロー再生します。(1/5倍速)

 **(早送り)**

早送りします。

また、ボタンをクリックするたびに、早送り速度が次のように変わります。



◀◀ (前の記録データ)

同一カメラの前の記録ファイルを表示します。

◀ (逆コマ再生)

1フレーム戻します。

▶ (コマ再生)

1フレーム進めます。

▶▶ (次の記録データ)

同一カメラの次の記録ファイルを表示します。

ご注意

MPEG4の画像を早送りで再生した場合、「接続中…」というメッセージが表示されることがあります。このメッセージは、記録データの取り出しにコンピューター負荷が高くなり過ぎている場合に表示されます（実際にカメラに接続しようとしているわけではありません）。この場合は、速度を落として再生してください。

【音声】 ツールバー

ライブ映像のモニター中に、カメラと連携している音声装置からの音声を聞くときに使います。

**メモ**

【音声】 ツールバーが表示されていないときは、メインツールバーの  (音声ツールバーの表示) をクリックすると表示されます。

音声装置1

音声をモニター／再生する音声装置を選択します。

いったん  (カメラ／音声リンク) をクリックしてオフにし、 をクリックして表示される一覧から、音声装置を選択します。

 (カメラ／音声リンク)

カメラモニターウィンドウで選択したカメラと音声装置のリンクを設定します。

 (オーディオトグル)

音声を消音します。

 (音声出力の開始／停止)

RealShot Manager がインストールされているコンピューターに接続したマイクから、カメラの Audio Out に音声を出力します。

- 音声を出力するカメラのモニターウィンドウを選択し、このボタンをクリックすると、音声出力を開始します。
- 音声出力中にこのボタンをクリックすると、音声出力を停止します。音声出力が停止すると、ボタンが  に変わります。

メモ

- この機能で出力できるコーデックは G.711 のみです。
- カメラの設定で「スピーカー出力」がオンでない場合は、Web ブラウザでオンにする必要があります。
- クライアントからこの音声出力を行う場合は、クライアントのコンピューターが直接カメラと TCP/IP で接続できる必要があります。
- RealShot Manager では、音声出力のレベルを調節することはできません。音声出力のレベルを調節したいときは、Web ブラウザなどから直接カメラに接続して行ってください。

【パン・チルト】 ツールバー

カメラのパン、チルト、ズームの操作をするときに使います。

**メモ**

【パン・チルト】 ツールバーが表示されていないときは、メインツールバーの  (パン・チルト ツールバーの表示) をクリックすると表示されます。

カメラ No.1

コントロールするカメラの名前が表示されます。コントロールするカメラを変更したいときは、ボックス内をクリックし、表示される「カメラを選択してください。」ダイアログ (146 ページ) でカメラを選択します。

 (左上方向)

カメラを左上方向に動かします。

▲ (上方向)

カメラを上方向に動かします。

▼ (右上方向)

カメラを右上方向に動かします。

🔍 (ズームイン)

ズームインします。

◀ (左方向)

カメラを左方向に動かします。

⏹ (停止)

カメラの移動を停止します。

▶ (右方向)

カメラを右方向に動かします。

🔍 (ズームアウト)

ズームアウトします。

▶ (左下方向)

カメラを左下方向に動かします。

▼ (下方向)

カメラを下方向に動かします。

▶ (右下方向)

カメラを右下方向に動かします。

🔍 (デジタルズーム)

パン・チルトのないカメラの場合や、以前に記録されたファイルを再生する場合に、デジタルズームや部分的なパン・チルトを行います。

広角ズーム／望遠ズーム

広角側／望遠側にズームします。

[W] はワイド端 (最も広角側)、[T] はテレ端 (最も望遠側) になります。

[パン・チルト プリセット] ツールバー

カメラに記憶されているプリセット位置を使って、画像をコントロールするときに使います。

**メモ**

- SNC-Z20 カメラの場合は、既存のプリセット位置の修正だけが行えます。新しいプリセット位置を作成したり、既存のプリセット位置を削除することはできません。
- [パン・チルト プリセット] ツールバーが表示されていないときは、メインツールバーの  (プリセットツールバーの表示) をクリックすると表示されます。



▼ をクリックし、表示される一覧から、選択したプリセット位置にカメラが移動します。

🔧 (プリセットの設定)

新規にプリセット位置を作成／編集するための「パン・チルト プリセット」ダイアログ (173 ページ) を表示します。

プリセット位置番号

クリックした番号のプリセット位置にカメラが移動します。位置が保存されている番号のみ選択できます (位置が保存されていない番号はグレー表示になります)。

[ツアー] ツールバー

RealShot Manager で設定されている位置に次々とカメラを移動させる「ツアー」を実行するときに使います。



メモ

[ツアー] ツールバーが表示されていないときは、メインツールバーの (ツアーツールバーの表示) をクリックすると表示されます。



▼ をクリックし、表示される一覧から、選択したツアーを実行します。

 (ツアーの設定)

新規にツアーを作成／編集するための「ツアー」ダイアログ (174 ページ) を表示します。

ツアー番号

クリックした番号のツアーを実行します。
ツアーが保存されている番号のみ選択できます (ツアーが保存されていない番号はグレー表示になります)。

【出力制御】 ツールバー

カメラの出力のトリガーを手動で動作させるときに使用します。

**メモ**

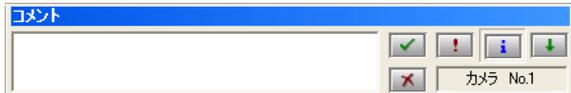
【出力制御】 ツールバーが表示されていないときは、メインツールバーの (出力制御ツールバーの表示) をクリックすると表示されます。



クリックしたボタンに割り当てられている動作を実行します。

【コメント】 ツールバー

マニュアルで記録中にコメントを入力するときに使います。コメントは、記録データに対してではなく、カメラに対して設定されます。

**メモ**

- [コメント] ツールバーが表示されていないときは、メインツールバーの (コメントツールバーの表示) をクリックすると表示されます。
- リモートサーバーの記録データに対して、クライアントからコメントを付けることはできません。

コメント入力欄

コメントを入力します。

 (コメントの反映)

コメントを記録ファイルにリンクして保存します。

コメントの重要度

コメントのレベルを区分けするときに使います。

 (重要度 (高) のコメント)

 (重要度 (中) のコメント)

 (重要度 (低) のコメント)

 (コメントの削除)

コメント入力欄に入力したコメントを消去します。

カメラ No.1

画像ファイルを識別するために、カメラの名前が表示されます。

ステータスバー



① アプリケーションの一般情報

- アプリケーションが作業中でないときは「Ready」と表示されます。
- 問題があるときはエラーや警告などのメッセージが表示されます。
- エラーメッセージは  アイコン付きで表示されます。

② ログイン中のユーザー名

ログインしているユーザーがいるときはユーザー名が、ログインしているユーザーがいないときは「No User」と表示されます。

③ 今日の日付

④ 現在時刻



複数カメラの表示

1つのカメラモニターウィンドウに複数のカメラを割り当てて、カメラの画像を順次モニターするときに選択します。このメニューを選択し、表示される「複数カメラの選択」ダイアログでカメラを選択すると、カメラモニターウィンドウにカメラが割り当てられます。設定方法については、「複数のカメラを1つのカメラモニターウィンドウに割り当てる」(43ページ)をご覧ください。

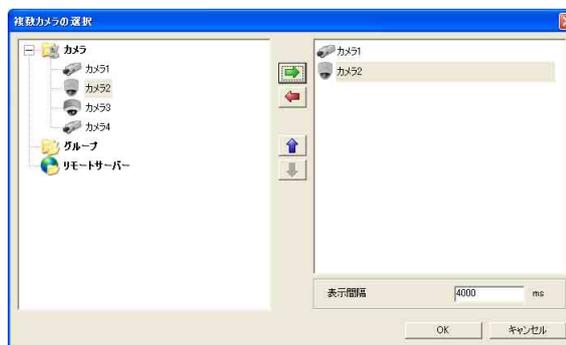
モニターウィンドウの右クリックメニュー

設定したいカメラモニターウィンドウ上で右クリックすると、以下のメニューが表示されます。



カメラを変更

カメラモニターウィンドウに1台のカメラを割り当てるときに選択します。このメニューを選択し、表示される「カメラを選択してください。」ダイアログでカメラを選択すると、カメラモニターウィンドウにカメラが割り当てられます。



カメラの削除

カメラモニターウィンドウに割り当てられているカメラを削除します。

カメラ表示に戻す

モニター中に記録ファイルの再生を行った場合は、再生前のカメラ画像に戻します。

描画停止

カメラモニターウィンドウの画像を停止します。

表示間隔

カメラモニターウィンドウに画像を表示する間隔を変更します。

サブメニューから変更したい表示間隔を選択します。



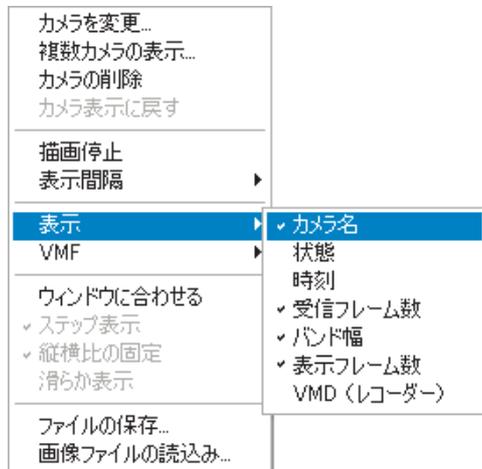
注意

実際にカメラモニターウィンドウに表示される画像の表示間隔は、RealShot Manager がインストールされているコンピューターの性能や、モニターしているカメラの台数、カメラに設定されているフレームレートと「表示間隔」との組み合わせなどによって異なります。詳しくは、「設定」ダイアログの「一般設定」タブ（165 ページ）をご覧ください。

表示

カメラモニターウィンドウに表示する接続情報の項目を変更します。

サブメニューから表示したい項目を選択し、チェックマークを付けます。



メニュー項目と表示される情報の関係は、以下のようになります。

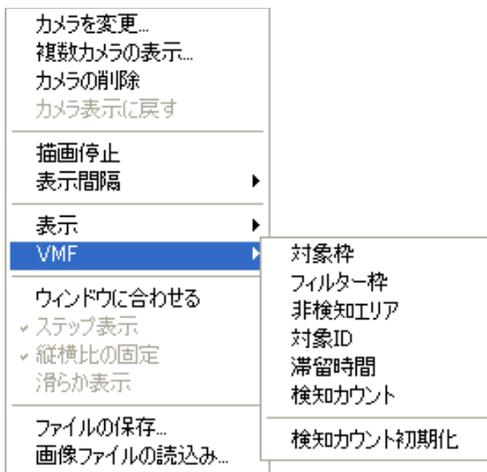


メモ

- カメラが選択されていないときは「カメラ未設定」と表示されます。[カメラを変更] または [複数カメラの表示] を選び、カメラを選択してください。
- [状態] をオンにすると、記録時には記録の種類が、再生時には再生状態が表示されます。
- 表示される受信フレーム数は、ある期間の平均値で、その瞬間の値ではありません。
- [VMD (レコーダー)] をオンにすると、Video Motion Detection (レコーダー) により検知されたオブジェクトの枠が表示されます。ただし、Video Motion Detection (レコーダー) によるアラーム記録スケジュールが設定されていて、かつ、その時間内の場合に限りです。

VMF

設定されている Video Motion Filter の詳細を表示します。



対象枠

オブジェクト枠を表示します。

フィルター枠

フィルターの枠線を表示します。

非検知エリア

非検知エリアの枠線を表示します。

対象 ID

オブジェクトの ID を表示します。

この項目は、[対象枠] にチェックマークが付いているときのみ有効になります。

滞留時間

物体が動体として認識されている時間、または物体が置き去りにされた、または持ち去られたと認識されている時間を表示します。

この項目は、[対象枠] にチェックマークが付いているときのみ有効になります。

検知カウント

フィルターの条件が満たされた回数が表示されます。

この項目は、[フィルター枠] にチェックマークが付いているときのみ有効になります。

順序型の VMF パッケージの場合は、最後のフィルターのカウントのみが表示されます。

検知カウント初期化

検知カウントをクリアして 0 に戻します。

この項目は、[検知カウント] にチェックマークが付いているときのみ有効になります。

メモ

スケジュールの開始時に、検知カウントは自動的に 0 に戻ります。

ウィンドウに合わせる／ステップ表示／縦横比の固定／滑らか表示

カメラモニターウィンドウの画像の拡大／縮小します。

ウィンドウに合わせる

カメラモニターウィンドウのサイズに合わせて、画像を拡大／縮小します。

ここが選択されているときは、カメラモニターウィンドウのサイズを変更すると、画像も拡大／縮小します。

ステップ表示

画像の縦横比が維持された状態でカメラモニターウィンドウのサイズに合うように、段階的に拡大・縮小されます。ただし、「モニターウィンドウの設定」ダイアログの [サイズと位置] タブで、[サイズ] がすべて「0」に設定されていないと、正しく表示されない場合があります。

縦横比の固定

カメラモニターウィンドウのサイズに関わらず、画像の縦横比が維持されます。

滑らか表示

画像が滑らかに拡大・縮小されます。

画像が拡大・縮小される際の画質を向上できます。

ファイルの保存

カメラモニターウィンドウに現在表示されている画像をキャプチャーし、1 フレームの静止画（スナップショット）として保存します。

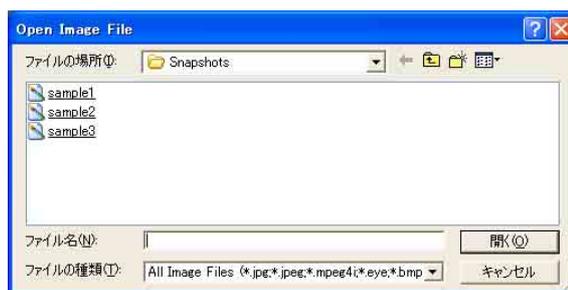
ご注意

静止画のキャプチャー時には、カメラの回転が反映されないため、「設定管理」ウィンドウの「カメラ」タブでカメラの設置角度を正しく設定していても、キャプチャーした画像が上下逆や左右逆で表示されることがあります。

画像ファイルの読み込み

保存されている静止画をカメラモニターウィンドウに表示します。

このメニューを選択し、表示される「Open Image File」ダイアログで、静止画ファイルを選択すると、カメラの画像に代わって、選択した静止画が表示されます。



「ログイン」ダイアログ

RealShot Manager にログインします。
このダイアログは、メインツールバーの  (ログイン) をクリックしたときに表示されます。



ユーザー名

RealShot Manager に登録されているユーザー名を入力します。

パスワード

RealShot Manager に登録されているパスワードを入力します。

パスワードの変更

パスワードを変更するときにクリックします。
このボタンをクリックすると、「パスワードの変更」ダイアログ (104 ページ) が表示されます。

OK

RealShot Manager にログインします。

キャンセル

ログインをキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「パスワードの変更」ダイアログ

ユーザーが RealShot Manager にログインするためのパスワードを変更します。
パスワードはユーザー自身で変更できます。
このダイアログは、「ログイン」ダイアログ (104 ページ) で [パスワードの変更] をクリックしたときに表示されます。



ユーザー名

RealShot Manager に登録されているユーザー名を入力します。

古いパスワード

RealShot Manager に登録されている現在のパスワードを入力します。

新しいパスワード

新しいパスワードを入力します。

確認

確認のため、新しいパスワードをもう一度入力します。

OK

パスワードの変更を保存して、ダイアログを閉じます。

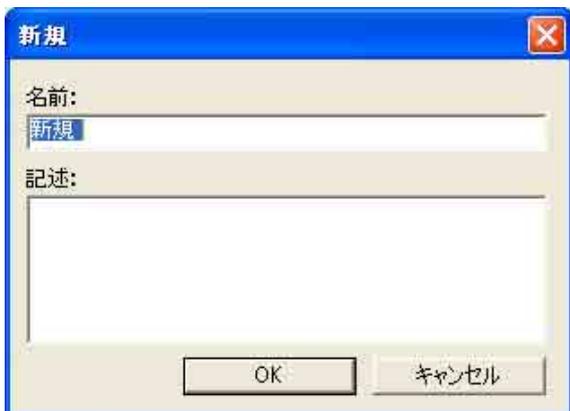
キャンセル

パスワードの変更をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

レイアウトのダイアログ

「新規」ダイアログ

このダイアログは、レイアウトツールバーの  (新規レイアウトの作成)) をクリックしたときに表示されます。



名前

レイアウトの名前を入力します。

記述

コメントを入力します。

OK

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「レイアウトの作成」ダイアログ

このダイアログは、レイアウトツールバーの  (レイアウトの作成)) をクリックしたときに表示されます。



モニターレイアウト

画面に表示したいカメラモニターウィンドウの数を列数と行数で設定します。

列

横にいくつカメラモニターウィンドウを並べるかを列数で入力します。

行

縦にいくつカメラモニターウィンドウの並べるかを行数で入力します。

ホットスポット

ホットスポットモニターを使用するときに設定します。ホットスポットモニターは、[プレビュー] にクリーム色で表示されます。

ホットスポットモニターを使用する

ホットスポットモニターを使用するときにチェックマークを付けます。

列、行

ホットスポットモニターとして使用するカメラモニターウィンドウの大きさを列と行で指定します。

開始列、開始行

ホットスポットモニターの位置を開始列と開始行で指定します。

例えば、左上に表示したい場合は、[開始列] に「1」、[開始行] に「1」と入力します。

スペース

カメラモニターウィンドウ間の間隔をピクセル数で入力します。

枠の間隔

カメラモニターウィンドウの周囲の枠の間隔をピクセル数で入力します。

モニターの設定

カメラモニターウィンドウを詳細に設定したいときは、このボタンをクリックし、表示される「モニター設定」ダイアログ (105 ページ) で各項目を設定します。

背景色

[色] ボックスをクリックし、表示される「色の設定」ダイアログ (111 ページ) で色を指定します。

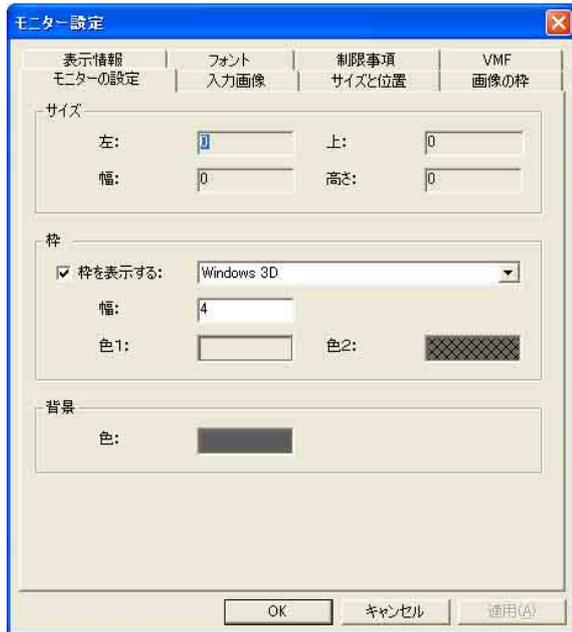
「モニター設定」ダイアログ

各項目を設定したら、[OK] または [適用] をクリックして設定を保存します。

このダイアログは、「レイアウトの作成」ダイアログ (105 ページ) で [モニターの設定] をクリックしたときに表示されます。

[モニターの設定] タブ

モニターウィンドウ自体の大きさや外観を設定します。この設定は、カメラの画像の大きさや外観の設定とは別に行えます。



サイズ

カメラモニターウィンドウの大きさが表示されます。この項目は変更できません。

枠

カメラモニターウィンドウの周囲に境界線を表示するかどうかを指定します。

枠を表示する

カメラモニターウィンドウの周囲に境界線を表示するときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、▼をクリックし、表示される一覧から、境界線の種類を選択します。

- [フラット] を選択したときは、[色 1] で色を指定します。
- [Window 3D] を選択したときは、[色 1] で色を指定します。
- [グラデーション 3D] を選択したときは、[色 1] と [色 2] で色を指定します。

幅

境界線の線幅をピクセル数で入力します。

色 1、色 2

ボックス内をクリックし、表示される「色の設定」ダイアログ（111 ページ）で境界線の色を指定します。

背景

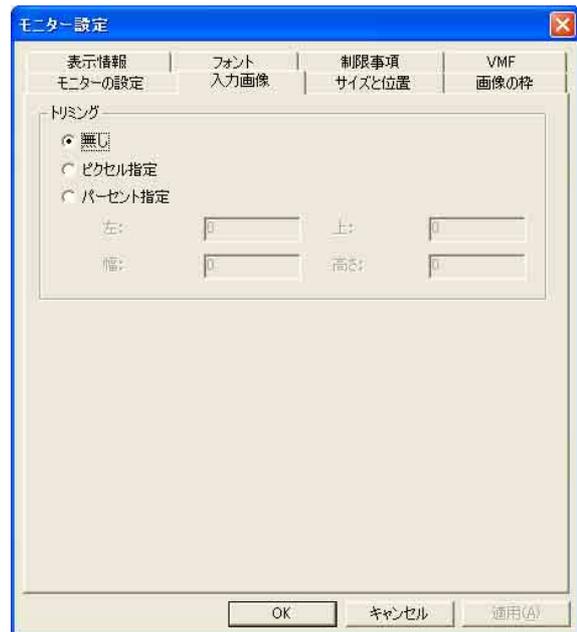
背景の色を設定します。

色

ボックス内をクリックし、表示される「色の設定」ダイアログ（111 ページ）で背景色を指定します。

[入力画像] タブ

モニターウィンドウ内の画像のトリミングやパンの設定を行います。



トリミング

トリミングモードを選択します。

無し

画像のトリミングをしないときに選択します。

ピクセル指定

絶対単位（ピクセル）を指定してトリミングするときに選択します。

ここを選択したときは、[左]、[幅]、[上]、[高さ] にピクセルで入力します。

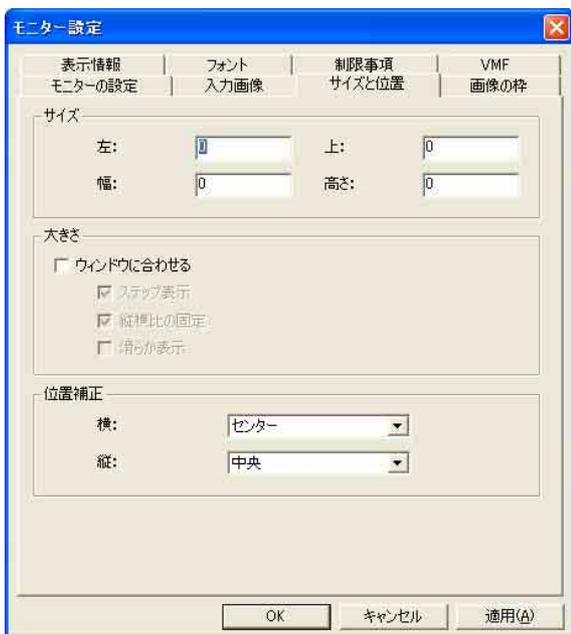
パーセント指定

画像サイズに比例した値（%）でトリミングするときに選択します。

ここを選択したときは、[左]、[右]、[上]、[下] に % で入力します。

[サイズと位置] タブ

モニターウィンドウ内の画像の位置や拡大／縮小を設定します。



サイズ

モニターウィンドウの左および上の境界線から画像までの距離を入力します。

この設定は、次の「ウィンドウに合わせる」が選択されている場合のみ有効です。

大きさ

モニターウィンドウのサイズを変更するときに、画像の大きさをどのように表示するかを選択します。

ウィンドウに合わせる

モニターウィンドウのサイズに合わせて、画像が拡大・縮小されます。

ステップ表示

画像の縦横比が維持された状態でモニターウィンドウに合うように、段階的に拡大／縮小されます。ただし、「モニターウィンドウの設定」ダイアログの「サイズと位置」タブで、「サイズ」がすべて「0」に設定されていないと、正しく表示されない場合があります。

縦横比の固定

モニターウィンドウのサイズに関わらず、画像の縦横比が維持されます。

滑らか表示

画像が滑らかに拡大／縮小されます。画像が拡大／縮小される際の画質を向上できます。

位置補正

[横] [縦] のボックスで▼をクリックし、表示される一覧から、モニターウィンドウの画像をどの位置に表示するかを設定します。

なし

位置を指定しません。

左

左に寄せて表示します。

センター

中央に表示します。

右

右に寄せて表示します。

上

上に寄せて表示します。

中央

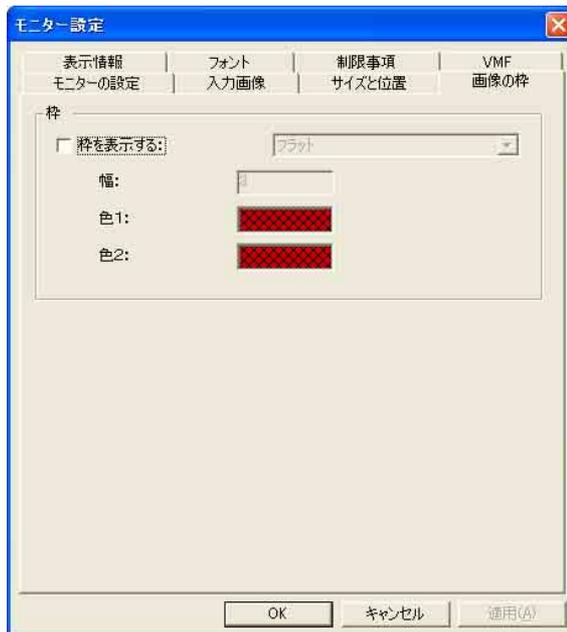
中央に表示します。

下

下に寄せて表示します。

[画像の枠] タブ

カメラの画像がモニターウィンドウ全体に表示されないときに、背景と区別するための境界線を設定します。



枠

カメラモニターウィンドウの画像の周囲に境界線を表示するかどうかを指定します。

枠を表示する

カメラモニターウィンドウの画像の周囲に境界線を表示するときにチェックマークを付けます。

- ここにチェックマークを付けたときは、▼をクリックし、表示される一覧から、境界線の種類を選択します。
- [フラット] を選択したときは、[色 1] で色を指定します。
 - [Window 3D] を選択したときは、[色 1] で色を指定します。
 - [グラデーション 3D] を選択したときは、[色 1] と [色 2] で色を指定します。

幅

境界線の線幅を入力します。

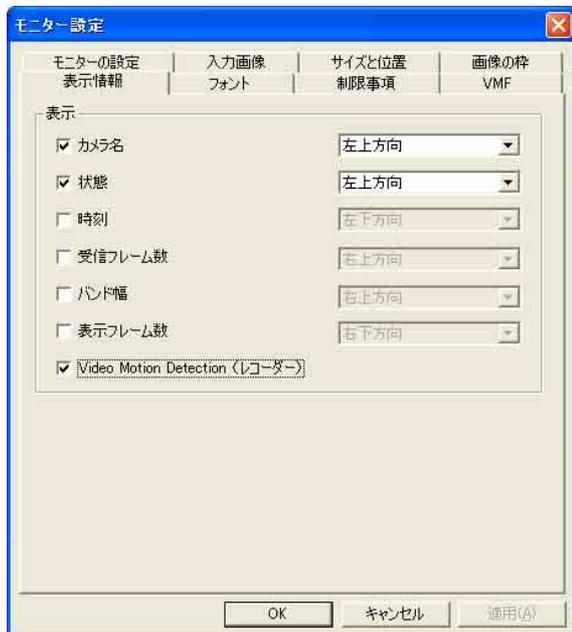
色 1、色 2

ボックス内をクリックし、表示される「色の設定」ダイアログ（111 ページ）で境界線の色を指定します。

【表示情報】 タブ

カメラモニターウィンドウに表示されるテキスト情報と表示する位置を選択します。

情報表示については、「モニターウィンドウに表示させる情報を設定する」（48 ページ）をご覧ください。



表示項目

表示する項目にチェックマークを付けます。

カメラ名

「装置の設定」ダイアログ（130 ページ）などの [一般設定] タブで設定されているカメラの名前を表示します。

状態

「未接続」などのエラーメッセージを表示します。

時刻

現在の時刻を表示します。

受信フレーム数

カメラ画像を取り込む速度を表示します。

バンド幅

ネットワーク接続で画像を転送するために使用する帯域の値を表示します。

表示フレーム数

コンピューターのディスプレイに表示されるカメラ画像が更新される速度を表示します。

Video Motion Detection (レコーダー)

Video Motion Detection (レコーダー) の検知状況を表示します。

表示位置

▼をクリックし、表示される一覧から、表示位置を選択します。

左上方向

左上に表示します。

上部中央

上部の中央に表示します。

右上方向

右上に表示します。

左下方向

左下に表示します。

下部中央

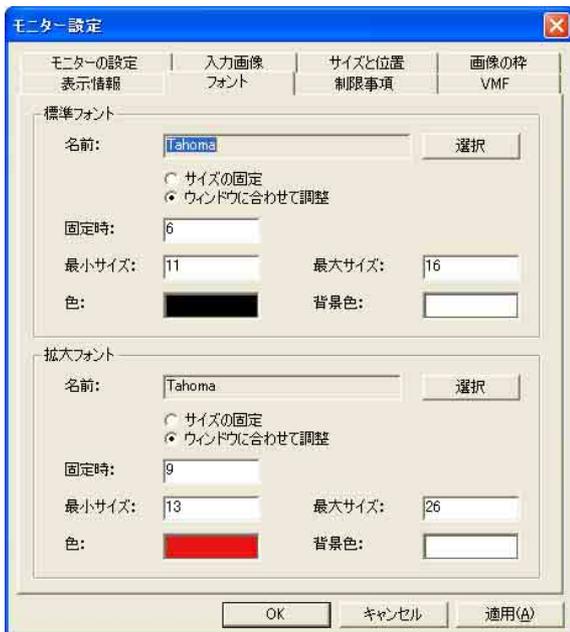
下部の中央に表示します。

右下方向

右下に表示します。

【フォント】タブ

モニターウィンドウに表示されるテキスト情報のフォントサイズとスタイルを設定します。



標準フォント

[選択] をクリックし、表示される [フォント] ダイアログ (109 ページ) で、フォントを選択します。

サイズの固定

モニターウィンドウのサイズに関わらず、フォントサイズを固定したいときに選択します。

ウィンドウに合わせて調整

モニターウィンドウのサイズに合わせて、自動的にフォントサイズを調整したいときに選択します。

固定時

[サイズの固定] を選択したときに、フォントサイズを入力します。

最小サイズ、最大サイズ

[ウィンドウに合わせて調整] を選択したときに、最小と最大のフォントサイズを入力します。

色

ボックス内をクリックし、表示される「色の設定」ダイアログ (111 ページ) でフォントの色を指定します。

背景色

ボックス内をクリックし、表示される「色の設定」ダイアログ (111 ページ) でフォントの背景色を指定します。

拡大フォント

拡大フォントは、モニターウィンドウの中央に表示されるステータス情報に使用されます。設定項目は [標準フォント] と同じです。

【フォント】ダイアログ

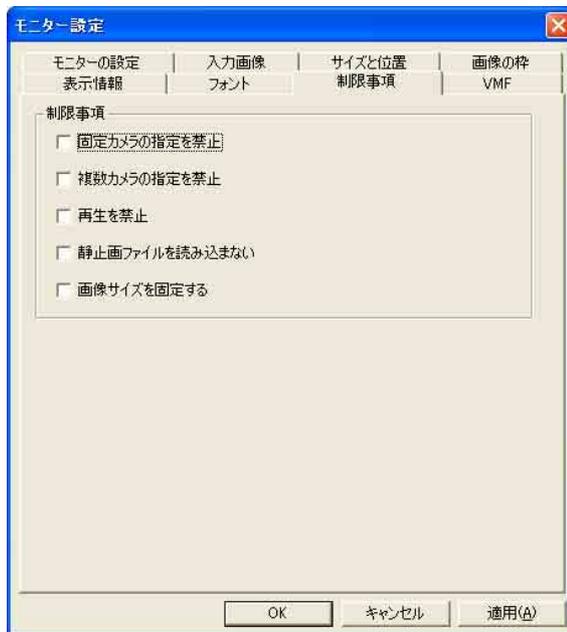
フォントの種類、スタイル、フォントサイズを選択し、[OK] をクリックします。

このダイアログは、「モニターの設定」ダイアログの [フォント] タブ (109 ページ) で [選択] をクリックしたときに表示されます。



【制限事項】タブ

カメラモニターウィンドウ上で実行できる機能を制限します。



固定カメラの指定を禁止

他のカメラを選択することはできません。

複数カメラの指定を禁止

複数のカメラを選択して表示することはできません。

再生を禁止

画像を再生することはできません。カメラからのライブ映像または静止画（スナップショット）だけを表示できます。

静止画ファイルを読み込まない

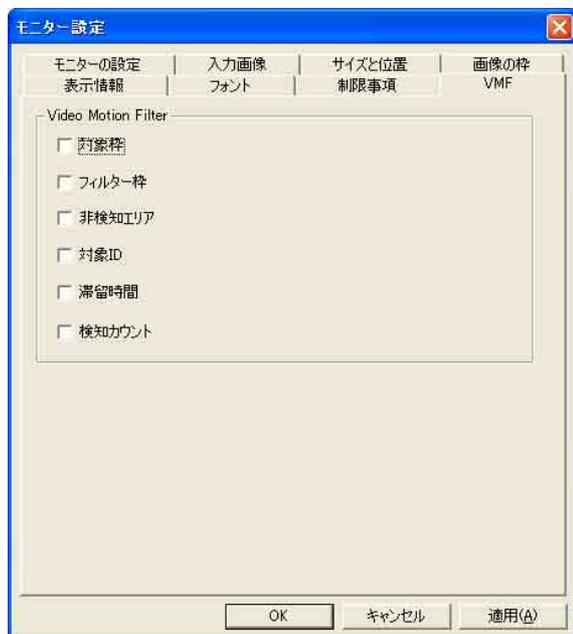
静止画（スナップショット）は表示できません。

画像サイズを固定する

画像サイズを変更する項目がメニューから削除されます。

[VMF] タブ

カメラモニターウィンドウに表示させる Video Motion Filter の情報を選択します。



対象枠

オブジェクト枠を表示します。

フィルター枠

フィルターの枠線を表示します。

非検知エリア

非検知エリアの枠線を表示します。

対象 ID

オブジェクトの ID を表示します。

滞留時間

物体が動体として認識されている時間、または物体が置き去りにされた、または持ち去られたと認識されている時間を表示します。

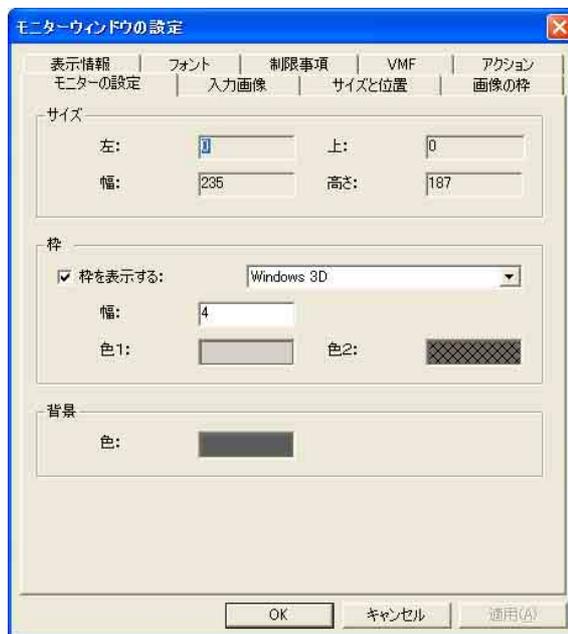
検知カウント

フィルターの条件が満たされた回数を表示します。順序型の VMF パッケージの場合は、最後のフィルターのカウントのみを表示します。

「モニターウィンドウの設定」ダイアログ

このダイアログは、モニターウィンドウ上をダブルクリックしたときに表示されます。

[アクション] タブ以外の設定項目については、「モニター設定」ダイアログ（105 ページ）をご覧ください。



[アクション] タブ

[アクション] タブについては、「画像の挿入」ダイアログの [アクション] タブ（111 ページ）をご覧ください。ただし、カメラについては、モニターウィンドウに割り当てられているものが自動的に選択されるため、指定することはできません。

「レイアウトの選択」ダイアログ

保存されているレイアウトを選択します。

このダイアログは、レイアウトツールバーの  (レイアウトを開く) をクリックしたときに表示されます。



レイアウトの一覧

保存されているレイアウトが一覧表示されます。一覧から使用したいレイアウトを選択します。

- 一覧には、レイアウト名、記述（コメント）、このレイアウトを最後に読み出した日時、修正日、作成日の情報が表示されます。
- 一覧のタイトル部分をクリックすると、その項目でソートできます。

OK

選択したレイアウトに切り替えます。

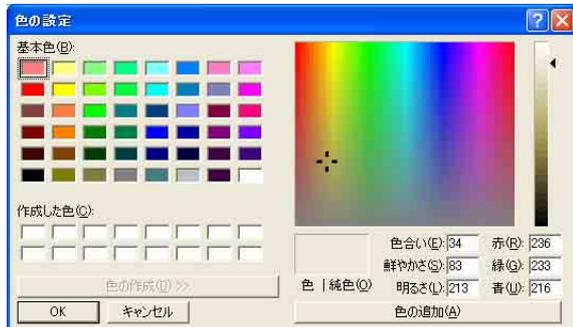
キャンセル

レイアウトの選択をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「色の設定」ダイアログ

パレットから設定したい色を選択するか、数値を入力して色を指定します。

このダイアログは、色を設定するときに表示されます。

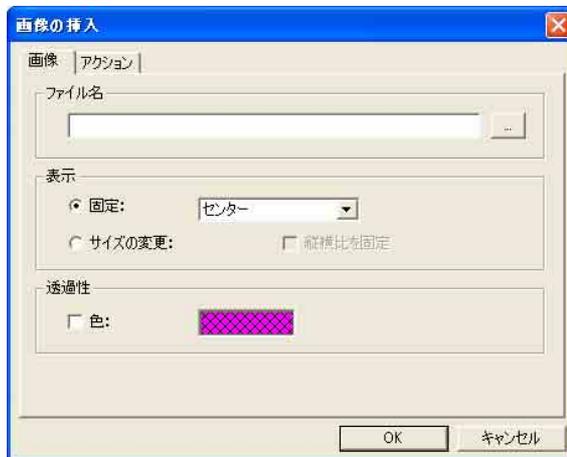


「画像の挿入」ダイアログ

挿入する画像ファイルを設定します。

このダイアログは、レイアウトツールバーの  (画像の挿入) をクリックしたときに表示されます。

「画像」タブ



ファイル名

 をクリックし、挿入する画像ファイルを選択します。

表示

画像ファイルを表示する位置を設定します。

固定

挿入する画像の表示位置を固定したいときに選択します。

ここを選択したときは、 をクリックし、表示される一覧から、表示位置を選択します。

サイズの変更

モニターウィンドウに合わせて、画像の大きさを変更するときに選択します。

[縦横比を固定] にチェックマークを付けると、縦横比を保持したまま画像の大きさが変更されます。

透過性

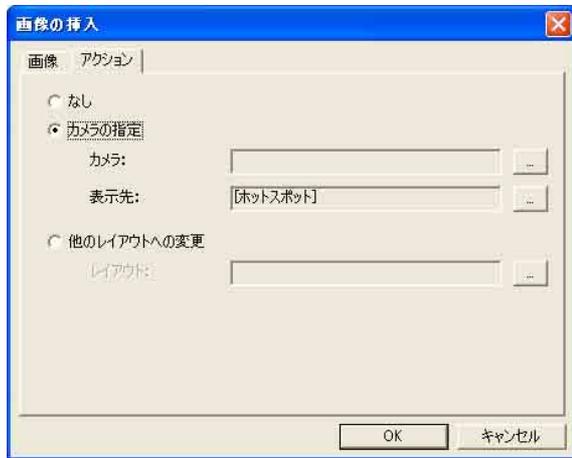
画像内の1つの色を透過するように設定できます。

[色] にチェックマークを付け、ボックス内をクリックして表示される「色の設定」ダイアログ（111ページ）で透過させる色を指定します。

「アクション」タブ

モニターウィンドウに動作を割り当てます。モニターウィンドウに動作（アクション）を割り当てると、ウィンドウ

内をマウスでクリックすることによって、設定した動作が実行されます。



なし

アクションを実行しません。

カメラの指定

指定したモニターウィンドウに、指定したカメラの画像を表示します。

 をクリックし、カメラとカメラの画像を表示するカメラモニターウィンドウを指定します。

他のレイアウトへの変更

指定したレイアウトに切り替えます。

 をクリックし、表示される「レイアウトの選択」ダイアログ（111 ページ）で切り替えるレイアウトを選択します。

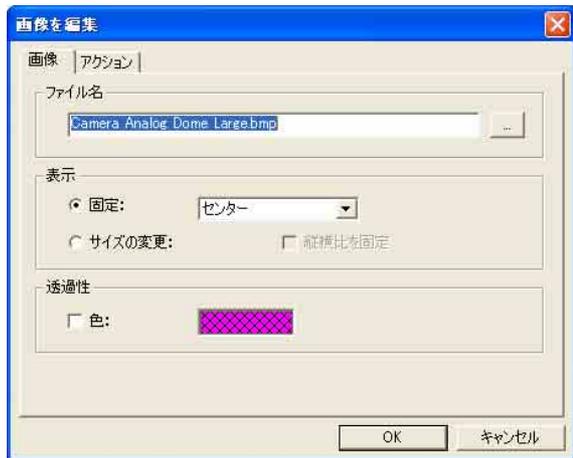
「画像を編集」ダイアログ

挿入した画像ファイルを編集します。

このダイアログは、レイアウトツールバーの （画像を編集）をクリックしたときに表示されます。

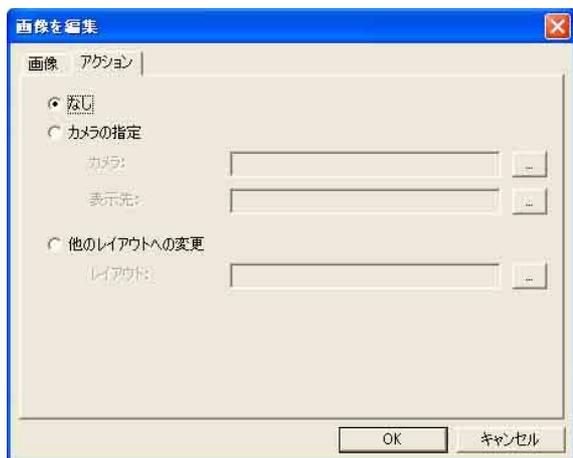
【画像】 タブ

設定項目については、「画像の挿入」ダイアログの【画像】タブ（111 ページ）をご覧ください。



【アクション】 タブ

設定項目については、「画像の挿入」ダイアログの【アクション】タブ（111 ページ）をご覧ください。

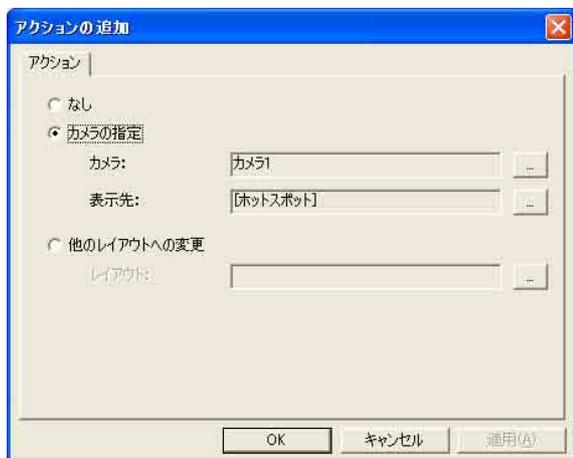


「アクションの追加」ダイアログ

アクションを挿入します。

このダイアログは、レイアウトツールバーの  (アクションの追加) をクリックしたときに表示されます。

設定項目については、「画像の挿入」ダイアログの [アクション] タブ (111 ページ) をご覧ください。

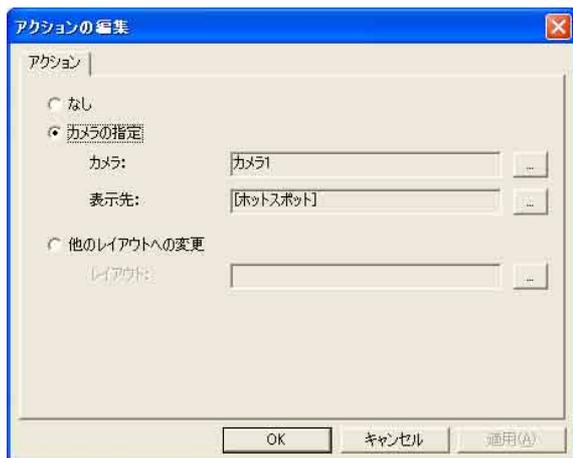


「アクションの編集」ダイアログ

挿入したアクションを編集します。

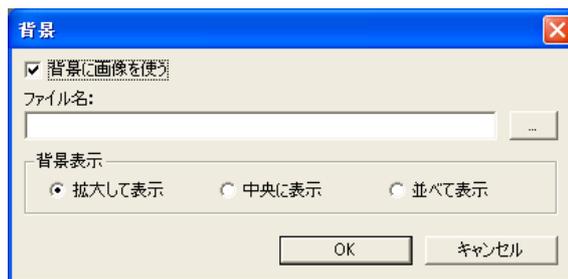
このダイアログは、レイアウトツールバーの  (アクションの編集) をクリックしたときに表示されます。

設定項目については、「画像の挿入」ダイアログの [アクション] タブ (111 ページ) をご覧ください。



「背景」ダイアログ

このダイアログは、レイアウトツールバーの  (背景画像の編集) をクリックしたときに表示されます。



背景に画像を使う

メイン画面の背景に画像を使うときにチェックマークを付けます。

ファイル名

 をクリックし、背景に使う画像ファイルを選択します。

背景表示

背景の表示方法を選択します。

拡大して表示

背景いっぱいに拡大して表示します。

中央に表示

中央に表示します。

並べて表示

並べて表示します。

OK

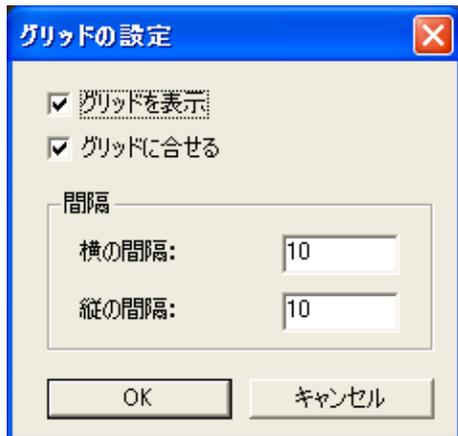
設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「グリッドの設定」ダイアログ

このダイアログは、レイアウトツールバーの  (グリッド表示) をクリックしたときに表示されます。



グリッドを表示

メイン画面にレイアウト変更を補助するためのグリッド線を表示したいときにチェックマークを付けます。

グリッドに合わせる

最も近いグリッドポイントに合わせてオブジェクトを移動したり、オブジェクトのサイズを変更したいときにチェックマークを付けます。

間隔

グリッド線の間隔を入力します。

OK

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「レイアウトのエクスポート」ダイアログ

レイアウトをファイルにエクスポートします。

ファイル保存場所を指定し、[保存] をクリックすると、レイアウトがエクスポートされます。

このダイアログは、レイアウトツールバーの  (レイアウトのエクスポート) をクリックしたときに表示されます。



「レイアウトのインポート」ダイアログ

エクスポートしたレイアウトを選択したインポートします。インポートするレイアウトを指定し、[開く] をクリックすると、レイアウトがインポートされます。

このダイアログは、レイアウトツールバーの  (レイアウトのインポート) をクリックしたときに表示されます。



「スケジュールの編集」 ウィンドウ

記録のスケジュールを設定したり、設定内容を変更できます。

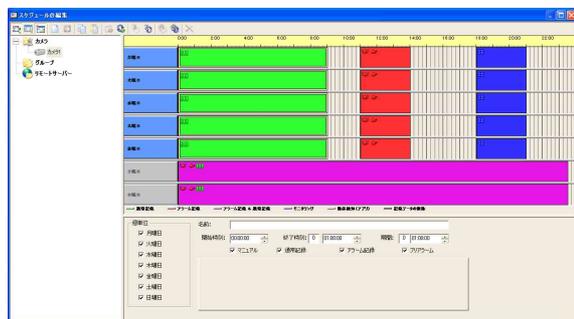
このウィンドウは、メインツールバーの  (スケジュール作成) をクリックしたときに表示されます。

スケジュールの設定方法については、「スケジュール記録」(61 ページ) をご覧ください。

スケジュールの表示には、週間表示とリスト表示があります。

週間表示

スケジュールが週間カレンダーで表示されます。



リスト表示

スケジュールが動作リストで表示されます。

記録スケジュールツールバー



(週単位の表示)

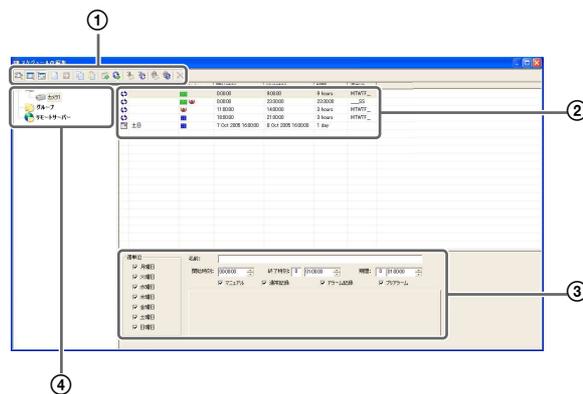
週間表示 (116 ページ) に切り替えます。

(リスト表示)

リスト表示 (116 ページ) に切り替えます。

(スケジュールの入力方式)

スケジュール設定部 (117 ページ) を表示します。



① 記録スケジュールツールバー

新規にスケジュールを作成したり、変更したりするときに使います。

各ボタンの使いかたについては、「記録スケジュールツールバー」(115 ページ) をご覧ください。

② スケジュール

設定されているスケジュールが表示されます。

「週間表示」(116 ページ)、「リスト表示」(116 ページ) をご覧ください。

③ スケジュール設定部

スケジュールの詳細を設定します。

「スケジュール設定部」(117 ページ) をご覧ください。

④ ツリー

スケジュールを設定するカメラやカメラグループを選びます。

(スケジュールの初期化)

ツリーで選択したカメラやカメラグループに設定されているスケジュールを初期状態に戻します。

(スケジュールの反映)

設定／変更したスケジュールを有効にします。

(コピー)

ツリーで選択したカメラまたはカメラグループのスケジュールをすべてコピーします。

その際、スケジュールに関連するイベントも一括してコピーされます。

(貼り付け)

 (コピー) ボタンを使ってコピーしたスケジュールを別のカメラまたはカメラグループに貼り付けます。

(日時指定のスケジュール)

ツリーで選択したカメラまたはカメラグループに、新規に1回限り(日時指定)の記録スケジュールを追加します。このボタンは、リスト表示のときのみ選択できます。

(定期的なスケジュール)

ツリーで選択したカメラまたはカメラグループに、新規に繰り返しのスケジュールを追加します。

(日時による VMD (レコーダー) スケジュールの追加)

ツリーで選択したカメラまたはカメラグループに新規の日時指定の Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールを追加します。このボタンは、リスト表示のときのみ選択できます。

(定期的な VMD (レコーダー) スケジュールの追加)

ツリーで選択したカメラまたはカメラグループに、新規に繰り返しの Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールを追加します。

(日付指定の自動消去)

ツリーで選択したカメラまたはカメラグループの記録データを、自動的に削除する日時指定のスケジュールを追加します。このボタンは、リスト表示のときのみ選択できます。

(定期的な自動消去)

ツリーで選択したカメラまたはカメラグループの記録データを、自動的に削除する繰り返しのスケジュールを追加します。

(削除)

週間カレンダーまたは動作リストで選択したスケジュールを削除します。

週間表示

週間表示では、曜日ごとのスケジュールがアクションごとに色で区別して表示されます。



目盛りは15分きざみで、各スケジュールのバーをドラッグすることで、アクションの開始時刻と終了時刻を設定できます。詳細に時刻を設定したいときは、スケジュール設定部(117ページ)で調整します。

各スケジュールには、設定されているアクションを示す以下のアイコンが表示されます。

 : モニター

 : 通常記録

 : アラーム記録

 : プリアラーム記録

 : 記録データの削除

リスト表示

リスト表示では、各スケジュールのイベントが1項目として表示されます。

スケジュールに設定されているイベントとアクションは、アイコンで表示されます。

名前	アクション	開始時刻	終了時刻	期間	連単位
		00:00	9:00	9 hours	MTWTF_
		00:00	23:30	23:30	_SS
		11:00	14:00	3 hours	MTWTF_
		18:00	21:00	3 hours	MTWTF_
土日		7 Oct 2005 16:00:00	8 Oct 2005 16:00:00	1 day	

イベント

イベントの種類がアイコンで表示されます。

 : 繰り返しのイベントを示します。

 : 日時指定のイベントを示します。

名前

イベントの名前が表示されます。

アクション

イベントに設定されているアクションがアイコンで表示されます。

 : モニター

 : 通常記録

 : アラーム記録

: プリアラーム記録

: 記録データの削除

開始時刻

イベントの開始時刻が「時:分:秒」の形式で表示されます。

終了時刻

イベントの終了時刻が「時:分:秒」の形式で表示されます。

期間

アクションの実行期間が hours (時)、minutes (分)、seconds (秒) 単位で表示されます。

週単位

動作が実行される曜日の頭文字が表示されます。

M (Monday) : 月曜日

T (Tuesday) : 火曜日

W (Wednesday) : 水曜日

T (Thursday) : 木曜日

F (Friday) : 金曜日

S (Saturday) : 土曜日

S (Sunday) : 日曜日

スケジュール設定部

スケジュールの詳細を設定します。



週単位

イベントを実行する曜日にチェックマークを付けます。この項目は、繰り返しのスケジュールを設定するときのみ選択できます。

名前

イベントの名前を入力します。

開始時刻

イベントの開始時刻を「時:分:秒」の形式で入力します。

終了時刻

イベントの終了時刻を「時:分:秒」の形式で入力します。深夜0時をまたいで設定するときは、時刻の左側にあるボックス (デフォルトで「0」が入力されているボックス) に「1」と入力します。

期間

アクションを実行する期間を入力します。深夜0時をまたいで設定するときは、時刻の左側にあるボックス (デフォルトで「0」が入力されているボックス) に「1」と入力します。

モニター／通常記録／アラーム記録／プリアラーム

実行するイベントやアクションにチェックマークを付けます。複数のイベントやアクションを選択できます。[アラーム記録] を選択すると、[プリアラーム] を選択できるようになります。

複数のアクションが重なっている場合は、最も優先度の高いアクションから先に実行されます。アラーム記録の設定で、通常記録より高品質の画像を記録するようにしている場合は、実際の優先度は以下のようになります。

- 1 アラーム記録
- 2 通常記録
- 3 モニター

メモ

設定できるイベントは、RealShot Manager の設定によって異なります。

各タブで、実行するイベントやアクションの詳細を設定します。設定項目については、それぞれの項をご覧ください。

【通常記録】タブ

通常記録時の画質を設定します。



フレーム/sec

 をクリックし、表示される一覧から、1秒間にカメラから画像を取り込むフレーム数を選択します。

ご注意

カメラによって配信可能なフレームレートが異なります。「カメラのフレームレートについて」(181ページ)を参照して使用するカメラで設定可能なフレームレートを選択し、必ず動作確認をしてから運用してください。なお、Generic Camera の場合は、設定可能なフレームレートが選択肢に一覧表示されます。

画質

カメラから取り込む画像の画質を0～100%の範囲で入力します。

MPEG4 の場合は、ビットレートが変更されます。
Generic Camera の場合は、「Generic Camera の注意・制限事項」(90 ページ) をご覧ください。

画像サイズ

▼ をクリックし、表示される一覧から、カメラから取り込む画像サイズを選択します。
カメラによって設定可能な数値が異なります。

メモ

「初期値」を選択した場合は、「設定管理」ウィンドウのカメラのプロパティに設定されている値が使用されます。

ご注意

カメラによって配信可能な画像サイズが異なります。「カメラの画サイズについて」(179 ページ) を参照して使用するカメラで配信可能な画像サイズを選択し、必ず動作確認をしてから運用してください。なお、Generic Camera の場合は、設定可能な画像サイズが選択肢に一覧表示されます。

色彩度

カメラからの画像の色彩度 (0 ~ 100%) を入力します。

【アラーム記録】 タブ

アラーム記録時の画質を設定します。
設定項目は [通常記録] タブと同じです。



ご注意

「カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録機能」(66 ページ) 使用時は、このタブは表示されません。

【プリ・ポストアラーム】 タブ

【プリ・ポストアラーム】タブでは、アラームによって実行される記録の動作時間に関する設定を行います。

ご注意

音声に対してプリアラーム記録を行うことはできません。



コーデック

▼ をクリックし、表示される一覧から、コーデックを選択します。

フレーム/sec

▼ をクリックし、表示される一覧から、1秒間にカメラから画像を取り込むフレーム数を選択します。

ご注意

カメラによって配信可能なフレームレートが異なります。「カメラのフレームレートについて」(181 ページ) を参照して使用するカメラで設定可能なフレームレートを選択し、必ず動作確認をしてから運用してください。なお、Generic Camera の場合は、設定可能なフレームレートが選択肢に一覧表示されます。

プリアラーム

期間

アラームの直前に記録された画像を取り込む時間を入力します。

ポストアラーム

期間

アラームの発生後、または解除後に、画像の記録を継続する時間を入力します。

ご注意

- アラーム発生時には負荷が増大し、ポストアラームの記録時間が短くなる場合があるため、ポストアラーム期間は、10秒以上に設定することを推奨します。
- 必ずテストを行ってから運用してください。

RSMでも記録

アラームが発生してからの画像を RealShot Manager でも記録するときにチェックマークを付けます。

メモ

カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録機能 (カメラ設定の [カメラ] タブにある [プリ・ポストアラームをカメラに記録] (67 ページ)) を使っていない場合、またはこの機能を持っていない場合は、チェックマークをはずすことはできません。

アラーム発生点から

ポストアラームの記録を、アラーム発生時点から開始したい場合に選択します。

アラーム解除点から

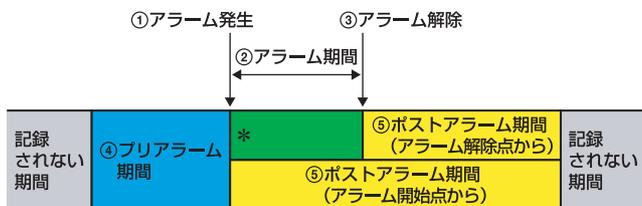
ポストアラームの記録を、アラーム解除時点から開始したい場合に選択します。

ご注意

動体検知用 VMF の [存在] タイプでは、オブジェクトを検知した後、オブジェクトが存続する限りアラーム状態が保持されるため、この状態で2つ目のアラームが発生しても、アラーム記録の開始は行われません。2つ目のアラームを記録したい場合は、スケジュールの設定で [アラーム解除点から] を選択してください。これにより、アラーム中のすべてが記録されるため、2つ目のアラームも記録されるようになります。

メモ

プリアラーム、アラーム、ポストアラームの関係は、以下のようになります。



*「アラーム解除点から」が指定されている場合は、ポストアラーム期間の設定に関係なく、■の期間は記録されます。

① アラーム発生

アラーム信号がアクティブになった時点です。

② アラーム期間

アラーム信号がアクティブな期間です。

メモ

プリアラーム期間とポストアラーム期間を0秒に設定し、ポストアラームの開始点として [アラーム解除点から] を選択すると、アラーム期間のみの記録となります。ただし、負荷が増大して記録時間が短くなった場合、アラーム期間が短すぎると記録されないことがあります。アラーム期間が10秒以上ある場合に使用するようしてください。また、必ずテストを行ってから運用してください。

③ アラーム解除

アラームが解除された時点です。

④ プリアラーム期間

アラーム発生から、[プリアラーム] の [期間] で設定した時間分さかのぼった期間です。

⑤ ポストアラーム期間

アラーム解除後から、[ポストアラーム] の [期間] で設定した時間分の期間です。
ポストアラーム期間は、アラームの発生点からの期間、またはアラームの終了点からの期間のどちらかで設定します。

【モニター】 タブ

モニター時の画質を設定します。
設定項目は [通常記録] タブと同じです。

**【入力】 タブ**

アラームのトリガーとなる端子を選択します。

- [入力] タブには、選択したカメラに関連付けられている端子が表示されますので、この中から端子を選択してください。
- 別のカメラの端子を選択し、それをトリガーとして記録を開始させることもできます。例えば、1台目のカメラが玄関を監視し、2台目のカメラが室内の絵などの貴重品を監視するというような使いかたもできます。

**メモ**

VMF パッケージの場合は1つしか選択できません。

【VMD (レコーダー)】 タブ

[環境設定] の [設定] をクリックし、表示される一覧から、設定名を選択します。

このタブは、Video Motion Detection (レコーダー) スケジュールを設定するときのみ表示されます。

**【記録データの削除】 タブ**

カメラの記録を自動的に削除する条件を設定します。

このタブは、自動削除スケジュールを設定するときのみ表示されます。

**すべてのファイルを対象とする**

以前のバージョンの RealShot Manager でデータベースのエントリーのみ削除する機能を使用していた場合、データ自体は削除されていませんが一覧には表示されない状態になっています。そのようなデータも含めて削除対象とする場合にチェックマークを付けます。

メモ

データの削除は、そのカメラに対してのみ行われます。

経過日数で指定

記録の保存期間（日数）を入力します。

オプション

[削除]のみ選択可能です。ここで設定した条件に合うファイルが完全に削除されます。

残り容量条件

記録が保存されているハードディスクなどの残り容量を設定したいときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、[残り容量]で削除の対称にする記録の条件を設定します。

メモ

経過日数と残り容量条件の両方を設定した場合は、以下のように動作します。

- ① その記録先フォルダーで、まず[経過日数で指定]に該当する記録データが削除されます。
- ② その記録先フォルダーが[残り容量条件]に該当するかチェックします。
該当していないときは、処理は実行されません。
- ③ [残り容量条件]に該当する場合は、その記録先フォルダーで[残り容量条件]で指定された日数を経過している記録データが削除されます。

削除の対象

削除を実行するディスクの残り容量の条件を%またはMBで設定します。

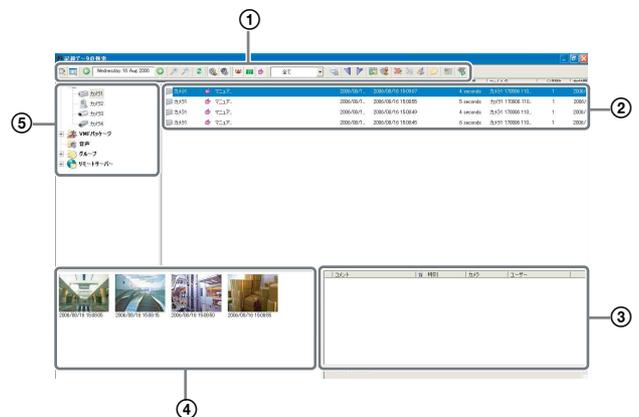
MB単位の場合は、「32,767 MB」まで設定できます。それ以上の容量を設定したい場合は%で設定してください。必要に応じて、保存されている記録の容量が設定した残り容量よりも小さい場合に、記録を保存しておきたい日数を入力します。

「記録データの検索」ウィンドウ

記録したカメラや日時などの検索条件を指定して、以前に記録した画像を検索できます。

このウィンドウは、メインツールバーの  (記録データの検索) または [再生] ツールバーの  (検索) をクリックしたときに表示されます。

検索手順や検索された画像の再生などについては、「記録を検索・再生する」(22 ページ)、「記録データの検索と再生」(68 ページ) をご覧ください。



① 検索ツールバー

記録を検索したり、検索された記録をプレビューしたりするときに使います。

各ボタンの使いかたについては、「検索ツールバー」(121 ページ) をご覧ください。

② 検索結果表示部

検索された記録が表示されます。

検索結果の表示には、リスト表示 (122 ページ) とタイムライン表示 (123 ページ) があります。VMF 検索の場合は、VMF アラームリスト (125 ページ) が表示されます。

③ コメント表示部

検索された記録に関するコメントが一覧表示されます。

この「記録データの検索」ウィンドウでの再生時には、この領域がプレビュー画面になります。

④ サムネイル表示部

検索されたファイルの概要がわかるサムネイルが表示されます。サムネイルの表示方法は、検索ツールバーにある 、、 で切り替えできます。

⑤ ツリー

検索対象のカメラやカメラグループを選びます。

検索ツールバー

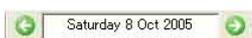


(記録データの時間軸表示)

検索結果の一覧をタイムライン表示 (123 ページ) に切り替えます。

(記録データのリスト表示)

検索結果の一覧をリスト表示 (122 ページ) に切り替えます。



検索対象の日時を指定します。

日時が表示されているボックス内をクリックすると、「日付と日時」ダイアログ (123 ページ) が表示され、月間カレンダーを使って日時を指定できます。

 をクリックすると前の日時の記録が、 をクリックすると次の日時の記録が検索されます。

(時間尺を縮小) / (時間尺を拡大)

検索する時間の範囲を指定して検索するときに使います。

 をクリックすると時間の範囲が絞り込まれ、 をクリックすると時間の範囲が拡大します。

詳しくは、「時間の範囲を絞り込む／広げるには」 (68 ページ) をご覧ください。

(検索データのリフレッシュ)

検索結果の一覧を更新します。

現在記録中の画像は、検索結果の一覧には自動的に表示されませんので、更新したいときはこのボタンをクリックします。

(画像データの表示)

画像記録の検索結果を表示します。

(音声データの表示)

音声記録の検索結果を表示します。

(アラーム記録の表示)

アラーム記録の検索結果を表示します。

(スケジュール記録の表示)

スケジュール記録の検索結果を表示します。

(マニュアル記録の表示)

マニュアル記録の検索結果を表示します。

全て

アラーム記録に対して、アラームのトリガーを指定して検索するときに使います。

 をクリックし、表示される一覧から、アラーム記録のトリガーを選択します。

全て

すべてのトリガーのアラーム記録を一覧表示します。

入力端子

I/O ボックスの入力端子をトリガーとして記録されたもののみ表示します。

システム入力

システム I/O ボックスの入力端子をトリガーとして記録されたもののみ表示します。

VMD (レコーダー)

VMD (レコーダー) I/O ボックスの入力端子をトリガーとして記録されたもののみ表示します。

VMD (カメラ)

Video Motion Detection (カメラ) の入力端子をトリガーとして記録されたもののみ表示します。

VMF

VMF をトリガーとして記録されたもののみ表示します。



コメントの一覧に表示したいコメントを、重要度を元を選択します。

重要度：高

重要度 (高) のコメントを表示します。

重要度：並

重要度 (中) のコメントを表示します。

重要度：低

重要度 (低) のコメントを表示します。

(マーク・イン) / (マーク・アウト)

検索された記録をエクスポートする場合に、その一部分を指定したいときに使います。

 で開始点を、 で終了点を指定します。

(記録データのプレビュー)

検索結果の一覧で選択した記録の最初のフレームをコメント表示部に表示します。

また、このボタンをクリックすると、「再生」ツールバー(96 ページ)が表示されます。

(記録データのエクスポート)

検索結果の一覧で選択した記録を AVI 形式に変換してエクスポートします。

このボタンをクリックすると、「記録データのエクスポート」ダイアログ(124 ページ)が表示されます。

(記録データの削除)

検索結果の一覧で選択した記録を削除します。

(コメントの消去)

コメントの一覧で選択したコメントを削除します。

(記録データの消去)

削除する記録データの条件を設定するための「記録データの消去」ダイアログ(125 ページ)を表示します。

(記録ファイルを開く)

再生したい記録を直接指定するときに使います。

このボタンをクリックすると、「記録ファイルの読み込み」ダイアログが表示されます。再生したい記録データを指定して [OK] をクリックすると、メイン画面のモニターウィンドウに表示されます。

ご注意

メイン画面でカメラモニターウィンドウを選択していない場合は、このボタンは選択できません(グレー表示になります)。



このボタンをクリックするたびに、サムネイルの表示方法が変わります。



検索結果の一覧で選択した記録ファイルから順に、画面に入るだけの数のサムネイルが表示されます。



検索結果の一覧で選択した記録ファイルに関する最初のサムネイルが1枚だけ表示されます。



サムネイルを表示しません。

(同時刻スタート再生)

同時刻スタート再生機能の有効/無効を切り替えます。

同時刻スタート再生機能とは、複数のカメラの記録データを検索し、検索されたデータを同時に同時刻から再生する機能です。

詳しくは、「複数カメラの記録を同時刻から再生する」(70 ページ)をご覧ください。

リスト表示

リスト表示では、検索結果の一覧が表示されます。

項目によっては、一覧のタイトル部分をクリックすると、その項目でソートできます。クリックするたびに、降順() / 昇順() にソートされます。

カメラ	種類	トリガー-I/Oボックス	トリガーの端子	計 開始時刻	終了時刻	時間
カメラ1	マニュアル			2006/08/16	2006/08/16 15:09:07	4 seconds
カメラ1	マニュアル			2006/08/16	2006/08/16 15:08:55	5 seconds
カメラ1	マニュアル			2006/08/16	2006/08/16 15:08:49	4 seconds
カメラ1	マニュアル			2006/08/16	2006/08/16 15:08:45	6 seconds

一覧には、以下の情報が表示されます。

カメラ

カメラ名が表示されます。
この項目はソートできます。

種類

記録の種類(マニュアル/スケジュール/アラーム)が表示されます。
この項目はソートできます。

トリガーの I/O ボックス

記録のトリガーとなった I/O ボックス名が表示されます。
この項目はソートできます。

トリガーの端子

記録のトリガーとなった端子名が表示されます。

この項目はソートできます。

開始時刻

記録の開始時刻が表示されます。

この項目はソートできます。

終了時刻

記録の終了時刻が表示されます。

時間

記録データの長さが表示されます。

ファイル名

記録データのファイル名が表示されます。

分割数

その記録を構成しているファイル数が表示されます。

有効開始時刻

再生開始可能な時刻が表示されます。

クリーンアップやデータ上書きにより、記録の先頭から順に古いデータが削除されている場合があります。

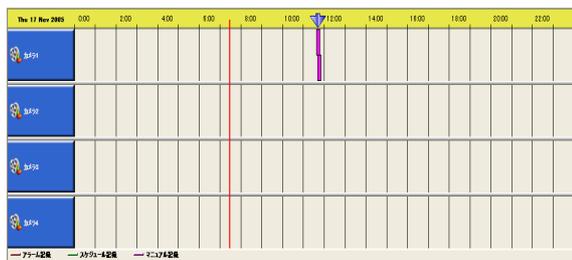
VMF 検索可能

VMF 検索が可能かどうかが表示されます。

記録時に [VMF を使用する] にチェックマークが付いていた場合、VMF 検索が可能となります。

タイムライン表示

タイムライン表示では、記録の種類ごとに色分けされて表示されます。タイムライン表示について詳しくは、「タイムライン表示に切り替える」(69 ページ)をご覧ください。



赤い線 (ウォーカー)

現在、タイムラインのどの位置 (時刻) にいるのかを示します。

メモ

選択したカメラの台数が多くなるほど、タイムライン表示が細くなります。表示を見やすくするため、選択するカメラの台数を少なくすることをおすすめします。

「日付と日時」ダイアログ

記録を検索する日時を月刊カレンダーで指定します。

このダイアログは、検索ツールバーの日時のボックス内をクリックしたときに表示されます。



月間カレンダー

検索したい日にちをクリックします。

◀ をクリックすると前月のカレンダーが、▶ をクリックすると翌月のカレンダーが表示されます。

時刻

検索したい時刻を指定します。

OK

指定した日時の記録を検索します。

キャンセル

検索をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「記録データのエクスポート」ダイアログ

記録データを AVI 形式のファイルに変換してエクスポートします。エクスポートする画像によって設定できる項目が異なります。

このダイアログは、検索ツールバーの  (記録データのエクスポート) をクリックしたときに表示されます。



エクスポート状況

エクスポートの進捗状況が表示されます。

記録データ情報

記録データに関する情報が表示されます。

カメラ

画像を記録したカメラの名前が表示されます。

開始時間

記録が開始された日時が表示されます。

終了時間

記録が終了した日時が表示されます。

期間

記録された期間が表示されます。

フレームレート

記録時のフレームレートが表示されます。

サイズ

画像の大きさが表示されます。

エクスポート設定

作成する AVI ファイルの画像に関する設定を行います。

開始時刻

エクスポートする記録データの開始時刻が表示されます。

終了時刻

エクスポートする記録データの終了時刻が表示されます。

期間

エクスポートする記録の期間が表示されます。

フレームレート

エクスポートする画像のフレームレートを入力します。

サイズ

エクスポートする画像の大きさを入力します。

画質

エクスポートする画像の画質を 0 ~ 100% の範囲で入力します。

テキスト情報出力

画像と一緒に出力するテキスト情報にチェックマークを付けます。

エクスポート

ビデオコーデック

[設定] をクリックし、表示されるダイアログでコーデックの設定を選択します。

[利用可能な全てのコーデックをリストする] にチェックマークを付けると、コーデックを幅広く選択できます。

出力ファイル

[参照] をクリックし、出力先とファイル名を指定します。

エクスポート

記録データをエクスポートします。

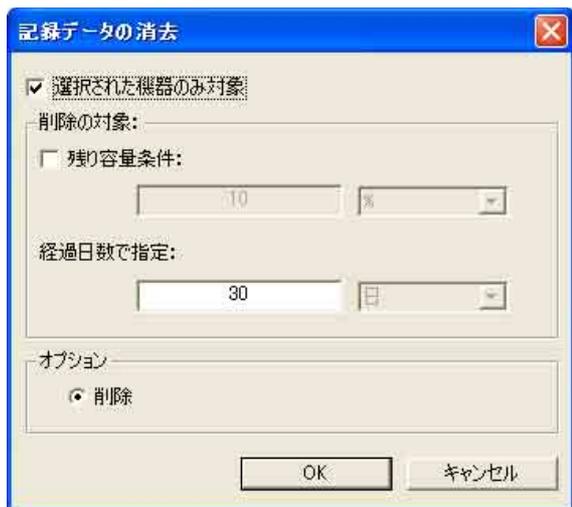
閉じる

エクスポートをキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「記録データの消去」ダイアログ

削除する記録データの条件を設定します。

このダイアログは、検索ツールバーの  (記録データの消去) をクリックしたときに表示されます。



選択された機器のみ対象

ツリーで選択したカメラや音声装置、グループの記録データのみ削除の対象にするときにチェックマークを付けます。

削除の対象

削除の対象にする記録データの条件を設定します。

経過日数で指定

記録データの経過日数で指定したいときは、日数を入力します。

この条件は必須項目です。

残り容量条件

ディスクの残容量で削除を指定したいときにチェックマークを付け、残容量を % または MB で入力します。MB 単位の場合は、「32,767 MB」まで設定できます。それ以上の容量を設定したい場合は % で設定してください。

オプション

設定した条件に合致する記録をすべて削除するときは、[削除] を選択します。

OK

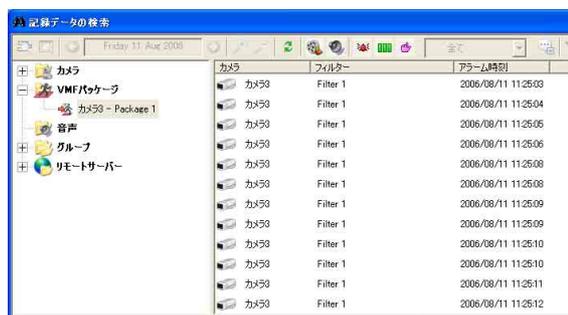
設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

VMF アラームリスト

VMF 検索の結果が表示されます。



カメラ

カメラアイコンとカメラ名が表示されます。

フィルター

アラームを検出したフィルター名が表示されます。

順序型パッケージのアラームの場合は、パッケージ名が表示されます。

アラーム時刻

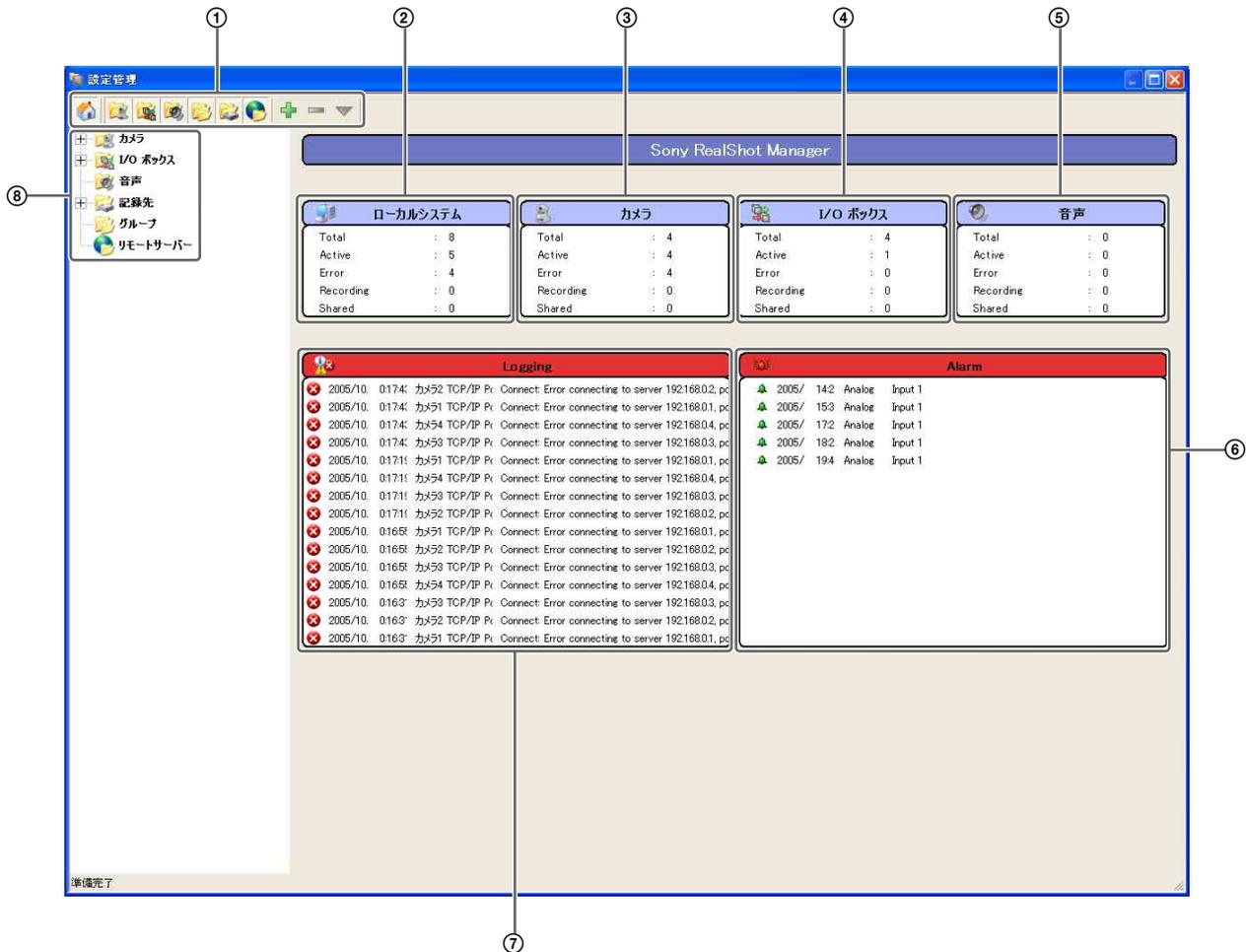
アラームが検出された日時が表示されます。

「設定管理」 ウィンドウ

「設定管理」ウィンドウでは、カメラや音声装置など、RealShot Manager で管理する装置を追加したり、装置に関する設定などが行えます。

このウィンドウは、設定管理ツールバーの  (設定管理) をクリックしたときに表示されます。

総括画面



① 設定管理ツールバー

ツリーに表示する項目を選択したり、装置の追加や削除、各種設定などを行います。
各ボタンの使いかたについては、「設定管理ツールバー」(127 ページ) をご覧ください。

② ローカルシステム

この RealShot Manager で管理している装置の台数や最近の動作の概略が表示されます。
表のタイトル部分をクリックすると、装置の一覧 (128 ページ) が表示されます。

③ カメラ

RealShot Manager で管理しているカメラの台数や最近の動作の概略が表示されます。
表のタイトル部分をクリックすると、カメラの一覧 (128 ページ) が表示されます。

④ I/O ボックス

RealShot Manager で管理している I/O ボックスの台数や最近の動作の概略が表示されます。
表のタイトル部分をクリックすると、I/O ボックスの一覧 (128 ページ) が表示されます。

⑤ 音声装置

RealShot Manager で管理している音声装置の台数や最近の動作の概略が表示されます。
表のタイトル部分をクリックすると、音声装置の一覧 (129 ページ) が表示されます。

⑥ Alarm

アラーム入力の最近のトリガーが表示されます。
各アラームをクリックすると、該当する装置の情報が表示され、設定内容の確認や変更ができます。

⑦ Logging

最近の動作や接続トラブルに関するメッセージなどのログ情報が表示されます。
各ログをクリックすると、該当する装置の情報が表示され、設定内容の確認や変更ができます。

⑧ ツリー

情報を表示したり、設定内容を変更するときに、装置やグループを選びます。
ツリーで装置やグループを選択すると、右側の領域に選択した装置やグループの情報が表示され、設定内容の確認や変更ができます。

設定管理ツールバー

表示されるボタンは、装置やグループなどにより異なります。

** (総括画面の表示)**

総括画面に戻ります。

 (カメラの表示)

ツリーにカメラを表示します。

 (I/O ボックスの表示)

ツリーに I/O ボックスを表示します。

 (音声装置の表示)

ツリーに音声装置を表示します。

 (グループの表示)

ツリーにグループを表示します。

 (記録先の表示)

ツリーに記録先を表示します。

 (リモートシステムの表示)

ツリーにリモートサーバーを表示します。

 (装置の追加)

新規に装置を追加するための「装置の追加」ダイアログ (129 ページ) を表示します。

 (装置の削除)

一覧で選択した装置を削除します。

で注意

カメラを削除すると、そのカメラの記録データは検索／再生できなくなります。

 (装置の編集)

一覧で選択した装置の設定内容を変更／確認するための「装置の設定」ダイアログ (130 ページ) を表示します。

 (カメラを割当てる)

一覧で選択した装置にカメラを割り当てるための「カメラを選択してください。」ダイアログ (146 ページ) を表示します。

 (割当てたカメラを削除する)

一覧で選択した装置に割り当てられているカメラを削除します。

 (上へ)

一覧で選択した装置を上へ移動します。

 (下へ)

一覧で選択した装置を下へ移動します。

 (設定インポート)

選択された機器の設定内容をファイルから読み込みます。
このボタンをクリックすると、ファイルを選択するためのダイアログが表示されます。

で注意

Generic Camera の場合は、そのアイコンデータも必要となります。エクスポートで出力されたファイルとアイコンフォルダーを同じ場所に置いて、インポートを実行してください。

メモ

リモートサーバーに対して、デバイス設定のインポートを行うことはサポートしていません。

 (設定のエクスポート)

選択された機器の設定内容をファイルに保存します。
このボタンをクリックすると、ファイルの保存先を指定するためのダイアログが表示されます。

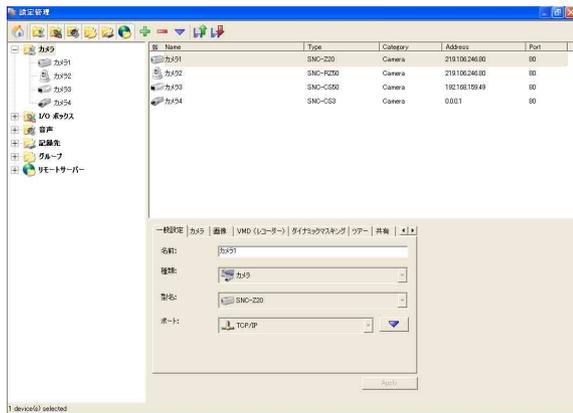
メモ

- Generic Camera の場合は、出力されるファイルと同じ場所に作成されるフォルダーに、アイコンデータもエクスポートされます。アイコンデータが格納されるフォルダー名は、出力されるファイル名に「_Icons」が付いた名前になります。
例えば、出力されるファイルが「d:\¥tmp¥aaa.nwc」の場合は、「d:\¥tmp¥aaa_Icons」という名前のフォルダーが作成され、アイコンデータが保存されます。
- カメラ設定のエクスポートでは、記録先に関する情報はエクスポートされません。

装置の一覧

RealShot Manager で管理している装置の情報が一覧表示されます。

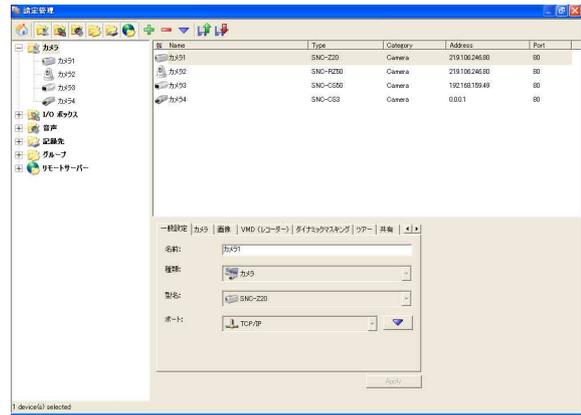
一覧から装置を選択すると、画面下部に選択した装置を詳細に設定するためのタブが表示されます。設定項目は、「装置の設定」ダイアログ（130 ページ）と同じです。詳しくは、「装置の設定」ダイアログの各タブをご覧ください。



カメラの一覧

RealShot Manager で管理しているカメラの情報が一覧表示されます。

一覧からカメラを選択すると、画面下部に選択したカメラを詳細に設定するためのタブが表示されます。設定項目は、「装置の設定」ダイアログと同じです。詳しくは、「装置の設定」ダイアログの「カメラの場合」（130 ページ）をご覧ください。



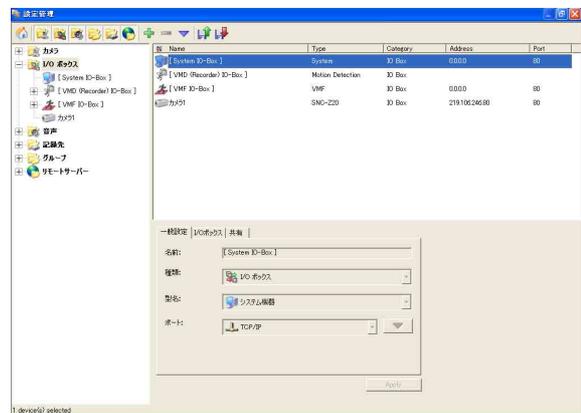
I/O ボックスの一覧

RealShot Manager で管理している I/O ボックスの情報が一覧表示されます。

I/O ボックスの子アイテムには、カメラの入出力の I/O ボックスのほかに、VMD (レコーダー) I/O ボックス、システム I/O ボックス、VMF I/O ボックスがあります。

- VMD (レコーダー) I/O ボックスは、Video Motion Detection (レコーダー) の設定を行うと、自動的に追加されます。
- システム I/O ボックスは、RealShot Manager が動作しているコンピューター上でほかのソフトウェアと連携するための仮想 I/O ボックスです。
- VMF I/O ボックスは、VMF パッケージを作成すると、自動的に追加されます。

設定項目は、「装置の設定」ダイアログと同じです。詳しくは、「装置の設定」ダイアログの「I/O ボックスの場合」（142 ページ）をご覧ください。



メモ

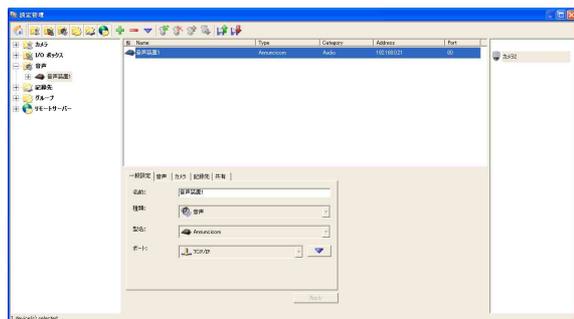
- サーバー (Standard) 単体の場合は、Video Motion Detection (レコーダー) の設定や VMF パッケージの作成を行うまでは、Video Motion Detection (レコーダー) や VMF の I/O ボックスは表示されません。

- サーバー・クライアント構成の場合は、Video Motion Detection (レコーダー) の設定や VMF パッケージを作成してなくても、クライアントから Video Motion Detection (レコーダー) や VMF の I/O ボックスが見えます。
- リモートサーバーの端子を選択したい場合は、最初リモートサーバーをクリックしてください。

音声装置の一覧

RealShot Manager で管理している音声装置の情報が一覧表示されます。

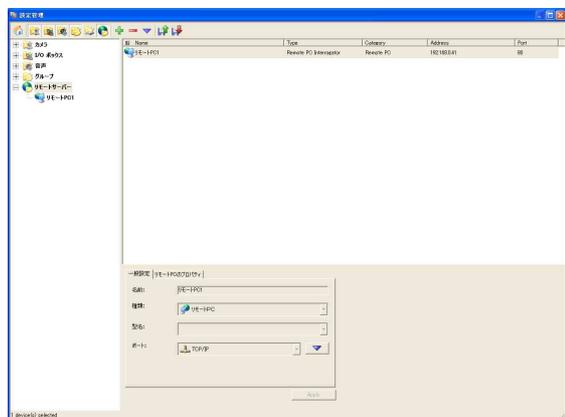
一覧から音声装置を選択すると、画面下部に選択した音声装置を詳細に設定するためのタブが表示されます。設定項目は、「装置の設定」ダイアログ (130 ページ) と同じです。詳しくは、「装置の設定」ダイアログの「音声装置の場合」 (143 ページ) をご覧ください。



リモートサーバーの一覧

RealShot Manager で管理しているリモート PC の情報が一覧表示されます。

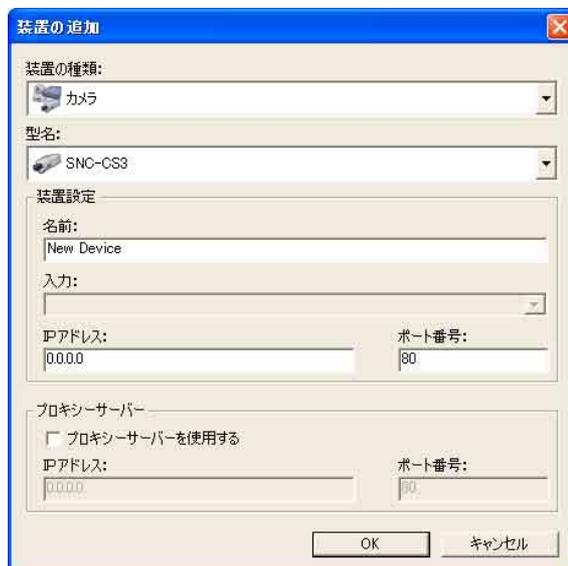
一覧からリモート PC を選択すると、画面下部に選択したリモート PC を詳細に設定するためのタブが表示されます。設定項目は、「装置の設定」ダイアログ (130 ページ) と同じです。詳しくは、「装置の設定」ダイアログの「リモート PC の場合」 (145 ページ) をご覧ください。



「装置の追加」ダイアログ

新規に追加する装置を設定します。より詳細に設定したいときは、「装置の設定」ダイアログ (130 ページ) をご覧ください。

このダイアログは、検索ツールバーの  (装置の追加) をクリックしたときに表示されます。



装置の種類

 をクリックし、表示される一覧から、追加する装置を選択します。

メモ

Generic Camera の I/O ボックスや音声入力機能 (音声装置) は、単独では登録できません。カメラを登録してから、ドラッグ&ドロップで登録してください。また、I/O ボックスや音声装置は、カメラと同じ名称にしてください。

型名

 をクリックし、表示される一覧から、装置の型名を選択します。

Generic Camera を登録するときは、「Generic Camera」を選択してください。なお、カメラとの通信が可能な状態である必要があります。

装置の設定

名前

装置の名前を入力します。

装置の設置場所など、わかりやすい名前におすすめします。

例) Car Park Level4

入力

この項目は、SNT-704などのビデオネットワークステーション（アナログカメラコンバーターボックス）を選択したときに有効になります。

- SNT-V704などのアナログカメラコンバーターボックスを選択したときは、「ビデオネットワークステーションにアナログカメラを追加するには」（28ページ）をご覧ください。

IPアドレス

装置のIPアドレスを入力します。

IPアドレスは、装置を設置したときに装置に設定されています。

ポート番号

装置のポート番号を入力します。

ポート番号は、装置を設置したときに装置に設定されています。

プロキシサーバー

プロキシサーバーを介して装置にアクセスする場合は、以下の項目を設定します。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

プロキシサーバーを使用する

プロキシサーバーを介してカメラにアクセスする場合にチェックマークを付けます。

IPアドレス

プロキシサーバーのIPアドレスを入力します。

ポート番号

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

OK

装置を追加します。

キャンセル

装置の追加をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「装置の設定」ダイアログ

装置を詳細に設定できます。装置によって表示されるタブが異なります。

各項目を設定したら、[OK] または [適用] をクリックして設定を保存します。

この画面は、以下の3箇所に表示されます。

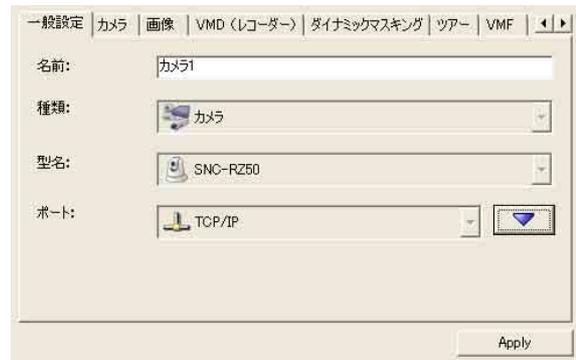
- 「設定管理」ウィンドウの下部
- 「設定管理」ウィンドウ上部の  をクリックしたとき、または「設定管理」ウィンドウでデバイスをダブルクリックしたときに表示されるダイアログ

- メイン画面でカメラモニターウィンドウをダブルクリックしたときに表示されるダイアログ

「設定管理」ウィンドウで表示される上記2つ画面の内容は同じですが、メイン画面で表示されるダイアログは、機能が一部制限されています。

カメラの場合

【一般設定】タブ



Generic Camera の場合の画面例)



名前

カメラの名前を入力します。

種類

装置の種類が表示されます。この項目は変更できません。

型名

カメラの型名が表示されます。この項目は変更できません。

ポート

接続されているポートが表示されます。

カメラのIPアドレスやポート番号などを変更したいときは、 をクリックし、表示される「ポートのプロパティ」ダイアログ（154ページ）で行います。

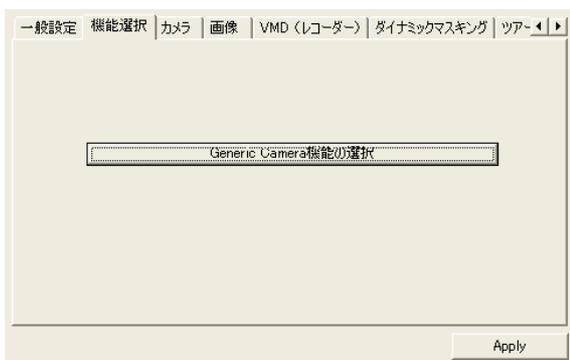
Generic Camera 情報の再取得 (Generic Camera のみ)

このボタンをクリックすると、カメラから情報が再取得されます。

ご注意

カメラから情報を再取得すると、今まで設定されていたパラメータが別の値に変更される可能性があります。その場合は設定が変更されたことを通知するメッセージが表示されますので、[機能選択] タブで機能の組み合わせを設定しなおし、運用に合わせた設定を行ってください。設定が終わったら、必ず全設定をチェックし、適切な値が設定されているか確認してください。

[機能選択] タブ (Generic Camera のみ)



Generic Camera 機能の選択

このボタンをクリックすると、Generic Camera の機能の組み合わせを選択するための「[Generic Camera 機能選択] ダイアログ」(131 ページ)が表示されます。

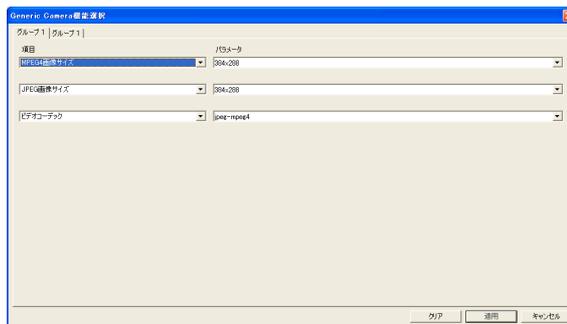
[Generic Camera 機能選択] ダイアログ

Generic Camera の機能の組み合わせを、上から順に1行ずつ選択します。

- 選択した順番に残りの選択肢が絞り込まれていきますので、使用したい機能の優先順に上の行から選択してください。
- 選択済みの行を変更すると、それより下の行が未選択の状態に戻ります。
- ここで選択した組み合わせによって、各設定画面で設定できる値の範囲が決まりますので注意してください。
- 組み合わせを考慮する必要がある機能群ごとに、グループ (タブ) に分けられています。

ご注意

組み合わせを変えると、今まで設定されていたパラメータが別の値に変更される可能性があります。組み合わせを変更したときは、必ず全設定を確認してください。



項目

▼ をクリックし、表示される一覧から、設定したい機能を選択します。

パラメータ

▼ をクリックし、表示される一覧から、設定値を選択します。

メモ

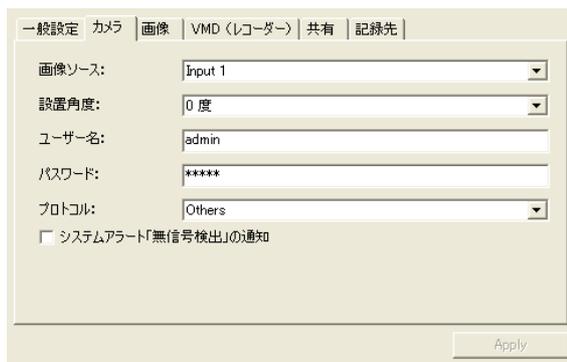
項目を選択した順番や選択されたパラメータによって、残りの選択肢が絞り込まれ、次の行で選択できる項目や値が変動します。

[カメラ] タブ

カメラの機種や他の設定によって、設定できない項目もあります。

ご注意

カメラに接続するためのユーザー名やパスワードと一緒にほかの設定も変更する場合は、先にユーザー名やパスワードを変更し [OK] または [適用] をクリックしてから、そのほかの設定を行ってください。



画像ソース

▼ をクリックし、表示される一覧から、画像ソースを選択します。

機器により、選択できる項目は異なります。

カメラが内部の画像ソースしかサポートしていないときは、この項目は設定できません。

設置角度

カメラの画像を正しく調整できるようにするために、をクリックし、表示される一覧から、カメラの取り付け角度（0、90、180、270度）を選択します。

ご注意

VMFでは、90、270度はサポートしておりません。VMFを使用する場合は、必ず0または180度で使用するください。

ユーザー名

このカメラに接続するためのユーザー名を入力します。

パスワード

このカメラに接続するためのパスワードを入力します。

その他

カメラの機種に応じた設定項目が表示されます。

• プロトコル

この項目は、SNT-V704などのビデオネットワークステーションの場合にのみ表示されます。これは、アナログカメラとビデオネットワークステーション間のプロトコルで、ビデオネットワークステーションとRealShot Manager間のプロトコルではありません。プロトコルは、アナログカメラに合わせて設定してください。詳しくは、ビデオネットワークステーションの取扱説明書をご覧ください。

メモ

SNT-V704の場合に表示される「New Protocol 1」～「New Protocol 5」は、将来のための予約項目です。

• システムアラート「無信号検出」の通知

無信号を検出したときに、あらかじめ指定されているメールアドレス宛に電子メールで通知する場合にチェックマークを付けます。

• 自動パンチルト速度

ここにチェックマークを付けると、ズーム状態に応じて、カメラがパン・チルト速度を制御します。

• ローカルストレージ

カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

なお、カメラのイメージメモリーを有効にするには、別途カメラ側での設定が必要です。

詳しくは、「カメラのローカルストレージを利用したアラーム記録機能」（66ページ）をご覧ください。

• バイナリーモード

この項目は、SNC-VL10の場合にのみ表示されます（SNC-VL10特有のモードです）。

詳しくは、「バイナリーモード（SNC-VL10の「転送モード」設定時）」（184ページ）をご覧ください。

• 古いファームウェア

この項目は、SNC-VL10とSNC-V304の場合にのみ表示されます。

ファームウェアを最新版にアップデートしていない場合にチェックマークを付けます。

【画像】タブ

カメラから取り込む画像に関する設定を行います。

以下の画面例は、複数のコーデックを同時に配信できるカメラの場合のものであります。

画面例) 複数のコーデックを同時に配信できるカメラで、1つのコーデックを選択した場合



画面例) 複数のコーデックを同時に配信できるカメラで、2つのコーデックを選択した場合

カメラでは、左側のコーデックが優先的に処理されます。



画面例) Generic Camera の場合

**ビデオ・コーデック**

JPEG または MPEG4 を選択します。

この項目は、カメラによって選択項目や表示が異なります。

- Generic Camera 以外のカメラで2つのコーデックを同時に配信できるカメラの場合に、2つのコーデックを選択したときは、[ストリーミング] で選択したコーデックが配信に使用され、もう1つはカメラ側のローカルストレージへのアラーム記録に使用されます。
- Generic Camera で2つのコーデックを選択した場合は、以下ようになります。
 - [ストリーミング] で選択されているコーデックが使用されます。
 - カメラ内の処理に優先順位がある場合はコーデック名の右側に「優先度」が表示され、優先順位がない場合は「優先度」は表示されません。

メモ

MPEG4 で記録する場合、I ピクチャー間隔よりも記録時間が短いと、記録データを再生できないことがあります。記録時間がI ピクチャー間隔よりも長くなるように設定してください。

ストリームモード

カメラと RealShot Manager 間の画像の転送モードを選択します。

選択できるモードは、カメラの機種によって異なります。詳しくは、「カメラの画像サイズとフレームレート」(179 ページ) をご覧ください。

ご注意

SNT-V704 の場合は、必ず [ストリームモード] にチェックマークを付けた状態で使用してください。

ストリーミング

この項目は、複数のコーデックを同時配信可能なカメラの場合にのみ表示されます。

複数のコーデックを同時配信するときに、どちらのコーデックをモニター用として配信させるかを選択します。

間隔

画像のフレーム間隔を入力します。

例えば、

40 ms = 25 fps、100 ms = 10 fps、0 ms = 最大フレームレートとなります。

設定できるフレーム間隔は、カメラの機種によって異なります。詳しくは、「カメラの画像サイズとフレームレート」(179 ページ) をご覧ください。

フレームレート (Generic Camera の場合)

▼ をクリックし、表示される一覧からフレームレートを選択します。

解像度

▼ をクリックし、表示される一覧から、画像の解像度を選択します。

カメラによっては、NTSC と PAL で実際に適用されるサイズが異なります。詳しくは、「カメラの画サイズについて」(179 ページ) をご覧ください。

画像品質

カメラから取り込む画像の画質を 0 ~ 100% の範囲で入力します。

MPEG4 の場合は、ビットレートが変更されます。

色彩度

カメラから取り込む画像の色彩度 (0 ~ 100%) を入力します。

[VMD (レコーダー)] タブ

Video Motion Detection (レコーダー) に関する設定を行います。Video Motion Detection (レコーダー) について詳しくは、「動体検知機能」(57 ページ) をご覧ください。



PTZ 動作中は VMD (レコーダー) を停止する

Video Motion Detection を確実に設定するため、パン、チルト、ズーム中は Video Motion Detection を停止させるときにチェックマークを付けます。

Video Motion Detection の一覧

このカメラに設定されている Video Motion Detection が一覧表示されます。



新規に設定を追加するための「Video Motion Detection (レコーダー)」ダイアログ (134 ページ) を表示します。



一覧で選択した設定を削除します。



一覧で選択した Video Motion Detection の設定内容を変更するための「Video Motion Detection (レコーダー)」ダイアログ (134 ページ) を表示します。

「Video Motion Detection (レコーダー)」ダイアログ

動体検知領域を設定します。

このダイアログは、「装置の設定」ダイアログまたは「カメラ設定」ダイアログの [VMD (レコーダー)] タブで、

 または  をクリックしたときに表示されます。



Video Motion Detection (レコーダー) ツールバー



(多角形の移動)

マスクをドラッグして長方形のマスクを作成したり、マスクを移動するときに使います。

(ポイントの編集)

ポイントを追加/削除して、複雑な形状のマスクを作成するときに使います。

(ポイントの追加)

辺を特定の位置で分割するときに使います。

辺の上で Ctrl キーを押しながらクリックすると、マスクに編集ポイントが追加されます。

(ポイントの削除)

辺の数を 1 つ減らすときに使います。

編集ポイントの上で Ctrl キーを押しながらクリックすると、マスクの編集ポイントが削除されます。

(最前面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりが一番上に移動します。

(最背面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりが一番下に移動します。

(前面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりの上 1 つ上に移動します。

(背面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりの下 1 つ下に移動します。

(多角形の削除)

選択したマスクを削除します。

(画像のリフレッシュ)

すべてのマスクを含む静止画を更新します。

(プレビュー)

動体検知マスクを含むカメラのライブ映像を表示します。設定した領域でどのように表示されるかを確認できます。

(エキスパートモード)

領域を詳細に設定するときにオンにします。

このボタンをオンにすると、右側の設定項目が増えます。

設定名

領域設定の名前を入力します。

ここで設定した名前は、検知領域で検知された動体をトリガーとするアラームのスケジュールを設定するときに使用されます。

VMD モード

 をクリックし、高性能モードまたは標準モードを選択します。

検知領域モード

 をクリックし、表示される一覧から、設定領域の内側を検知するか、外側を検知するかを選択します。設定領域内の動体を検知するときは [矩形領域内] を、すべての設定領域の外側の動体を検知するときは [矩形領域外] を選択します。

表示色

[表示色] ボックスをクリックし、表示される「色の設定」ダイアログで、動体検知マスクの塗り色を選択します。

プリセット名

この項目を設定すると、指定した領域内で動体が検知された場合に、指定したプリセット位置にカメラが移動します。プリセット名をクリックして選択し、Delete キーを押すと、選択されていない状態に戻ります。

しきい値

動体を検知する感度レベルを1～100の範囲で設定します。この値は、動体検知プロセッサが、フレーム間に動体があったかどうかを判断するための基準値として使用されます。

比較画像枚数

物体が移動したと判断するために、比較する元となる画像の数をフレーム数で指定します。

指定されたフレーム数を使用して、検知する候補となるフレームの選出とノイズの除去を行います。

この項目は  (エキスパートモード) がオンになっているときに表示されます。

ご注意

この枚数が多くなると、ノイズの除去をしやすくなりますが、処理の負荷が増すため、処理速度が遅くなります。

検知判定回数

この値を元に、動体候補が動体と検知されるために必要な判定回数が設定されます。

この項目は  (エキスパートモード) がオンになっているときに表示されます。

検知単位 (横画素数)

検知しようとする領域の横の長さを、画素数 (ピクセル数) で指定します。

この項目は  (エキスパートモード) がオンになっているときに表示されます。

検知単位 (縦画素数)

検知しようとする領域の縦の長さを、画素数 (ピクセル数) で指定します。

この項目は  (エキスパートモード) がオンになっているときに表示されます。

最大動体矩形 (横%)

検知しようとする動体の横の長さの最大値を、%で指定します。

この項目は  (エキスパートモード) がオンになっているときに表示されます。

最大動体矩形 (縦%)

検知しようとする動体の縦の長さの最大値を、%で指定します。

この項目は  (エキスパートモード) がオンになっているときに表示されます。

最小動体矩形 (横%)

検知しようとする動体の横の長さの最小値を、%で指定します。

この項目は  (エキスパートモード) がオンになっているときに表示されます。

最小動体矩形 (縦%)

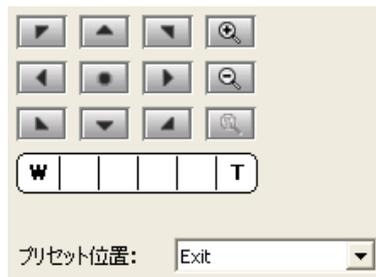
検知しようとする動体の縦の長さの最小値を、%で指定します。

この項目は  (エキスパートモード) がオンになっているときに表示されます。

アラーム動体矩形数

アラームを通知するための動体矩形の数を指定します。

この項目は  (エキスパートモード) がオンになっているときに表示されます。



パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合、領域を設定しやすいようにカメラの向きやズームを変えるときに使います。

各ボタンの使いかたは、[パン・チルト] ツールバー (98ページ) をご覧ください。

OK

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

[ダイナミックマスキング] タブ

モニターしているカメラ画像の中で特定の領域を覆い隠したいときに、ダイナミックマスキングを設定します。ダイナミックマスキングは、カメラのパン、チルト、ズームの動作に連動して、設定した場所を常に覆い隠すように動作する機能です。



PTZ 動作中は描画を停止する

マスク領域を確実に設定するため、パン、チルト、ズーム中は描画を停止させるときにチェックマークを付けます。

マスク領域を設定しているときにパン、チルト、ズーム操作を行った場合、それに応じてマスクも移動しますが、マスクの移動がパン、チルト、ズームの動きよりも少し遅れることがあります。ここにチェックマークを付けると、パン、チルト、ズーム中は描画が停止するため、確実にマスク領域を設定できます。

メモ

SNC-Z20 カメラでは、ズーム動作中に描画を停止できません。SNC-Z20 カメラに対してマスクを設定する場合は、領域を大きめに設定してください。

マスクの一覧

このカメラに設定されているマスクが一覧表示されます。

マスク削除

一覧で選択したマスクを削除します。

全消去

このカメラに設定されているマスクをすべて削除します。

詳細

新規にマスクを設定したり、マスクの設定内容を変更するための「ダイナミックマスキング」ダイアログ (136 ページ) を表示します。

メモ

- パン・チルトを持つカメラに対して設定したマスク領域は、パン・チルトまたはズーム操作を行うとずれる場合があります。マスクをかけたい対象物の周り上下左右に、画像サイズの 10% 程度の余裕を持って設定してください。また、パン・チルト機能を持つカメラでマスクの設定を行う場合は、マスクをかける対象物がモニター画面の中央にくる状態にしてから行ってください。

- 必要に応じて、「カメラ設定」ダイアログの [ダイナミックマスキング] タブで、[PTZ 動作中は描画を停止する] にチェックマークを付けて運用してください。
- ダイナミックマスキングは、ストリームモードでのみ設定可能です。ダイナミックマスキングが設定されている場合、ストリームモードを解除することはできません。
- [PTZ 動作中は描画を停止する] にチェックマークを付けた場合、記録中にパン、チルト、ズーム行くと、パン、チルト、ズーム中は記録データのサムネイルが一面オレンジ色で塗りつぶされた状態で表示されます。再生を行った場合は、パン、チルト、ズーム中はパン、チルト、ズーム動作の直前の画像が表示されます。
- クライアントからダイナミックマスキングの設定を行う場合は、いったん設定のプレビューを適用してから行ってください。
- SNT-V704 に対して、RealShot Manager からダイナミックマスキングを設定することはできません。SNT-V704 に Web ブラウザで接続して、直接設定してください。

「ダイナミックマスキング」ダイアログ

マスクする領域を作成します。

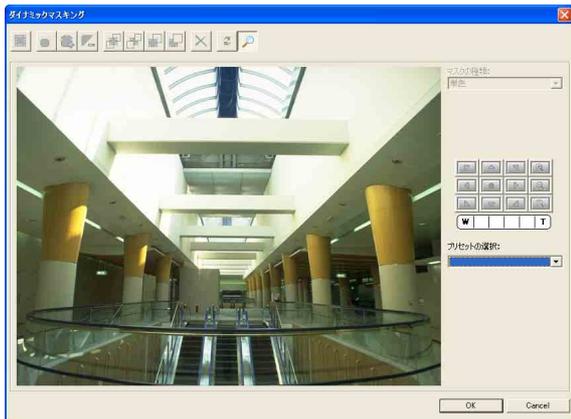
このダイアログは、「装置の設定」ダイアログまたは「カメラ設定」ダイアログの [ダイナミックマスキング] タブで、[詳細] をクリックしたときに表示されます。

カメラとの接続が確立している場合は、設定画面が編集モードで起動します。カメラとの接続を行っていない場合は、設定画面がプレビューモードで起動します。プレビューモードで起動したときは、カメラとの接続を確立した後、 をクリックし、編集モードにしてください。

ご注意

パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合、パン、チルト、ズーム操作をしたときに、設定した領域がずれる場合があります。マスクをかけたい対象物の上下左右 10% 程度の余裕を持って領域を設定してください。特に、SNC-P5 カメラの場合はずれ幅が大きくなりますので、注意してください。

また、左下にマスク領域を設定し、設定した領域が右上にくるようにパン、ズーム操作をした場合は、ずれ幅が大きくなりますので、必ずマスクをかけたい対象物がプレビュー画面の中央にくるようにしてから、領域を設定してください。



ダイナミックマスキングツールバー



(多角形の移動)

マスクをドラッグして長方形のマスクを作成したり、マスクを移動したりするときに使います。

(ポイントの編集)

ポイントを追加／削除して、複雑な形状のマスクを作成するときに使います。

(ポイントの追加)

辺を特定の位置で分割するときに使います。
辺の上でCtrlキーを押しながらクリックすると、マスクに編集ポイントが追加されます。

(ポイントの削除)

辺の数を1つ減らすときに使います。
編集ポイントの上でCtrlキーを押しながらクリックすると、マスクの編集ポイントが削除されます。

(最前面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりが一番上に移動します。

(最背面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりが一番下に移動します。

(前面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりの上1つ上に移動します。

(背面に移動)

選択したマスクをマスクの重なりの上1つ下に移動します。

(多角形の削除)

選択したマスクを削除します。

(画像のリフレッシュ)

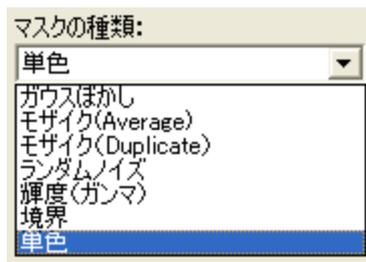
すべてのマスクを含む静止画を更新します。

(プレビュー)

マスクを含むカメラのライブ映像を表示します。
設定したマスク領域がどのように表示されるかを確認できます。

マスクの種類

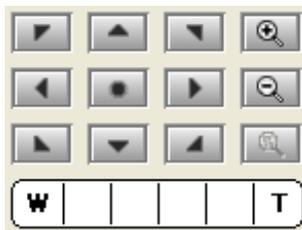
マスクの表示のしかたを設定します。
マスクは、単色またはパターンで塗ることができます。
 をクリックし、表示される一覧から、[単色] またはパターンを選択します。



- [単色] を選択したときは、表示される「色の設定」ダイアログで、マスクの塗り色を選択します。
- [ランダムノイズ] や [輝度 (ガンマ)] などを選択した場合は、マスキングのレベルも設定できます。

で注意

[ガウスぼかし] と [モザイク] では、ズームに応じてぼかしのサイズ (ピクセル) は変化しませんので、ズームを最大にして設定してください。ズームを最大にしないで設定し、マスクが読めないときは、ズームインすると読めるようになります。



パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合は、各ボタンを使ってカメラのパン、チルトやズームをコントロールし、設定した領域を隠すようにカメラが正しく移動するか確認します。

各ボタンの使いかたは、[パン・チルト] ツールバー (98ページ) をご覧ください。

プリセットの選択

 をクリックし、表示される一覧から、領域設定に含まれるカメラのプリセット位置を選択します。

OK

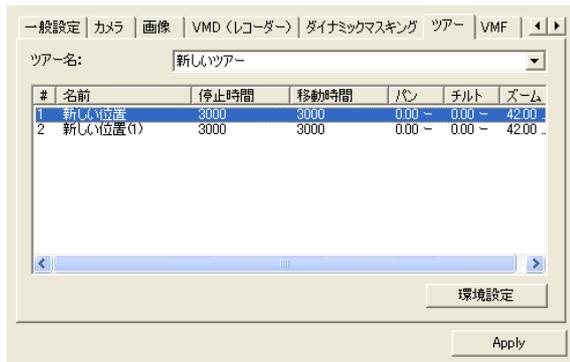
設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

[ツアー] ダイアログ

ツアーに関する設定を行います。



メモ

Generic Camera の場合は、[移動時間] 列は [速度] 列になります。

ツアー名

▼ をクリックし、表示される一覧から、実行するツアーを選択します。

ツアーを選択すると、下のボックスに設定内容が表示されます。

環境設定

新規にツアーを設定したり、ツアーの設定内容を変更するための「ツアー」ダイアログ (174 ページ) を表示します。

[VMF] タブ (動体検知メタデータ対応カメラの場合)

VMF に関する設定を行います。VMF について詳しくは、「動体検知機能」(57 ページ) をご覧ください。このタブは、動体検知メタデータ対応カメラの場合にのみ表示されます。



VMF を使用する

VMF を使用する場合にチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けると、カメラからメタデータを受け取るようになります。

ご注意

- RealShot Manager では、VMF とそのカメラの Video Motion Detection (カメラ) を併用することはできません。ここにチェックマークを付けた場合は、そのカメラの Video Motion Detection (カメラ) の設定は無効になります。
- VMF を使用した後、Video Motion Detection (カメラ) に切り替えて使う場合、Video Motion Detection (カメラ) のカレントモード (RealShot Manager の設定画面では [現在位置]) の設定値がカメラ側と RealShot Manager の設定画面とで異なる場合があります。必ず「[Video Motion Detection (カメラ)] ダイアログ (SNC-RX550、Generic Camera などのカメラの場合)」(150 ページ) で再設定を行ってください。

VMF パッケージの一覧

このカメラに設定されている VMF パッケージが一覧表示されます。

(追加 VMF パッケージ (動体用))

動体用の VMF パッケージを一覧に追加します。VMF パッケージは、動体用、不動体用を合わせて 16 個まで追加できます。

- このボタンは、一覧に追加するだけです。VMF パッケージの設定は、▼ をクリックして表示される「Video Motion Filter パッケージ設定」ダイアログ (139 ページ) で行ってください。
- パッケージの名前は、一覧で名前の部分をクリックすると編集できるようになります。

(追加 VMF パッケージ (不動体用))

不動体用の VMF パッケージを一覧に追加します。VMF パッケージは、動体用、不動体用を合わせて 16 個まで追加できます。

- このボタンは、一覧に追加するだけです。VMF パッケージの設定は、▼ をクリックして表示される「Video Motion Filter パッケージ設定」ダイアログ (139 ページ) で行ってください。
- パッケージの名前は、一覧で名前の部分をクリックすると編集できるようになります。



一覧で選択した VMF パッケージを削除します。



一覧で選択した VMF パッケージを設定するための「Video Motion Filter パッケージ設定」ダイアログ (139 ページ) を表示します。

標準パッケージ

▼ をクリックし、表示される一覧から、使用する VMF パッケージを選択します。

標準パッケージは、VMF によるアラーム記録スケジュールの時間外において、モニターやマニュアル記録などで使用されます。

「Video Motion Filter パッケージ設定」ダイアログ

新規に VMF パッケージを設定したり、設定内容を変更できます。

このダイアログは、動体検知メタデータ対応カメラの場合に「装置の設定」ダイアログの [VMF] タブで、▼ をクリックしたときに表示されます。

ご注意

ライブ映像に対して同時に適用できる VMF パッケージは、1 つだけです。そのため、VMF によるアラーム記録スケジュールが実行されているときにこの設定を行うと、アラーム記録スケジュールのパッケージが、設定中のパッケージに置き換わってしまいます。

メモ

不動態検知では、開始時に約 40 秒の初期化時間が必要です。

VMF パッケージは、パッケージが所有する 3 つのフィルター (検出条件) のコンビネーションと各フィルターの詳細設定、パッケージが所有する 6 つの非検知エリアの設定で構成されます。

フィルターと非検知エリアは、以下の手順で設定します。

- 1 フィルター名とフィルタータイプを設定する (①)。
- 2 ①のエリアの下にある ▼ (②) をクリックし、③のエリアで条件を設定する。
 - 条件を設定するときは、必ず目的のフィルターまたは非検知エリアの下にある ▼ をクリックしてください。
▼ (オフ) をクリックすると、▼ (オン) に変わり、条件を設定できるようになります。
 - カメラのライブ映像を見ながら条件を設定する場合は ③のエリアにある **ライブ映像** をクリックし、記録先に保存されている記録データの画像を見ながら設定する場合は **記録映像** をクリック

します。ボタンをクリックすると、画像に応じたツールバー (141 ページ) が表示されます。

- 3 同様にして、残りのフィルターと非検知エリアを設定する。



順序型

順番にフィルターを適用して、特定の現象を検出するときに選択します。

フィルターは、左から順に適用されます。

ここを選択したときは、フィルターを適用する順番や時間を設定します。

不動態検知のパッケージを設定するときは、[順序型] は設定できません。

独立型

すべての条件を同時に適用して、特定の現象を検出するときに選択します。

ご注意

順序型と独立型を切り替えるには、各フィルターと非検知エリアの ▼ がすべてオフになっている必要があります。ボタンが ▼ (オン) になっているときは、クリックして ▼ (オフ) に切り替えてください。



フィルター名

フィルター名を入力します。



このフィルターの有効/無効を切り替えます。

タイプ

▼ をクリックし、表示される一覧から、フィルタータイプを選択します。

フィルターは、パッケージタイプ (「動体用」または「不動態用」) によって設定できる種類が異なります。

■動体用

出現

条件に合致する物体が設定したエリア内に出現したことを検出します。

消失

条件に合致する物体が設定したエリア内から消えたことを検出します。

存在

条件に合致する物体が設定したエリア内に滞留していることを検出します。

数量

条件に合致する物体の数が設定したエリア内で指定数を超えたことを検出します。

通過

条件に合致する物体が設定したラインを通過したことを検出します。

■不動体用

不動体／持ち去り

不動体または物体が持ち去られたことを検出します。



左右のフィルターの順番を入れ替えます。



[順序型] を選択した場合に、左側のフィルターを適用している時間（次のフィルターに移行するまでの時間）を秒単位で入力します。

ご注意

時間を設定するには、各フィルターと非検知エリアの がすべてオフになっている必要があります。ボタンが (オン) になっているときは、クリックして (オフ) に切り替えてください。

🔍 (プレビュー)

設定したパッケージを用いたフィルタリングを実行し、動作を確認するときに使います。

非検知エリア

をクリックし、表示される一覧から、非検知エリアを選択します。



条件を設定するときをクリックします。

必ず設定したいフィルターまたは非検知エリアの下にある をクリックしてください。

フィルタ

エリア をクリックしてから、画像上でエリアの頂点をクリックし、検知または非検知エリアを設定します。

- 八角形までの多角形を設定できます。
- 多角形のエリアを設定するときは、時計回りに頂点をクリックしていきます。
- 頂点を編集することはできません。
- フィルタータイプが [通過] のときは、物体の通過を検知する方向を設定します。
終点を設定した後、ラインの中点付近をクリックし、方向を示す矢印を表示させて設定します。矢印の向きは、クリックするたびに、双方向→右向き→左向き→双方向…と変わります。

対象サイズ

検知する物体の大きさを設定します。

最小

検知する物体の最小の大きさを設定します。

設定画面上に表示される水色の枠をマウスでドラッグし、大きさを変更してください。

最大

検知する物体の最大の大きさを設定します。

設定画面上に表示される青色の枠をマウスでドラッグし、大きさを変更してください。

対象速度

検知する物体の速度を設定します。



最小

をクリックし、検知する物体の最小速度を入力します。

設定画面上にマウスで線分を描くと、[pixel] 欄に数値が入力されます。その距離を何秒で移動するかを設定してください。

また、初期状態では、最小速度はシステム上の最小値に設定されています。

一度設定を変更した後に最小値に戻す場合は、

をクリックしてください。

最大 pixel / sec

最大 をクリックし、検知する物体の最大速度を入力します。

設定画面上にマウスで線分を描くと、[pixel] 欄に数値が入力されます。その距離を何秒で移動するかを設定してください。

また、初期状態では、最大速度はシステム上の最大値に設定されています。

一度設定を変更した後に最大値に戻す場合は、

 をクリックしてください。



選択した図形やラインを削除します。

期間（フィルタータイプが [存在]、[不動態/持ち去り] の場合）

期間 sec

フィルタータイプが [存在] の場合は、物体が動態として認識されてからアラームが発生するまでの時間を入力します。初期値は0です。

[不動態/持ち去り] の場合は、不動態であると認識された時点から、アラームが発生するまでの時間を入力します。

メモ

物体が不動態として認識されると、約3時間、不動態状態が保持され、検知枠が表示され続けます。

対象数（フィルタータイプが [数量] の場合）

対象数 個

設定したエリア内に物体が何個以上検知されたときにアラームを発生させるかを入力します。

判定部分（フィルタータイプが [通過] の場合）

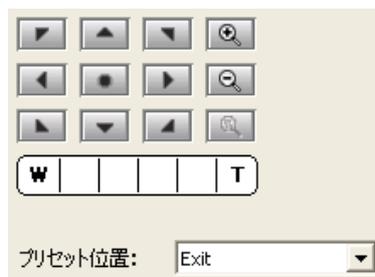
判定部分

 をクリックし、表示される一覧から、物体の重心、またはどの辺の中心がラインを越えたときにアラームを発生させるかを選択します。

ライブ映像

カメラのライブ映像を表示させるときにクリックします。このボタンをクリックすると、次のツールバーが表示されます。

このツールバーは、139 ページの ③ の領域に表示されません。



パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合、エリアを設定しやすいようにカメラの向きやズームを変えるときに使います。

各ボタンの使いかたは、[パン・チルト] ツールバー（98 ページ）をご覧ください。

プリセット位置

カメラをプリセット位置に移動させるときは、 をクリックし、表示される一覧から、プリセットを選択します。

ご注意

ここでできるのは、カメラをプリセット位置に移動することだけです。VMF パッケージをプリセット位置ごとに設定することはできません。

記録映像

記録先に保存されている記録データの画像を表示させるときにクリックします。

このボタンをクリックすると、次のツールバーが表示されます。

このツールバーは、139 ページの ③ の領域に表示されません。

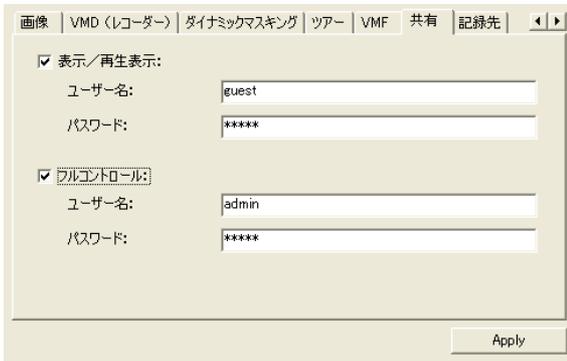


記録を再生するときに使います。記録データに付随する音声があるときは、音声も再生できます。

各ボタンの使いかたは、[再生] ツールバー（96 ページ）をご覧ください。

[共有] タブ

このカメラの共有設定を行います。



表示/再生表示

このカメラからの画像の表示と記録の再生のみ許可するときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、このカメラに接続するためのユーザー名とパスワードを入力します。

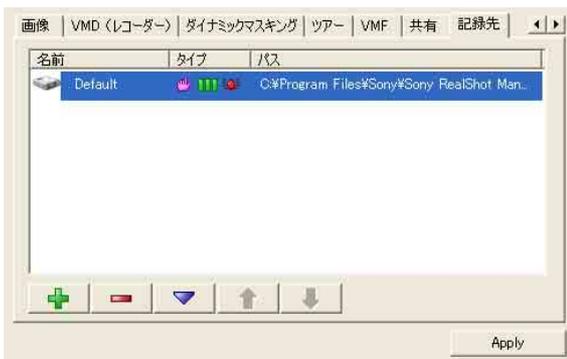
フルコントロール

このカメラに対するすべての操作や設定を許可するときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、このカメラに接続するためのユーザー名とパスワードを入力します。

[記録先] タブ

このカメラの記録を保存するためのメディアを設定します。



記録先の一覧

このカメラに設定されている記録先が一覧表示されます。



新規に記録先を追加するための「記録先の選択」ダイアログ (176 ページ) を表示します。



一覧で選択した記録先を削除します。



一覧で選択した記録先の設定内容を変更するための「記録先の選択」ダイアログ (176 ページ) を表示します。



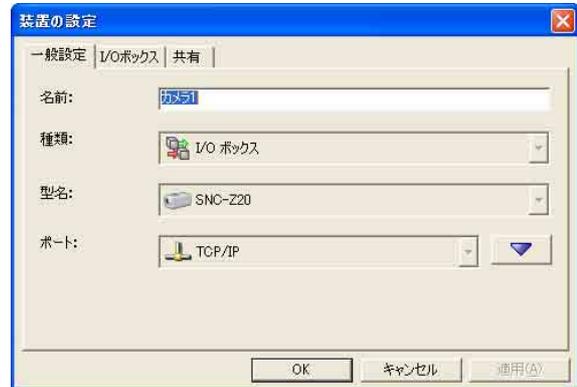
一覧で選択した記録先を1つ上に移動します。



一覧で選択した記録先を1つ下に移動します。

I/O ボックスの場合

[一般設定] タブ



名前

I/O ボックスの名前を入力します。

種類

装置の種類が表示されます。この項目は変更できません。

型名

I/O ボックスの型名が表示されます。この項目は変更できません。

ポート

接続されているポートが表示されます。

I/O ボックスの IP アドレスやポート番号などを変更したいときは、 をクリックし、表示される「[ポートのプロパティ]」ダイアログ (154 ページ) で行います。

[I/O ボックス] タブ

端子に関する設定を行います。



端子のリスト

この I/O ボックスで使用できる端子が一覧表示されます。



新規に端子を追加するための「I/O 端子の設定」ダイアログ（146 ページ）を表示します。



一覧で選択した端子を削除します。



一覧で選択した端子の設定内容を変更するための「I/O 端子の設定」ダイアログ（146 ページ）を表示します。

ポーリング間隔

ポーリングする間隔をミリ秒単位で入力します。

ユーザー名

この I/O ボックスに接続するためのユーザー名を入力します。

パスワード

この I/O ボックスに接続するためのパスワードを入力します。

[共有] タブ



読み込みと書き出し

この I/O ボックスからのセンサー入力／出力の読み込みと書き出しのみ許可するときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、この I/O ボックスに接続するためのユーザー名とパスワードを入力します。

フルコントロール

この I/O ボックスに対するすべての操作や設定を許可するときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、この I/O ボックスに接続するためのユーザー名とパスワードを入力します。

音声装置の場合

[一般設定] タブ



名前

音声装置の名前を入力します。

種類

装置の種類が表示されます。この項目は変更できません。

型名

音声装置の型名が表示されます。この項目は変更できません。

ポート

接続されているポートが表示されます。

音声装置のIPアドレスやポート番号などを変更したいときは、 をクリックし、表示される「ポートのプロパティ」ダイアログ（173 ページ）で行います。

[音声] タブ



音声品質

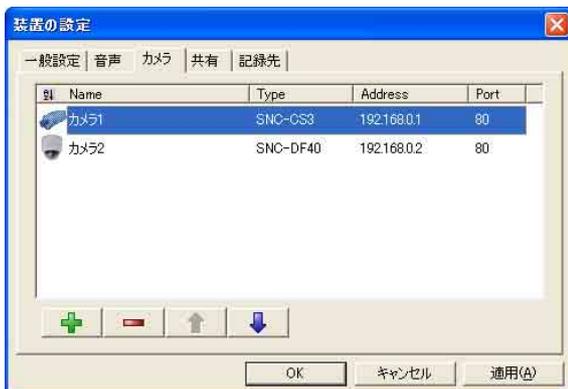
 をクリックし、表示される一覧から、音声品質を選択します。

サンプリング周波数

 をクリックし、表示される一覧から、「MPEG」または「MPEG2」と周波数の組み合わせを選択します。

- サンプリング周波数の 44.1 kHz または 48 kHz は、CD と同品質の高音質です。
- 低周波数にすると音質は低下しますが、音声ファイルの保存容量は少なくて済みます。

[カメラ] タブ



カメラの一覧

この音声装置が割り当てられているカメラが一覧表示されます。



割り当てるカメラを選択するための「カメラを選択してください。」ダイアログ（146 ページ）を表示します。



一覧で選択したカメラを削除します。



一覧で選択したカメラを1つ上に移動します。



一覧で選択したカメラを1つ下に移動します。

[共有] タブ



読み込みと書き出し

この音声装置からの音声の読み込みと書き出しのみ許可するときにチェックマークを付けます。

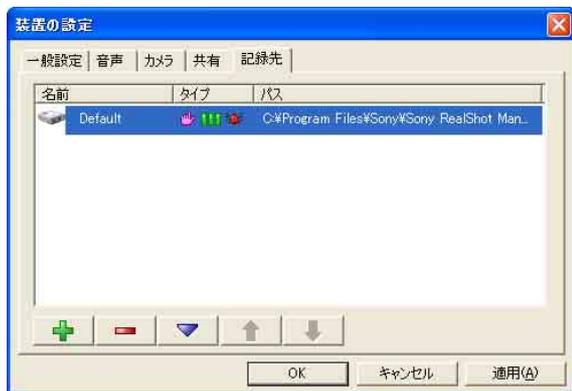
ここにチェックマークを付けたときは、この音声装置に接続するためのユーザー名とパスワードを入力します。

フルコントロール

この音声装置に対するすべての操作や設定を許可するときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、この音声装置に接続するためのユーザー名とパスワードを入力します。

【記録先】 タブ



記録先の一覧

この音声装置に設定されている記録先が一覧表示されます。



新規に記録先を追加するための「記録先の選択」ダイアログ (176 ページ) を表示します。



一覧で選択した記録先を削除します。



一覧で選択した記録先の設定内容を変更するための「記録先の選択」ダイアログ (176 ページ) を表示します。



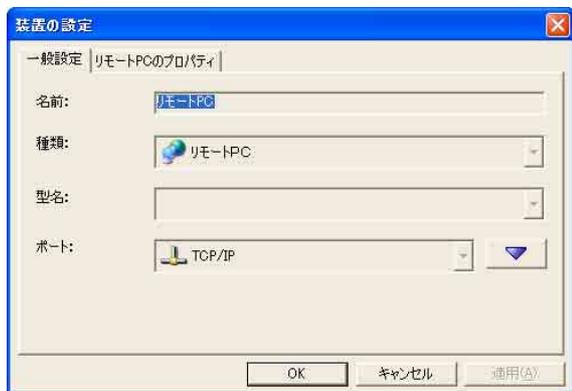
一覧で選択した記録先を1つ上に移動します。



一覧で選択した記録先を1つ下に移動します。

リモート PC の場合

【一般設定】 タブ



名前

リモート PC の名前が表示されます。この項目は変更できません。

種類

装置の種類が表示されます。この項目は変更できません。

型名

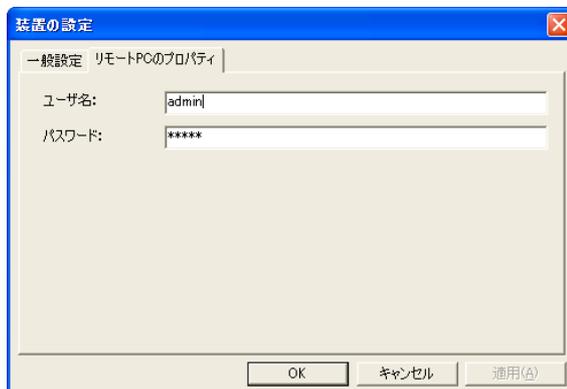
この項目は変更できません。

ポート

接続されているポートが表示されます。

リモート PC の IP アドレスやポート番号などを変更したいときは、▼ をクリックし、表示される「ポートのプロパティ」ダイアログ (154 ページ) で行います。

【リモート PC のプロパティ】 タブ



ユーザー名

このリモート PC に接続するためのユーザー名を入力します。

パスワード

このリモート PC に接続するためのパスワードを入力します。

ご注意

ユーザー名とパスワードは、「設定」ダイアログの [コンピュータの共有] タブで設定されているユーザー名とパスワードと一致している必要があります。詳しくは、「[設定] ダイアログ」の「[コンピュータの共有] タブ」 (169 ページ) をご覧ください。

「カメラを選択してください。」ダイアログ

一覧で選択した装置にカメラを割り当てます。
ツリーからカメラを選び、[OK] をクリックすると、カメラが割り当てられます。
このダイアログは、カメラを選択したり、デバイスなどに割り当てたりするときに表示されます。



「I/O 端子の設定」ダイアログ

各項目を設定したら、[OK] または [適用] をクリックして設定を保存します。
このダイアログは、「装置の設定」ダイアログの [I/O ボックス] タブで、 または  をクリックしたときに表示されます。

[I/O 制御] タブ

入力端子の場合

表示される項目は、I/O ボックスの種類によって異なります。



名前

センサー入力の名前を入力します。
センサー入力ということがわかる名前を付けます。

種類

端子の種類が表示されます。この項目は変更できません。

端子番号

端子番号が表示されます。この項目は変更できません。

パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、次の [パルス間隔] を入力します。

パルス間隔

入力がオンになってから、オンの状態を継続させる期間をミリ秒単位で入力します。
信号の仕様については、カメラとセンサーの取扱説明書をご覧ください。

信号反転

パルスの極性を反転させるときは、ここにチェックマークを付けます。

有効

ここにチェックマークを付け、入力端子に入力される信号のモニターを可能にします。

出力端子の場合



名前

センサー出力の名前を入力します。
センサー出力ということがわかる名前を付けます。

種類

端子の種類が表示されます。この項目は変更できません。

端子番号

端子番号が表示されます。この項目は変更できません。

パルス

パルス間隔を指定して出力したいときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、次の [パルス間隔] を入力します。

パルス間隔

出力がオンになってから、オンの状態を持続させる期間をミリ秒単位で入力します。

信号の仕様については、カメラとセンサーの取扱説明書をご覧ください。

信号反転

パルスの極性を反転させるときは、ここにチェックマークを付けます。

有効

ここにチェックマークを付け、トリガーの出力を可能にします。

ご注意

これはカメラの出力端子を使う場合の事前設定で、カメラの設定を変更するものではありません。カメラの出力設定を有効にするには、事前にカメラ側の設定機能を使って出力を有効にする必要があります。

VMD (レコーダー) 端子の場合



名前

端子の名前を入力します。

種類

端子の種類が表示されます。この項目は変更できません。

端子番号

端子番号が表示されます。この項目は変更できません。

信号反転

パルスの極性を反転させるときは、ここにチェックマークを付けます。

有効

ここにチェックマークを付けると、VMD (レコーダー) 端子が使用可能になります。

VMD (カメラ) 端子の場合

設定項目は、カメラによって異なります。



ご注意

I/O ボックスの VMD (カメラ) 端子の場合、有効/無効の切り替えと Video Motion Detection を同時に行わずに、それぞれで [適用] をクリックしてください。

名前

端子の名前を入力します。

種類

端子の種類が表示されます。この項目は変更できません。

端子番号

端子番号が表示されます。この項目は変更できません。

パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、次の [パルス間隔] を入力します。

パルス間隔

VMD (カメラ) 端子の入力がオンになってから、オンの状態を持続させる期間をミリ秒単位で入力します。

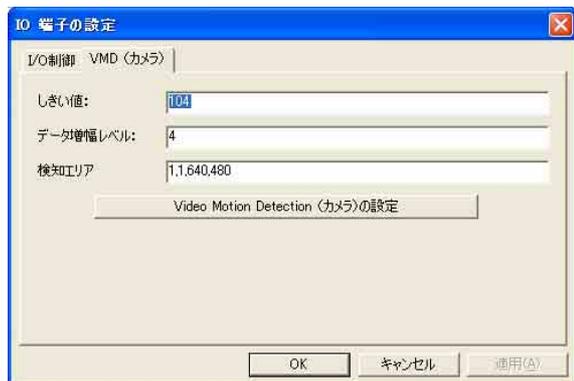
信号反転

パルスの極性を反転させるときは、ここにチェックマークを付けます。

有効

ここにチェックマークを付けると、VMD（カメラ）端子が使用可能になります。

[VMD（カメラ）] タブ（SNC-RZ30 などのカメラの場合）



しきい値

動体を検知するしきい値を0～255の範囲で入力します。この値は、動体検知プロセッサが、フレーム間に動体があったかどうかを判断するための基準値として使用されます。

データ増幅レベル

感度レベルを0～8の範囲で入力します。標準値は4です。

検知エリア

動体を検知するエリアを入力します。

Video Motion Detection（カメラ）の設定

新規に動体検知エリアを設定したり、設定内容を変更するための「Video Motion Detection（カメラ）」ダイアログ（SNC-RZ30などのカメラの場合）（148ページ）を表示します。

[Video Motion Detection（カメラ）] ダイアログ（SNC-RZ30などのカメラの場合）

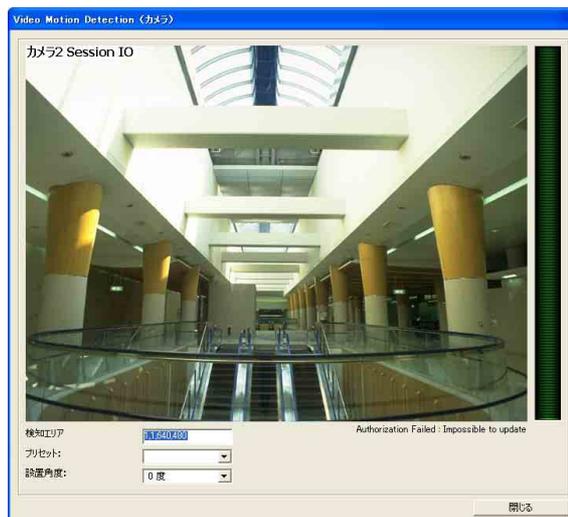
新規に動体検知エリアを設定したり、設定内容を変更できます。

このダイアログは、「IO端子の設定」ダイアログの[VMD（カメラ）]タブで、[Video Motion Detection（カメラ）の設定]をクリックしたときに表示されます。

動体を検知するエリアを設定するには、以下の方法があります。

- 画像上をマウスでドラッグし、動体を検知するエリア（赤い枠）を作成する。

- エリアの各辺をドラッグすると、エリアの大きさを変更できます。
- [検知エリア] ボックスにピクセル値を入力して設定する。



右側の緑のバー

動作レベルを示します。

緑色の部分が多いほど、動作レベルが高くなります。

検知エリア

動体を検知するエリアを入力します。

プリセット

▼をクリックし、表示される一覧から、プリセットを選択します。

設置角度

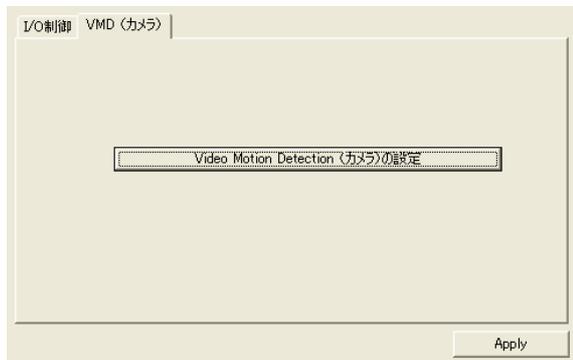
カメラの画像を正しく調整できるようにするために、▼をクリックし、表示される一覧から、カメラの取り付け角度（0、90、180、270度）を選択します。

クライアント（Controller）から設定した角度は、一時的なものとなります。

閉じる

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

[VMD (カメラ)] タブ (SNC-P1 などのカメラの場合)



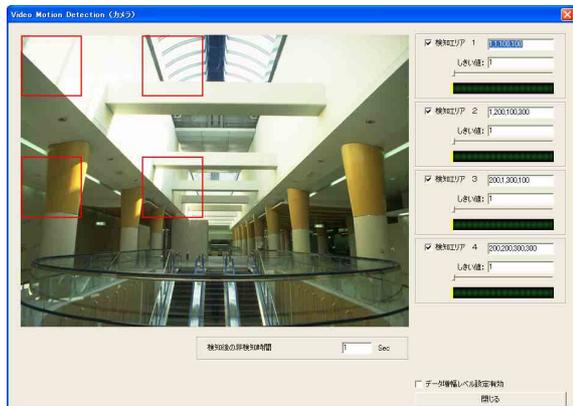
Video Motion Detection (カメラ) の設定

新規に動体／不動体検知エリアを設定したり、設定内容を変更するための [VMD (カメラ)] タブ (SNC-P1 などのカメラの場合) (149 ページ) を表示します。

[Video Motion Detection (カメラ)] ダイアログ (SNC-P1 などのカメラの場合)

新規に動体検知エリアを設定したり、設定内容を変更できます。

このダイアログは、[VMD (カメラ)] タブで [Video Motion Detection (カメラ) の設定] をクリックしたときに表示されます。



メモ

画像は、カメラの設置角度設定 0 度の向きとなります。

検知後の非検知時間

動体を検知した後、動体の検知を行わない時間を秒単位で入力します。

データ増幅レベル設定有効

各検知領域ごとにデータの増幅レベルを設定したいときにチェックマークを付けます。

この設定を有効にするかどうかによって、各検知エリアの設定項目が異なります。

■チェックマークをはずした場合



検知エリア 1～検知エリア 4

各検知領域の有効 (Active) / 無効 (Inactive) を選択します。

ここにチェックマークを付けたときは、右側のボックスに動体を検知するエリアを入力します。

しきい値

動体を検知するしきい値を 1～2000 の範囲で入力します。

この値は、動体検知プロセッサが、フレーム間に動体があったかどうかを判断するための基準値として使用されます。

■チェックマークを付けた場合



検知エリア 1～検知エリア 4

各検知領域の有効 (Active) / 無効 (Inactive) を選択します。

ここにチェックマークを付けたときは、右側のボックスに動体を検知するエリアを入力します。

しきい値

動体を検知するしきい値を 1～2000 の範囲で入力します。

この値は、動体検知プロセッサが、フレーム間に動体があったかどうかを判断するための基準値として使用されます。

データ増幅レベル

感度レベルを 1～20 の範囲で設定します。

通常は特に設定する必要はありません。

閉じる

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

[VMD (カメラ)] タブ (SNC-RX550 などのカメラの場合)



Video Motion Detection (カメラ) の設定

新規に動体検知エリアを設定したり、設定内容を変更するための「Video Motion Detection (カメラ)」ダイアログ (SNC-RX550、Generic Camera などのカメラの場合) (150 ページ) を表示します。

「Video Motion Detection (カメラ)」ダイアログ (SNC-RX550、Generic Camera などのカメラの場合)

新規に動体/不動体検知エリアを設定したり、設定内容を変更できます。

動体/不動体検知エリアは、最大4箇所まで設定できます。このダイアログは、「IO 端子の設定」ダイアログの [VMD (カメラ)] タブで、[Video Motion Detection (カメラ) の設定] をクリックしたときに表示されます。



メモ

画像は、カメラの設置角度設定0度の向きとなります。

カメラ位置の選択

設定するカメラ位置を選択します。

現在位置

現在のカメラ位置に対して設定するときを選択します。

プリセット位置

プリセットごとに設定するときを選択します。

この設定を行うには、まず [カメラ位置の選択] を行う必要があります。

ここを選択したときは、▼をクリックし、表示される一覧から、プリセットを選択し、そのプリセット位置にカメラを移動させます。

設定したプリセット位置にカメラが移動したときに、その設定が有効となります。あるプリセット位置では他のプリセット位置の設定を使用することはできません。

検知対象種別

[動体] または [不動体] を選択します。

[動体]、[不動体] によって、以下の項目が異なります。

ご注意

1つの画面内では、[動体]、[不動体] のどちらか一方しか設定できません。

■ [動体] の場合



しきい値

動体を検知するしきい値を1～99の範囲で入力します。この項目は、[検知対象の種類] で [動体検知] を選択したときに表示されます。

■ [不動体] の場合



検知時間

物体が静止してから不動体として認識され、アラームが発生するまでの時間を秒単位で入力します。設定した時間内で再び物体が動くと、カウントは解除されます。

ご注意

不動体検知 (アラーム発生) 後、最大1分、他の不動体が発生してもアラームが発生しない場合があります。

メモ

[現在位置]、[プリセット位置] ごとに不動体検知の [検知時間] の項目がありますが、これは設定作業をしやす

くするために、[検知時間] の設定値は全体で1つだけです。

再検知

このボタンをクリックした時点で、不動体検知機能が再起動します。

メモ

不動体検知では、開始時に約 40 秒の初期化時間が必要です。

検知エリア 1～検知エリア 4

各検知領域の検知／非検知を選択します。

最小検知対象サイズ

検知する物体の最小の大きさを入力します。

最大検知対象サイズ

検知する物体の最大の大きさを入力します。

閉じる

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

「VMD (カメラ)」タブ (SNT-V704 の場合)



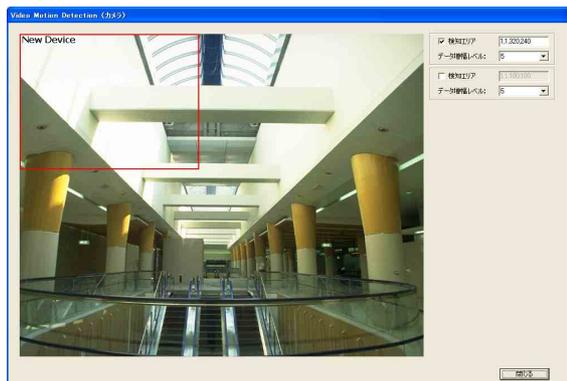
Video Motion Detection (カメラ) の設定

新規に動体検知エリアを設定したり、設定内容を変更するための「Video Motion Detection (カメラ)」ダイアログ (SNC-RZ30 などのカメラの場合) (148 ページ) を表示します。

「Video Motion Detection (カメラ)」ダイアログ (SNT-V704 の場合)

新規に動体検知エリアを設定したり、設定内容を変更できます。

このダイアログは、「IO 端子の設定」ダイアログの [VMD (カメラ)] タブで、[Video Motion Detection (カメラ) の設定] をクリックしたときに表示されます。



メモ

画像は、カメラの設置角度設定 0 度の向きとなります。

検知エリア

各検知領域の有効 (Active) / 無効 (Inactive) を選択します。

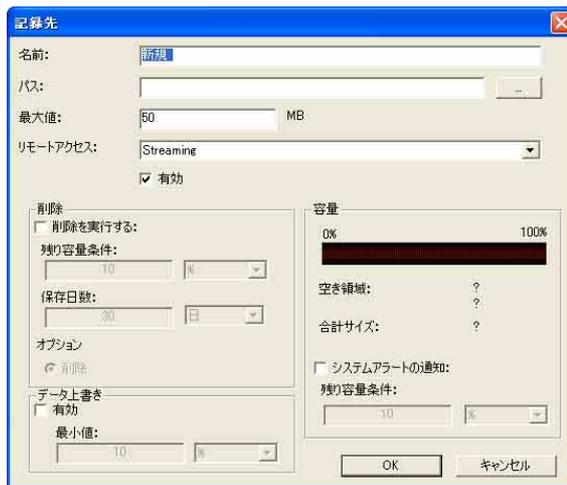
ここにチェックマークを付けたときは、右側のボックスに動体を検知するエリアを入力します。

データ増幅レベル

感度レベルを 1～9 の範囲で設定します。

「記録先」ダイアログ

このダイアログは、「設定管理」ウィンドウで、記録先をダブルクリックしたときに表示されます。



名前

記録先の名前を入力します。

パス

記録先のパスを下層のフォルダー名まで入力します。

... をクリックして記録先のフォルダーを指定することもできます。

記録先には、共有設定されているフォルダーも指定することができます。

メモ

フォルダーの共有設定は、手動で行う必要があります。

最大値

記録するファイルの最大サイズを MB 単位で入力します。

で注意

音声データを記録する場合は、500 MB 以下で設定してください。

リモートアクセス

 をクリックし、表示される一覧から、ネットワーク上の記録先にアクセスするときのモードを選択します。

[None]、[Streaming]、[Direct] から選択できます。

- [Streaming] を選択すると、サーバーからクライアントにファイルが送信されます。
- [Direct] を選択すると、クライアントが OS を介して、記録を保管するサーバー上の記録場所にアクセスし、ファイルを読み出します。
- [Direct] を選択したときは、ネットワークを通じてサーバーにアクセスできるように、OS およびクライアントのアプリケーションのセキュリティを設定する必要があります。

削除

削除を実行する

記録したファイルを自動的に削除したいときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、以下の削除の対象にする記録データの条件を設定します。

残り容量条件

ディスクの残り容量で指定したいときは、残り容量を % または MB で入力します。

MB 単位の場合は、「32,767 MB」まで設定できます。それ以上の容量を設定したい場合は % で設定してください。

保存日数

記録データの経過日数で指定したいときは、日数を入力します。

オプション

設定した条件に合致する記録をすべて削除するときは、[削除] を選択します。

データ上書き

常にストレージの容量を確保するために、経過日数に関係なく、古いデータから削除していくときに設定します。[有効] にチェックマークを付け、ディスクの残容量を % または MB 単位で入力します。

MB 単位の場合は、「32,767 MB」まで設定できます。それ以上の容量を設定したい場合は % で設定してください。

メモ

- データ上書き機能では、以下の容量を空けようとします。
ここで指定した容量 + 記録データの 1 ファイルサイズ × 2 × 記録中のカメラ数
また、空き容量は、「ここで指定した容量」 ~ 「ここで指定した容量 + 記録データの 1 ファイルサイズ × 2 × 記録中のカメラ数」の間を変動します。
- 32 台のカメラで同時に記録しているなどで負荷が高い場合は、各種パラメータを調整し、正常に記録できることを確認してから運用してください。
- コンピューターの処理能力によっては、1 ファイルのサイズが小さいと負荷が増大してしまうために、データ上書き機能が正常に動作しない可能性があります。1 ファイルのサイズは、10 MB 以上での使用を推奨します。

容量

記録先のディスク容量の情報が表示されます。

システムアラートの通知：

「ディスク残量不足」をメール通知するときにチェックマークを付けます。

残り容量条件：

残容量がどのくらいになったら通知するかを % または MB 単位で入力します。

MB 単位の場合は、「32,767 MB」まで設定できます。それ以上の容量を設定したい場合は % で設定してください。

OK

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

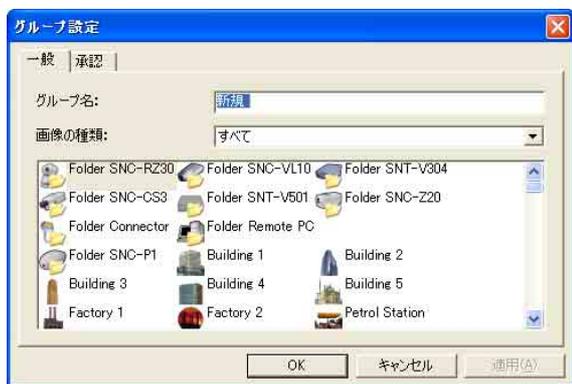
設定の変更をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「グループ設定」ダイアログ

各項目を設定したら、[OK] または [適用] をクリックして設定を保存します。

このダイアログは、設定管理ツールバーの  (グループの追加) をクリックしたときに表示されます。

[一般] タブ



グループ名

グループの名前を入力します。
 設置場所など、グループに所属させるデバイス共通のわかりやすい名前をすることをおすすめします。
 例) Tokyo Office や SNC-RZ30 カメラなど

画像の種類

このグループの表示に使うアイコンを選択します。
 ▼ をクリックし、表示される一覧から、画像の種類を選ぶと、その種類のアイコンだけを一覧に表示できます。

アイコンの一覧

このグループの表示に使うアイコンを選択します。

[承認] タブ

デバイスグループに権限を設定します。
 権限の詳細については、「ユーザー管理」ダイアログの「[全般] タブ」(161 ページ) をご覧ください。



ユーザー

権限を与えたいユーザーを設定します。

追加

権限を与えたいユーザーをリストに追加します。
 このボタンをクリックすると、「ユーザーの選択」ダイアログが表示されます。権限を与えたいユーザーを選択し、[OK] をクリックします。



削除

リストで選択したユーザーを削除します。

グループ

権限を与えたいグループを設定します。

追加

権限を与えたいグループをリストに追加します。
 このボタンをクリックすると、「グループの選択」ダイアログが表示されます。権限を与えたいグループを選択し、[OK] をクリックします。



削除

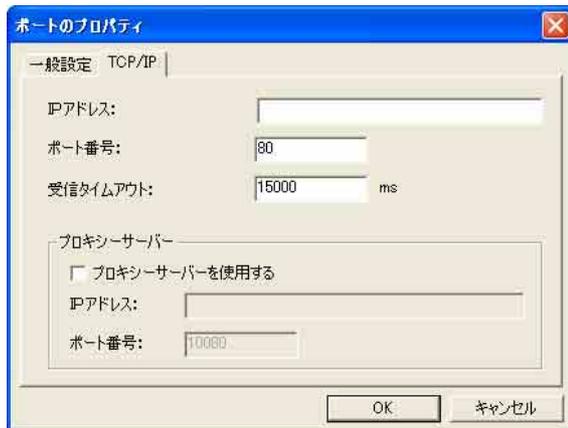
リストで選択したグループを削除します。

「ポートのプロパティ」 ダイアログ

ポートの詳細を設定します。

このダイアログは、「カメラ設定」ダイアログ、「装置の設定」ダイアログ、「設定管理」ウィンドウ下部の「一般設定」タブで、「ポート」の▼をクリックしたときに表示されます。

[TCP/IP] タブ



IP アドレス

装置の IP アドレスを入力します。

ポート番号

装置のポート番号を入力します。

受信タイムアウト

TCP/IP リクエストに応答しないときに、エラーとなるまでの待機時間をミリ秒単位で入力します。

プロキシサーバー

プロキシサーバーを介して装置にアクセスする場合は、以下の項目を設定します。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

プロキシサーバーを使用する

プロキシサーバーを介してカメラにアクセスする場合にチェックマークを付けます。

IP アドレス

プロキシサーバーの IP アドレスを入力します。

ポート番号

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

OK

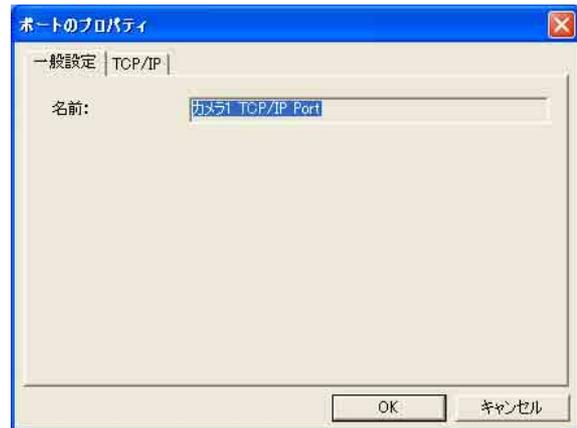
設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定の変更をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

[一般設定] タブ

ポートの名前が表示されます。この項目は変更できません。



「アクションの編集」ダイアログ

ルールにアクションを設定したり、設定内容を変更できます。

このダイアログは、メインツールバーの  (アクションの編集) をクリックしたときに表示されます。



ルールの一覧

設定されているルールが表示されます。

追加

新規にルールを追加します。

このボタンをクリックすると、「新しいルール」ダイアログ (155 ページ) を表示します。

コピー

一覧で選択したルールをコピーして利用するための「ルールの設定」ダイアログ (160 ページ) を表示します。

削除

一覧で選択したルールを削除します。

設定

一覧で選択したルールの設定内容を変更するための「ルールの設定」ダイアログ (160 ページ) を表示します。

閉じる

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

「新しいルール」ダイアログ

新規にルールを設定します。

各項目を設定したら、[OK] をクリックして設定を保存します。

このダイアログは、「アクションの編集」ダイアログで、[追加] をクリックしたときに表示されます。

【一般】 タブ



名前

ルールの名前を入力します。

トリガー

 をクリックし、表示される一覧から、アクション開始のトリガーとなる入力を選択します。

詳細

トリガーを詳細に設定するための「トリガー設定」ダイアログ (156 ページ) を表示します。

有効

このルールを有効にするときにチェックマークを付けます。

【アクション】 タブ



アクションの一覧

このルールに設定されているアクションが一覧表示されます。

追加

ルールにアクションを追加するための「アクション設定」ダイアログ（157 ページ）を表示します。

削除

一覧で選択したアクションを削除します。

詳細

一覧で選択したアクションを詳細に設定するための「アクション設定」ダイアログ（157 ページ）を表示します。

「トリガー設定」ダイアログ

各項目を設定したら、[OK] をクリックして設定を保存します。

このダイアログは、「新しいルール」ダイアログまたは「ルールの設定」ダイアログの [一般] タブで、[詳細] をクリックしたときに表示されます。

【トリガー】タブ



種類

▼ をクリックし、表示される一覧から、入力端子の種類を選択します。

【入力端子】タブ



入力端子の一覧

使用可能な入力端子の一覧が表示されます。

追加

新規に入力端子を追加するための「入力端子を選択してください。」ダイアログを表示します。

ツリーから入力端子を選び、[OK] をクリックすると、一覧に入力端子が追加されます。



メモ

リモートサーバーの端子を選択したい場合は、最初にリモートサーバーをクリックしてください。

削除

一覧で選択した入力端子をリストから削除します。

「アクション設定」ダイアログ

ルールに定義するアクションを設定します。
 アクションの種類によって表示されるタブが異なります。
 各項目を設定したら、[OK] をクリックして設定を保存します。
 このダイアログは、「新しいルール」ダイアログまたは「ルールの設定」ダイアログの [アクション] タブで、[追加] または [詳細] をクリックしたときに表示されます。

【一般設定】タブ

アクションを選択すると、アクションに応じたタブが追加されます。



種類

▼ をクリックし、表示される一覧から、ルールに定義するアクションを選択します。

以下のアクションを選択できます。

出力端子

1つまたは複数の出力端子の状態を変更します。

カメラの切り替え

モニターウィンドウに表示するカメラを選択します
 (現在はホットスポットモニターのみ)。

プリセットの切り替え

カメラのプリセットを切り替えます。

カメラ設定の切り替え

カメラ設定の初期値 (間隔、画像サイズ、画質、色彩度) を変更します。

レイアウト切り替え

指定したレイアウトに切り替えます。

【出力端子】タブ

「出力端子」の場合に表示されます。



出力端子の一覧

使用可能な出力端子の一覧が表示されます。

追加

新規に出力端子を追加するための「出力端子を選択してください。」ダイアログを表示します。

ツリーから出力端子を選び、[OK] をクリックすると、一覧に出力端子が追加されます。



削除

一覧で選択した出力端子をリストから削除します。

[カメラ] タブ

「カメラの切り替え」、「プリセットの切り替え」、「カメラ設定の切り替え」の場合に表示されます。



指定したカメラを使用する

ここにチェックマークを付け、一覧にアクションの影響を受けるカメラを追加します。

なお、「カメラ設定の切り替え」アクションの場合は、チェックボックスの名称が「指定したカメラを使用する (Generic Camera を含む)」になります。

ご注意

サーバー、クライアント構成の場合、「カメラ設定の切り替え」アクションの対象カメラはクライアントコンピュータに接続されているローカルカメラのみになります。サーバー側に接続されているリモートカメラは対象外です。

メモ

Generic Camera で「カメラ設定の切り替え」アクションを設定する場合は、このタブでの動きがほかのカメラと異なりますので、以下の点に注意してください。

- チェックマークをはずしても、対象となるのは Generic Camera 以外のカメラだけで、Generic Camera は対象にはなりません。
- チェックマークを付けた場合、Generic Camera 以外のカメラのときは複数のカメラ (Generic Camera を除く) を追加できますが、Generic Camera のときは1台しか追加できません。
 - 最初に Generic Camera 以外のカメラを追加したときは、その後 Generic Camera 以外のカメラのみ複数追加できます。
 - 最初に Generic Camera を追加したときは、その1台だけになります。
- 複数の Generic Camera にアクションを設定する場合は、1台ずつ個別に行ってください。

カメラの一覧

アクションの影響を受けるカメラが一覧表示されます。

追加

新規にカメラを追加するための「カメラを選択してください。」ダイアログ (146 ページ) を表示します。

ツリーからカメラを選び、[OK] をクリックすると、一覧にカメラが追加されます。

追加

一覧で選択したカメラを削除します。

下へ

一覧で選択したカメラを下に移動します。

上へ

一覧で選択したカメラを上移動します。

[モニター] タブ

「カメラの切り替え」の場合に表示されます。



ホットスポットモニター

カメラからの画像をホットスポットモニターに表示するときに選択します。

指定されたモニター

カメラからの画像を表示するモニターを指定したいときに選択します。

ここを選択したときは、▼をクリックし、表示される一覧から、モニターを選択します。

* この項目は、RealShot Manager バージョン 2.0.1.1 のみ設定できます。

表示間隔

複数のカメラを切り替える場合に、次の画像に切り替わるまでの時間をミリ秒単位で入力します。

【プリセット】 タブ

「プリセットの切り替え」の場合に表示されます。



プリセット

アクションのトリガーが作動したときに、カメラがパン、チルト、ズームで移動するプリセットポジションの名前を入力します。

ご注意

入力するプリセット名は、[カメラ] タブの一覧に表示されているカメラに実際に存在するプリセット名と一致している必要があります。一致していない場合は、トリガーでは作動しません。プリセット名は、手で正しく入力してください。例えば、プリセット名が「Door-1」のときに「door-1」と入力しても作動しません。

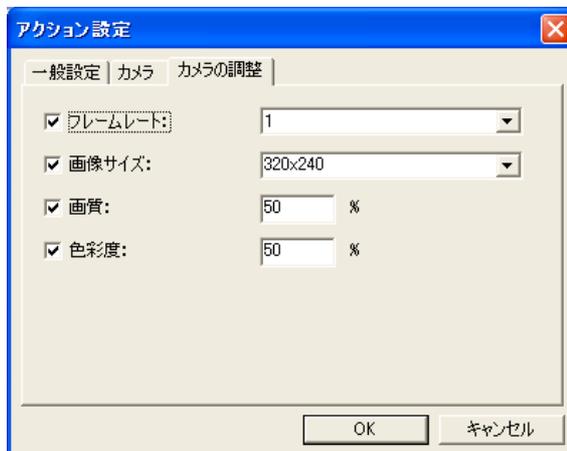
【カメラの調整】 タブ

「カメラ設定の切り替え」の場合に表示されます。

トリガーが作動したときにカメラに適用する値を設定します。カメラがスケジュールに従って動作するときは、他のアクティビティに依存した設定値で動作します。



画面例) Generic Camera の場合



設定したい項目にチェックマークを付けてから設定します。

間隔

カメラに新しい画像を要求する間隔を設定します。

例えば、

40 ms = 25 fps、100 ms = 10 fps、0 ms = 最大速度となります。

フレームレート (Generic Camera の場合)

▼をクリックし、表示される一覧から、フレームレートを選択します。

ご注意

カメラによって設定できる値が異なります。「カメラのフレームレートについて」(181 ページ)を参照し、使用するカメラで設定可能な値を入力してください。なお、Generic Camera の場合は、設定可能な値が選択肢に一覧表示されます。

画像サイズ

▼をクリックし、表示される一覧から、画像の大きさを選択します。

ご注意

カメラによって画像サイズが異なります。「カメラの画サイズについて」(179 ページ)を参照して使用するカメラで設定可能な画像サイズを選択してください。なお、Generic Camera の場合は、設定可能な画像サイズが選択肢に一覧表示されます。

画質

カメラから取り込む画像の画質を 0 ~ 100% の範囲で入力します。

MPEG4 の場合は、ビットレートが変更されます。

色彩度

カメラから取り込む画像の色彩度を0～100%の範囲で入力します。

【レイアウト】 タブ

「レイアウト切り替え」の場合に表示されます。



レイアウト

▼をクリックし、表示される一覧から、切り替えるレイアウトを選択します。

「ルールの設定」ダイアログ

各項目を設定したら、[OK] をクリックして設定を保存します。

このダイアログは、「アクションの編集」ダイアログで、[コピー] または [設定] をクリックしたときに表示されます。

【一般】 タブ



名前

ルールの名前を入力します。

トリガー

▼をクリックし、表示される一覧から、アクション開始のトリガーとなる入力を選択します。

詳細

トリガーを詳細に設定するための「トリガー設定」ダイアログ（156 ページ）を表示します。

有効

このルールを有効にするときにチェックマークを付けます。

【アクション】 タブ



アクションの一覧

このルールに設定されているアクションが一覧表示されます。

追加

ルールにアクションを追加するための「アクション設定」ダイアログ（157 ページ）を表示します。

削除

一覧で選択したアクションを削除します。

詳細

一覧で選択したアクションを詳細に設定するための「アクション設定」ダイアログ（157 ページ）を表示します。

「ユーザー管理」ダイアログ

RealShot Manager を使用するユーザーを登録し、アクセス権限を設定します。

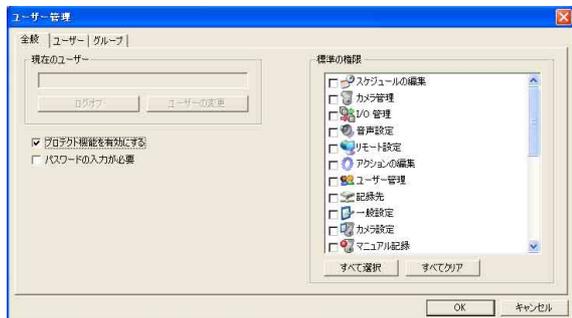
各項目を設定したら、[OK] をクリックして設定を保存します。

このダイアログは、メインツールバーの  (ユーザー管理) をクリックしたときに表示されます。

ご注意

- RealShot Manager 起動時は、ユーザーが誰もログインしていない「No User」の権限で立ち上がります。
- 新規に RealShot Manager をインストールした直後は、No User にすべての操作権限が与えられています。ユーザー管理を行わない場合はそのまま使用します。
- 新規にユーザーを作成した場合は、No User の権限は「標準の権限」([ユーザー管理] - [全般] タブ) で設定します。
- 作成したユーザーのパスワードを忘れてしまった場合、そのユーザーしか持たない権限については一切実行できなくなりますので、注意してください。
- すべてのユーザー (No User を含む) にユーザー管理権限 (User Manager) が与えられていないときは、すべてのユーザーにユーザー管理権限があるものとして動作します。
- 画面のレイアウトは、ユーザーごとに保存されていませんので、ログインしたときに画面レイアウトは変化しません。また起動後は、直前に終了したときの画面レイアウトになります。

[全般] タブ



現在のユーザー

現在 RealShot Manager にログインしているユーザーがフルネームで表示されます。

ログオフ

RealShot Manager からログオフします。

ユーザーの変更

別のユーザーとしてログインしなおすときにクリックします。

このボタンをクリックすると、「ログイン」ダイアログ (104 ページ) が表示されます。

プロテクト機能を有効にする

アプリケーション全体の権限を有効にするときにチェックマークを付けます。

ここでの設定は、[ユーザー] タブで設定した権限よりも優先されます。

パスワードの入力が必要

ログイン時にパスワードの入力を必要とするときにチェックマークを付けます。

標準の権限

ユーザーに許可する権限を設定します。

チェックボックスの表示は、以下の意味を示しています。

- : 権限なし
- : 権限あり

すべて選択

すべての権限にチェックマークを付けます。

すべてクリア

チェックマークをすべてはずします。

以下の権限を設定できます。

スケジュールの編集

「スケジュールの編集」ウィンドウで、記録のスケジュールを設定できます。

カメラ管理

「設定管理」ウィンドウで、カメラを追加、削除できます。

I/O管理

「設定管理」ウィンドウで、スケジュールで設定されている記録を開始させるカメラ入力を設定したり、外部センサーを実行するカメラ出力を設定できます。

音声設定

画像と一緒に音声を記録するときの音声装置を設定できます。

リモート設定

「設定管理」ウィンドウでリモートサーバーを追加したり、リモートサーバーに接続されているカメラのモニターや管理が行えます。

アクションの編集

「アクションの編集」ダイアログで、「設定管理」ウィンドウで指定した入力を変更するためのアクションを設定できます。

ユーザー管理

「ユーザー管理」ダイアログで、ユーザーアカウントの設定や変更が行えます。

記録先

「記録先の選択」ダイアログの設定や変更が行えます。

一般設定

「設定」ダイアログの設定や変更が行えます。

カメラ設定

カメラのプロパティ画面の設定や変更が行えます。

マニュアル記録

「記録」ツールバーを使って、マニュアル記録が行えます。

検索と再生

「記録データの検索」ウィンドウで、記録の検索や再生が行えます。

パン・チルトコントロール

「パン・チルト」ツールバーを使って、カメラのパン、チルト、ズームが行えます。

パン・チルトのプリセットとツアー

「パン・チルト プリセット」ツールバーを使ってカメラプリセットを設定したり、「ツアー」ツールバーを使ってカメラツアーを実行できます。

出力制御

「出力制御」ツールバーを使って、カメラ出力を実行開始できます。

コメントの追加

「コメント」ツールバーを使って、記録にコメントを追加できます。

レイアウト編集

レイアウトツールバーを使って、モニターウィンドウのレイアウトを作成できます。

ログ情報管理

「ログ情報」ダイアログの設定や変更が行えます。

アプリケーションの終了

アプリケーションを終了できます。

モニター編集

モニターウィンドウで右クリックメニューを使用できます。

モニターウィンドウでのカメラの切り替え

右クリックメニューを使って、モニターウィンドウに割り当てるカメラを変更できます。

外部制御

外部機器を制御する出力を設定したり、動作させたりすることができます。

カスタムツールバー

カスタムツールバーを表示できます。

[ユーザー] タブ



ユーザーリスト

RealShot Manager に登録されているユーザーが一覧表示されます。

追加

新規にユーザーを追加するための「ユーザーの情報」ダイアログ（163 ページ）を表示します。

削除

一覧で選択したユーザーを削除します。

詳細

一覧で選択したユーザーの登録内容を変更するための「ユーザーの情報」ダイアログ（163 ページ）を表示します。

ユーザー権限

ユーザーに許可する権限を設定します。

権限の種類については、「[[全般] タブ] (161 ページ) の [標準の権限] をご覧ください。

チェックボックスの表示は、以下の意味を示しています。

- : 権限なし
- : 権限あり
- : グループとしての権限を適用

すべて選択

すべての権限にチェックマークを付けます。

すべてクリア

チェックマークをすべてはずします。

グループ適用

グループとしての権限を適用します。

グループ権限

ユーザーグループに許可する権限を設定します。

権限の種類については、「[[全般] タブ] (161 ページ) の [標準の権限] をご覧ください。

チェックボックスの表示は、以下の意味を示しています。

- : 権限なし
- : 権限あり

すべて選択

すべての権限にチェックマークを付けます。

すべてクリア

チェックマークをすべてはずします。

[グループ] タブ



グループリスト

RealShot Manager に登録されているユーザーグループが一覧表示されます。

追加

新規にユーザーグループを追加するための「詳細」ダイアログ (164 ページ) を表示します。

削除

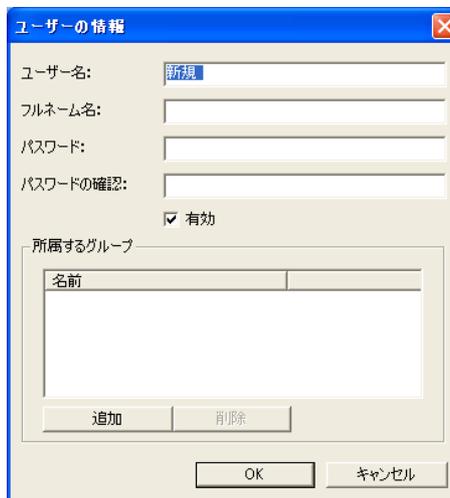
一覧で選択したユーザーグループを削除します。

詳細

一覧で選択したユーザーグループの登録内容を変更するための「詳細」ダイアログ (164 ページ) を表示します。

「ユーザーの情報」ダイアログ

このダイアログは、「ユーザー管理」ダイアログの [ユーザー] タブで、[追加] または [詳細] をクリックしたときに表示されます。



ユーザー名

RealShot Manager にログインするときのユーザー名を半角英数字で入力します。

ユーザー名は、大文字、小文字は区別されません。

フルネーム名

ユーザーのフルネームを入力します。

ここに入力した名前は、情報としてのみ使用されます。

パスワード

RealShot Manager にログインするときのパスワードを半角英数字で入力します。

パスワードは、大文字、小文字が区別されます。

確認

確認のため、同じパスワードをもう一度入力します。

有効

このユーザーを有効にするときは、ここにチェックマークを付けます。

所属するグループ

一覧からこのユーザーが所属するユーザーグループが一覧表示されます。

追加

ユーザーグループを選ぶための「グループの選択」ダイアログが表示されます。

ユーザーグループを選択し、[OK] をクリックすると、一覧にユーザーグループが追加されます。



削除

一覧で選択したユーザーグループを削除します。

名前

ユーザーグループの名前を入力します。

ユーザー

このユーザーグループに所属しているユーザーが一覧表示されます。

追加

ユーザーを追加するための「ユーザーの選択」ダイアログが表示されます。

ユーザーを選択し、[OK] をクリックすると、一覧にユーザーが追加されます。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のユーザーを選択することもできます。



削除

一覧で選択したユーザーを削除します。

「詳細」ダイアログ

このダイアログは、「ユーザー管理」ダイアログの [グループ] タブで、[追加] または [詳細] をクリックしたときに表示されます。



「設定」ダイアログ

RealShot Manager の設定を行います。

各項目を設定したら、[OK] をクリックして設定を保存します。

このダイアログは、メインツールバーの  (設定) をクリックしたときに表示されます。

【一般設定】タブ



言語設定

RealShot Manager のダイアログ、ツール、メッセージなどで使用する言語を選択します。

言語

 をクリックし、表示される一覧から、言語を選択します。

メモ

- PostgreSQL の言語設定は、この RealShot Manager の言語設定機能では切り替わりません。
- RealShot Manager をインストールしたときは別の言語で使用したり、入力したいときは、PostgreSQL の言語設定を切り替える必要があります。PostgreSQL の言語設定の切り替えは、PostgreSQL の設定ファイルの「client_encoding」を「SJIS」（日本語）／「GBK」（中国語）／「latin1」（英語、独語、仏語、伊語、西語）のいずれかに切り替えることで行います。詳しくは、PostgreSQL のドキュメントをご覧ください。

表示更新頻度

CPU 使用間隔

メインモニターウィンドウがアクティブになっているときに、カメラモニターウィンドウの画像を更新する間隔をミリ秒単位で選択します。

表示更新間隔

メインモニターウィンドウがアクティブになっていないときに、カメラモニターウィンドウの画像を更新する間隔をミリ秒単位で選択します。

記録データ

記録ファイル形式

 をクリックし、表示される一覧から、記録ファイルのファイル形式を選択します。

[Tagged MetaData] または [Compatibility Mode] を選択できます。

メモ

- 原則として「Tagged MetaData」でお使いください。
- リテールモジュール使用時は [Compatibility Mode] を選択してください。
- [Compatibility Mode] を選択した場合にダイナミックマスクを使用すると、RealShot Manager の機能が制限され、ダイナミックマスク使用中は記録ができなくなります。ダイナミックマスク使用中に記録したい場合は、[Tagged MetaData] を選択してください。

セカンドモニターをホットスポットモニターとして使用する

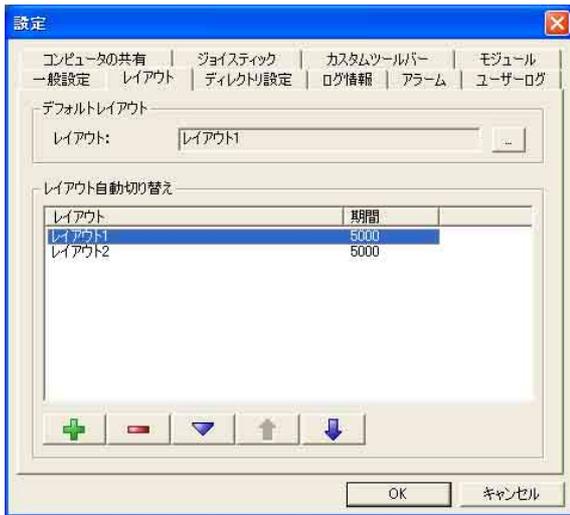
デュアルモニタースクリーンモードで使用している場合、ホットスポットモニターの画像を2台目のモニターに全画面で表示するときにチェックマークを付けます。

【レイアウト】タブ

時間を設定して、モニターウィンドウのレイアウトを指定したレイアウトに自動的に切り替えることができます。

メモ

次のレイアウトに切り替わった後、画像がリアルタイムに更新されるまで、1～数秒かかることがあります。



デフォルトレイアウト

レイアウト

をクリックし、表示される「レイアウトの選択」ダイアログ（111 ページ）でデフォルトに設定するレイアウトを選択します。

ここで設定したレイアウトは、メインツールバーの （デフォルトレイアウト）をクリックして表示することができます。

レイアウトの自動切り替え

自動的に切り替えるレイアウトの一覧が表示されます。一覧の上から順に切り替えられます。



切り替えるレイアウトを追加するための「自動切り替えレイアウト」ダイアログ（166 ページ）を表示します。



一覧で選択したレイアウトを削除します。



一覧で選択したレイアウトの設定内容を変更するための「自動切り替えレイアウト」ダイアログ（166 ページ）を表示します。

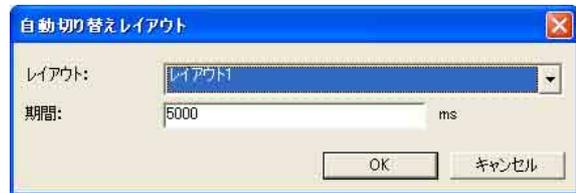


一覧で選択したレイアウトを1つ上に移動します。



一覧で選択したレイアウトを1つ下に移動します。

「自動切り替えレイアウト」ダイアログ



このダイアログは、「設定」ダイアログの「レイアウト」タブで、 または をクリックしたときに表示されます。

レイアウト

をクリックし、表示される一覧から、レイアウトを選択します。

期間

このレイアウトを表示する期間をミリ秒単位で入力します。

OK

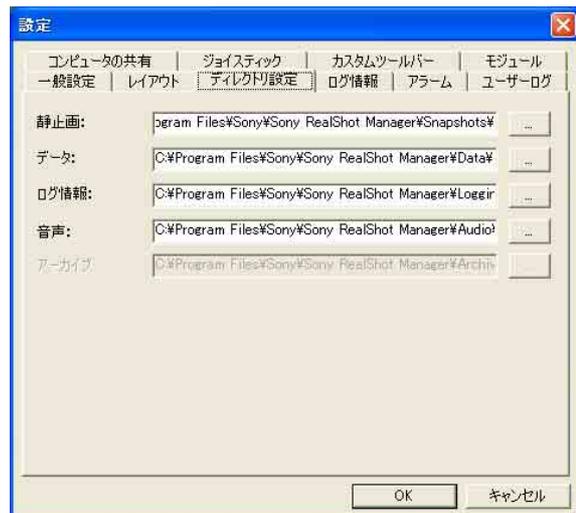
設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定の変更をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「ディレクトリ設定」タブ

各ファイルの保存先を設定します。



静止画

カメラから取り込んだ静止画像（スナップショット）が保存されます。

データ

モニターレイアウトの背景に使用する画像のファイルが保存されます。

ご注意

[データ] のパスを変更すると、以前の [データ] ディレクトリに保存されていた画像がモニターレイアウトに表示されなくなります。ここでパスを変更した場合は、レイアウトツールバーの  (画像を挿入) を使って、画像ファイルを設定しなおしてください。

ログ情報

システムによって作成されるログファイルが保存されます。

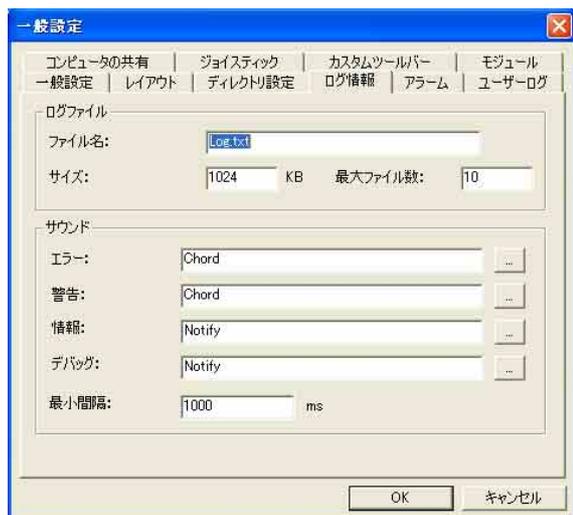
音声

SNC-P1 カメラなどの外部音声装置にストリーミングされる音声ファイルが保存されます。

各項目の右側にある  をクリックし、表示される「フォルダの参照」ダイアログで保存先のフォルダを指定します。[新しいフォルダの作成] をクリックすると、新規フォルダが作成されます。

**[ログ情報] タブ**

エラーやアラーム報告に関連する設定を変更します。

**ログファイル****ファイル名**

エラーやシステムのステータス情報を記録するログファイルのファイル名を入力します。

サイズ

ログファイルのサイズの最大ファイルサイズを KB で入力します。

最大サイズに達すると、新しいログファイルが作成されます。

最大ファイル

システムで作成されるログファイルの数を入力します。

ここで設定したファイル数に達すると、古いファイルから削除されます。

サウンド

システムエラー、警告、情報、デバッグなどのログメッセージが発生したときに、ユーザーに知らせるための音を設定します。

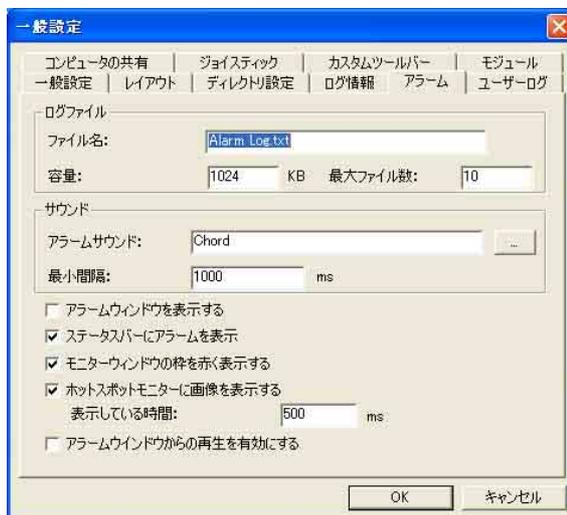
各項目の右側にある  をクリックし、サウンドファイル (*.wav ファイル) を選択します。

最小間隔

複数のイベントが同時に発生したときの音の間隔の最小値をミリ秒単位で入力します。

[アラーム] タブ

アラームの報告のしかたを設定します。



ログファイル

ファイル名

アラームメッセージを記録するログファイルのファイル名を入力します。

サイズ

ログファイルのサイズの最大ファイルサイズを KB で入力します。
最大サイズに達すると、新しいログファイルが作成されます。

最大ファイル数

システムで作成されるログファイルの数を入力します。
ここで設定したファイル数に達すると、古いファイルから削除されます。

サウンド

アラームが発生したときに、ユーザーに知らせるための音を設定します。

アラームサウンド

各項目の右側にある をクリックし、サウンドファイル (*.wav ファイル) を選択します。

最小間隔

複数のイベントが同時に発生したときに、アラームをずらして鳴らす間隔の最小値をミリ秒単位で入力します。

アラームウィンドウを表示する

アラームが発生したら、アラームウィンドウを表示するときにチェックマークを付けます。

ステータスバーにアラームを表示

アラームが発生したら、ステータスバーにアラームアイコンを表示するときにチェックマークを付けます。

モニターウィンドウの枠を赤く表示する

アラームが発生している間、カメラモニターウィンドウの枠を赤く表示するときにチェックマークを付けます。

ホットスポットモニターに画像を表示する

アラームが発生したカメラの画像をホットスポットモニターに表示するときにチェックマークを付けます。

表示している時間

複数のカメラでアラームが発生した場合、1つのアラームの画像を表示する間隔をミリ秒単位で入力します。

メモ

ホットスポットモニターにアラームの画像を表示させる場合は、同時に有効になっているアラームの画像を切り替える時間になります。複数のアラームが有効になっている場合は、ここで設定した時間で画像が切り替わります。パルス状のアラームの場合は、アラームが発生するたびに画像が切り替わります。

アラームウィンドウからの再生を有効にする

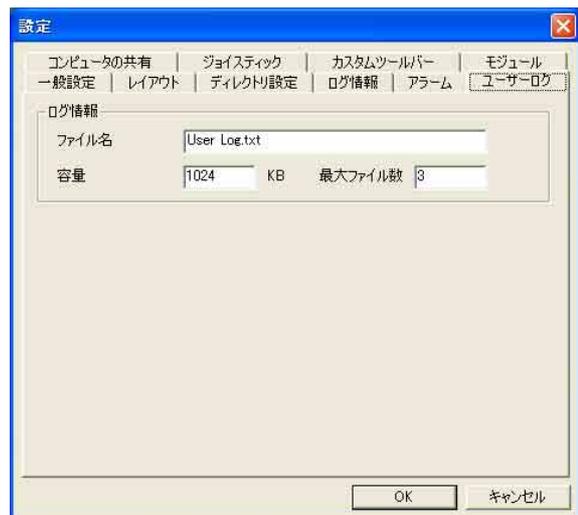
アラームウィンドウからの記録データの再生機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

この機能は、サーバーでのみ使用でき、かつ、そのサーバーのアラームに対してのみ有効です。サーバー・クライアント構成のクライアントからは使用できません。

[ユーザーログ] タブ

ユーザーのログイン、ログアウト情報を記録するログファイルを設定します。

RealShot Manager では、ユーザーのログイン、ログアウトなど、ユーザーの行為は、別のログファイルに記録されます。



ログファイル

ファイル名

ユーザーに関するシステムステータス情報やエラー情報を記録するログファイルのファイル名を入力します。

サイズ

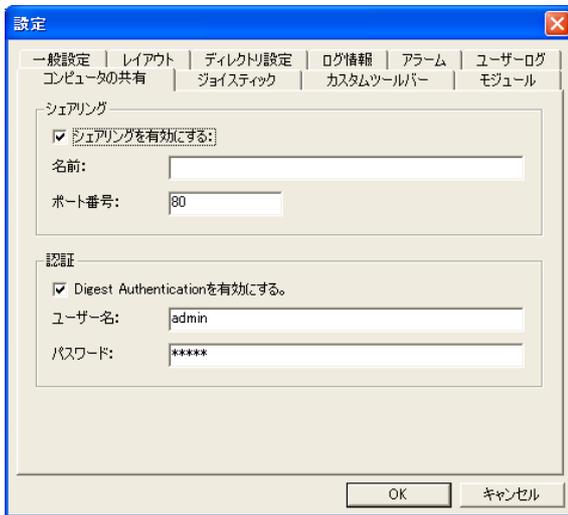
ログファイルのサイズの最大ファイルサイズを KB で入力します。
最大サイズに達すると、新しいログファイルが作成されます。

最大ファイル数

システムで作成されるログファイルの数を入力します。ここで設定したファイル数に達すると、古いファイルから削除されます。

[コンピュータの共有] タブ

コンピュータの共有設定を行います。カメラが登録されているコンピュータをサーバーとして登録することにより、カメラと接続されていないコンピュータでも、サーバーを経由してカメラからのライブ映像を見ることができるようになります。ここでは、サーバーとなるコンピュータを、クライアントからサーバーとして登録可能な状態にします。



シェアリング

シェアリングを有効にする

このコンピュータを共有設定して、サーバーにするときにチェックマークを付けます。

名前

サーバー名を入力します。クライアントコンピュータからリモートカメラに接続できると、ここで設定した名前がクライアントコンピュータに表示されます。また、「設定管理」ウィンドウのカメラリストが初めてクライアントコンピュータによって検索されたときにも表示されます。

ポート番号

通信に使用する TCP/IP のポートを入力します。初期設定のポート番号は「80」です。

認証

このコンピュータが管理するリソースへのアクセスを保護するための認証の設定を行います。

Digest Authentication を有効にする

Digest Authentication を有効にするときにチェックマークを付けます。

ユーザー名

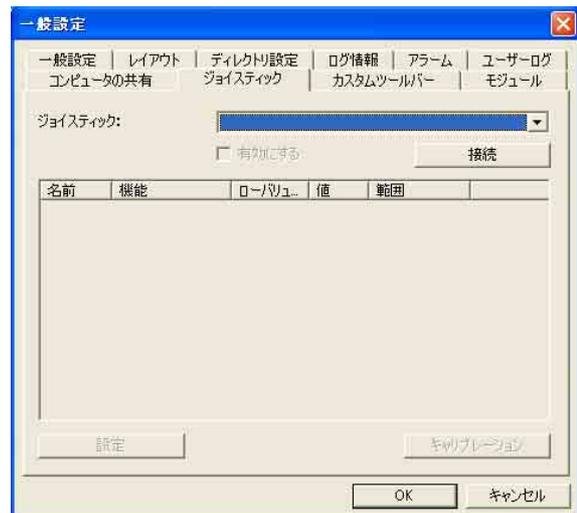
このコンピュータにアクセスするためのユーザー名を入力します。

パスワード

このコンピュータにアクセスするためのパスワードを入力します。

[ジョイスティック] タブ

カメラのパン、チルト、ズームを制御するジョイスティックの設定を行います。Windows 標準のジョイスティックが使用可能です。



ジョイスティック

▼ をクリックし、表示される一覧から、ジョイスティックを選択します。

有効にする

ジョイスティックの接続を有効にするときにチェックマークを付けます。

接続

このボタンをクリックし、ジョイスティックと通信を確立します。

ジョイスティックの一覧

ジョイスティックの設定が一覧表示されます。

設定

ジョイスティックの機能の詳細が設定できる「設定」ダイアログが表示されます。

キャリブレーション

一連の動作試験が実行され、ジョイスティックの動作範囲がカメラ制御の全域をカバーしているかどうかをチェックできます。

「カスタムツールバー」タブ

カスタマイズしたツールバーをメインウィンドウに追加して、RealShot Manager 外部の他のアプリケーションを起動するボタンを追加できます。

例) E-mail module



外部アプリケーションの一覧

現在 RealShot Manager に設定されている外部アプリケーションが一覧表示されます。



新規に外部アプリケーションを追加するための「カスタムツールバーアプリケーション」ダイアログ (170 ページ) を表示します。



一覧で選択した外部アプリケーションを削除します。



一覧で選択した外部アプリケーションの設定内容を変更するための「カスタムツールバーアプリケーション」ダイアログ (170 ページ) を表示します。



一覧で選択した外部アプリケーションを1つ上に移動します。



一覧で選択した外部アプリケーションを1つ下に移動します。

「カスタムツールバーアプリケーション」ダイアログ

このダイアログは、「設定」ダイアログの [カスタムツールバー] タブで、 または をクリックしたときに表示されます。



名前

外部アプリケーションの名前を入力します。

実行ファイル

をクリックし、外部アプリケーションの実行ファイルを指定します。

パラメータ

起動時にアプリケーションに渡す任意のコマンドラインパラメータを入力します。

アイコン画像

をクリックし、カスタムツールバーに追加するアイコンの画像ファイルを指定します。

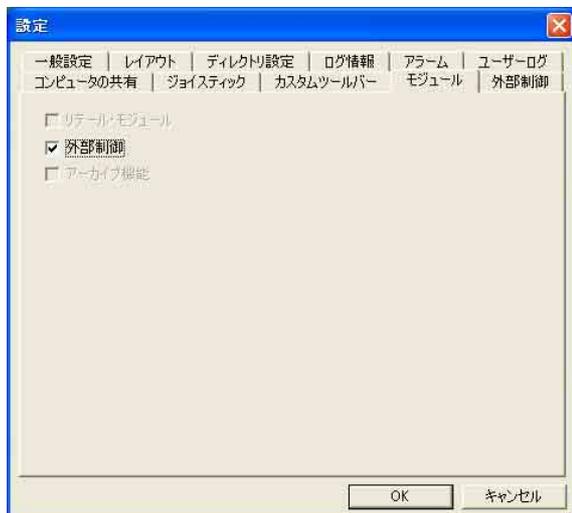
OK

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

[モジュール] タブ



組み込む外部モジュールにチェックマークを付けます。

リテールモジュール

通常は使用できません。

外部制御

RealShot Manager の外部制御機能が有効になり、「設定」ダイアログに [外部制御] タブ (171 ページ) が追加されます。

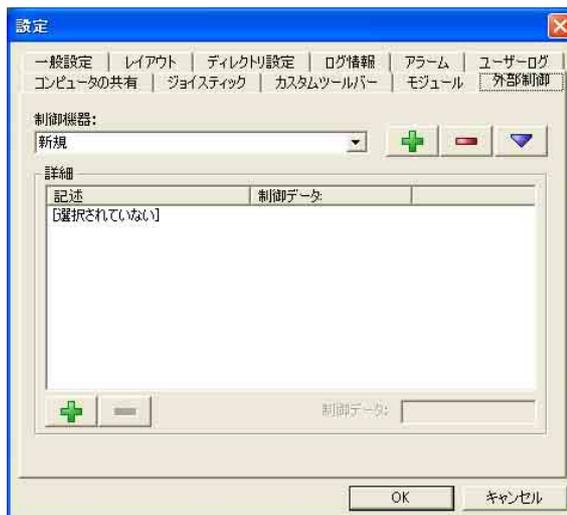
外部制御機能を有効にすると、モニターでカメラを選び、そのカメラに接続した外部機器に RS-232C 方式のデータを送ることができるようになります。

アーカイブ機能

現在はサポートされておられません。

[外部制御] タブ

外部制御を使うと、カメラに RS-232C で接続された機器にコマンドを出力することができます。



制御機器

▼ をクリックし、表示される一覧から、外部制御機器を選択します。



新規に外部制御機器を追加するための「外部制御の追加」ダイアログ (172 ページ) を表示します。



選択した外部制御機器を削除します。



選択した外部制御機器の設定内容を変更するための「外部制御設定」ダイアログ (172 ページ) を表示します。

詳細

選択した外部制御機器に制御データを送るカメラが一覧表示されます。



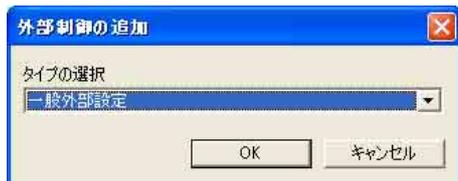
新規にカメラを追加するための「カメラを選択してください。」ダイアログ (146 ページ) を表示します。



一覧で選択したカメラを削除します。

「外部制御の追加」ダイアログ

このダイアログは、「設定」ダイアログの [外部制御] タブで、 または  をクリックしたときに表示されます。



タイプを選択

 をクリックし、表示される一覧から、外部制御機器のタイプを選択します。

OK

外部制御機器を詳細に設定するための「外部制御設定」ダイアログ（172 ページ）を表示します。

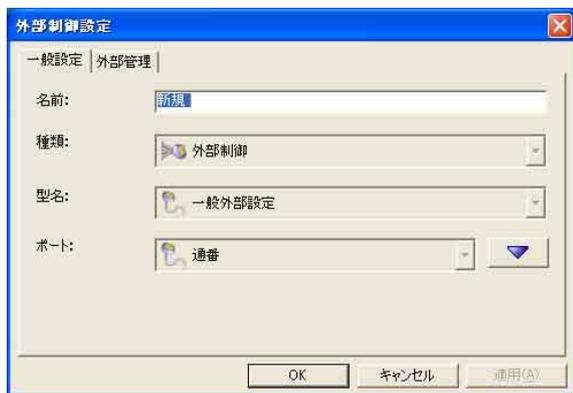
キャンセル

外部制御機器の追加をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「外部制御設定」ダイアログ

このダイアログは、「外部制御設定」ダイアログで、[OK] をクリックしたときに表示されます。

【一般設定】タブ



名前

外部制御機器の名前を入力します。

種類

装置の種類が表示されます。この項目は変更できません。

型名

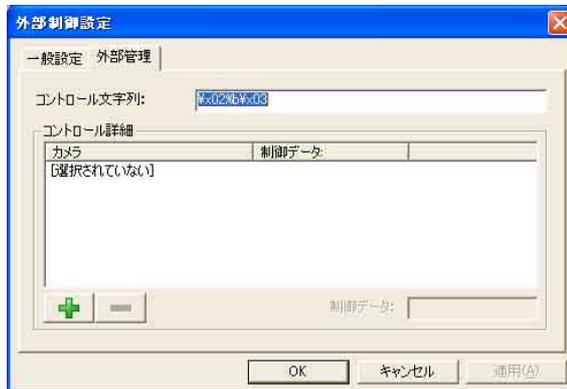
外部制御機器の型名が表示されます。この項目は変更できません。

ポート

接続されているポートが表示されます。

外部制御機器の IP アドレスやポート番号などを変更したいときは、 をクリックし、表示される「ポートのプロパティ」ダイアログ（173 ページ）で行います。

【外部管理】タブ



コントロール文字列

外部制御機器から送る制御データを入力します。

制御データの詳細は、外部制御機器の設定マニュアルや設置マニュアルをご覧ください。

コントロール詳細

外部制御機器で制御するカメラが一覧表示されます。



新規にカメラを追加するための「カメラを選択してください。」ダイアログ（146 ページ）を表示します。



一覧で選択したカメラを削除します。

「ポートのプロパティ」ダイアログ

このダイアログは、「外部制御設定」ダイアログの[一般設定]タブで、をクリックしたときに表示されます。

【一般設定】タブ



名前

ポートの名前が表示されます。この項目は変更できません。

【ポートの設定】タブ



COMポート

をクリックし、表示される一覧から、外部制御機器がRS-232Cで通信するためのCOMポートを選択します。

以下、をクリックし、表示される一覧から、外部制御機器の制御に必要なRS-232Cの設定を行います。詳しくは、外部制御機器の設定マニュアルや設置マニュアルをご覧ください。

「パン・チルトプリセット」ダイアログ

新規にプリセットを作成／編集できます。

このダイアログは、「パン・チルトプリセット」ツールバーで（プリセットの設定）をクリックしたときに表示されます。

プリセットの設定のしかたについては、「新規にプリセットを作成するには」（53ページ）の各タブの説明をご覧ください。



カメラ名

をクリックし、表示される一覧から、プリセットを作成／編集したいカメラを選択します。

プリセット

プリセット名

一覧で選択したプリセットの名前が表示されます。

プリセットの一覧

設定されているプリセットが一覧表示されます。



現在の位置がプリセットとして記憶されます。



一覧で選択したプリセットを削除します。



一覧で選択したプリセットの位置にカメラが移動します。

プレビュー

選択したプリセット位置のカメラ画像が表示されます。パン・チルトコントロールツールまたはマウスを使ってカメラの位置を調整を調整できます。

閉じる

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

「ツアー」ダイアログ

新規にカメラツアーを作成／編集できます。

このダイアログは、[ツアー] ツールバーで  (ツアーの設定) をクリックしたときに表示されます。

カメラツアーの設定のしかたについては、「新規にツアーを作成するには」(54 ページ) の各タブの説明をご覧ください。



Generic Camera の場合の画面例)



カメラ名

 をクリックし、表示される一覧から、ツアーを作成／編集したいカメラを選択します。

ツアー設定

ツアーの名前

ツアーの名前を入力します。



新規にツアーを作成するときは、このボタンをクリックし、ツアーの名前を入力します。



表示されているツアーを削除します。



設定したツアーをプレビューできます。

位置の名前

プリセット位置の名前を入力します。

停止時間

カメラがその位置に留まる時間をミリ秒単位で入力します。指定できる値の上限値は「32,767」です。

移動時間

カメラが移動する時間をミリ秒単位で入力します。指定できる値の上限値は「32,767」です。

メモ

[移動時間] を 32,768 ミリ秒以上の時間で動作させたいときは、カメラが移動する位置の間に新たな位置を設定し、位置間の移動時間が 32,767 ミリ秒以下になるように指定してください。

例) ポジション A からポジション B 間を 32,768 ミリ秒以上で移動させたい場合
ポジション A とポジション B の間に、停止時間が 1 ミリ秒のポジションを必要な数だけ設定し、各ポジション間の移動時間が 32,767 ミリ秒以下になるように設定します。

速度 (Generic Camera の場合)

カメラに設定可能な速度を入力します。設定可能な速度については、カメラの取扱説明書をご覧ください。

メモ

移動時間を長く、または速度を遅く設定すると、カメラとの通信がタイムアウトで切断されてしまうことがあります。その場合は、移動時間や速度に対して、カメラの受信タイムアウトの時間のほうが長くなるように設定してください。カメラの受信タイムアウトは、「ポートのプロパティ」ダイアログの [TCP/IP] タブ (154 ページ) で設定できます。



新規にツアーを作成するときは、このボタンをクリックし、ツアーの名前を入力します。



一覧で選択した PTZ 位置を削除します。



一覧で選択した PTZ 位置を上へ移動します。



一覧で選択した PTZ 位置を下へ移動します。



カメラから PTZ 位置取得します。



カメラを PTZ 位置に移動します。

プレビュー

選択した PTZ 位置のカメラ画像が表示されます。
パン・チルトコントロールツールまたはマウスを使ってカメラの位置を調整を調整できます。

OK

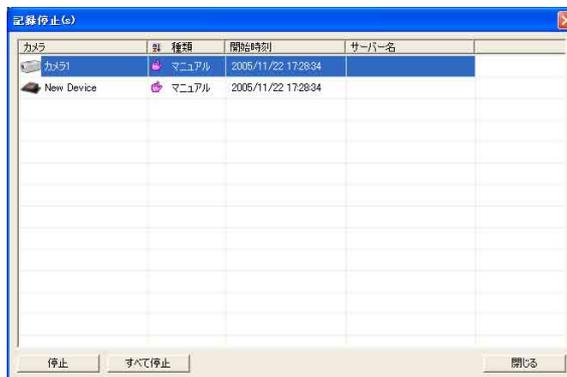
設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「記録停止」ダイアログ

このダイアログは、現在複数の記録が行われている場合に、
[記録] ツールバーでマニュアル記録を行い、
 (停止) をクリックしたときに表示されます。



記録中の一覧

現在行われている記録が一覧表示されます。

停止

一覧で選択した記録の停止します。

すべて停止

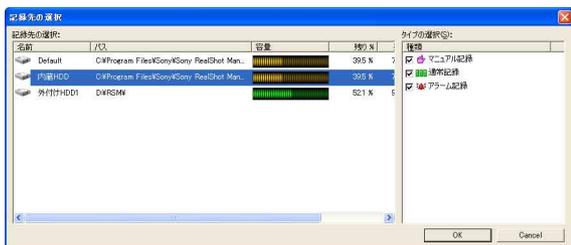
現在行われている記録をすべて停止します。

閉じる

ダイアログを閉じます。

「記録先の選択」ダイアログ

このダイアログは、「装置の設定」ダイアログまたは「カメラ設定」ダイアログの「記録先」タブで、 または  をクリックしたときに表示されます。



記録先の選択

使用可能な記録先が一覧表示されます。
一覧から記録先を選択します。

タイプの選択

一覧で選択した記録先に保存する記録の種類にチェックマークを付けます。

OK

設定を保存して、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

アラームウィンドウ

最近発生したアラームの情報（アラームログ）が表示されます。

各ログには、日付やログの発生元のカメラまたはアプリケーションが表示されます。また、サーバーの場合は、そのサーバーのアラームログをクリックして記録データを再生することもできます。

このウィンドウは、メインツールバーの （アラームウィンドウ）をクリックしたときに表示されます。



アラームログから記録データを再生するには

記録データを再生するカメラモニターウィンドウを選択し、アラームログをクリックします。

この機能は、サーバーでのみ使用でき、かつ、そのサーバーのアラームに対してのみ有効です。サーバー・クライアント構成のクライアントからは使用できません。

メモ

アラームログから記録データを再生するには、「設定」ダイアログボックスの「アラーム」タブ（167 ページ）で、「アラームウィンドウからの再生を有効にする」にチェックマークを付けておく必要があります。

ユーザーウィンドウ

最近のユーザーのログイン／ログアウト情報やエラー情報が表示されます。

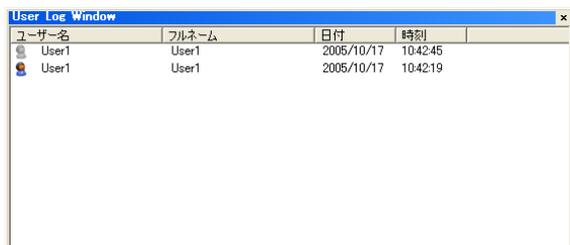
各ログには、ログインまたはログアウトしたユーザーと日時が記録されます。

ユーザー名の先頭に表示される次のアイコンでログイン／ログアウトを示します。

 : ログイン

 : ログアウト

このウィンドウは、メインツールバーの  (ユーザーウィンドウ) をクリックしたときに表示されます。



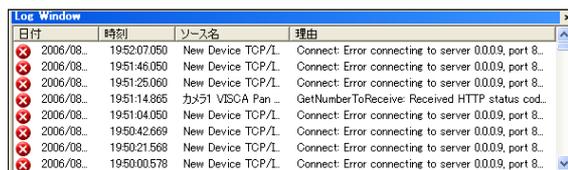
ユーザー名	フルネーム	日付	時刻
User1	User1	2005/10/17	10:42:45
 User1	User1	2005/10/17	10:42:19

「ログ」ウィンドウ

最近のログ情報が表示されます。

各メッセージには、日付やログの発生元のカメラまたはアプリケーションが表示されます。[理由] の欄には、ログが発生した理由が表示されます。

このウィンドウは、メインツールバーの  (ログ情報) をクリックしたときに表示されます。



日付	時刻	ソース名	理由
2006/08...	19:52:07.050	New Device TCP/L	Connect: Error connecting to server 0.0.0.0, port 8...
2006/08...	19:51:46.050	New Device TCP/L	Connect: Error connecting to server 0.0.0.0, port 8...
2006/08...	19:51:25.060	New Device TCP/L	Connect: Error connecting to server 0.0.0.0, port 8...
2006/08...	19:51:14.865	カメラ1 VJSCA Pan...	GetNumberToReceive: Received HTTP status cod...
2006/08...	19:51:04.050	New Device TCP/L	Connect: Error connecting to server 0.0.0.0, port 8...
2006/08...	19:50:42.669	New Device TCP/L	Connect: Error connecting to server 0.0.0.0, port 8...
2006/08...	19:50:21.568	New Device TCP/L	Connect: Error connecting to server 0.0.0.0, port 8...
2006/08...	19:50:00.578	New Device TCP/L	Connect: Error connecting to server 0.0.0.0, port 8...

「ログの設定」ダイアログ

ログの表示先やメッセージの重要度を設定できます。
このウィンドウは、メインツールバーの  (ログの設定) をクリックしたときに表示されます。



タイプ

 をクリックし、表示される一覧から、メッセージの表示先を選択します。

Log Window

緊急の注意が必要な優先度の高いメッセージの表示先です。

File Logger

システムが無人の間に発生するメッセージの表示先です。メッセージは Log.txt ファイルに転送されます。

Debug Log

調査が必要なシステム上の問題が起こった場合のメッセージの表示先です。

Sound & Vision

音声アラームなど、緊急の警告が必要な優先度の高いメッセージの表示先です。

Name Caller

エラーメッセージの発生元となるカメラやアプリケーションのリストが表示されます。
ボックスをクリックして、記録する項目と種類を指定します。

E (エラー) : (赤)

緊急の注意が必要な問題を知らせる重要なメッセージです。

W (警告) : (黄)

注意は必要ですが、緊急ではない問題を知らせるメッセージです。

I (情報) : (青)

対応は必要ありません。

D (デバッグ) : (緑)

問題解析の責任者のみ使用する情報です。デバッグのために記録するメッセージが多すぎると、通常の操作に支障をきたす場合があります。

注意・制限事項

カメラの画像サイズとフレームレート

カメラの画サイズについて

	カメラに設定される画サイズ		「設定管理」ウィンドウ	「スケジュールの編集」、 「アクションの編集」ウィンドウ
	NTSC	PAL		
SNC-RX530、SNC-RX550、 SNC-RX570、SNC-RZ50、 SNC-CS50、SNC-DF50、SNC-DF80	160 × 120 (Auto)		160 × 120	SQCIF (± 90 × 60) フィールド SQCIF (± 90 × 60) フレーム SQCIF (± 90 × 60) 自動 QCIF (± 180 × 144) フィールド QCIF (± 180 × 144) フレーム QCIF (± 180 × 144) 自動
	320 × 240 (Auto)		320 × 240	CIF (± 360 × 288) フィールド CIF (± 360 × 288) フレーム CIF (± 360 × 288) 自動
	640 × 480 (Auto)		640 × 480	4CIF (± 640 × 480) フィールド 4CIF (± 640 × 480) フレーム 4CIF (± 640 × 480) 自動 Full Size (± 720 × 576) フィールド Full Size (± 720 × 576) フレーム Full Size (± 720 × 576) 自動
	384 × 288		384 × 288	CIF mode (384 × 288) 自動
SNC-P1、SNC-P5、 SNC-DF40、SNC-DF70、SNC- RZ25、SNC-CS10、SNC-CS11	160 × 120		160 × 120	SQCIF (± 90 × 60) フィールド SQCIF (± 90 × 60) フレーム SQCIF (± 90 × 60) 自動 QCIF (± 180 × 144) フィールド QCIF (± 180 × 144) フレーム QCIF (± 180 × 144) 自動
	192 × 144		192 × 144	-
	224 × 168		224 × 168	-
	256 × 192		256 × 192	-
	320 × 240		320 × 240	CIF (± 360 × 288) フィールド CIF (± 360 × 288) フレーム CIF (± 360 × 288) 自動
	352 × 264		352 × 264	-
	384 × 288		384 × 288	CIF mode (384 × 288) 自動
	416 × 312		416 × 312	-
	448 × 336		448 × 336	-
	480 × 360		480 × 360	-
	512 × 384		512 × 384	-
	544 × 408		544 × 408	-
	576 × 432		576 × 432	-

	カメラに設定される画サイズ		「設定管理」ウィンドウ	「スケジュールの編集」、 「アクションの編集」ウィンドウ
	NTSC	PAL		
SNC-P1、SNC-P5、 SNC-DF40、SNC-DF70、SNC- RZ25、SNC-CS10、SNC-CS11	640 × 480		640 × 480	4CIF (± 640 × 480) フィールド 4CIF (± 640 × 480) フレーム 4CIF (± 640 × 480) 自動 Full Size (± 720 × 576) フィールド Full Size (± 720 × 576) フレーム Full Size (± 720 × 576) 自動
SNC-RZ30、SNC-CS3、SNC-Z20、 SNT-V501、SNT-V504	160 × 120		160 × 120	SQCIF (± 90 × 60) フィールド SQCIF (± 90 × 60) フレーム SQCIF (± 90 × 60) 自動 QCIF (± 180 × 144) フィールド QCIF (± 180 × 144) フレーム QCIF (± 180 × 144) 自動
	320 × 240		320 × 240	CIF (± 360 × 288) フィールド CIF (± 360 × 288) フレーム CIF (± 360 × 288) 自動 CIF mode (384 × 288) 自動
	640 × 480 (Auto)		640 × 480 (Auto)	4CIF (± 640 × 480) 自動
	640 × 480 (Frame)		640 × 480 (Frame)	4CIF (± 640 × 480) フレーム
	640 × 480 (Field)		640 × 480 (Field)	4CIF (± 640 × 480) フィールド
	736 × 544 (Auto)		736 × 544 (Auto)	Full Size (± 720 × 576) 自動
	736 × 544 (Frame)		736 × 544 (Frame)	Full Size (± 720 × 576) フレーム
	736 × 544 (Field)		736 × 544 (Field)	Full Size (± 720 × 576) フィールド
SNC-VL10	90 × 60	90 × 72	92 × 72	SQCIF (± 90 × 60) フィールド SQCIF (± 90 × 60) フレーム SQCIF (± 90 × 60) 自動
	180 × 121	180 × 144	180 × 144	QCIF (± 180 × 144) フィールド QCIF (± 180 × 144) フレーム QCIF (± 180 × 144) 自動
	360 × 243	360 × 288	360 × 288	CIF (± 360 × 288) フィールド CIF (± 360 × 288) フレーム CIF (± 360 × 288) 自動 CIF mode (384 × 288) 自動
	720 × 243	720 × 288	720 × 288	-
	720 × 486	720 × 576	720 × 576	4CIF (± 640 × 480) フィールド 4CIF (± 640 × 480) フレーム 4CIF (± 640 × 480) 自動 Full Size (± 720 × 576) フィールド Full Size (± 720 × 576) フレーム Full Size (± 720 × 576) 自動
SNT-V704	320 × 240		320 × 240	SQCIF (± 90 × 60) フィールド SQCIF (± 90 × 60) フレーム SQCIF (± 90 × 60) 自動 QCIF (± 180 × 144) フィールド QCIF (± 180 × 144) フレーム QCIF (± 180 × 144) 自動 CIF (± 360 × 288) フィールド CIF (± 360 × 288) フレーム CIF (± 360 × 288) 自動 CIF mode (384 × 288) 自動
	640 × 480 (Frame)		640 × 480 (Frame)	4CIF (± 640 × 480) フレーム 4CIF (± 640 × 480) 自動
	640 × 480 (Field)		640 × 480 (Field)	4CIF (± 640 × 480) フィールド
	720 × 480 (Frame)	720 × 576 (Frame)	720 × 480 (Frame)	Full Size (± 720 × 576) フレーム Full Size (± 720 × 576) 自動
	720 × 480 (Field)	720 × 576 (Field)	720 × 480 (Field)	Full Size (± 720 × 576) フィールド

	カメラに設定される画サイズ		「設定管理」ウィンドウ	「スケジュールの編集」、 「アクションの編集」ウィンドウ
	NTSC	PAL		
SNT-V304	176 × 112	176 × 144	Half Size	SQCIF (± 90 × 60) 自動 QCIF (± 180 × 144) 自動
	176 × 112	176 × 144	Half Size (160 × 120)	SQCIF (± 90 × 60) フィールド QCIF (± 180 × 144) フィールド
	176 × 112	176 × 144	Half Size (176 × 144)	SQCIF (± 90 × 60) フレーム QCIF (± 180 × 144) フレーム
	352 × 240	352 × 288	Full Size	CIF (± 360 × 288) 自動
	352 × 240	352 × 288	Full Size (320 × 240)	CIF (± 360 × 288) フィールド
	352 × 240	352 × 288	Full Size (352 × 288)	CIF (± 360 × 288) フレーム CIF mode (384 × 288) 自動
	704 × 480	704 × 576	Huge Size	4CIF (± 640 × 480) 自動 Full Size (± 720 × 576) 自動
	704 × 480	704 × 576	Huge Size (640 × 480)	4CIF (± 640 × 480) フレーム 4CIF (± 640 × 480) フィールド
	704 × 480	704 × 576	Huge Size (704 × 576)	Full Size (± 720 × 576) フレーム Full Size (± 720 × 576) フィールド

カメラのフレームレートについて

カメラ種別		カメラに設定可能な フレームレート	「設定管理」 「アクションの 編集」	「記録」 ツールバー	「スケジュールの 編集」	最大 フレームレート				
SNC-RX530、 SNC-RX550、 SNC-RX570、 SNC-RZ50、 SNC-CS50、 SNC-DF50、 SNC-DF80	JPEG	NTSC	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25, 30 fps	「カメラに設定可能なフレームレート」に換算される値が設定可能 (* 1)	JPEG、Wavelet : 現在の受信フレームレート以下のときは指定した値に、以上のときは現在の受信フレームレートとなります。「All」は現在の受信フレームレートとなります。なお、現在の受信フレームレートとこの設定値の組み合わせによっては、設定値より低いフレームレートで記録されることがあります。	1/10, 1/5, 1/2, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, All (* 2)	30 fps			
		PAL	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 16, 20, 25 fps			1/10, 1/5, 1/2, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 16, 20, All (* 2)	25 fps			
	MPEG4	NTSC	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25, 30 fps			1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, All	30 fps			
		PAL	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 16, 20, 25 fps			1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 16, 20, All	25 fps			
SNC-P1、SNC-P5	JPEG	カメラに設定されている処理フレームレート以下 (最大、30 fps)	任意の値が設定可能 (* 3)	MPEG4 : 設定は無視され、現在の受信フレームレートとなります。	任意の値が設定可能 (* 3)	カメラ側の処理フレームレート設定と同じです。				
	MPEG4	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25, 30 fps	「カメラに設定可能なフレームレート」に換算される値が設定可能 (* 4)		1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, All	30 fps				
SNC-DF40、SNC-DF70、SNC-RZ25、SNC-CS10、SNC-CS11	JPEG	NTSC	カメラに設定されている処理フレームレート以下 (最大、30 fps)		任意の値が設定可能 (* 3)	任意の値が設定可能 (* 3)	カメラ側の処理フレームレート設定と同じです。			
		PAL	カメラに設定されている処理フレームレート以下 (最大、25 fps)							
	MPEG4	NTSC	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25, 30 fps					「カメラに設定可能なフレームレート」に換算される値が設定可能 (* 4)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, All	30 fps
		PAL	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25 fps							25 fps
SNC-RZ30、SNC-CS3、SNC-Z20	NTSC	~ 30 fps	任意の値が設定可能 (* 5)	任意の値が設定可能 (* 5)	30 fps					
	PAL	~ 25 fps			25 fps					
SNC-VL10	NTSC	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 17, 20, 25, 30 fps	任意の値が設定可能 (* 6)	任意の値が設定可能 (* 6)	30 fps					
	PAL	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 17, 20, 25 fps			25 fps					

カメラ種別		カメラに設定可能なフレームレート	「設定管理」 「アクションの編集」	「記録」 ツールバー	「スケジュールの編集」	最大フレームレート	
SNT-V704	JPEG	NTSC	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 15, 30 fps	「カメラに設定可能なフレームレート」に換算される値が設定可能 (* 7)	JPEG、Wavelet : 現在の受信フレームレート以下のときは指定した値に、以上のときは現在の受信フレームレートとなります。「All」は現在の受信フレームレートとなります。 なお、現在の受信フレームレートとこの設定値の組み合わせによっては、設定値より低いフレームレートで記録されることがあります。	1/10, 1/5, 1/2, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 15, All (* 8)	30 fps
		PAL	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 25 fps	25 fps を除いて、「カメラに設定可能なフレームレート」に換算される値が設定可能 (* 9)		1/10, 1/5, 1/2, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, All (* 8)	25 fps
	MPEG4	NTSC	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 15, 30 fps	「カメラに設定可能なフレームレート」に換算される値が設定可能 (* 7)		1/10, 1/5, 1/2, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 15, All (* 8)	30 fps
		PAL	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 25 fps	25 fps を除いて、「カメラに設定可能なフレームレート」に換算される値が設定可能 (* 9)		1/10, 1/5, 1/2, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, All (* 8)	25 fps
SNT-V501、SNT-V504		NTSC	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25, 30 fps	任意の値が設定可能 (* 10)	MPEG4 : 設定は無視され、現在の受信フレームレートとなります。	任意の値が設定可能 (* 10)	30 fps
		PAL	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 16, 20, 25 fps	任意の値が設定可能 (* 11)		任意の値が設定可能 (* 11)	25 fps
SNT-V304		ユーザー設定はできません。設定しても無視されます。詳しくは、「SNT-V304のフレームレート制限 (SNT-V304の [間隔] 設定時)」(184 ページ) をご覧ください。				ユーザー設定はできません。設定しても無視されます。詳しくは、「SNT-V304のフレームレート制限 (SNT-V304の [間隔] 設定時)」(184 ページ) をご覧ください。	

(* 1) フレームレートへの換算値によって異なります。

- カメラに設定可能な最大フレームレートを超える場合
最大フレームレートとなります。
- 1 fps ~ 設定可能な最大フレームレート以下の場合
フレームレートへの換算値が「カメラに設定可能なフレームレート」以外の場合は無視され、カメラ側の設定は変更されません。ただし、JPEG では、その場合でも、換算値がカメラ側の設定値より小さければ、その換算値でデータを取得できます。
- 1 fps 未満の場合
1 fps に設定されます。ただし、JPEG では設定値である 1 fps 未満のフレームレートでデータを取得します。

(* 2) これら以外の場合はカメラ側の設定は変更されませんが、その値がカメラ側の設定値より小さければ、その値でデータを取得できます。

(* 3) カメラに設定されている処理フレームレートを超える設定の場合は、カメラに設定されている処理フレームレートとなります。

(* 4) フレームレートへの換算値によって異なります。

- カメラに設定可能な最大フレームレートを超える場合
最大フレームレートとなります。
- 1 fps ~ 設定可能な最大フレームレート以下の場合
フレームレートへの換算値が「カメラに設定可能なフレームレート」以外の場合は無視され、カメラ側の設定は変更されません。
- 1 fps 未満の場合
1 fps に設定されます。

(* 5) カメラに設定可能な最大フレームレートを超える設定の場合は、最大フレームレートが適用されます。

(* 6) フレームレートへの換算値によって異なります。

- 28 fps 以上の場合 → NTSC : 30 fps、PAL : 25 fps
- 22 ~ 27 fps の場合 → 25 fps
- 18 ~ 21 fps の場合 → 20 fps
- 16 ~ 17 fps の場合 → 17 fps

- 14～15 fps の場合 → 14 fps
 - 12～13 fps の場合 → 13 fps
 - 11 fps 以下の場合 → 設定した値
- (* 7) フレームレートへの換算値によって異なります。
- 30 fps 以上の場合
30 fps になります。
 - 1～29 fps の場合
フレームレートへの換算値が「カメラに設定可能なフレームレート」以外の場合は無視され、カメラ側の設定は変更されません。
 - 1 fps 未満の場合
1 fps に設定されます。
- (* 8) 1/10、1/5、1/2 は 1 fps となります。
- (* 9) フレームレートへの換算値によって異なります。
- 30 fps 以上の場合
25 fps になります。
 - 13～29 fps の場合
カメラ側の設定は変更されません。
 - 1～12 fps の場合
フレームレートへの換算値が「カメラに設定可能なフレームレート」以外の場合は無視され、カメラ側の設定は変更されません。
 - 1 fps 未満の場合
1 fps に設定されます。
- (* 10) 以下の値にマッピングされます。
- 21 fps 以上の場合 → 30 fps
 - 16～20 fps の場合 → 20 fps
 - 11～15 fps の場合 → 15 fps
 - 9～10 fps の場合 → 10 fps
 - 7～8 fps の場合 → 8 fps
 - 1～6 fps の場合 → 設定した値
 - 1 fps 未満の場合 → 1 fps
- (* 11) 以下の値にマッピングされます。
- 21 fps 以上の場合 → 25 fps
 - 17～20 fps の場合 → 20 fps
 - 13～16 fps の場合 → 16 fps
 - 9～12 fps の場合 → 12 fps
 - 7～8 fps の場合 → 8 fps
 - 1～6 fps の場合 → 設定した値
 - 1 fps 未満の場合 → 1 fps

メモ

- 受信されるデータのフレームレートは、ネットワークやコンピューターの負荷により変動します。
- 「設定管理」ウィンドウと「アクションの編集」ウィンドウでは、フレームレートへの換算値が 1 以上の場合、小数点以下は常に切り捨てられます。
- 「設定管理」ウィンドウにおける 0 ms、または「スケジュールの編集」ウィンドウにおける「All」指定時のフレームレートは、カメラに設定可能な最大フレームレートとなります。
- 「カメラの処理フレームレート」の変更は、Web ブラウザなどで、カメラに直接接続して行ってください。
- Generic Camera の場合、「設定管理」「アクションの設定」「スケジュールの設定」ウィンドウでは、設定可能なフレームレートが選択肢に一覧表示されます。「記録」ツールバーについては、ほかのカメラと同じです。

SNT-V304 のフレームレート制限 (SNT-V304 の [間隔] 設定時)

この機器からのフレームレートの最大値は、使用されている画像入力の数によって異なります。

入力が1つのときは最大値 25 fps、入力が2つのときは 12 fps、入力が3つのときは 8 fps、入力が4つのときは 6 fps となります。

バイナリーモード (SNC-VL10 の [転送モード] 設定時)

- バイナリーモードは、SNC-VL10 特有のモードです。このモードを選択すると、ポート番号 8080 を使用してカメラ画像のやり取りが行われます。このモードでは、カメラ画像のキャプチャー時に正確な間隔を設定できるため、タイムラプス記録に便利です。ただし、IP アドレスの詳細が固定されるため、プロキシサーバーを介してカメラを接続することはできません。
- バイナリーモードを選択しないときは、HTTP プロトコルが使用され、[ストリーム] と [古いファームウェア] モードが選択できます。
- コンピューターとカメラ間のコマンドのやり取りは、ストリームモードと同じです。

ストリームモード／ノンストリームモード

通常の記録や表示では、ストリームモードを推奨します。カメラが追加されたときの初期設定では、ストリームモードが選択されています。

ご注意

SNT-V704 の場合は、必ず [ストリームモード] にチェックマークを付けた状態で使用してください。

ストリームモードの場合

RealShot Manager は、カメラからの画像を連続的に要求します。

- フレームレートの最大値が得られます。
- フレーム欠落や重なりのない連続した画像になるように、カメラがフレーム出力を制御します。
- プロキシサーバーを介してカメラを接続できます。

ご注意

ストリームモードでは、多くの画像が連続的にストリーミングされます。使用中のサーバーでは、すべてのストリーミング画像を入力用バッファから検索しなければならないため、CPU の負荷が高くなり、他の処理で使用できる CPU の容量が少なくなります。

ノンストリームモードの場合

RealShot Manager は、1 回につき 1 フレームを要求します。

ご注意

- SNT-V304 では、現在の間隔とフレームレートにより、自動的にストリームモードに切り替えられます (間隔が 40 ms 以下のとき、ストリームモードが自動的に動作します)。SNT-V304 を選択した場合、ストリームモードは有効になっていますが、設定を変更することはできません (リードオンリーのため)。
- ノンストリームモードを使用する場合は、画像取得の間隔を 1,000 ミリ秒以上に設定してください。画像取得の間隔は、「装置の設定」ダイアログの [画像] タブ (132 ページ) または「カメラ設定」ダイアログの [画像] タブ (132 ページ) にある [間隔] で設定できます。

古いファームの場合

RealShot Manager では、SNC-VL10 と SNT-V304 用の複数のファームウェアバージョンをサポートしています。

自動パン・チルト速度

このチェックボックスをオンにすると、ズーム状態に応じて、カメラがパン・チルト速度を制御します。

RealShot Manager が対応しているカメラの音声コーデック

RealShot Manager では、次の音声コーデックに対応しています。

カメラによって使用可能なコーデックが異なります。使用可能なコーデックについては、カメラの取扱説明書をご覧ください。

音声コーデック	転送レート
G.711 (μ -LAW) ¹⁾	64 kbps
G.726	40 kbps
G.726 ²⁾	32 kbps
G.726	24 kbps
G.726	16 kbps

- ITU-T G.711 は、64 kbps チャンネルの電話音声の符号化に関する国際標準です。8 kHz の速度でサンプリングし、各サンプルを 8 ビットで表現する PCM (パルス符号化変調) 方式を使用しています。
- ITU-T G.726 は、少ないリソースで高い音声品質を実現することから、電気通信において最もよく使用されている音声圧縮アルゴリズムです。ADPCM (適応的差分 PCM) を使用して、64 kbps の音声を 40 kbps、32 kbps、24 kbps、16 kbps に圧縮します。

SNT-V704 を使用して動体検知を行うときのご注意

SNT-V704 を使用して動体検知を行う場合は、以下のことに注意してください。

I/O ボックスを作成するときのご注意

- 1つのI/Oボックスに1つのVideo Motion Detection端子が入るため、動体検知を使用したいカメラごとにI/Oボックスを作成する必要があります。また、1組のカメラとI/Oボックスには、必ず同じ名前と同じIPアドレスを設定してください。
- I/Oボックスは、必ず「設定管理」ウィンドウのツリーでカメラアイコンをI/Oボックスにドラッグ&ドロップして作成してください。
- RealShot Manager をアップグレードした場合で、以下の条件にすべて該当するときは、一度I/Oボックスを削除し、新たに作成してください（作成は、アップグレード後に行ってください）。
 - RealShot Manager バージョン 3.3.0 以前に作成されたI/Oボックスを引き継いでいる。
 - Video Motion Detection（カメラ）またはVMFを使用する。
 - カメラ名とI/Oボックス名が異なっている。

運用中のご注意

- カメラのプロパティまたは「装置の設定」ダイアログの[カメラ]タブで、[画像]の画像ソースを切り替えると、そのカメラと対になっているI/Oボックスの動体検知も同じ画像ソースからの入力となります。
- カメラごとに作成した各I/Oボックスに含まれる入出力端子は、カメラごとに機能するのではなく、I/Oボックス全体で1組となります。ただし、入力端子と出力端子では、操作を行ったときの反映状態が以下のように異なります。
 - 入力端子の場合は、すべてのI/Oボックスに行った操作が反映されます。
 - 出力端子の場合は、操作を行ったI/Oボックスにのみ出力指示が反映されます。
 例えば、「I/OボックスA」で「Output 1」をオンにしても、「I/OボックスB」の「Output 1」はオフのままになります。

その他

- SNT-V704にPALのカメラを接続している場合、カメラのプロパティまたは「装置の設定」ダイアログの[画像]タブに、最大解像度が「720 × 480」と表示されますが、これはSNT-V704の「720 × 576」に相当します。

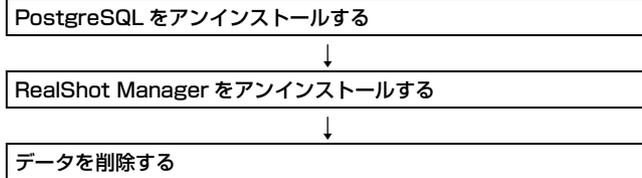
- PALのカメラの場合は、検知領域の位置がずれることがあります。必ず検知領域の設定を行ってから、動体検知を使用してください。

Video Motion Detection（カメラ）における画像の向きに関するご注意

SNC-RZ30、SNC-Z20、SNC-CS3 以外のカメラの場合は、「Video Motion Detection（カメラ）」ダイアログで表示される画像は、カメラの設置角度設定0度の向きとなります。SNC-RZ30、SNC-Z20、SNC-CS3の場合は、クライアント（Controller）からカメラの設置角度を変更できますが、一時的な設定となります。

ソフトウェアをアンインストールするには

ソフトウェアをアンインストールする場合は、以下の順に行ってください。



アンインストールする前に

- アンインストールは、管理者権限のあるユーザーアカウントで Windows にログオンして行ってください。
- 他のプログラムが起動している場合は、すべて終了させてください。

ここでは例として、Windows XP での手順を説明します。

PostgreSQL をアンインストールする

一般的なソフトウェアと同様に、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールしてください。

ご注意

PostgreSQL をアンインストールする前に RealShot Manager をアンインストールしてしまった場合は、RealShot Manager のインストールフォルダーの下の「Database」フォルダーにある以下のファイルをリネームしてから、PostgreSQL のアンインストールを行ってください。

backup of postgresql-8.2-int.msi



postgresql-8.2-int.msi

メモ

PostgreSQL をアンインストールしても、サービス起動用 Windows アカウントは削除されませんが、特に問題はありません。

RealShot Manager をアンインストールする

一般的なソフトウェアと同様に、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールしてください。

データを削除する

PostgreSQL や RealShot Manager をアンインストールしてもデータは削除されませんので、手動で行ってください。

- 1 RealShot Manager のインストールフォルダーを削除する。
- 2 記録データの記録先フォルダーを削除する。

トラブルシューティング

ログについて

RealShot Manager では、「ログ」ウィンドウで最近のログメッセージを、「ユーザーログ」ウィンドウでユーザーのログイン履歴を見ることができます。

「ログ」ウィンドウ

メインツールバー（93 ページ）の （ログ情報）をクリックすると表示されます。

各メッセージには、日付やログの発生元のカメラまたはアプリケーションが表示されます。[理由] の欄には、ログが発生した理由が表示されます。



日付	時刻	ソース名	理由
2006/08..	1952:07.050	New Device TCP/L..	Connect Error connecting to server 0.0.0.0, port 8..
2006/08..	1951:46.050	New Device TCP/L..	Connect Error connecting to server 0.0.0.0, port 8..
2006/08..	1951:25.060	New Device TCP/L..	Connect Error connecting to server 0.0.0.0, port 8..
2006/08..	1951:14.865	カメラ VISCA Pan...	GetNumberToReceive: Received HTTP status cod..
2006/08..	1951:04.050	New Device TCP/L..	Connect Error connecting to server 0.0.0.0, port 8..
2006/08..	1950:42.669	New Device TCP/L..	Connect Error connecting to server 0.0.0.0, port 8..
2006/08..	1950:21.568	New Device TCP/L..	Connect Error connecting to server 0.0.0.0, port 8..
2006/08..	1950:00.578	New Device TCP/L..	Connect Error connecting to server 0.0.0.0, port 8..

ログに関する設定をするには

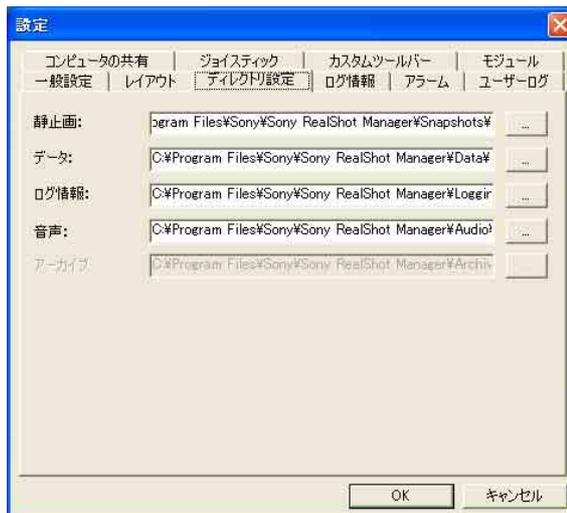
メインツールバー（93 ページ）の （ログの設定）をクリックし、表示される「ログ設定」ダイアログで、ログの表示先やメッセージの重要度を設定できます。詳しくは、「ログの設定」ダイアログ（178 ページ）をご覧ください。



Name Caller	E	W	I	D
Unknown				
Ring Buffer	■			
Image Global		■		
Audio Global			■	
Motion Detection				■
Digest Authentication				■
Cryptography				■
Privilege Manager	■			
Camera Manager		■		
IO Manager	■			
Audio Manager			■	
External Control Manager				■
Storage Location Manager				■
Device Database	■			
Remote PC Server		■		
Connection Manager	■			
Command Handler Manager				■
Digest Authentication Handler				■
Device Handler				■

ログファイルの保存場所を確認するには

メインツールバー（93 ページ）の （設定）をクリックし、表示される「設定」ダイアログの「ディレクトリ設定」タブ（166 ページ）で確認できます。

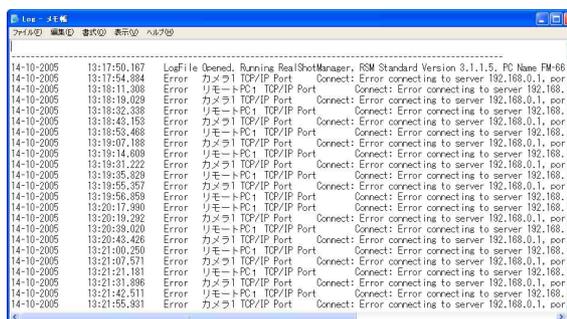


メモ

「設定」ダイアログの「ログ情報」タブ（167 ページ）で、ログファイルのファイル名、ファイルサイズ、ファイル数を設定できます。

ログファイルを開くには

ログファイルは、「メモ帳」などのテキストエディターで開くことができます。ログファイル上で右クリックし、[アプリケーションを開く] から「メモ帳」などのテキストエディターを選択すると、ログファイルが開きます。ログファイルには、「ログ」ウィンドウと同様に、日付や重要度、ログの発生元などが表示されます。



日付	時刻	メッセージ
14-10-2005	13:17:50.167	LogFile Opened. Running RealShotManager: RSM Standard Version 3.1.1.5, PC Name FM-68
14-10-2005	13:17:54.884	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:18:11.308	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:18:19.028	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:18:32.338	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:18:43.153	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:18:53.468	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:19:07.188	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:19:14.809	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:19:31.222	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:19:35.829	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:19:55.357	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:19:56.959	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:20:19.292	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:20:39.020	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:20:43.426	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:21:00.250	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:21:07.571	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:21:21.181	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:21:31.896	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por
14-10-2005	13:21:42.511	Error リモートPC1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.
14-10-2005	13:21:55.831	Error カメラ1 TCP/IP Port Connect: Error connecting to server 192.168.0.1, por

「ユーザーログ」ウィンドウ

メインツールバー（93 ページ）の （ユーザーウィンドウ）ログ情報をクリックすると表示されます。

各ログには、ログインまたはログアウトしたユーザーと日時が記録されます。

ユーザー名の先頭に表示される次のアイコンでログイン／ログアウトを示します。

 : ログイン

 : ログアウト



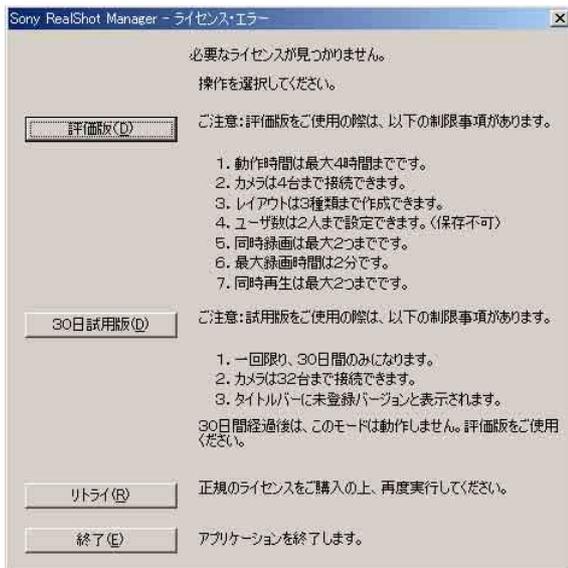
ユーザー名	フルネーム	日付	時刻
User1	User1	2005/10/17	10:42:45
User1	User1	2005/10/17	10:42:19

エラーメッセージ

ライセンスエラー

ライセンスがインストールされていない場合

有効なソフトウェアライセンスがインストールされていない状態で RealShot Manager を起動すると、次のメッセージが表示されます。



ライセンスの期限が切れている場合

次のメッセージが表示されます。[OK] を選択すると、RealShot Manager が終了します。新しいライセンスを取得してください。

評価版または 30 日試用版でプログラムを実行するときは、古いライセンスをコンピューターから削除してください。



インストールされているライセンスが現在のソフトウェアのバージョンで無効な場合

次のメッセージが表示されます。[OK] を選択すると、RealShot Manager が終了します。新しいライセンスを取得してください。

評価版または 30 日試用版でプログラムを実行するときは、古いライセンスをコンピューターから削除してください。



ライセンスが正しくインストールされていることを確認するには

メイン画面で [ヘルプ] メニューの [About] を選択し、表示されるダイアログでライセンスの有効期限を確認できます。



カメラモニターウィンドウに「未接続」と表示される

このメッセージは、ネットワークを介してカメラと通信できないときに表示されます。次の項目を確認してください。

- カメラの電源がオフになっている。
→ カメラの電源をオンにしてください。
- RealShot Manager がインストールされているコンピューターとカメラ間の接続が確立されていない。

→ 接続設定を確認してください。詳しくは、「カメラの登録」(27 ページ)、「[ポートのプロパティ] ダイアログ」(154 ページ)をご覧ください。

- RealShot Manager におけるカメラの設定が正しくない。
→ 「カメラの登録」(27 ページ)、「装置の設定」ダイアログ (130 ページ) を参照し、カメラの設定を確認してください。
- カメラにおけるカメラの設定が正しくない。
→ それぞれのカメラの取扱説明書をご覧ください。
- プロキシサーバーを介してネットワークに接続している場合、カメラの詳細登録が正しくない。
→ プロキシサーバーの詳細設定を確認してください。詳しくは、「カメラの登録」(27 ページ)、「[ポートのプロパティ] ダイアログ」(154 ページ)をご覧ください。

ネットワーク接続を確認するには (ping を使って確認する)

ping コマンドを使って、カメラがネットワークに接続されているか、コンピューターからカメラが見えるかテストできます。

1 Windows で「コマンドプロンプト」を開く。

[スタート] をクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選んで「cmd」と入力するか、Windows キー + R キーで「ファイル名を指定して実行」を開き「cmd」と入力します。

2 次のように入力する。

ping <カメラの IP アドレス>

正しく接続されているとき

「Reply from 192.168.0.110:bytes=32time<1ms TTL=128」の下に、以下のようなメッセージが表示されます。

```
C: ¥WINNT ¥System32 ¥command.com
```

```
C: ¥>ping 192.168.0.110
Pinging 192.168.0.110 with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.110: bytes=32 time<1ms TTL=128
```

```
Ping statistics for 192.168.0.110:
Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
Approximate round trip times in milli-seconds:
Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

接続されていないとき

以下のように、「Request timed out.」が表示されます。

```
C: ¥WINNT ¥System32 ¥command.com
```

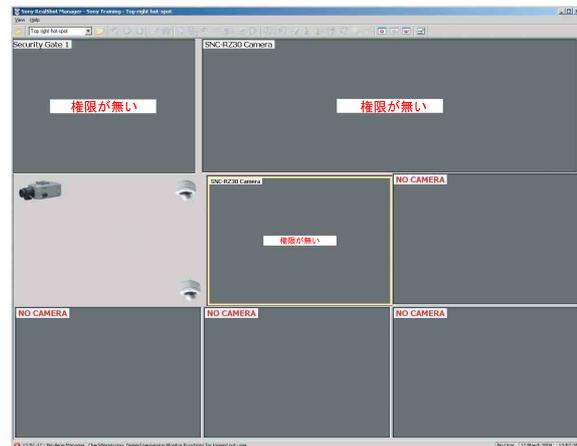
```
C: ¥>ping 192.168.0.100
Pinging 192.168.0.100 with 32 bytes of data:
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.

Ping statistics for 192.168.0.100:
Packets: Sent = 4, Received = 0, Lost = 4 (100% loss),
```

カメラと RealShot Manager がインストールされているコンピューターとの間の接続に、ルーターやパッチパネルなど、他のデバイスを介しているときは、そのデバイスが正しく機能しているか確認してください。

カメラモニターウィンドウに「権限が無い」と表示される

RealShot Manager を起動した直後の初期状態のときや、権限が不十分なユーザーでログインすると、カメラモニターウィンドウに「権限が無い」と表示されます。指定したカメラの画像を見るには、正しい権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。ユーザーアカウントについては、「ユーザー管理」(80 ページ)をご覧ください。



最大フレームレートで表示・記録できない

ネットワーク関連に問題があったり、カメラ側の設定や RealShot Manager の設定値が正しくない場合は、以下のようなことが考えられます。

- ネットワークの接続環境や RealShot Manager がインストールされているコンピューターに対して、カメラの解像度や画質に設定が高すぎる。
→「カメラの登録」(27 ページ)、「[装置の設定] ダイアログ」(130 ページ)を参照し、カメラの設定を確認してください。
- カメラのローカル設定で、最大値が制限されている。
→それぞれのカメラの取扱説明書をご覧ください。
- カメラの画像転送にノンストリームモードが設定されている。
→「ストリームモード/ノンストリームモード」(184 ページ)をご覧ください。
- 同時に複数のユーザーが画像を転送している。
→ユーザーからのリクエストが多くなると、画像を転送するフレームレートとの最大値が低下することがあります。
- SNT-V304 では、フレームレートの最大値は接続しているカメラの数に制限されます。
→「SNT-V304 のフレームレート制限 (SNT-V304 の [間隔] 設定時)」(184 ページ)をご覧ください。
- 表示更新速度が最大値に設定されていない。
→「設定」ダイアログの [一般設定] タブ (154 ページ)をご覧ください。

メモ

画像表示の速度と記録速度は別のもので、例えば、25 fps で記録した画像を 2 fps で表示することも可能です。

画面に表示される画像の画質が非常に悪い

次の原因が考えられます。

- カメラの焦点が合っていない、またはレンズが汚れている。
- カメラの設定で、低解像度、低画質が選択されている。

カメラの焦点を調整するには

RealShot Manager では、カメラの焦点を調整できません。焦点を調整は、カメラに接続した Web ブラウザを使います。Web ブラウザからのカメラ設定やコントロールはパスワードで制限されています。焦点を調整するには、ユーザー名とパスワードが必要です。

解像度と画質について

RealShot Manager のカメラ設定で低解像度に設定されているときに、大きなモニターウィンドウで表示すると、画質が悪くなります。

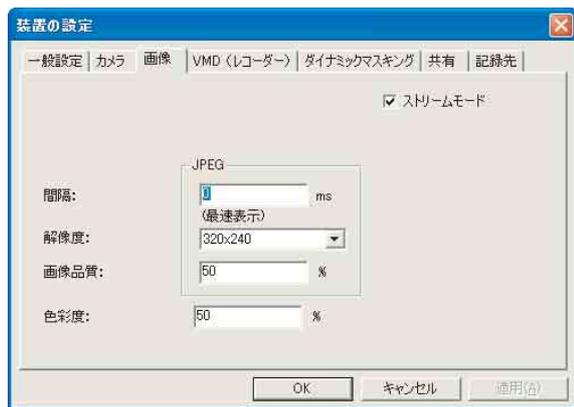
例えば、カメラの解像度が 160 × 120 画素に設定されていて、モニターウィンドウが 800 × 600 に設定されている場合、画質が非常に悪くなります。

その場合は、次の方法で調整してください。

- モニターウィンドウ上で右クリックし、表示されるメニューで拡大縮小の方法を変更します。詳しくは、「ウィンドウに合わせる/ステップ表示/縦横比の固定/滑らか表示」(103 ページ)をご覧ください。



- 「カメラ設定」ダイアログの [画像] タブで、カメラの解像度と画質を設定します。詳しくは、「[画像] タブ」(132 ページ)をご覧ください。



品質を向上させるには

以下の方法が有効です。

- 右クリックメニューの [ウィンドウに合わせる] がオンになっているときは、[ステップ表示] と [滑らか表示] もオンにする。
- 「カメラ設定」ダイアログで、[解像度] または [画像品質] の設定値を上げる。
ただし、システムの性能に影響する場合がありますので、注意してください。特に記録や表示の最大フレームレートは減少します。画質向上による性能の低下は、記録中やモニター中の他のカメラにも影響します。
- [ウィンドウに合わせる] をオフにする。
ただし、実際に画像を取り込んだ解像度 (サイズ) で見ることになるので、画面上の画像サイズが小さくなります。

FAQ

異なるバージョンの RealShot Manager をサーバー (Standard) とクライアント (Controller) で使用しても問題ありませんか？

1つのシステム内で、複数の RealShot Manager をサーバー・クライアントとして組み合わせて使用する場合は、バージョンの上位3桁が同じである必要があります。4桁目は異なっても構いません。

例) 正しい組み合わせ (上位3桁が合っている)

RealShot Manager (Standard) バージョン 3.0.0.15 と

RealShot Manager (Controller) バージョン 3.0.0.13

間違っている組み合わせ (上位3桁が異なっている)

RealShot Manager (Standard) バージョン 2.3.1.36 と

RealShot Manager (Controller) バージョン 3.0.0.15

また、RealShot Manager バージョン 2.2 からセキュリティ機能が強化され、サーバー・クライアント型の構成で使用する場合は、サーバーとの接続時にユーザー認証が行われるようになりました。そのため、RealShot Manager バージョン 2.1 以前のバージョンの RealShot Manager の API を使用して作成されたアプリケーションでは、RealShot Manager バージョン 2.2 以降のシステムに接続できませんので、注意してください。

現在の環境を引き継いだまま、前のバージョンの RealShot Manager をインストールできますか？

RealShot Manager では、バージョンダウンのインストールはサポートしていません。そのため、現在の環境を引き継いだまま、今よりも古いバージョンの RealShot Manager を上書きインストールすることはできません。

今よりも古いバージョンの RealShot Manager をインストールしたい場合は、いったん現在のバージョンの RealShot Manager をアンインストールして削除する必要があります。

複数のネットワークカードを持つコンピューターを RealShot Manager のサーバーとして使用するときの設定方法は？

RealShot Manager のサーバーとして使用するコンピューターに対して、次のような設定をしてください。

- 1 「設定」ダイアログの [コンピューターの共有] タブ (169 ページ) にある [シェアリング] の [名前] に、コンピューター名 (ホスト名) と異なる名前を入力する。

- 2 テキストファイルである < Windows のシステムフォルダー > \system32\drivers\etc\hosts ファイルに、次のように記述する。

< RealShot Manager が使用するネットワークカードの IP アドレス > < 共有名 >

- 例) RealShot Manager で使用したいネットワークカードの IP アドレスが「192.168.0.100」、[シェアリング] の [名前] が「RSM」の場合は、次の1行を追加します。

192.168.0.100 RSM

RealShot Manager バージョン 3.3.0 にアップデートしましたが、SNT-V704 の I/O ボックスはそのまま使用できますか？

バージョン 3.3.0 以前の RealShot Manager からバージョン 3.3.0 以降の RealShot Manager にアップデートし、以下の条件をすべて満たす場合は、アップデートした後に該当する SNT-V704 の I/O ボックスを削除し、新規に作成してください。

- バージョン 3.3.0 以前の RealShot Manager から I/O ボックスを引き継いでいる。
- 動体検知機能を使用する。
- カメラの名称と I/O ボックスの名称が異なっている。

メニューバーが表示されません。どうすれば表示できますか？

キーボードの Shift キー + F11 キーを押すと、メニューの表示を切り替えられます。

メインツールバーが表示されません。どうすれば表示できますか？

[表示] メニューの [メインツールバー] を選択します。メニューバーが表示されないときは、キーボードの Shift キー + F11 キーを押すと表示されるようになります。

「Error...」というエラーメッセージが表示され、記録できないことがあります。どんなことが考えられますか？

ウイルス対策ソフトなど、ほかのソフトウェアが RealShot Manager と同時に実行されるような環境の場合、以下のようなエラーメッセージが表示され、記録できなかつたり、記録された画像がコマ落ちしている場合があります。

- "Error File Recorder (C11(<カメラ機種名 >)) File Port Send: Timeout during Wait"
- "Error File Recorder (C11(<カメラ機種名 >)) File Port Flush: Couldn't flush <xxxxxx> bytes to file <記録ファイルのパス名 > "
- "Error File Recorder (C11(<カメラ機種名 >)) File Port Send: Timeout during Wait"
- "Error File Recorder (C11(<カメラ機種名 >)) File Port Flush: Couldn't flush <xxxxxx> bytes to file <記録ファイルのパス名 > "

- "Error Ring Buffer Add: Had to remove locked data for C7(<カメラ機種名>)"
これを回避するには、RealShot Manager のスケジュール記録とウイルス対策ソフトの実行時間が重ならないようにしてください。

「記録データの検索」ウィンドウでサムネイルの表示が遅い。速くする方法はありますか？

記録データの保存期間を1か月以上に設定し、24時間連続記録のスケジュールを行うなど、長時間連続記録を行っている場合は、1日に1秒の空白時間を入れると、サムネイルの表示が速くなります。

例) 毎日 0:00:00 から翌日の 0:00:00 まで記録するスケジュールを設定する場合
記録時間を 0:00:00 からその日の 23:59:59 までに設定する。
※ 23:59:59 から 0:00:00 までの1秒間は記録されません。

ビデオネットワークステーションを使用する場合に必要なライセンス数は？

お使いになるビデオネットワークステーション（アナログカメラコンバーターボックス）によって、必要なライセンス数が異なります。

- SNT-V704 や SNT-V304 の場合
ビデオネットワークステーションに接続するアナログカメラの数だけカメラライセンスが必要です。例えば SNT-V704 にアナログカメラを4台接続する場合は、4カメラライセンスが必要になります。
- SNT-504 の場合
接続するアナログカメラの数にかかわらず、1カメラライセンスとなります。
SNT-504 は4台のアナログカメラを接続できますが、接続されたカメラの映像ストリームを個別に取り出すことができないため、SNT-504 が1台のカメラとみなされません。

SNT-V704 を使用する場合、機能の制限はありますか？

SNT-V704 を使用する場合、RealShot Manager では以下の機能はサポートしていません。

- 4分割表示
- 色彩度の変更
- カメラツアー機能
- [パン・チルト] ツールバーの T/W によるズーム機能
- ダイナミックマスキング機能
ダイナミックマスキングを使用する場合は、Web ブラウザから SNT-V704 に接続し、直接設定してください。

カメラの時刻設定とコンピューターの時刻設定が異なる場合はどうなりますか？

RealShot Manager では、必要に応じて、カメラの時刻設定を RealShot Manager が動作するコンピューターの時刻で上書きします。

ダイナミックマスキングを設定していますが、RealShot Manager バージョン 3.1 以降にアップデートしたらストリームモードを解除できなくなりました。どうしてでしょうか？

RealShot Manager バージョン 3.0 では、ダイナミックマスキングを設定していても、ストリームモードを解除することができました。RealShot Manager バージョン 3.1 以降では、ダイナミックマスキングを設定してしている場合は、自動的にストリームモードに設定され、解除できなくなりました。

サーバー/クライアント構成で、サーバー側のコンピューターの時刻を変更しても問題ありませんか？

サーバー/クライアント構成で、サーバー側のコンピューターの時刻を過去に戻すと、クライアントからのリモート I/O ボックスの出力端子の出力制御が効かなくなることがあります。過去に戻した時間が短いときは、すぐに復帰する場合もありますが、長いと復帰しない場合があります。復帰させるには、サーバーかクライアントのどちらかの RealShot Manager を再起動してください。

VMF 検索で検出されと思われる記録データを含む時間帯を指定して VMF 検索しているのに、目的のデータが検出されません。どうしてでしょうか？

VMF 検索では、メタデータを持たない記録データは無視されるため、指定した時間帯の中にメタデータを持たない記録データがあっても、その情報は表示されません。また、VMF の動体/不動体と、メタデータの動体/不動体が一致していない場合も、その情報は表示されません。例えば、動体のメタデータに対して不動体用の VMF を適用しても、何も検索されません。

記録データの一覧には、VMF 検索が可能かどうかを示す列（[VMF 検索可能] 欄）がありますので、目的の記録データが該当しているかどうか確認してください。

用語解説

Aspect Ratio

オブジェクトの幅と高さの比率。

通常、「幅：高さ」と表示されます。例えばテレビの画像は、通常、4：3または16：9の縦横比になっています。

DIPS

カメラモニターウィンドウ上で1秒間に表示する画像数。

FPS

Frame Per Second の略

画像をカメラから取り込むフレームレート。

PTZ

パン、チルト、ズームの略で、カメラヘッドを3方向に動かす機能。

- 水平方向 : パン
- 垂直方向 : チルト
- インとアウト : ズーム

索引

あ

アクション	73
アクション設定	157
アクションの編集	155
アクションを割り当てる	45
アナログカメラの登録	28
アラーム	176
アラーム記録	65
アラーム出力	29
アラームについて	56
アラームのモニター	51
アンインストール	186

い

インストール	14
--------	----

え

エクスポート	72
エラーメッセージ	188

お

音声装置の一覧	129
音声装置の登録	33
音声端子の設定	31
音声ツールバー	98
音声のモニター	51

か

外部制御設定	172
概要	8
画像を静止する	49
画像を保存する	49
カメラの一覧	128
カメラのコントロール	52
カメラの登録	18

き

起動する	17
キャプチャー	49
共有設定	142
記録先	151
記録先の選択	176
記録ツールバー	96
記録データの検索	120
記録データの削除	84
記録の自動削除	86

く

クリーンアップ	84
---------	----

グループ	82
グループ設定	152

け

検索	22, 68
----	--------

こ

コメントツールバー	100
-----------	-----

さ

再生	22, 68
再生ツールバー	96
サムネイル	69

し

システムアラート通知	78
システム I/O ボックス	128
終了する	18
出力制御ツールバー	100

す

スケジュール	61
スケジュール記録	61
スケジュールの編集	115
スナップショット	49
ズーム	48
ズームアウト	53
ズームイン	53

せ

静止画	49
設定	165
設定管理	126
センサー入力	29

そ

装置の一覧	128
装置の設定	130
装置の追加	129

た

ダイナミックマスキング	136
タイムライン表示	69
タイムラプスモード	70
端子の設定	29

ち

チルト	48
-----	----

つ

ツアー	54, 174
ツアーツールバー	99
ツールバー	93

て

データ上書き	84
デバイスグループ	35
デバイス登録	25

と

同時刻スタート再生機能	70
動体検知について	57
トリガー設定	156

は

背景	113
パスワードの変更	84, 104
パン	48
パン・チルト ツールバー	98
パン・チルト プリセット ツールバー	99

ひ

表示間隔	49
------	----

ふ

プリ&ポストアラーム記録	65
プリセット	53, 173

ほ

ポートの設定	173
ポートのプロパティ	154

ま

マニュアル記録	21
---------	----

み

右クリックメニュー	101
-----------	-----

め

メイン画面	91
メニューバー	92
メール通知	76

も

モニター	20, 47
モニターウィンドウにカメラを 割り当てる	42
モニター設定	105

ゆ

ユーザー管理	80, 161
ユーザーグループ	82
ユーザーの登録	80

り

リモートサーバー	34
リモートサーバーの一覧	129
リモート PC の登録	34

る

- ルール73, 155
- ルールの設定 160

れ

- レイアウト39, 105
- レイアウトの作成 105

ろ

- ログ 177
- ログイン83, 104
- ログ設定 178

C

- Controller 87

G

- Generic Camera 88

I

- I/O 端子の設定 146
- I/O ボックスの一覧 128
- I/O ボックスの登録 29

S

- Standard 87

V

- Video Motion Detection
(カメラ)30, 150
- Video Motion Detection
(レコーダー) 134
- Video Motion Detection (レコーダー)
スケジュール 63
- VMF 検索 71
- VMF パッケージ 139

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>